

元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (116) 元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 9 . 2

前橋市教育委員会

元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (116) 元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群 (116)
1-1号井口跡出土「(施) 沢郡朝貢」略名平瓦

2 0 1 9 . 2

前橋市教育委員会



元總社舊海遺跡群（116）調査区遠景（上野国分寺跡、染谷川を望む 東から）



元總社舊海遺跡群（116）全景（破線は染谷川左岸の自然堤防外縁部 上が北西）



元總社舊海遺跡群（116）H-34号住居跡出土遺物



元總社蒼海遺跡群（123）調査区遠景（榛名山を望む 南から）



元總社舊海跡群（123）調査区西側全景（北から）



元總社舊海跡群（123）A-1号道路跡全景（北から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、國府、國分僧寺、國分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧を削った地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた腰橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（116）（123）は古代上野国の中核地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、縄文時代から平安時代に亘る多数の住居跡や道路状遺構等が検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理であるため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成31年2月

前橋市教育委員会
教育長 塩崎政江

例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（116）（123）の埋蔵文化財発掘報告書である。

2 発掘調査および整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（116）（前橋市遺跡コード：27 A 210）
遺跡所在地	群馬県前橋市元総社町 1690-1, 1706, 1707, 1708, 1712, 1713
監理指導	小峰 篤 藤坂和延（前橋市教育委員会）
調査担当	前田和昭（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成 28 年 4 月 11 日～10 月 6 日
整理事業期間	平成 30 年 3 月 22 日～31 年 2 月 28 日
調査面積	1,830 m ²
発掘調査参加者	会田義之 青木和男 畑見恒夫 新井 實 飯島冬子 市場初男 岩田 覚 上沢公一 楠原義久 遠藤好則 大澤紀一 太田英明 大竹哲夫 大友康之 加藤知恵子 神坂慶三 鶴田榮作 川野京子 木暮朱実 木村勝彦 小島京子 小林由紀子 今野妙子 佐藤和彦 佐藤文江 佐復 進 末武 卓 末武広海 杉田友香 須藤利雄 関口弘子 都木英之 高野フミ子 高橋一巳 多田ひさ子 田部井美砂子 土屋和美 都丸健一 都丸ゆき子 中島正敏 畠山勝利 樋口久雄 平澤小夜子 星野 博 細野竹美 松島裕樹 丸山 弘 宮澤 博 森田忠子 矢内朝夫 吉井正宏 和田千恵
整理作業参加者	大川明子（技研コンサル株式会社） 安藤三枝子 岡田 莉 川野京子 河本ちさと 木暮朱実 杉田友香 高野フミ子 田所順子 南雲富子 平澤小夜子 福島様子 細野竹美
遺跡名	元総社蒼海遺跡群（123）（前橋市遺跡コード：28 A 228）
遺跡所在地	群馬県前橋市元総社町 1706, 1707, 1708, 1712, 1713
監理指導	小峰 篤 藤坂和延（前橋市教育委員会）
調査担当	山田誠司（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成 28 年 10 月 11 日～29 年 3 月 3 日
整理事業期間	平成 30 年 3 月 22 日～31 年 2 月 28 日
調査面積	1,606 m ²
発掘調査参加者	青木あつ子 青木和男 畑見恒夫 新井 實 飯島由夫 飯塚美奈子 岩田 覚 上沢公一 楠原義久 遠藤好則 太田英明 大竹哲夫 尾内元夫 加藤知恵子 鶴田榮作 川野京子 木暮朱実 久保さつき 小林由紀子 今野妙子 佐藤和彦 佐藤文江 静野佳春 清水隆二 杉田友香 高野フミ子 高橋一巳 高見壽美子 田口美代子 武田茂子 多田ひさ子 田部井美砂子 土屋和美 土屋利治 角田令子 平澤小夜子 星野 博 堀越英行 丸山文江 横堀久子 吉井正宏 吉澤克夫 渡辺義雄

整理作業参加者 大川明子（技研コンサル株式会社）
安藤三枝子 関田 萌 川野京子 河本ちさと 木暮朱実 杉田友香
高野フミ子 田所順子 南雲富子 平澤小夜子 福島裕子 細野竹美

3 本書の福集は前田が行い、原稿執筆は I を小峰 篤（前橋市教育委員会）、II・V～2 については山田、他を前田が担当した。

4 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

5 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

木津博明 山口逸弘 山下工業株式会社

凡　例

- 1 採図中に使用した北は座標北である。
- 2 採図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 造構名称は、竪穴住居跡：J（縄文時代）・H、道路跡：A、溝跡：W、井戸跡：I、不明造構：X、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 造構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。
造構 竪穴住居跡・井戸・土坑・ピット、その他・・・1/60 全体図・・・1/300
遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4 鉄製品・・・1/2 古銭・・・1/1
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 造構・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。
造構 焼土範囲：■■■ 灰範囲：■■■ 遺物 須恵器（還元焰）：■■■ 施釉：■■■
- 7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。
As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、
Hr-FA（榛名二ッ岳洗川テフラ：5世紀末～6世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

目 次

卷頭図版 1	
卷頭図版 2	
卷頭図版 3	
卷頭図版 4	
はじめに	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の方針と経過	8
IV 基本層序	8
V 遺構と遺物	
1 元総社蒼海遺跡群 (116)	13
(1) 壊穴住居跡	13
(2) 溝跡	35
(3) 井戸跡	35
(4) 土坑	35
(5) 遺構外出土遺物	35
2 元総社蒼海遺跡群 (123)	
(1) 壊穴住居跡	131
(2) 道路跡	142
(3) 溝跡	142
(4) 性格不明遺構	144
(5) 土坑・ビット	145
(6) 遺構外出土遺物	145
VI 発掘調査の成果と課題	
1 集落の変遷	215
2 道と溝、方形壙剖について	219
3 錫杖頭片について	220
4 鷲名瓦について	222
5 おわりに	222

挿図目次

Fig.1	遺路の位置	1	Fig.64	(116) H-3・4号住居跡出土遺物	105
Fig.2	前橋の地形	2	Fig.65	(116) H-5・6・9・10号住居跡出土遺物	106
Fig.3	周辺遺路図	3	Fig.66	(116) H-7号住居跡出土遺物	107
Fig.4	周辺調査地点とグリッド設定図	7	Fig.67	(116) H-8号住居跡出土遺物	108
Fig.5	元總社着海道跡群 (116)・(123) 基本層序	9	Fig.68	(116) H-11・12・13号住居跡出土遺物	109
Fig.6	遺路の位置と区画整理前の地形	10	Fig.69	(116) H-14・15・16・17号住居跡出土遺物	110
Fig.7	元總社着海道跡群 (116) 全体図 (縦文時代)	11	Fig.70	(116) H-18・20・21号住居跡出土遺物	111
Fig.8	元總社着海道跡群 (116) 全体図 (古墳時代以降)	12	Fig.71	(116) H-21号住居跡出土遺物	112
Fig.9	(116) J-1号住居跡	50	Fig.72	(116) H-22・23号住居跡出土遺物	113
Fig.10	(116) J-2号住居跡	51	Fig.73	(116) H-24号住居跡出土遺物	114
Fig.11	(116) J-3・4号住居跡	52	Fig.74	(116) H-25・26号住居跡出土遺物	115
Fig.12	(116) J-5号住居跡	53	Fig.75	(116) H-27・28号住居跡出土遺物	116
Fig.13	(116) J-6・A・6B号住居跡	54	Fig.76	(116) H-29・30・31・33・34号住居跡出土遺物	117
Fig.14	(116) J-6・A・6B・7号住居跡断面	55	Fig.77	(116) H-34号住居跡出土遺物 (2)	118
Fig.15	(116) J-8号住居跡、D-19号土坑	56	Fig.78	(116) H-34号住居跡出土遺物 (3)	119
Fig.16	(116) J-9・10号住居跡	57	Fig.79	(116) H-34号住居跡出土遺物 (4)	120
Fig.17	(116) J-11号住居跡	58	Fig.80	(116) H-34・35・36・37号住居跡出土遺物	121
Fig.18	(116) J-12・13号住居跡	59	Fig.81	(116) H-38・39・40・41・42・43号住居跡出土遺物	122
Fig.19	(116) J-12・13・14号住居跡	60	Fig.82	(116) H-44・45・46・47・48・49号住居跡出土遺物	123
Fig.20	(116) J-15・16号住居跡	61	Fig.83	(116) H-52・53・54・55・56・57号住居跡出土遺物	124
Fig.21	(116) H-1・2号住居跡	62	Fig.84	(116) I-1号井戸跡、土坑出土遺物	125
Fig.22	(116) H-3号住居跡	63	Fig.85	(116) 土坑、遺構外出土遺物	126
Fig.23	(116) H-4号住居跡	64	Fig.86	(116) 遺構外出土遺物 (2)	127
Fig.24	(116) H-5・6・52号住居跡	65	Fig.87	(116) 遺構外出土遺物 (3)	128
Fig.25	(116) H-6・10号住居跡	66	Fig.88	元總社着海道跡群 (123) 全体図 (縦文時代)	129
Fig.26	(116) H-7号住居跡	67	Fig.89	元總社着海道跡群 (123) 全体図 (古墳時代以降)	130
Fig.27	(116) H-8・9号住居跡	68	Fig.90	(123) J-1・2・3号住居跡 (1)	159
Fig.28	(116) H-8・9・11号住居跡	69	Fig.91	(123) J-1・2・3号住居跡 (2)	160
Fig.29	(116) H-12・16号住居跡	70	Fig.92	(123) J-4号住居跡・P-135号ビット	161
Fig.30	(116) H-13・51号住居跡	71	Fig.93	(123) J-6・7号住居跡	162
Fig.31	(116) H-14・15号住居跡	72	Fig.94	(123) J-8・10号住居跡	163
Fig.32	(116) H-17・20号住居跡	73	Fig.95	(123) J-9号住居跡	164
Fig.33	(116) H-18・19号住居跡	74	Fig.96	(123) J-9・11号住居跡	165
Fig.34	(116) H-21・27号住居跡	75	Fig.97	(123) H-1号住居跡	166
Fig.35	(116) H-22・23号住居跡	76	Fig.98	(123) H-2~5号住居跡・D-39号土坑 (1)	167
Fig.36	(116) H-24~26・33号住居跡、I-1号井戸 (1)	77	Fig.99	(123) H-2~5号住居跡・D-39号土坑 (2)	168
Fig.37	(116) H-24~26・33号住居跡、I-1号井戸 (2)	78	Fig.100	(123) H-6号住居跡 (1)	169
Fig.38	(116) H-24~26・33号住居跡	79	Fig.101	(123) H-6号住居跡 (2)	170
Fig.39	(116) H-28・29号住居跡	80	Fig.102	(123) H-7・10号住居跡	171
Fig.40	(116) H-29・30・31・32号住居跡	81	Fig.103	(123) H-8号住居跡	172
Fig.41	(116) H-34~36号住居跡 (1)	82	Fig.104	(123) H-9号住居跡	173
Fig.42	(116) H-34~36号住居跡 (2)	83	Fig.105	(123) H-11・13・14号住居跡	174
Fig.43	(116) H-35号住居跡	84	Fig.106	(123) H-12号住居跡 (1)	175
Fig.44	(116) H-37・38・39号住居跡	85	Fig.107	(123) H-12号住居跡 (2)	176
Fig.45	(116) H-40~46号住居跡	86	Fig.108	(123) H-15・16・18号住居跡	177
Fig.46	(116) H-41~49号住居跡	87	Fig.109	(123) H-17・19号住居跡	178
Fig.47	(116) H-42~43・44~45号住居跡	88	Fig.110	(123) H-20~24号住居跡	179
Fig.48	(116) H-42~43・45~50・56号住居跡	89	Fig.111	(123) H-21号住居跡	180
Fig.49	(116) H-47~48号住居跡	90	Fig.112	(123) H-22~30号住居跡	181
Fig.50	(116) H-54・58号住居跡	91	Fig.113	(123) H-22~23号住居跡カマド	182
Fig.51	(116) H-57号住居跡、W-1号溝、X-1	92	Fig.114	(123) H-25~26・29・31号住居跡	183
Fig.52	(116) 土坑 (1)	93	Fig.115	(123) H-27~32号住居跡	184
Fig.53	(116) 土坑 (2)	94	Fig.116	(123) H-28号住居跡	185
Fig.54	(116) J-1号住居跡出土遺物	95	Fig.117	(123) A-1号道路跡	186
Fig.55	(116) J-1・2・3・4号住居跡出土遺物	96	Fig.118	(123) W-1・2号溝	187
Fig.56	(116) J-5・6A号住居跡出土遺物	97	Fig.119	(123) W-3・4号溝	188
Fig.57	(116) J-6B・10号住居跡出土遺物	98	Fig.120	(123) W-5・6・7・8・9・10号溝、D-2号土坑	189
Fig.58	(116) J-7・8号住居跡出土遺物	99	Fig.121	(123) X-1・土坑 (1)	190
Fig.59	(116) J-8号住居跡出土遺物	100	Fig.122	(123) 土坑 (2)	191
Fig.60	(116) J-8・11・12号住居跡出土遺物	101	Fig.123	(123) 土坑 (3)	192
Fig.61	(116) J-13・14号住居跡出土遺物	102	Fig.124	(123) 土坑 (4)	193
Fig.62	(116) J-14・15・16号住居跡出土遺物	103	Fig.125	(123) ビット (1)	194
Fig.63	(116) H-1・2号住居跡出土遺物	104	Fig.126	(123) ビット (2)	195

Fig.127	(123) ピット（3）	196	Fig.139	(123) H - 13・15・16・17・18・19号住居跡出土遺物	… 208
Fig.128	(123) ピット（4）	197	Fig.140	(123) H - 20・21号住居跡出土遺物	… 209
Fig.129	(123) ピット（5）	198	Fig.141	(123) H - 22・23・24・25・27号住居跡出土遺物	… 210
Fig.130	(123) J - 1・2号住居跡出土遺物	199	Fig.142	(123) H - 28・31号住居跡、A - 1号道路跡、W - 1号溝跡、土坑出土遺物	… 211
Fig.131	(123) J - 3・4号住居跡出土遺物	200			
Fig.132	(123) J - 4・7号住居跡出土遺物	201	Fig.143	(123) 土坑出土遺物（2）	… 212
Fig.133	(123) J - 8・9号住居跡出土遺物	202	Fig.144	(123) 土坑、ピット、道構外出土遺物	… 213
Fig.134	(123) J - 10・11号住居跡出土遺物	203	Fig.145	(123) 道構外出土遺物（2）	… 214
Fig.135	(123) H - 1・2・3・4号住居跡出土遺物	204	Fig.146	本道跡周辺の検出遺構（1）	… 216
Fig.136	(123) H - 6・7・8号住居跡出土遺物	205	Fig.147	本道跡周辺の検出遺構（2）	… 217
Fig.137	(123) H - 9・10号住居跡出土遺物	206	Fig.148	本道跡周辺の検出遺構（3）	… 218
Fig.138	(123) H - 11・12号住居跡出土遺物	207	Fig.149	県内出土の羅村頭關係資料	… 221

表目次

Tab.1	周辺道路一覧表	4	Tab.4	(123) 土坑・ピット計測表	… 146
Tab.2	(116) 土坑・ピット計測表	36	Tab.5	(123) 出土遺物観察表	… 151
Tab.3	(116) 出土遺物観察表	37			

写真図版目次

PL. 1	道跡の位置（2011年撮影 上が北）		(116) J - 16号住居跡全景（北東から）	
	(116) 調査区遠景（東から）		(116) J - 16号住居跡炉理甕断面D - D'（東から）	
PL. 2	(116) 繪文面調査状況（南から バノラマ合成）		(116) J - 16号住居跡炉理甕全景（西から）	
	(116) 繪文面調査状況（北から バノラマ合成）		(116) 古代面調査全景（上が北西）	
	(116) J - 1号住居跡全景（東から）		(116) H - 1号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 1号住居跡印A全景（南から）		(116) H - 1号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 1号住居跡遺物出土状況（南から）		(116) H - 2号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 2号住居跡全景（北東から）		(116) H - 2号住居跡カマド全景（西から）	
PL. 3	(116) J - 2号住居跡炉理甕全景（北東から）		(116) H - 3号住居跡全景（北西から）	
	(116) J - 2号住居跡炉理甕全景（南東から）		(116) H - 3号住居跡カマド全景（北西から）	
	(116) J - 3号住居跡全景（西から）		(116) H - 4号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 4号住居跡全景（南から）		(116) H - 4号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 4号住居跡炉理甕（南から）		(116) H - 5号住居跡全景（北から）	
	(116) J - 5号住居跡全景（南から）		(116) H - 5号住居跡断面A - A'（南から）	
	(116) J - 6A・6B号住居跡全景（北東から）		(116) H - 6号住居跡全景（北から）	
	(116) J - 6B号住居跡全景（南から）		(116) H - 6号住居跡カマド全景（北から）	
PL. 4	(116) J - 7号住居跡全景（南から）		(116) H - 6号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 7号住居跡遺物出土状況（北西から）		(116) H - 6号住居跡炉窯穴全景（南から）	
	(116) J - 7号住居跡全景（北から）		(116) H - 7号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 7号住居跡炉理甕全景（南西から）		(116) H - 7号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 7号住居跡埋甕断面C - C'（南西から）		(116) H - 8号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 7号住居跡埋甕断面D - D'（南東から）		(116) H - 8号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 8号住居跡全景（南西から）		(116) H - 9号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 8号住居跡遺物出土状況（南西から）		(116) H - 9号住居跡カマド全景（西から）	
PL. 5	(116) J - 8号住居跡全景（北東から）		(116) H - 10号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 8号住居跡炉堀全景（南から）		(116) H - 10号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 9号住居跡全景（南から）		(116) H - 11号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 10号住居跡全景（北東から）		(116) H - 11号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 10号住居跡炉理甕全景（北東から）		(116) H - 12号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 10号住居跡埋甕全景（北東から）		(116) H - 12号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 11号住居跡全景（南から）		(116) H - 13号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 12号住居跡全景（東から）		(116) H - 13号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 12号住居跡遺物出土状況（東から）		(116) H - 14号住居跡全景（北から）	
	(116) J - 13号住居跡全景（東から）		(116) H - 15号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 14号住居跡全景（南東から）		(116) H - 15号住居跡カマド全景（西から）	
	(116) J - 14号住居跡埋甕全景（南東から）		(116) H - 16号住居跡全景（西から）	
	(116) J - 14号住居跡埋甕全景（北から）		(116) H - 16号住居跡カマド全景（西から）	
PL. 6	(116) J - 15号住居跡全景（北から）		(116) H - 17号住居跡全景（南から）	
	(116) J - 16号住居跡全景（南西から）		(116) H - 17号住居跡カマド全景（南から）	
PL. 7	(116) J - 16号住居跡全景（西から）		(116) H - 18・19号住居跡全景（西から）	

- (116) H - 18号住居跡全景（西から）
 (116) H - 18号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 19号住居跡全景（西から）
PL.13
 (116) H - 19号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 20号住居跡全景（北西から）
 (116) H - 20号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 21号住居跡全景（西から）
 (116) H - 21号住居跡遺物出土状況（南東から）
 (116) H - 22号住居跡全景（西から）
 (116) H - 22号住居跡カマド全景（西から）
PL.14
 (116) H - 23号住居跡全景（西から）
 (116) H - 23号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 24号住居跡全景（西から）
 (116) H - 24号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 25号住居跡全景（西から）
 (116) H - 25号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 26号住居跡全景（西から）
 (116) H - 26号住居跡カマド全景（西から）
PL.15
 (116) H - 26・27号住居跡全景（西から）
 (116) H - 28・29号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 28号住居跡全景（西から）
 (116) H - 28号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 29号住居跡全景（西から）
 (116) H - 29号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 30・31・32号住居跡全景（北から）
PL.16
 (116) H - 33号住居跡全景（北から）
 (116) H - 34号住居跡全景（南西から）
 (116) H - 34号住居跡カマド全景（南西から）
 (116) H - 34号住居跡竪穴全景（南から）
 (116) H - 34号住居跡遺物出土状況（北東から）
 (116) H - 34号住居跡銅製品出土状況（南東から）
 (116) H - 34号住居跡断面C - C'（南西から）
 (116) H - 34号住居跡断面B - B'（南から）
PL.17
 (116) H - 34号住居跡断面A - A'（南東から）
 (116) H - 35号住居跡全景（西から）
 (116) H - 35号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 36号住居跡全景（西から）
 (116) H - 36号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 37号住居跡全景（北から）
 (116) H - 38号住居跡全景（西から）
 (116) H - 38号住居跡カマド全景（西から）
PL.18
 (116) H - 39号住居跡全景（西から）
 (116) H - 40号住居跡全景（南西から）
 (116) H - 40号住居跡カマド全景（南西から）
 (116) H - 41号住居跡全景（西から）
 (116) H - 41号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 42・43・44・45号住居跡全景（西から）
 (116) H - 42・43・44・45号住居跡全景（北から）
 (116) H - 42号住居跡全景（西から）
PL.19
 (116) H - 42号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 43号住居跡全景（西から）
 (116) H - 43号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 45号住居跡全景（西から）
 (116) H - 45号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 47号住居跡全景（南西から）
 (116) H - 47号住居跡カマド全景（南西から）
 (116) H - 48号住居跡全景（南西から）
PL.20
 (116) H - 48号住居跡カマド全景（西から）
 (116) H - 49号住居跡全景（南東から）
 (116) H - 50号住居跡全景（北西から）
 (116) H - 52号住居跡全景（北西から）
 (116) H - 53号住居跡全景（西から）
 (116) H - 54号住居跡全景（西から）
 (116) H - 54号住居跡カマド全景（西から）
- (116) H - 55号住居跡全景（南西から）
 (116) H - 56号住居跡全景（北西から）
 (116) H - 56号住居跡カマド全景（北西から）
 (116) H - 56・J - 15号住居跡検出状況（北から）
 (116) H - 57号住居跡全景（西から）
 (116) W - 1号住居跡（北から）
 (116) D - 1・13号土坑全景（東から）
 (116) D - 3号土坑全景（南東から）
 (116) D - 3号土坑As=鉛石埋蔵状況（南東から）
PL.21
 (116) D - 5号土坑全景（北から）
 (116) D - 8号土坑全景（北東から）
 (116) D - 10号土坑全景（北から）
 (116) D - 14号土坑全景（南東から）
 (116) D - 15号土坑全景（東から）
 (116) D - 18号土坑全景（東から）
 (116) D - 20号土坑全景（北西から）
 (116) D - 21号土坑全景（西から）
PL.22
 (116) D - 22号土坑全景（北から）
 (116) D - 30号土坑全景（東から）
 (116) X - 1号土坑全景（北東から）
 (116) 基本土層A（東から）
 (116) 基本土層B（南東から）
 (116) 基本土層C（南東から）
 (116) 基本土層D（北西から）
 (116) 基本土層E（北西から）
PL.23
 (123) 調査区地図（南東から標名山を望む）
 (123) J - 1号住居跡全景（東から）
 (123) J - 1号住居跡全景（南から）
 (123) J - 2号住居跡全景（南から）
PL.24
 (123) J - 2号住居跡遺物出土状況（南から）
 (123) J - 3号住居跡全景（南から）
 (123) J - 3号住居跡全景（東から）
 (123) J - 4号住居跡全景（南から）
 (123) J - 4号住居跡全景（南から）
 (123) J - 4号住居跡遺物出土状況（南から）
 (123) J - 6号住居跡全景（南から）
PL.25
 (123) J - 7号住居跡全景（南から）
 (123) J - 8号住居跡全景（南から）
 (123) J - 9号住居跡全景（西から）
 (123) J - 9号住居跡全景（南から）
 (123) J - 9号住居跡埋入状況（西から）
 (123) J - 9号住居跡埋入半截状況（西から）
 (123) J - 10号住居跡全景（南から）
 (123) J - 11号住居跡全景（南から）
PL.26
 (123) J - 11号住居跡掘り方全景（南から）
 (123) 古代面調査区全景（上が北西）
 (123) H - 1号住居跡全景（西から）
 (123) H - 1号住居跡カマド全景（西から）
PL.27
 (123) H - 1号住居跡断面C-C'（西から）
 (123) H - 2号住居跡全景（西から）
 (123) H - 3号住居跡全景（西から）
 (123) H - 3号住居跡全景（西から）
 (123) H - 4号住居跡全景（西から）
 (123) H - 4号住居跡遺物出土状況（西から）
 (123) H - 4号住居跡竪穴全景（西から）
PL.28
 (123) H - 5号住居跡全景（西から）
 (123) H - 6号住居跡全景（南から）
 (123) H - 6号住居跡カマド全景（南から）
 (123) H - 7号住居跡全景（西から）
 (123) H - 7号住居跡カマド全景（西から）
 (123) H - 8号住居跡全景（西から）
 (123) H - 8号住居跡遺物出土状況（西から）

	(123) H - 9号住居跡全景 (西から)	PL.46 (116) H - 23~26号住居跡出土遺物
PL.30	(123) H - 9号住居跡カマド全景 (西から)	PL.47 (116) H - 26~34号住居跡出土遺物
	(123) H - 9号住居跡遺物出土状況 (西から)	PL.48 (116) H - 34号住居跡出土遺物
	(123) H - 10号住居跡全景 (西から)	PL.49 (116) H - 34~40号住居跡出土遺物
	(123) H - 10号住居跡カマド全景 (西から)	PL.50 (116) H - 41~53号住居跡出土遺物
	(123) H - 11号住居跡全景 (西から)	PL.51 (116) H - 55~57、I - 1号住居跡出土遺物
	(123) H - 11号住居跡カマド全景 (西から)	PL.52 (123) J - 1~7号住居跡出土遺物
	(123) H - 12号住居跡全景 (東から)	PL.53 (123) J - 8~11、H - 1~6号住居跡出土遺物
	(123) H - 12号住居跡カマド1全景 (東から)	PL.54 (123) H - 6~11号住居跡出土遺物
PL.31	(123) H - 13号住居跡全景 (北から)	PL.55 (123) H - 11~21号住居跡出土遺物
	(123) H - 14号住居跡全景 (西から)	PL.56 (123) H - 21~31、A - 1、W - 1号住居跡出土遺物
	(123) H - 15号住居跡全景 (南から)	PL.57 (123) D - 3~56、P - 39号住居跡出土遺物
	(123) H - 16号住居跡全景 (西から)	PL.58 (116) 文字・記号資料
	(123) H - 16号住居跡カマド全景 (西から)	PL.59 (116) (123) 文字・記号資料
	(123) H - 17号住居跡全景 (北から)	PL.60 (123) 文字・記号資料
	(123) H - 17号住居跡カマド全景 (西から)	
	(123) H - 18号住居跡全景 (西から)	
PL.32	(123) H - 19号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 19号住居跡カマド全景 (西から)	
	(123) H - 19号住居跡カマド遺物出土状況 (西から)	
	(123) H - 20号住居跡全景 (南から)	
	(123) H - 20号住居跡カマド全景 (南から)	
	(123) H - 21号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 22号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 22号住居跡全景 (西から)	
PL.33	(123) H - 22号住居跡石組換出状況 (南から)	
	(123) H - 23号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 24号住居跡全景 (東から)	
	(123) H - 25号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 26号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 27号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 27号住居跡カマド全景 (西から)	
	(123) H - 28号住居跡全景 (西から)	
PL.34	(123) H - 28号住居跡カマド全景 (西から)	
	(123) H - 29号住居跡全景 (北から)	
	(123) H - 31号住居跡全景 (西から)	
	(123) H - 32号住居跡全景 (北から)	
	(123) A - 1号道全景 (北から)	
	(123) W - 1号溝全景 (北から)	
	(123) W - 1号溝全景 (南から)	
	(123) W - 2号溝全景 (東から)	
	(123) W - 3号溝全景 (西から)	
PL.35	(123) W - 3号溝全景 (西から)	
	(123) W - 3号溝断面A - A' (南から)	
	(123) W - 4号溝全景 (南から)	
	(123) W - 5号溝全景 (南から)	
	(123) W - 6号溝全景 (東から)	
	(123) W - 7号溝全景 (南から)	
	(123) W - 8号溝全景 (南から)	
	(123) W - 9号溝全景 (南から)	
PL.36	(123) W - 10号溝全景 (南から)	
	(123) D - 3号土坑全景 (南から)	
	(123) D - 49号土坑全景 (東から)	
	(123) D - 55号土坑全景 (西から)	
	(123) X - 1号土坑炭化材出土状況 (西から)	
	(123) 基本土層F (南から)	
	(123) 基本土層G (東から)	
	(123) 基本土層H (北から)	
PL.37	(116) J - 1~5号住居跡出土遺物	
PL.38	(116) J - 5~7号住居跡出土遺物	
PL.39	(116) J - 8~11号住居跡出土遺物	
PL.40	(116) J - 12~15号住居跡出土遺物	
PL.41	(116) J - 16、H - 1~4号住居跡出土遺物	
PL.42	(116) H - 4~8号住居跡出土遺物	
PL.43	(116) H - 8~12号住居跡出土遺物	
PL.44	(116) H - 13~21号住居跡出土遺物	
PL.45	(116) H - 21~23号住居跡出土遺物	

I 調査に至る経緯

「元総社蒼海遺跡群（116）」（遺跡コード：27A210）（以下「蒼海（116）」という。）については、平成28年2月25日付で土地区画整理に伴う宅地造成工事にあたり、前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より、埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年3月25日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

蒼海（116）の隣接地である「元総社蒼海遺跡群（123）」（遺跡コード：28A228）（以下「蒼海（123）」という。）については、平成28年8月8日付で前橋市より埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が市教委に提出され、蒼海（116）と同様の理由で技研コンサル株式会社と平成28年9月14日付で業務委託契約を締結した。両調査とも平成28年度は現地での発掘作業と出土遺物の洗浄・注記作業までとし、発掘調査報告書作成に係る整理作業については、平成29～30年度に別途前橋市と技研コンサル株式会社との間で業務委託契約を締結し実施した。本発掘調査報告書は、蒼海（116）と蒼海（123）の2遺跡の調査成果をまとめたものである。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（116）」及び「元総社蒼海遺跡群（123）」の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、（116）及び（123）は、過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

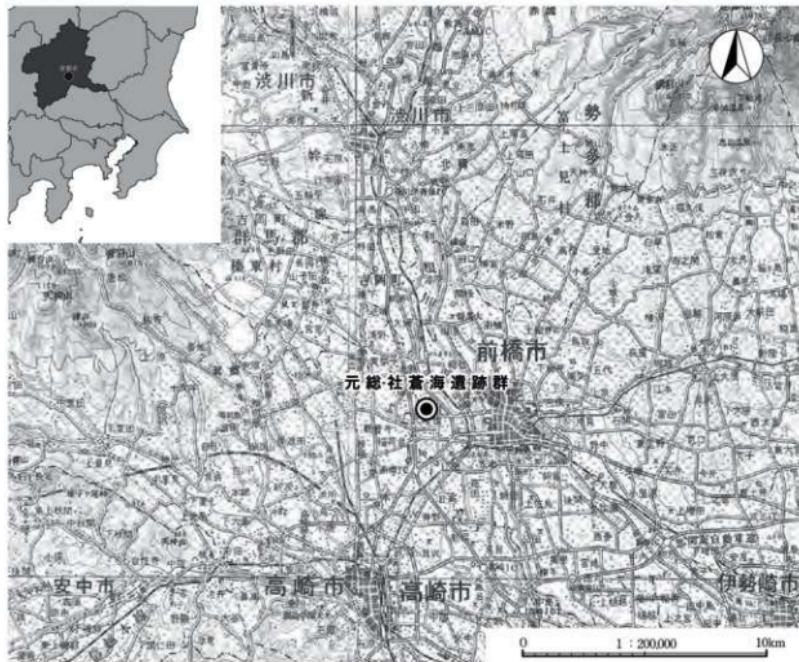


Fig.1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

遺跡の位置 (Fig. 1)

元総社蒼海遺跡群 (116)・(123) は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に近接して所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

両遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開拓作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は 3 ~ 5m を測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

歴史的環境 (Fig. 3・Tab. 1)

両遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連続と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

(1) 織文時代 八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見三遺跡 [59]・元総社蒼海遺跡群 (24) などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。本遺跡でも織文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

(2) 弥生時代 日高遺跡 [18]・[19]・上野国分寺・尼寺中間地域 [22]・正観寺遺跡 [21] などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間 C 軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

(3) 古墳時代 本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして總社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳 [7]・總社二子山古墳 [12]・愛宕山古墳 [10]・宝塔山古墳 [13]・蛇穴山古墳 [8] などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王庵寺 [4] が建立され、總社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王庵寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ~ 56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」範囲の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成 9 ~ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鰐尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によ



Fig. 2 前橋の地形

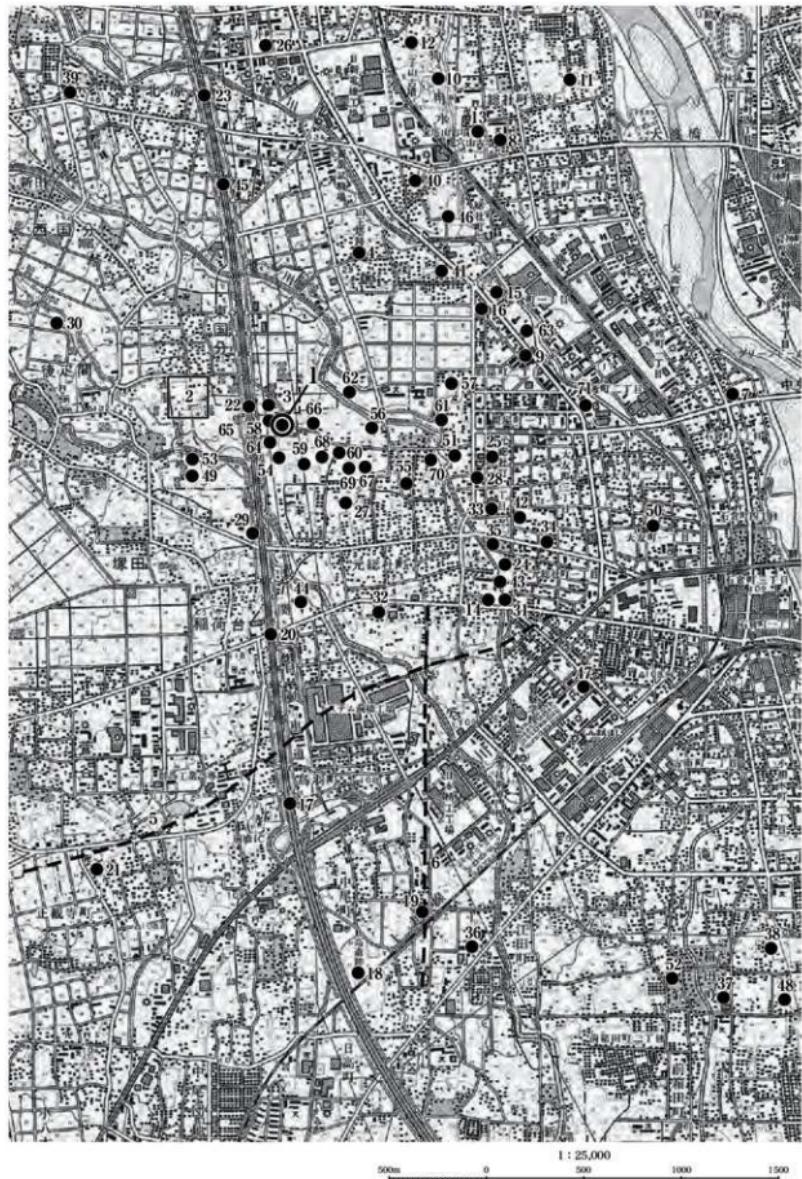


Fig. 3 周辺遺跡図

るものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北IV・V遺跡などで水田跡が確認されている。

(4) 奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲調査確認28・33・34トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡〔43〕では「國府」・「曹司」・「國」・「邑尉」などの墨書き土器や人形が出土している。元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡〔25〕や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面鏡や灰釉陶器、巡方（腰帶具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まると、主要伽藍の礎石・塼垣・堀等が確認されている。また、平成24年度から28年度にかけての第2期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和44・45年のトレーナー調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査團により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の塼垣と、それに平行する溝跡や道路状道構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡〔20〕で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊にはN・64°・E方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

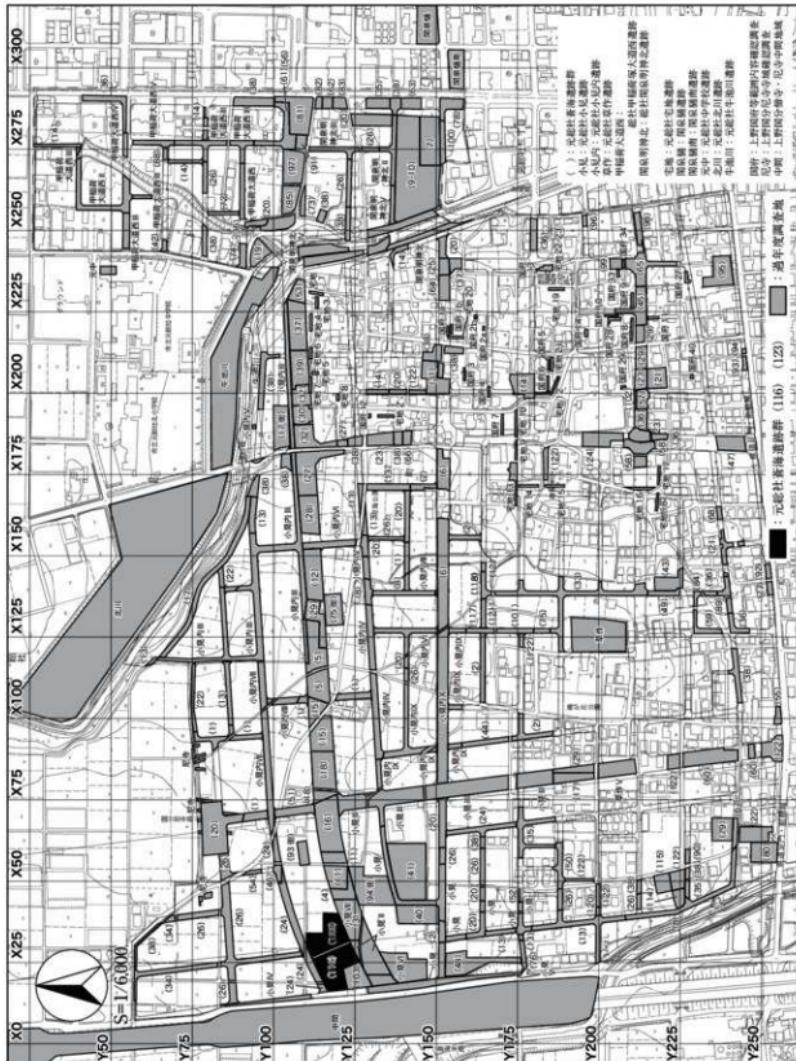
当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で8世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では9世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では8世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が1基、元総社稻葉遺跡〔47〕では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が2基確認されている。

(5) 中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺、袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諂訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長6年（1601年）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となつた。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡〔71〕の貨幣理納遺構から572枚におよぶ銭貨が捲紐を通した「縛」の状態で六糸出土している。

Tab.1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	
1	元総社赤坂遺跡	11	牛池川古墳	21	正統今井跡 ～一帯	31	寺井遺跡	
2	上野国今井寺	12	御前二山古墳	22	上野国分御所・尼寺中間地	32	天神遺跡・笠置跡	
3	上野国今井寺跡	13	文政高麗塗	23	天神遺跡	33	寺井遺跡・笠置跡	
4	牛山周辺	14	大村町牛山蛭塗遺跡	24	正統御所跡 ～一帯	34	寺井遺跡	
5	高麗塗（確定）	15	東山道牛山蛭塗	25	御前御所跡	35	高麗塗	
6	高麗塗（確定）	16	高麗塗牛山蛭塗	26	木太遺跡・笠置跡	36	御前御所跡	
7	牛山古墳	17	中ノ原遺跡	27	豆作前遺跡	37	村前遺跡	
8	蛇穴山古墳	18	日高遺跡	28	御前御所跡	38	吉瓦川遺跡	
9	福寺山古墳	19	日高遺跡	29	御田川蛭塗跡	39	御田川今井寺遺跡	
10	愛宕山古墳	20	日高遺跡	30	元定期遺跡 ～一帯	40	村前遺跡	
							50	大丸七地氷遺跡

番号	道路名	調査年度	時代：主な遺構・出土物
-	越後園田明神北V走跡	2004	古墳・水田跡、春賣・平安・住居跡
-	田代塙遺跡	1983	古墳・丘陵遺跡、春賣・平安・大溝
-	田代塙山遺跡	1985	古墳・丘陵跡・△砂利堆
-	元柳枝北川遺跡	2003～2004	城内～外部、田代塙、古墳・丘陵・水田跡・軒下探測坑・田代塙、平安・住居跡・獨立柱建物跡・馬頭・中世以前・獨立柱建物跡
-	元柳枝牛酒川遺跡	2003～2004	古墳・水田跡・春賣・丘陵・水田跡・独立柱建物跡・二間丈土器（前・後期）・埴輪・瓦片・瓦形神形土器・二足土器・鐵矛土製品・「光光」鉢瓦・瓦片
-	元柳枝中学校跡	2016	



III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内であり、調査面積は元総社蒼海遺跡群（116）が 1,830 m²、元総社蒼海遺跡群（123）が 1,606 m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000、Y = - 72200.000 を基点とする 4 m ピッチのものを使用し、経線を X、緯線を Y として北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系 测地成果 2011）
(116) X 20, Y 120	X = 43520.000 m, Y = - 72120.000 m	X = 43874.846 m, Y = - 72411.290 m
(123) X 30, Y 115	X = 43540.000 m, Y = - 72080.000 m	X = 43894.845 m, Y = - 72371.290 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.7 m パックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソフォトに変換して編集を行なった。記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの 3 種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターでの撮影を実施した。

整理作業における出土遺物の計測は、従来の手実測からキーエンス社製 3D スキャナー（VL-300）による機械計測に切り替えた。誤差 1 mm の 1/1,000 という高精度な全点取得が可能で、従来の 2 次元化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

2 調査経過

元総社蒼海遺跡群（116）の発掘調査は、表土掘削を平成 28 年 4 月 12 日から 4 月 15 日まで実施した。緩斜面となっている現況とは異なり、地点によって表土厚に差異があることが判明した。続けて鏃巒を用いて人力で遺構確認作業を行ったが、遺構の密度が極めて高いことから、搅乱下の遺構の有無については慎重に判断した。順次調査を進め、7 月 21 日に古代面の全景撮影を実施した。住居跡掘り方等の確認をした後に、縄文面の調査を行い、10 月 6 日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。なお、10 月 5 日のパックフォーによる井戸底面確認作業中に郷名墨書き瓦が出土している。

元総社蒼海遺跡群（123）の発掘調査は、表土掘削を平成 28 年 10 月 11 日から 15 日まで行った。表土掘削に並行して遺構確認作業を行い、10 月 19 日から遺構調査を開始した。古墳時代前期から平安時代を中心とした時期の遺構の調査を行い、12 月 26 日に古代面の全景撮影を行った。古代面遺構の記録作業・住居跡掘り方などの確認調査を実施した後、平成 29 年 1 月 11 日より縄文面の調査を行い、2 月 24 日に終了した。2 月 27 日から調査区の埋め戻しと並行して撤収作業を行い、3 月 3 日に現地での発掘調査を終了した。

両遺跡共に、平成 30 年 3 月 22 日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

IV 基本層序

元総社蒼海遺跡群（116）（123）の調査区は、相馬ヶ原扇状地が前橋台地に隣接する扇端部に立地し、榛名山東南麓の北群馬郡榛東村広馬場に端を発する染谷川が、山裾の傾斜の変化に伴い東南東から南東へと流路を変更する左岸上に位置する。右岸および上野国分寺跡が立地する北側左岸は比較的旧状を留めているが、元総社蒼海

地区は区画整理以前の開墾整備によって、水田耕作に適した緩やかな傾斜をもつ平坦地へと変貌している。調査区周辺の地形を仔細に観察すると、南東流する地点、現在の関越自動車道とその側道付近にはかつて自然堤防が発達していたことがわかる (Fig. 6)。この自然堤防は、(116) 調査時における遺構確認面が調査区中央を境として、東側が総社砂層を多く含む黄褐色土、西側がより上層の黒褐色土となり、さらに西にいくにつれて黒褐色土の堆積厚が増すことが痕跡として認められることから、自然堤防外縁が付近にあったことを示唆している (巻頭図版 2)。この起伏は、確認面下の総社砂層においても継承されており、断面 A - B - F では東方向に傾斜し、E - H では平坦に近い状態となる。また、断面 D 付近では、総社砂層相当層および上下の層が周囲と異なり、非常に粘性の強い土層が確認されている。この粘質土が認められる範囲では、粘土採掘坑と考えられる複数の土坑状の掘り込みが重なった状態で検出している。周囲の調査事例から判断すると、自然堤防外縁の基本土層 D 付近を谷頭とした低地帯が、自然堤防に沿って南東方向へと広がっていると推察できる。表土層と旧耕作土層は、これら起伏のある旧地形を緩やかに平夷化していることから、より削平された西側の遺構密度と遺存度に影響を与えている可能性がある。

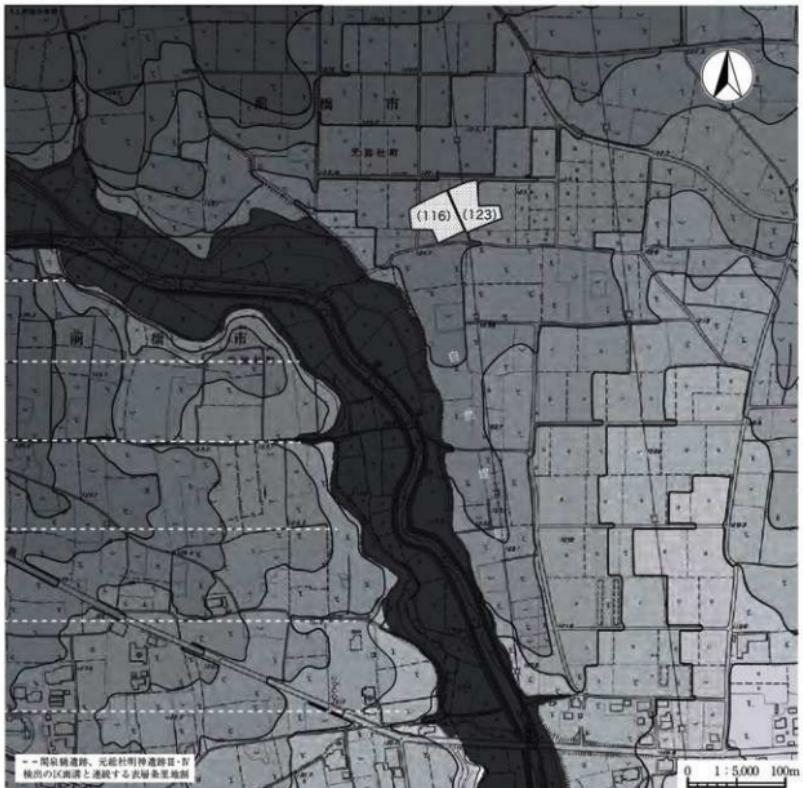




Fig. 7 元總社古海遺跡群（116）全体図（縄文時代）



Fig. 8 元総社舊海遺跡群（116）全体図（古墳時代以降）

V 遺構と遺物

1 元総社蒼海遺跡群（116）

（1）竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 9・54, PL. 2・37)

位置 X 23・24、Y 114・115 規模 東西軸 5.02 m、南北軸 5.91 m、壁現高 0.40 m。調査区北側東寄りから検出した。面積 24.37 m² 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。重複 無し。炉 炉 A は東壁際から検出。長軸 1.66 m、短軸 1.18 m、深さ 0.25 m を測り、中央に深鉢が埋設されている。焼土は覆土に混在するのみで、火床面は認められない。炉に使用した礫が底面に散在していた。炉 B は住居中央やや南寄りから検出。長軸 1.94 m、短軸 1.02 m、深さ 0.11 m を測り、底面北側に礫が枕石状に埋設されていた。周溝東側を除いて断続的に検出。南西側は柱穴ラインで 2 重に巡る。柱穴 10 基検出。P 1 は長軸 0.57 m、短軸 0.54 m、深さ 0.25 m。P 2 は長軸 0.42 m、短軸 0.41 m、深さ 0.49 m。P 3 は長軸 0.39 m、短軸 0.35 m、深さ 0.34 m。P 4 は長軸 0.38 m、短軸 0.35 m、深さ 0.15 m。P 5 は長軸 0.51 m、短軸 0.47 m、深さ 0.37 m。P 6 は長軸 0.42 m、短軸 0.36 m、深さ 0.16 m。P 7 は長軸 0.35 m、短軸 0.32 m、深さ 0.51 m。P 8 は長軸 0.49 m、短軸 0.38 m、深さ 0.34 m。P 9 は長軸 0.39 m、短軸 0.34 m、深さ 0.48 m。P 10 は長軸 0.57 m、短軸 0.41 m、深さ 0.44 m をそれぞれ測る。出土遺物 深鉢（1～4）、鉢（5・6）、耳栓（7）、打製石斧（8～11）、凹基無茎蕨（12・13）、石皿（14・15）が出土している。1 は加曾利 E II 期新相から E III 期古相、2・3・5 は加曾利 E III 期新相、4 は加曾利 E III 期古層、6 は加曾利 E III 期を示す。14 は緑泥片岩製で大型の石棒を転用したと考えられる。

時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利 E III 期と想定される。

J-2号住居跡 (Fig. 10・55, PL. 2・3・37)

位置 X 24～26、Y 115～157 規模 東西軸 (6.12) m、南北軸 (5.70) m、壁現高 0.40 m。調査区東側から検出した。面積 27.42 m² 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。重複 H-7・26・27、D-1・6・7・8・13 と重複し、新旧関係は本遺構→H-7→H-26→H-27、D-1・6・7・8・13 である。炉 住居中央から 1 基検出。長軸 1.14 m、短軸 1.11 m、中央には深さ 0.41 m のピット状の掘り込みに、深鉢が埋設されている。埋設土器の周囲、立ち上がり部分の地山は焼土化している。上層には被熱した礫と微細な炭化物を多く含む土層が堆積している。他に南壁東寄りから、長軸 (1.44) m、短軸 1.31 m、深さ 0.22 m を測る、L 字状の浅い掘り込みが 1 基検出しているが、覆土中に焼土層は認められない。柱穴 6 基検出。P 1 は長軸 0.50 m、短軸 0.49 m、深さ 0.18 m。P 2 は長軸 0.39 m、短軸 0.38 m、深さ 0.25 m。P 3 は長軸 0.46 m、短軸 0.38 m、深さ 0.54 m。P 4 は長軸 0.91 m、短軸 0.62 m、深さ 0.37 m。P 5 は長軸 0.54 m、短軸 0.40 m、深さ 0.14 m。P 6 は長軸 0.41 m、短軸 0.32 m、深さ 0.10 m をそれぞれ測る。出土遺物 浅鉢（1）、深鉢（2）が出土している。1 は加曾利 E II 期新相から E III 期古相、2 は加曾利 E III 期古層を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利 E III 期と想定される。

J-3号住居跡 (Fig. 11・55, PL. 3・37)

位置 X 26、Y 119 規模 東西軸 (1.49) m、南北軸 (2.85) m、壁現高 0.21 m。調査区東側中央から検出した。確認面からの掘り込みが浅く、重複により大半が削平されていることから、東側一部のみ調査を行った。面積 (3.19) m² 床面 総社砂層をベースとして、硬化は弱い。重複 H-29 と重複し、新旧関係は本遺構→H-29 である。炉 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 深鉢（1～4）が出土している。1 は加曾利 E III 期、2 は加曾利 E III 期新相、4 は加曾利 E IV 期新相を示す。3 は加曾利 E IV 期から E V 期とやや新しく、称名寺並行期と考えられる。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利 E III 期と想定される。

J-4号住居跡 (Fig.11・55, PL. 3・37)

位置 X 26・27, Y 118 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸 (3.33) m、南北軸 (3.76) m、覆土厚 0.06 m。調査区東側中央から検出した。遺構確認作業の段階で、既に炉の焼土層が露出しており、表土層の凹凸によって部分的に床面が残存している状況であった。面積 (5.03) m² 床面 総社砂層をベースとして、部分的に硬化している。重複 H - 24・25・33と重複し、新旧関係は本遺構→H - 33→H - 24→H - 25である。炉2基検出。炉Aは長軸 0.54 m、短軸 0.46 m、被熱層最下面の深さ 0.09 m、炉Bは長軸 0.73 m、短軸 0.43 m、被熱層最下面の深さ 0.09 mをそれぞれ測り、確認されたのはいずれも緻密で軟質な焼土面と被熱した地山層のみで、付随する施設は検出していない。柱穴 検出されず。出土遺物 鉢 (1・2)、土製円盤 (3) が出土している。1は加曾利EⅢ期古相、2は加曾利EⅢ期新相を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利EⅢ期と想定される。

J-5号住居跡 (Fig.12・56, PL. 3・37・38)

位置 X 26～28, Y 116・117 規模 東西軸 6.61 m、南北軸 6.42 m、壁現高 0.33 m。調査区東端中央から検出した。面積 (22.98) m² 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。重複 H - 20・25・54と重複し、新旧関係は本遺構→H - 54→H - 20・25である。炉 住居中央から検出。北半はH - 54との重複によって削平されており、長軸 (1.20) m、短軸 (0.77) m、深さ (0.27) mを測る。焼土と灰は覆土に混在するのみで、火床面は認められない。炉に使用した礫が散在していた。柱穴 12基検出。P 1は長軸 0.66 m、短軸 0.42 m、深さ 0.59 m。P 2は長軸 0.56 m、短軸 0.38 m、深さ 0.68 m。P 3は長軸 0.53 m、短軸 0.47 m、深さ 0.53 m。P 4は長軸 0.35 m、短軸 0.29 m、深さ 0.52 m。P 5は長軸 0.32 m、短軸 0.29 m、深さ 0.25 m。P 6は長軸 0.66 m、短軸 0.57 m、深さ 0.64 m。P 7は長軸 0.45 m、短軸 0.42 m、深さ 0.49 m。P 8は長軸 0.46 m、短軸 0.45 m、深さ 0.16 m。P 9は長軸 0.51 m、短軸 0.35 m、深さ 0.10 m。P 10は長軸 0.35 m、短軸 0.27 m、深さ 0.17 m。P 11は長軸 0.60 m、短軸 0.41 m、深さ 0.60 m。P 12は長軸 0.59 m、短軸 0.39 m、深さ 0.63 mをそれぞれ測る。出土遺物 器台 (1)、鉢 (2～5)、深鉢 (6) が出土している。1・6は加曾利EⅢ期、2～5は加曾利EⅢ期新相を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利EⅢ期と想定される。

J-6 A号住居跡 (Fig.13・14・56, PL. 3・38)

位置 X 20～22, Y 115～117 規模 東西軸 (7.97) m、南北軸 634 m、壁現高 0.44 m。調査区北側中央から検出した。当初、J-6 A・Bは同一遺構として調査を開始し、掘り下げていく過程で別住居と判断したため、枝番を付与している。面積 (32.97) m² 床面 総社砂層をベースとして、中央のみ部分的に硬化しており、周辺は覆土直下から軟質な砂層となっている。重複 J-6 B、H-1・2・30・31と重複し、新旧関係は J-6 B→本遺構→H-1→H-31→H-2→H-30である。炉 検出されず。柱穴 14基検出。P 1は長軸 0.27 m、短軸 0.26 m、深さ 0.35 m。P 2は長軸 0.36 m、短軸 0.36 m、深さ 0.34 m。P 3は長軸 0.27 m、短軸 0.24 m、深さ 0.55 m。P 4は長軸 0.28 m、短軸 0.26 m、深さ 0.29 m。P 5は長軸 0.39 m、短軸 0.35 m、深さ 0.45 m。P 6は長軸 0.24 m、短軸 0.20 m、深さ 0.52 m。P 7は長軸 0.37 m、短軸 0.36 m、深さ 0.75 m。P 8は長軸 0.28 m、短軸 0.24 m、深さ 0.55 m。P 9は長軸 0.36 m、短軸 0.31 m、深さ 0.33 m。P 10は長軸 0.33 m、短軸 0.26 m、深さ 0.45 m。P 11は長軸 0.22 m、短軸 0.22 m、深さ 0.28 m。P 12は長軸 0.44 m、短軸 0.41 m、深さ 0.33 m。P 13は長軸 0.41 m、短軸 0.37 m、深さ 0.45 m。P 14は長軸 0.23 m、短軸 (0.18) m、深さ 0.34 mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢 (1～5)、石錐 (6)、多孔石 (7)、台石 (8) が出土している。

時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯c期と想定される。

J-6 B号住居跡 (Fig.13・14・57, PL. 3・38)

位置 X 21・22, Y 115・116 規模 東西軸 4.17 m、南北軸 4.34 m、壁現高 0.66 m。調査区北側中央から検出した。南側に隅丸方形の突出部をもつ。面積 12.83 m² 床面 総社砂層をベースとして、全体的によく硬化してい

る。重複 J-6 A、H-5・31・32と重複し、新旧関係は本遺構→J-6 A→H-5・32→H-31である。炉 検出されず。柱穴 6基検出。P 1は長軸0.22m、短軸0.21m、深さ0.27m。P 2は長軸0.21m、短軸0.20m、深さ0.25m。P 3は長軸0.23m、短軸0.32m、深さ0.23m。P 4は長軸0.31m、短軸0.28m、深さ0.18m。P 5は長軸0.28m、短軸0.26m、深さ0.16m。P 6は長軸0.21m、短軸0.20m、深さ0.40mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢（1～4）、有孔土器（5）、玦状耳飾（6）が出土している。時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯c期と想定される。

J-7号住居跡 (Fig.14・58、PL. 4・38)

位置 X 20・21、Y 115・116 規模 東西軸（458）m、南北軸5.26m、壁現高0.04m。調査区北端西寄りからの検出であり、北壁付近は調査区外となる。面積（18.96）m² 床面 総社砂層と上位の黒褐色土が凹凸によって混在した土層をベースとして、部分的に弱い硬化が認められる。重複 J-6 A、H-1・2、D-16と重複し、新旧関係はJ-6 A→本遺構→D-16→H-1→H-2である。炉 住居中央から1基検出。長軸0.93m、短軸（0.84）m、深さ0.12mを測り、中央には深鉢が埋設されている。覆土には焼土・灰の混入は認められない。柱穴 5基検出。P 1は長軸0.58m、短軸0.51m、深さ0.12m。P 2は長軸0.60m、短軸0.54m、深さ0.09m。P 3は長軸0.49m、短軸0.39m、深さ0.09m。P 4は長軸0.33m、短軸0.31m、深さ0.11m。P 5は長軸0.66m、短軸0.61m、深さ0.11mをそれぞれ測る。他に北西側から長軸0.46m、短軸0.38m、深さ0.21mを測る掘り込みに、深鉢が埋設された状態で出土している。出土遺物 深鉢（1～6）が出土している。いずれも加曾利E III期古層を示す。2は並行期の郷土式か。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利E III期と想定される。

J-8号住居跡 (Fig.15・58～60、PL. 4・5・39)

位置 X 18・19、Y 116～118 規模 東西軸5.48m、南北軸6.88m、壁現高0.35m。調査区北西から検出し、南東側は一部搅乱によって削平されている。面積（30.41）m² 床面 総社砂層と上位の黒褐色土が凹凸によって混在した土層をベースとして、全体的によく硬化している。重複 H-9、D-19と重複し、新旧関係は本遺構→H-9・D-19である。炉 住居中央東寄りから1基検出。長軸1.30m、短軸0.17m、深さ0.17mを測り、南から東へかけての2辺には石皿等を転用した炉石が設置されている。西から北片についても、周囲に石が散乱した状況が見受けられることから、本来は石窯がされていたものと想定される。覆土には少量の焼土粒が混入している。炉外の南東側に偏って土器片の出土が認められる。柱穴 5基検出。P 1は長軸0.44m、短軸0.37m、深さ0.28m。P 2は長軸0.54m、短軸0.52m、深さ0.30m。P 3は長軸0.59m、短軸0.53m、深さ0.36m。P 4は長軸0.46m、短軸0.44m、深さ0.35m。P 5は長軸（1.00）m、短軸0.77m、深さ0.44mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢（1～6）、土製円盤（7・8）、磨製石斧（9）、打製石斧（10・11）、石皿（12～14）が出土している。1は加曾利E II期新相からE III期古相、2・3・5・6は加曾利E II期、4は加曾利E III期を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利E II期と想定される。

J-9号住居跡 (Fig.16、PL. 5)

位置 X 24・25、Y 124・125 規模 東西軸4.24m、南北軸3.71m、壁現高0.39m。調査区南側中央から検出した。面積 14.06 m² 床面 粘性の強い黒褐色土と黄褐色土が、凹凸によって混在している面をベースとして、硬化は弱い。重複 H-40と重複し、新旧関係は本遺構→H-40である。炉 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 いずれも小破片で、図示には至らなかった。時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯c期と想定される。

J-10号住居跡 (Fig.16・57、PL. 5・39)

位置 X 20、Y 120～122 規模 東西軸（3.76）m、南北軸（5.09）m、壁現高0.28m。調査区西側南寄りから検出した。面積（14.05）m² 床面 粘性の強い黒褐色土と黄褐色土が、凹凸によって混在している面を

ベースとして、硬化は弱い。重複 H-15、D-22・23と重複し、新旧関係は本遺構→D-22・23→H-15である。炉住居中央西寄りから1基検出。長軸(5.09)m、短軸(3.76)m、深さ0.23mを測り、4辺に台石等を転用して配した石開い炉で、西コーナーのみ小型の多孔石が据付けられている。炉中央には深鉢が埋設されている。覆土中に焼土ブロックの混入は少量だが、炉底面の地山層は部分的に被熱によって焼土化している。柱穴 4基検出。P1は長軸0.54m、短軸0.47m、深さ0.26m。P2は長軸0.36m、短軸0.35m、深さ0.16m。P3は長軸0.30m、短軸0.30m、深さ0.15m。P4は長軸0.33m、短軸0.32m、深さ0.11mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢(1・2)、多孔石(3)が出土している。1は加曾利EⅢ期古相、2は加曾利EⅢ期新相を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利EⅢ期と想定される。

J-11号住居跡 (Fig.17・60, PL. 5・6・39)

位置 X 21～23, Y 118～120 規模 東西軸(4.90)m、南北軸6.56m、壁現高0.29m。調査区中央から検出した。複数の擾乱によって壁面および床面の一部が削平されている。面積 (25.10)m² 床面 総社砂層と上層の黒褐色土が凹凸によって混在している面をベースとして、硬化は弱い。重複 H-35、D-24と重複し、新旧関係は本遺構→D-24→H-35である。炉 検出されず。柱穴 9基検出。P1は長軸0.65m、短軸0.50m、深さ0.54m。P2は長軸0.37m、短軸0.36m、深さ0.22m。P3は長軸0.57m、短軸0.45m、深さ0.50m。P4は長軸0.28m、短軸0.27m、深さ0.22m。P5は長軸0.82m、短軸(0.52)m、深さ0.30m。P6は長軸0.40m、短軸0.36m、深さ0.08m。P7は長軸0.78m、短軸0.51m、深さ0.39m。P8は長軸0.51m、短軸0.48m、深さ0.37m。P9は長軸0.63m、短軸0.29m、深さ0.48mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢(1・2)、凹基無茎鐵(3)、多孔石(4)が出土している。1は加曾利EⅠ期新相からEⅡ期古相、2は加曾利EⅡ期古相を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利EⅡ期と想定される。

J-12号住居跡 (Fig.18・19・60, PL. 6・40)

位置 X 28・29, Y 118・119 規模 東西軸5.41m、南北軸4.73m、壁現高0.47m。調査区東端南寄りから検出した。面積 (14.19)m² 床面 総社砂層をベースとして、全体的によく硬化している。重複 J-13、H-21と重複し、新旧関係はJ-13→本遺構→H-21である。炉 住居中央から検出。長軸1.01m、短軸0.71m、深さ0.16mを測る。底部中央は被熱により焼土化しており、覆土中には焼土と灰が混在している。周溝 北側のみ1条検出。柱穴 4基検出。P1は長軸0.29m、短軸0.27m、深さ0.11m。P2は長軸0.21m、短軸0.20m、深さ0.43m。P3は長軸0.31m、短軸0.28m、深さ0.53m。P4は長軸0.33m、短軸0.30m、深さ0.56mをそれぞれ測る。出土遺物 深鉢(1・2)、打製石斧(3)、石皿(4)が出土している。1は加曾利EⅡ期新相からEⅢ期古相、2は加曾利EⅡ期古相を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利EⅡ期と想定される。

J-13号住居跡 (Fig.18・19・61, PL. 6・40)

位置 X 27～29, Y 119～121 規模 東西軸7.33m、南北軸6.97m、壁現高0.76m。調査区東端南寄りから検出した。面積 38.74m² 床面 総社砂層をベースとして、やや凹凸がある床となっており、中央一部のみ硬化している。重複 J-12、H-21と重複し、新旧関係は本遺構→J-12→H-21である。炉 検出されず。柱穴 8基検出。P1は長軸0.65m、短軸0.50m、深さ0.54m。P2は長軸0.37m、短軸0.36m、深さ0.22m。P3は長軸0.57m、短軸0.45m、深さ0.50m。P4は長軸0.28m、短軸0.27m、深さ0.22m。P5は長軸0.82m、短軸(0.52)m、深さ0.30m。P6は長軸0.40m、短軸0.36m、深さ0.08m。P7は長軸0.78m、短軸0.51m、深さ0.39m。P8は長軸0.51m、短軸0.48m、深さ0.37mをそれぞれ測る。南北に2列に配置され、P5は中央北側から検出している。出土遺物 深鉢(1～5)、磨製石斧(6)、打製石斧(7)、平基無茎鐵(8)、凹基無茎鐵(9)、石核(10)、小型石皿(11)が出土している。時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯c期と想定される。

J-14号住居跡 (Fig.19・61・62、PL. 6・40)

位置 X 24 ~ 26、Y 113・114 規模 東西軸 (5.12) m、南北軸 5.15 m、壁現高 0.40 m。調査区北東隅から検出した。面積 (17.94) m² 床面 総社砂層をベースとして、全体的にやや硬化している。重複 H-6と重複し、新旧関係は本遺構→H-6である。炉 2基検出。住居中央から検出した炉Aは、長軸 1.95 m、短軸 1.74 m、深さ 0.24 m を測る。底部中央には深鉢が埋設され、焼土粒と小砾を覆土に含む。南東隅の炉Bは、長軸 0.69 m、短軸 0.58 m、深さ 0.19 m を測り、覆土に焼土の混入は認められない。隣接する南東壁付近には、深さ 0.06 m の浅い窪みに深鉢が埋設されている。柱穴 9基検出。P 1は長軸 0.24 m、短軸 0.24 m、深さ 0.17 m。P 2は長軸 0.22 m、短軸 0.21 m、深さ 0.16 m。P 3は長軸 0.34 m、短軸 0.33 m、深さ 0.34 m。P 4は長軸 0.38 m、短軸 0.25 m、深さ 0.20 m。P 5は長軸 0.40 m、短軸 0.37 m、深さ 0.14 m。P 6は長軸 0.47 m、短軸 0.44 m、深さ 0.35 m。P 7は長軸 0.32 m、短軸 0.31 m、深さ 0.33 m。P 8は長軸 0.35 m、短軸 0.27 m、深さ 0.15 m。P 9は長軸 0.51 m、短軸 0.44 m、深さ 0.21 m をそれぞれ測る。出土遺物 深鉢 (1・3)、浅鉢 (2)、鉢 (4)、磨製石斧 (5) が出土している。1は加曾利E II期新相からE III期古相、2・3は加曾利E III期古相、4は加曾利E III期を示す。4は (116) J-1号住居跡出土遺物 6と (123) J-11号住居跡出土遺物 3と接合する。

時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利E III期と想定される。

J-15号住居跡 (Fig.20・62、PL. 6・40)

位置 X 24・25、Y 119・120 規模 東西軸 4.95 m、南北軸 4.68 m、壁現高 0.33 m。調査区中央南東寄りから検出した。面積 18.19 m² 床面 総社砂層と上層の黒褐色土が凹凸によって混在している土層をベースとして、やや硬化が弱い。重複 H-18・19・28・29、D-31・32・33と重複し、新旧関係は本遺構→H-29→H-18→H-19・28、D-31・32・33である。炉 住居中央に 1基検出。長軸 0.62 m、短軸 0.50 m、深さ 0.10 m を測る。覆土中に焼土粒を少量含む。柱穴 6基検出。P 1は長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 0.43 m。P 2は長軸 0.33 m、短軸 0.33 m、深さ 0.41 m。P 3は長軸 0.30 m、短軸 0.29 m、深さ 0.46 m。P 4は長軸 0.33 m、短軸 0.32 m、深さ 0.26 m。P 5は長軸 0.34 m、短軸 0.31 m、深さ 0.18 m。P 6は長軸 0.46 m、短軸 0.39 m、深さ 0.41 m をそれぞれ測る。出土遺物 深鉢 (1~4)、打製石斧 (5・6)、石錐 (7) が出土している。1は加曾利E III期、2は加曾利E II期古相、3は曾利II期、4は加曾利E II期新相または並行期の郷土式、曾利II期を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利E II期と想定される。

J-16号住居跡 (Fig.20・62、PL. 7・41)

位置 X 21・22、Y 121・122 規模 東西軸 (4.83) m、南北軸 (5.97) m、壁現高 0.26 m。調査区南壁西寄りから検出し、東半は搅乱によって削平され、南半は調査区外となる。面積 (20.97) m² 床面 粘性の強い黒褐色土をベースとして、全体的にやや硬化している。重複 H-46と重複し、新旧関係は本遺構→H-46である。炉 住居中央に 1基検出。長軸 0.95 m、短軸 0.92 m、深さ 0.33 m を測り、北側には多孔石が枕石状に据付けられている。中央北寄りには浅鉢が埋設されており、土器の口縁、深さ 0.11 m 付近によく硬化したリング状の火床面が確認されている。柱穴 5基検出。P 1は長軸 0.62 m、短軸 0.57 m、深さ 0.41 m。P 2は長軸 0.53 m、短軸 0.51 m、深さ 0.51 m。P 3は長軸 0.53 m、短軸 0.50 m、深さ 0.62 m。P 4は長軸 0.40 m、短軸 0.30 m、深さ 0.56 m。P 5は長軸 0.37 m、短軸 0.35 m、深さ 0.14 m をそれぞれ測る。出土遺物 鉢 (1)、深鉢 (2)、土製円盤 (3)、打製石斧 (4)、円基錐 (5)、石皿 (6) が出土している。1は加曾利E I期、2は加曾利E II期を示す。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曾利E I期と想定される。

H-1号住居跡 (Fig.21・63、PL. 8・41)

位置 X 19・20、Y 115~117 主軸方向 N-91°-E 規模 東西軸 4.07 m、南北軸 5.32 m、壁現高 0.05 m。調査区北側から検出された。遺構確認時には床が一部露出し、カマド崩落の焼土層が散在している状況で、極めて浅い。面積 19.50 m² 床面 カマド焚口付近から貯蔵穴、中央にかけてはよく硬化しているが、壁付近の

硬化は弱い。重複 J-7、D-26~30と重複し、新旧関係はJ-7→D-26~30→本遺構である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長0.96m、燃焼部幅0.55m、袖の残存長は右(南)が0.20m、左(北)が0.16m、煙道は壁外に0.59m突出している。検出深が浅いために判然としないが、燃焼部奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。燃焼部内壁北側には、構築部材として丸瓦が1点据付られていた。また、崩落土中からも構築部材として利用されたと考えられる瓦が複数出土している。天井部は完全に崩落しており、焚口から北西方向に焼土粒を多く含む崩落土層が、南西方向に黒色灰が堆積している。貯蔵穴 南東寄りに検出。長軸0.61m、短軸0.57m、深さ0.20mを測る。柱穴 検出されず。掘り方 黄色砂粒ブロック、As-C軽石粒を少量含んだ黒褐色土が部分的に貼付された地山硬化床。出土遺物 床面直上から須恵器壺(1・2・3)、凸部にヘラ記号が刻まれた平瓦片(5・6)、カマド燃焼部から土師器壺(4)、焚口付近から、凸部にヘラ記号が刻まれたカマド構築部材と想定される丸瓦片(6)が出土している。時期 出土遺物の傾向から、9世紀後半と想定される。

H-2号住居跡 (Fig.21・63, PL. 8・41)

位置 X 20・21、Y 115・116 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸2.63m、南北軸3.62m、壁現高0.03m。調査区北側から検出した。非常に浅く、遺構確認時には既に北東側の床面は露出した状態であった。面積 8.62m² 床面 カマド焚口付近を含む住居南半のみ硬化している。重複 J-6 A・7、D-16と重複し、新旧関係はJ-6 A→J-7→本遺構→D-16である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長0.72m、燃焼部幅0.29m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.31m、左(北)が0.27m、煙道は壁外に0.22m突出している。右袖は砂岩が2点、左袖は粗粒安山岩が1点、また燃焼部両側壁奥にも粗粒安山岩が1対、構築部材として使用されている。灰層が焚口から住居内へ、南西方向に薄く堆積している。確認面から浅いために、燃焼部および煙道の形状は不明。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 As-C軽石粒を少量含む暗褐色土が一部に薄く貼付された地山硬化床。出土遺物 須恵器高台付塊(1・2)、高脚タイプの須恵器高台付塊(3)、羽釜(4)が出土している。1・4はカマド崩落土中、2・3は床面直上からの出土で、いずれも酸化焰焼成である。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-3号住居跡 (Fig.22・64, PL. 8・41)

位置 X 23・24、Y 116~118 主軸方向 N-114°-E 規模 東西軸3.25m、南北軸3.25m、壁現高0.31m。調査区中央から検出した。西壁南側は擾乱によって消失している。面積 13.47m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-27・57と重複し、新旧関係は本遺構→H-27・57である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長1.08m、燃焼部幅0.55m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.26m、左(北)が0.30m、煙道は壁外に0.51m突出している。崩落土中からは、構築部材として転用された瓦片が複数出土している。搔き出された灰層は、焚口から左右の東壁に沿って薄く堆積している。貯蔵穴 長軸0.42m、短軸0.39m、深さ0.39mを測る隅丸方形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。この貯蔵穴上部を覆うように、平瓦2枚が凸面を上にして設置されていた。北西隅からは長軸0.73m、短軸0.63m、深さ0.12mを測る楕円形の浅い掘り込みが検出している。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、細かく浅い凹凸にAs-C軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 須恵器高台付塊(1)、土師器壺(2)、土師器壺(3)、四面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦(4)、凸面に叩き具で「タ大」(多胡郡大家郷か)と陽刻された平瓦(5)、鉄製刀子(6)、石製紡錘車(7)が出土している。1・7は住居覆土中、2~5がカマド崩落土中、6が床面直上からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-4号住居跡 (Fig.23・64, PL. 8・41・42)

位置 X 24・25、Y 118・119 主軸方向 N-98°-E 規模 東西軸3.31m、南北軸4.94m、壁現高0.40m。調査区中央からの検出であり、Bカマド煙道部およびAカマド焚口手前は、擾乱によって遺構面が消失して

いる。面積 15.45 m² 床面 カマド付近から貯蔵穴、住居中央部にかけてよく硬化している。重複 H-29・37・57と重複し、新旧関係はH-29・37・57→本遺構である。カマド 東壁中央に2基検出。南側に位置するAカマドは、確認長(1.10)m、燃焼部幅0.59m、天井部は完全に崩落しており、右袖(南)は僅かな影らみが残っているものの、左袖(北)は構築部材として据付けた、面取りされた砂岩が1点遺存するのみである。北側に位置するBカマドは、確認長(0.64)m、燃焼部幅0.63m、天井部は完全に崩落しており、袖の形状は不明。この2基のカマドの新旧は、Aカマド覆土に崩落した焼土ブロックが多く、直下に白色灰の堆積と燃焼部火床面の焼土層が確認できること。Bカマドは焼土ブロックの混入が極めて少なく、灰層が認められないこと。遺物の出土、特に煮沸具はAカマドを主体とすることから、新旧関係は、Bカマド→Aカマドとなる。なお、住居内床面への灰・焼土を含むカマド崩落土層の流入も、Bカマドから南東隅へ堆積していた。貯蔵穴 長軸0.79m、短軸0.47m、深さ0.18mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとした地山床で、凹凸面に砂粒ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 須恵器高台付皿(1)、須恵器高台付皿(2)、須恵器壺(3・4)、土師器暗文壺(5)、墨書き財ヶ土師器壺(6)、土師器壺(7・8)、土錘(9)、流紋岩を使用した砥石(10)が出土している。1・4・6・10が住居覆土中、3・5が貯蔵穴、7がAカマド崩落土中、2・8・9がBカマド覆土中からの出土である。

時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-5号住居跡 (Fig.24・65, PL. 9・42)

位置 X 22・23、Y 114・115 主軸方向 N-16°-W 規模 東西軸289m、南北軸294m、壁現高0.25m。調査区北側中央での検出であり、中央南北方向に試掘トレンチが掛かっている。面積 7.69 m² 床面 硬化は弱い。重複 J-6Bと重複し、新旧関係はJ-6B→本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層混入土層をベースとして、浅い凹凸面に黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 床面直上より、土師器壺(1)が出土した。時期 出土遺物の傾向から7世紀代と想定される。

H-6号住居跡 (Fig.24・25・65, PL. 9・42)

位置 X 24・25、Y 112・113 主軸方向 N-91°-E 規模 東西軸3.97m、南北軸(4.10)m、壁現高0.51m。調査区北壁東際からの検出で、北西隅は調査区外となる。面積 (11.41)m² 床面 検出範囲内は、よく硬化している。重複 J-14、H-52と重複し、新旧関係はJ-14→H-52→本遺構である。カマド 南壁中央と東壁中央に1基ずつ、計2基検出。南側に位置するAカマドは、確認長1.23m、燃焼部幅0.78m、袖の残存長は右(西)が0.38m、左(東)が0.47m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.27m突出している。燃焼部はよく被熱して焼土化しており、掘り窪められた火床面から奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。左袖には面取りされた砂岩を据付けた構築部材として利用している。東側に位置するBカマドは、確認長0.78m、燃焼部幅0.73m、袖の残存長は右(南)が0.49m、左(北)が0.40m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.34m突出している。Aカマドの崩落土中には焼土・灰を多く含む層が明確に区分でき、下位に羽釜など煮沸具の出土が確認できること。袖部の構築部材が遺存していることからも、住居を廃棄する直近までカマドとしての構造を保持していたと考えられる。一方、Bカマドは掘り方直上に僅かに灰と焼土の混土層が確認されたのみで、燃焼部内壁の被熱焼土化も認められない。このような極端な検出状況の差から、新旧関係はBカマド→Aカマドとなる。貯蔵穴 長軸0.77m、短軸0.68m、深さ0.23mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。北から西へかけての立ち上がり部分は、凝灰岩3石、砂岩2石で固められており、石直下から中央にかけての底面は床面同様に硬化している。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、砂粒ブロックを少量、As-C軽石粒を微量含む黒褐色土を凹凸面に多く充填して構築される。出土遺物 灰釉陶器碗(1)、灰釉陶器皿(2・3)、須恵器高台付皿(4)、体部外面に墨書きされた須恵器壺(5)、羽釜(6・

7) が出土している。1 が床面直上、2・3・7 が住居覆土中、4 が西壁際、5 が A カマド崩落土中、6 が貯蔵穴覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-7号住居跡 (Fig.26・66, PL. 9・42)

位置 X 25・26, Y 115・116 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西軸 4.06 m、南北軸 4.75 m、壁現高 0.44 m。調査区北東側から検出。西壁北側はやや膨らみをもって孕んでいるが、壁溝の位置と壁際の覆土堆積状況から判断すると、本来は壁溝際から立ち上がっていったものが、壁面崩落によって広がったと考えられる。 面積 16.14 m² 床面 カマド付近から住居中央にかけて硬化している。重複 J-2・D-1・5・6・7・13 と重複し、新旧関係は J-2 → D-1・5・6・7・13 → 本遺構である。 カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長 1.58 m、燃焼部幅 0.93 m、天井部と側壁上半は完全に崩落しており、両袖は僅かな膨らみが遺存しているのみだが、両袖の延長上に、構築部材を据付けた窪みが検出している。右袖側(南)は長軸 0.52 m、短軸 0.39 m、深さ 0.16 m、左袖側(北)は長軸 0.65 m、短軸 0.57 m、深さ 0.21 m を測り、両者の間は 1.24 m とやや間隔が広いことから、他の用途も考えなければならない。燃焼部奥壁は緩やかに立ち上がり、角度を変えて細い煙道へと至る。煙道は壁外に 0.37 m 突出している。崩落土中からは、構築部材として転用された軒丸瓦を 2 点含む瓦片が多く出土している。黒色灰層は、火床面から南壁に向かってやや厚く堆積している。 貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 挖り方 総社砂層をベースとして、暗褐色土が部分的に薄く充填された地山硬化床。 出土遺物 須恵器坏(1・2)、土師器坏(3)、土師器甕(4)、土錘(5)、上野国分寺創建期Ⅱの単弁5葉蓮華文軒丸瓦B 202(6)、上野国分寺修造期の単弁4葉蓮華文の軒丸瓦A 101(7)、板状鉄製品(8)、鉄釘(9・10)、鉄製紡錘車輪(11)、砥石(12・13)が出土した。1・8・9・10・12 は床面直上、2・3・13 は住居覆土、4・6・7 はカマド崩落土、5 は住居掘り方、11 は西側壁溝からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-8号住居跡 (Fig.27・28・67, PL.10・42・43)

位置 X 16～18, Y 117・118 主軸方向 N - 96° - E 規模 東西軸 (4.26) m、南北軸 5.76 m、壁現高 0.29 m。調査区西壁北側からの検出で西端部は調査区外となる。 面積 (21.85) m² 床面 北壁沿いを除き、よく硬化している。重複 H-9・10 と重複し、新旧関係は H-9・10 → 本遺構である。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.06 m、燃焼部幅 0.72 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.36 m、煙道は壁外に 0.48 m 突出している。袖石として砂岩を据付けており、焚口上部を跨いでいた丸瓦が、崩れて袖石に覆い被さるように出土している。他にも構築部材として転用された瓦片が 3 点出土している。使用面直上には黒色灰がやや厚く堆積して、住居中央から貯蔵穴付近にかけて焼土粒を多く含んだ状態で確認されている。 貯蔵穴 住居南東隅から長軸 0.99 m、短軸 0.83 m、深さ 0.15 m を測る楕円形の貯蔵穴が検出した。中央北東寄りからは長軸 0.81 m、短軸 0.73 m、深さ 0.35 m を測る楕円形の掘り込みが検出している。 柱穴 検出されず。 挖り方 黒褐色土をベースとして、凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付塊(1)、須恵器高台付皿(2)、須恵器塊(3・4)、土師器暗文坏(5)、土師器甕(6)、丸瓦(7)、凸面にヘラ文字「八」が刻まれた平瓦(8)、弘仁9年(818)鑄造の皇朝十二錢「富壽神寶」(9・10)、鉄鎌(11)が出土している。1・2・4・5・10・11 が住居覆土、9 が貯蔵穴、3・6～8 がカマド崩落土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-9号住居跡 (Fig.27・28・65, PL.10・43)

位置 X 17・18, Y 117～119 主軸方向 N - 80° - E 規模 東西軸 5.18 m、南北軸 4.76 m、壁現高 0.47 m。調査区北西側からの検出。 面積 21.17 m² 床面 カマド焚口付近から貯蔵穴にかけてのみ硬化が認められる。 重複 J-8・H-9 と重複し、新旧関係は J-8 → 本遺構 → H-8 である。 カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長 1.46 m、燃焼部幅 0.53 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.90 m、煙道は壁外

に0.47m突出している。貯蔵穴 住居南東隅から長軸0.62m、短軸0.61m、深さ0.16mを測る円形の貯蔵穴が検出した。北壁から南西にかけて、非常に硬化している高さ0.09mの周堤帯が確認されている。柱穴 検出されず。掘り方 遺構確認面は黒褐色土であるが、床および掘り方面は地山層が傾斜しており、北東は総社砂層、他は黒褐色土をベースとする。凹凸面に黒褐色粘質土、砂層を薄く充填した貼床。出土遺物 須恵器高台付塊（1・2・3）、須恵器塊（4）、土師器甕（5）、凸面にヘラ文字「山」が刻まれた丸瓦（6）が出土している。1~6はすべて住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-10号住居跡 (Fig.25・65, PL.10・43)

位置 X 17、Y 118・119 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西軸（0.58）m、南北軸（2.53）m、壁現高0.21m。調査区西壁からの検出であり、住居中央から東壁の大半は調査区外となる。面積（1.44）m² 床面 カマド周囲のみの検出であるため、全体の状況は不明だが、検出範囲内はよく硬化している。重複 H-8と重複し、新旧関係は本遺構→H-8である。カマド 東壁に1基検出。確認長（0.99）m、燃焼部幅0.52m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.53m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土をベースとした地山硬化床。出土遺物 カマド覆土より、土師器長胴甕（1）が出土している。時期 出土遺物の傾向から6世紀後半と想定される。

H-11号住居跡 (Fig.28・68, PL.10・43)

位置 X 17、Y 119・120 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸（1.87）m、南北軸4.04m、壁現高0.16m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。表土層直下の確認面で、既に袖石が露出している状態となっており、浅い検出であった。面積（6.59）m² 床面 全体的にやや弱い硬化が認められる。重複 なし。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.68m、燃焼部幅0.61m、天井部は完全に崩落しており、両袖共に構築部材として、面取りされた安山岩が1石ずつ据付られていた。袖石を含む残存長は右（南）が0.20m、左（北）が0.26m、煙道は壁外に0.90m突出している。貯蔵穴 住居南東隅から長軸0.48m、短軸0.40m、深さ0.32mを測る楕円形の貯蔵穴が検出した。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土をベースとした地山硬化床 出土遺物 床面直上より土師器甕（1）が出土している。時期 出土遺物の傾向から7世紀後半と想定される。

H-12号住居跡 (Fig.29・68, PL.11・43)

位置 X 18・19、Y 120・121 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸3.42m、南北軸3.95m、壁現高0.32m。調査区西側からの検出。面積 12.13 m² 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。重複 なし。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長1.23m、燃焼部幅0.67m、袖の残存長は右側（南）が0.51m、左（北）が0.42m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.34m突出している。燃焼部奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。燃焼部内壁はよく被熱して焼土化しており、側壁および袖内部から構築部材として転用された瓦が出土している。使用面から掻き出された黒色灰は、住居南東隅に向かって堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 遺構確認面は黒褐色土だが地山堆積は傾斜しており、南側はやや粘性を帯びた総社砂層、他は黒褐色粘質土をベースとする。黄白色粘質土ブロックを微量含む黒褐色土を部分的に充填した貼床により構築されている。出土遺物 窯体が融着した須恵器蓋（1）、土師器甕（2・3）、土師器甕（4）、平瓦（5）が出土している。1~3は住居覆土、4はカマド燃焼部内壁際、5はカマド右袖構築部からの出土である。上記以外に、覆土から上野国分寺創建期IIの右偏行唐草文軒平瓦P 001が1点出土したが、本遺構から離れた調査区南東側から検出している。H-34号住居跡の床面直上から出土した軒平瓦（6）と接合している。時期 出土遺物の傾向から8世紀中葉と想定される。なお、H-34号住居跡とは、軒平瓦の接合関係と他の出土遺物から判断して、同時期に存在していたと考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.30・68, PL.11・43・44)

位置 X 18・19、Y 121・122 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西軸 4.04 m、南北軸 4.43 m、壁現高 0.38 m。調査区南壁西側からの検出で、住居南端は調査区外となる。厚さ 0.13 m 程度の表土層直下がすぐに確認面と浅く、元総社蒼海遺跡群（103）の調査区域と南側で隣接している。面積 (15.64) m² 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。重複 H - 15・53 と重複しており、新旧関係は H - 53 → 本遺構 → H - 15 である。カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.14 m、燃焼部幅 0.76 m、袖の残存長は右側（南）が 0.25 m、左（北）が 0.13 m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.44 m 突出している。使用面の灰と焼土の堆積は非常に薄く、焼土ブロックを少量含んだ崩落土層がカマド使用面を覆っていた。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。

掘り方 H - 53 号住居跡の覆土である黒褐色土をベースとして、凹凸面に As-C 軽石、砂粒ブロックをやや多く含む黒褐色土を充填した貼床。出土遺物 須恵器短頭壺蓋（1）、須恵器坏（2・3）、酸化焰焼成の坏（4）、土師器坏（5～7）、鉄釘（8）が出土している。1～3、5～8 は住居覆土、4 はカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 8 世紀後半と想定される。

H-14号住居跡 (Fig.31・69, PL.11・44)

位置 X 19・20、Y 119・120 主軸方向 N - 174° - E 規模 東西軸 3.35 m、南北軸 3.32 m、壁現高 0.26 m。調査区西側中央から検出。南側は擾乱によって大半が削平されているが、カマド周囲は僅かに残存していた。面積 10.41 m² 床面 カマド焚口から住居中央部のみ硬化している。重複 なし。カマド 南壁東寄りに 1 基検出。確認長 0.83 m、燃焼部幅 0.62 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.55 m 突出している。カマド周囲は僅かに低いために削平されなかったが、遺存状態は悪い。燃焼部は火床面直上に黒色灰を検出し、上位は焼土粒を多く含む崩落土層が攪乱北側の住居中央まで堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒色粘質土をベースとした地山硬化床。出土遺物 須恵器短頭壺蓋（1）、須恵器坏（2）、刀子（3）、鉄釘（4）が出土している。1・4 は床面直上、2・3 は住居覆土からの出土である。

時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-15号住居跡 (Fig.31・69, PL.11・44)

位置 X 19・20、Y 120・121 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸 5.35 m、南北軸 4.69 m、壁現高 0.15 m。調査区西側南寄りから検出。浅い表土層直下が確認面となっており、遺存状態は悪い。面積 21.81 m² 床面 カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。重複 J - 10、H - 13・53、D - 14・18・22・23 と重複し、新旧関係は J - 10 → H - 53 → D - 14・18・22・23 → H - 13 → 本遺構である。カマド 東壁南寄りに検出。確認長 1.47 m、燃焼部幅 0.44 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.50 m、煙道は壁外に 0.53 m 突出している。灰層の堆積は薄く、周囲への崩落土層の流れも少ない。構築部材に転用した瓦片が 20 点出土している。焚口手前正面の床面は、一部円形に埋んで硬化している。カマド使用時に繰り返し土器を置いたためか。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色粘質土をベースとして部分的に暗褐色粘質土を充填した地山硬化床。出土遺物 須恵器高台付塊（1・2）、須恵器高台付皿（3）、土師器坏（4）、上野国分寺修造期の単弁 7 葉蓮華文軒丸瓦 D 001（5）、凸面に陽刻文字叩き「勢」平瓦（6）が出土している。1～3 は床面直上、4 はカマド掘り方、5・6 は住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-16号住居跡 (Fig.29・69, PL.12・44)

位置 X 20・21、Y 121・122 主軸方向 N - 92° - E 規模 東西軸 3.16 m、南北軸 3.42 m、壁現高 0.12 m。調査区南壁西側からの検出で、住居南壁は調査区外となる。調査区内で最も表土層が浅い地点で、すでにカマド抽石は露出していた。元総社蒼海遺跡群（103）の調査区域と南側で隣接している。面積 (10.43) m² 床面 カマド焚口から住居中央付近にかけて弱く硬化している。重複 J - 10 と重複し、新旧関係は J - 10 →

本遺構である。 カマド 東壁中央に検出。確認長 0.79 m、燃焼部幅 0.66 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.29 m、煙道は壁外に 0.52 m 突出している。構築部材として面取りされた安山岩が左右に出土しており、右側は内壁に埋め込まれた状態で据付けられ、左側は焚口に向かって倒壊した状況で、元の位置には長軸 0.29 m、短軸 0.27 m、深さ 0.20 m を測る、抜き取り痕跡が確認された。遺構確認面から浅いものの、火床面直上の灰層は良好に遺存しており、燃焼部は奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 堀り方 暗褐色粘質土と総社砂層の境付近をベースとして、細かい凹凸に As-C 軽石を微量含むやや粘性的ある土層を部分的に薄く充填した貼床。 出土遺物 土師器壺（1・2）、輪羽口（3）が出土している。1・3 が床面直上、2 がカマド覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 8 世紀後半と想定される。

H-17号住居跡 (Fig.32・69, PL.12・44)

位置 X 20・21, Y 119・120 主軸方向 N - 9° - W 規模 東西軸 3.36 m、南北軸 3.57 m、壁現高 0.18 m。調査区中央西側からの検出で、東西方向に入った擾乱により住居中央の床面は削平されている。面積 11.32 m² 床面 カマド付近を中心として、やや硬化している。重複 なし。カマド 北壁西寄りに検出。確認長 0.96 m、燃焼部幅 0.69 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.59 m 突出している。カマド使用面の灰層堆積は認められず、焼土を微量含む崩落土が全体を覆っていた。使用面直上からは、土師器長胴甕が右側壁にもたれかかるように倒れて出土した。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。堀り方 浅い凹凸面に暗褐色粘質土を部分的に薄く充填して構築された地山硬化床。出土遺物 土師器壺（1）、土師器長胴甕（2）、銅製品（3）が出土している。1・2 はかまと崩落土、3 は住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から、7 世紀後半と想定される。

H-18号住居跡 (Fig.33・70, PL.12・44)

位置 X 24, Y 119・120 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西軸 (2.94) m、南北軸 (5.05) m、壁現高 0.03 m。調査区中央南寄りからの検出で、表土直下の時点で西半は削平されていた。面積 (10.21) m² 床面 カマド前から住居中央にかけてやや硬化している。重複 J-15, H-19 と重複し、新旧関係は J-15 → 本遺構 → H-19 である。カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長 1.10 m、燃焼部幅 0.57 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.22 m、煙道は壁外に 0.65 m 突出している。燃焼部には灰層の堆積は無く、焼土粒を少量含む崩落土が使用面を直接覆っている。貯蔵穴 南壁東寄りに 2 基検出。東側は長軸 0.58 m、短軸 0.56 m、深さ 0.14 m、西側は長軸 0.53 m、短軸 0.42 m、深さ 0.12 m を測る。柱穴 検出されず。堀り方 薄い黒褐色土と直下の総社砂層をベースとして、部分的に黄白色粘質土を貼付した地山硬化床。出土遺物 床面直上より、板状鉄製品が出土している。時期 掘載に至らなかった出土遺物の傾向から判断すると、7 世紀末から 8 世紀初頭と想定される。

H-19号住居跡 (Fig.33, PL.12・13)

位置 X 24・25, Y 119～121 主軸方向 N - 98° - E 規模 東西軸 (5.34) m、南北軸 6.76 m、壁現高 0.12 m。調査区中央南寄りからの検出で、表土直下の時点で南西側は削平されていた。面積 (23.26) m² 床面 カマド付近から貯蔵穴にかけてよく硬化している。重複 J-15, H-49・56 と重複し、新旧関係は J-15 → H-56 → H-49 → 本遺構である。カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 1.68 m、燃焼部幅 0.90 m、煙道は壁外に 0.62 m 突出している。燃焼部には灰層の堆積は無く、焼土粒を少量含む崩落土が使用面を直接覆っている。貯蔵穴 長軸 0.63 m、短軸 0.50 m、深さ 0.16 m を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。堀り方 黄色砂粒ブロック、As-C 軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。出土遺物 いずれも小破片で図示には至らなかった。時期 掘載に至らなかった出土遺物の傾向から判断すると、9 世紀代と想定される。

H-20号住居跡 (Fig.32・70, PL.13・44)

位置 X 27・28、Y 116～118 主軸方向 N - 113° - E 規模 東西軸3.70m、南北軸(5.94)m、壁現高0.31m。調査区東壁中央からの検出で、住居北東隅は調査区外となる。面積 (15.18) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 J-5と重複し、新旧関係はJ-5→本遺構である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長1.06m、燃焼部幅0.57m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.38m突出している。カマド崩落土中からは構築部材として転用された瓦片が複数出土している。燃焼部内は崩落土、灰層、よく被熱した焼土の順に堆積して、焚口から東壁左右に黒色灰と崩落土が広がっている。貯蔵穴 長軸0.61m、短軸0.48m、深さ0.13を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南西隅から検出した。住居東壁カマド北側に隣接して、長軸1.01m、短軸0.93m、深さ0.10mを測る楕円形の掘り込みが検出された。周囲の貼床面から、底面までは連続してよく硬化しており、上位に粘性の強い総社砂層および灰白色粘質土が混入した土層を挟んで、また灰白色粘質土による0.05mの窪みをもつ貼床層を形成している。つまりは2度の造作が認められるといえる。上層硬化面の北側は周堤状にやや高くなっている、黒色灰を主体とする灰層が外側傾斜部分に堆積している。この状況から判断すると東側調査区外に、もう1基カマドの存在を推定することができる。また、長軸0.97m、短軸0.80m、深さ0.19mを測る楕円形の掘り込みが、住居西壁寄り中央付近から検出されている。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層直上の黒褐色土をベースとして、As-C軽石粒を少量含む暗褐色土および灰白色粘質土を凹凸面に充填した貼床層。

出土遺物 須恵器高台付塊(1・2)、須恵器塊(3・4)、酸化焰焼成の須恵器塊(5)、ヘラ文字「多」左字が刻まれた平瓦(6)が出土している。1～3は床面上、4・6は覆土、5はカマド左側窪み上層からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-21号住居跡 (Fig.34・70・71, PL.13・44・45)

位置 X 28・29、Y 119・120 主軸方向 N - 103° - E 規模 東西軸4.18m、南北軸5.41m、壁現高0.35m。調査区東壁南寄りからの検出で、住居北東隅は調査区外となる。面積 (19.58) m² 床面 カマド焚口から住居中央にかけて、よく硬化している。重複 J-12・13と重複し、新旧関係はJ-13→J-12→本遺構である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長143m、燃焼部幅0.85m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.40m突出している。燃焼部から煙道にかけての形状はやや緩やかに立ち上がり、よく被熱して焼土化している。崩落土中からは、構築部材として転用された平瓦が複数、粗粒安山岩が5点出土している。

貯蔵穴 カマドの左右から計2基検出している。右側(南)は長軸0.70m、短軸0.66m、深さ0.24mを測り、楕円形を呈する。左側(北)は長軸0.71m、短軸0.59m、深さ0.18mを測り、楕円形を呈する。柱穴 検出されず。掘り方 地山層が緩やかに傾斜しており、西側は黒褐色土、東側は総社砂層の上端部をベースとして、部分的に黒褐色土を充填した地山硬花床。出土遺物 緑釉碗(1)、鈎付台付鉢(2・3)、有孔鈎付台付鉢(4)、須恵器瓶類底部の転用硯(5)、酸化焰焼成の高台付塊(6～8)、やや古相を示す須恵器塊(9)、羽釜(10～14)、土釜(15・16)、上野国分寺創建期IIの右偏行唐草文軒平瓦P004(17)、凸面にヘラ文字「丁」が刻まれた平瓦(18)、凸面にヘラ文字「半」が刻まれた平瓦(19)が出土している。1はカマドと南側貯蔵穴間の覆土、2・10・15・19は西壁北側の覆土、3・4・6～8は住居覆土、5・7・9・11・16・18は床面上、12～14はカマド崩落土からの出土である。なお、鈎付台付鉢は本遺跡の南側に隣接する元總社舊海(103)H-6号住居跡からも出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-22号住居跡 (Fig.35・72, PL.13・45)

位置 X 26・27、Y 122・123 主軸方向 N - 95° - E 規模 東西軸3.68m、南北軸4.27m、壁現高0.24m。調査区南側中央からの検出で、北西隅と西壁の一部は搅乱によって消失している。面積 (12.84) m² 床面 カマド付近のみ、やや弱く硬化している。重複 H-23・34と重複し、新旧関係はH-34→H-23→本遺構である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.77m、燃焼部幅0.53m、天井部は完全に崩落しており、

煙道は壁外に 0.33 m 突出している。使用面の被熱焼土層は認められず、直上に黒色灰と焼土粒が混在する崩落土が堆積していた。構築部材として転用した瓦片が 2 点、崩落土中から出土している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとした地山硬化床。出土遺物 灰釉陶器把手付水瓶（1）、灰釉陶器皿（2）、羽釜（3）。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-23号住居跡 (Fig.35・72, PL.14・45・46)

位置 X 27、Y 121・122 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西軸 3.18 m、南北軸 4.20 m、壁現高 0.11 m。調査区南側中央からの検出で、南東隅は搅乱によって一部削平されている。面積 (11.38) m² 床面 カマド焚口付近から貯蔵穴、住居中央にかけてよく硬化している。重複 H-22・41 と重複し、新旧関係は本造構 → H-41 → H-22 である。カマド 東壁南寄りから 1 基検出。確認長 0.83 m、燃焼部幅 0.89 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.39 m、左（北）が 0.23 m、煙道は壁外に 0.45 m 突出している。使用面の被熱焼土層は認められず、直上に焼土粒をやや多く含んだ崩落土が堆積していた。貯蔵穴 長軸 0.46 m、短軸 0.39 m、深さ 0.13 m を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、As-C 軽石を微量含む暗褐色土を充填して構築した貼床。出土遺物 灰釉陶器碗（1）、灰釉陶器皿（2）、須恵器高台付塊（3・4）、口縁部に墨が付着した、酸化焰焼成の須恵器高台付塊（5）、須恵器高台付皿（6）、酸化焰焼成の鈎付台付鉢（7）、土師器甕（8）、凸面に判読不明の陽刻文字叩きを施した平瓦（9）が出土している。1・7 が住居覆土、2 がカマド左袖、3・8 がカマド右袖、4・5・6 が床面直上、9 がカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-24号住居跡 (Fig.36～38・73, PL.14・46)

位置 X 25・26、Y 117・118 主軸方向 N - 93° - E 規模 東西軸 4.27 m、南北軸 3.45 m、壁現高 0.39 m。調査区西側中央から検出した。面積 13.10 m² 床面 住居中央からカマド周囲を含む東側を中心として、よく硬化していた。重複 H-25・26・37、D-15、I-1 と重複し、新旧関係は D-15 → 本造構 → H-25・26 → H-37・I-1 である。カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 0.98 m、燃焼部幅 0.39 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.49 m 突出している。火床面の焼土化は弱いが、灰層は厚く堆積しており、上層にはよく被熱した硬質焼土ブロックを多く含む崩落土が堆積している。カマド内からは、1 枚作りの平瓦が直立して出土している。下端は掘り方まで達しており、瓦を境として前後の土層堆積状況も異なることから、燃焼部を窓ぐ位置関係にはやや疑問を感じるもの、使用時に何らかの機能を有していたと思われる。他にも構築部材として転用した平・丸瓦が複数カマド外の崩落土層から出土している。貯蔵穴 長軸 0.55 m、短軸 0.44 m、深さ 0.13 m を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。出土遺物 内部に朱墨が付着した、灰釉陶器碗の転用硯（1）、須恵器壺（2）、土師器壺（3・4）、土師器甕（5）。平瓦（6）凹面にヘラ文字「十」が刻まれた平瓦（7）が出土している。1・4～6 が住居覆土、2・3 が貯蔵穴上位のカマド崩落土、7 がカマド内からの出土である。時期 出土遺物に若干の時間幅を感じられるが、重複関係も踏まえて判断すると、9 世紀後半の古相と想定される。

H-25号住居跡 (Fig.36～38・74, PL.14・46)

位置 X 26・27、Y 117・118 主軸方向 N - 94° - E 規模 東西軸 3.01 m、南北軸 3.89 m、壁現高 0.31 m。調査区西側中央から検出した。面積 11.39 m² 床面 全体的によく硬化している。重複 J-5、H-24 と重複し、新旧関係は J-5 → H-24 → 本造構である。カマド 東壁中央に 2 基検出。北側に位置する A カマドは確認長 0.72 m、燃焼部幅 0.72 m、煙道は壁外に 0.54 m 突出している。南側に位置する B カマドは確認長 1.41 m、燃焼部幅 0.62 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.68 m 突出している。A カマドは覆土に焼土、灰層および使用面の火床が認められず、遺物の出土も極めて少ない。B カマドは、燃焼部の被熱した焼土壁、

構築部材として転用された瓦が遺存し、火床面と直上の灰層、焼土粒をやや多く含む崩落土の堆積からなっている。この検出状況の違いは、丁寧に内部を除去して埋め戻したAカマドと、使用時の状態で破壊して遺棄されたBカマドという状況を想起させる。以上のことから、この2基のカマドの新旧関係は、Aカマド→Bカマドとなる。

貯藏穴 長軸 0.98 m、短軸 0.82 m、深さ 0.25 m を測る梢円形の貯藏穴が、住居南東隅から検出した。
柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。出土遺物 須恵器高台付塊（1）、須恵器高台付皿（2）、酸化焰焼成の須恵器高台付皿（3）、酸化焰焼成の須恵器塊（4）、須恵器坏（5）、土師器甕（6・7）、凸面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦（8）が出土している。1・3・4はBカマド崩落土、2・6は床面上直上、5・7・8はAカマド覆土 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-26号住居跡 (Fig.36～38・74, PL.14・15・46・47)

位置 X 24・25、Y 116～118 主軸方向 N - 105° - E 規模 東西軸 3.58 m、南北軸 4.61 m、壁現高 0.47 m。調査区中央北東側からの出土。面積 14.50 m² 床面 カマド周囲から住居中心にかけて、よく硬化している。重複 J-2・H-27・37、I-1と重複し、新旧関係は J-2 → H-37 → H-27 → 本遺構 → I-1である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長（0.95）m、燃焼部幅 0.63 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に（0.16）m 突出している。煙道先端は I-1との重複により削平されているが、使用面直上の灰層と、上位の焼土および構築部材に転用した瓦片を複数を含む崩落土が、焚口周囲に向かって堆積している。貯藏穴 長軸 0.77 m、短軸 0.56 m、深さ 0.06 m を測る梢円形の浅い窪みが、住居北東隅から1基検出している。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。出土遺物 灰釉陶器皿（1）、須恵器高台付塊（2）、須恵器高台付皿（3）、土師器坏（4・5）、土師器甕（6）が出土している。1・4は床面上直上、2・5・6は住居覆土、3はカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-27号住居跡 (Fig.34・75, PL.15・47)

位置 X 24・25、Y 116・117 主軸方向 N - 99° - E 規模 東西軸 3.38 m、南北軸 3.10 m、壁現高 0.32 m。調査区中央北東側から検出した。面積（11.67）m² 床面 住居中央から東側にかけて、若干の硬化が認められる。重複 J-2・H-3・26・37、D-7と重複し、新旧関係は J-2 → H-3・37 → 本遺構 → H-26である。カマド 焼土・黒色灰層の堆積が中央やや南東寄りに認められることから、住居の重複によって削平されたものの、本来は東壁南寄りに存在したものと考えられる。貯藏穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む暗褐色土を薄く充填した貼床。出土遺物 須恵器高台付塊（1・2）、土師器坏（3）、瓦当部裏面に「【】」状の刺突と、丸瓦との凹面側接合部に指ナデを施した後、棒状工具による細かな刺突痕がある、上野国分寺創建期IIの単弁5葉蓮華文軒丸瓦B204（4）、凸面に「箇」の押印がある平瓦（5）が出土している。1・2・3・5が床面上直上、4が住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-28号住居跡 (Fig.39・75, PL.15・47)

位置 X 25・26、Y 119・120 主軸方向 N - 96° - E 規模 東西軸 2.86 m、南北軸 3.44 m、壁現高 0.29 m。調査区中央東寄りから検出した。面積（5.22）m² 床面 住居中心からカマドへ向かって、若干の硬化が認められる。重複 J-15・H-19・29と重複し、新旧関係は J-15 → H-29 → H-19 → 本遺構である。カマド 東壁南側に1基検出。確認長 0.72 m、燃焼部幅 0.63 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は左（北）が 0.25 m、煙道は壁外に 0.34 m 突出している。構築部材として転用された瓦片が、燃焼部両側壁から出土している。貯藏穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、凹凸面に暗黄褐色土を充填した貼床。出土遺物 奈良三彩小壺片（1）、須恵器蓋（2）須恵器高台付塊（3）、須恵器

坏（4・5）、酸化焰焼成の須恵器坏（6・7）、凸面に文字「高カ」が押印された平瓦（8）が出土している。8は凸面を全面ナデで叩き具の痕跡を消しているために、押印と判断した。他に「高カ」の右上に、異なる陽刻の押印痕の一部が認められる。1～7が床面直上、8が住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-29号住居跡 (Fig.39・40・76, PL.15・47)

位置 X 25・26, Y 118・119 主軸方向 N - 87°- E 規模 東西軸 5.36 m、南北軸 4.92 m、壁現高 0.42 m。調査区中央東寄りから検出した。面積 23.95 m² 床面 全体的にやや硬化している。重複 H-4・19・28・33と重複し、新旧関係はH-15→本遺構→H-33→H-4・19・28である。カマド 東壁中央に1基検出。確認長1.67 m、燃焼部幅0.65 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が0.81 m、左（北）が0.62 m、煙道は壁外に0.79 m突出している。燃焼部両側壁および火床面は、よく被然し焼土化しており、煙道は燃焼部底面から緩やかに立ち上がる。貯蔵穴 長軸 0.58 m、短軸 0.55 m、深さ 0.40 mを測る円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 床面において、主柱穴と想定されるP1～4が検出した。規模（長軸×短軸×深さ）は、P1が0.46 m×0.43 m×0.47 m、P2が0.44 m×0.43 m×0.55 m、P3が0.38 m×0.35 m×0.53 m、P4が0.52 m×0.50 m×0.60 mである。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面にAs-C軽石を少量含む黒褐色を充填した貼床。出土遺物 須恵器坏（1）、内外面黒色処理の土師器坏身模倣坏（2）、内面黒色処理の土師器坏蓋模倣坏（3）、内面黒色処理の土師器坏蓋模倣坏（4）、福島県に分布の主体が求められる、内面黒色処理の土師器内縁口縁坏（5）、土師器有段口縁坏（6）、土師器小型壺（7）、土師器高坏の脚部（8）が出土している。1～3・5～7が住居覆土、4・8が床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から6世紀末から7世紀初頭と想定される。

H-30号住居跡 (Fig.40・76, PL.15・47)

位置 X 21・22, Y 117 主軸方向 N - 102°- E 規模 東西軸 (3.87) m、南北軸 3.19 m、壁現高 0.22 m。調査区中央北側からの検出で、東から南にかけて大きく擾乱により削平されているが、南壁が一部残存している。面積 (11.62) m² 床面 部分的に薄く硬化している。重複 H-31・32・33・55と重複し、新旧関係はH-55→H-32→H-31→本遺構である。カマド 検出していないが、床面の硬化具合と覆土中の焼土、灰の混入が東側に偏ることから、本来は擾乱によって削平された東壁にあったものと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 地形の転換点が近く、西側はAs-C軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 床面直上より酸化焰焼成の内面黒色処理須恵器高台付塊（1）が出土している。 時期 出土遺物の傾向から11世紀前半と想定される。

H-31号住居跡 (Fig.40・76, PL.15・47)

位置 X 21・22, Y 116・117 主軸方向 N - 101°- E 規模 東西軸 (4.54) m、南北軸 (4.56) m、壁現高 0.21 m。調査区中央北側からの検出で、北東隅から南西にかけては擾乱により削平されている。東壁は、南北方向のトレンチより東側でプランが確認されなかつたことから、トレンチ内で削平されていると想定される。面積 (12.17) m² 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。重複 H-30・32・55と重複しており、新旧関係はH-55→H-32→本遺構→H-30である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 地形の転換点が近く、西側はAs-C軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 覆土中より灰釉陶器碗（1）が出土している。 時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-32号住居跡 (Fig.40, PL.15)

位置 X 22, Y 115・116 主軸方向 N - 102°- E 規模 東西軸 3.10 m、南北軸 (1.60) m、壁現高 0.12

m。調査区中央北側からの検出であり、南半は重複、東は南北方向のトレンチで一部削平されている。 面積 (453) m² 床面 部分的に弱い硬化。 重複 H - 31と重複し、新旧関係は本遺構→H - 31である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 地形の転換点が近く、西側は As-C 軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。

出土遺物 小破片より図示には至らず。 時期 出土遺物の傾向から 7世紀代と想定される。

H - 33 号住居跡 (Fig.36 ~ 38・76, PL.16・47)

位置 X 25・26, Y 118・119 主軸方向 N - 86° - E 規模 東西軸 2.89 m、南北軸 2.67 m、壁現高 0.29 m。 調査区中央東側から検出した。 面積 (4.94) m² 床面 カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。 重複 H - 29, D - 15と重複し、新旧関係は H - 29 → 本遺構 → D - 15である。 カマド 南東隅に検出し、主軸方向は N - 122° - E となる。 確認長 1.07 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は左(北)が 0.30 m、煙道は壁外に 0.47 m 突出している。 やや硬質の焼土ブロックを含む崩落土層の下には、黒色灰が使用面に直接堆積していた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層直上の暗褐色土をベースとして、凹凸面に総社砂層ブロックを含む黒褐色土を充填して、構築されている。 出土遺物 床面直上から砥石(1)が出土している。 時期 掘載に至らなかった小破片出土遺物の傾向から、7世紀代と想定される。

H - 34 号住居跡 (Fig.41・42・76 ~ 80, PL.16・17・47 ~ 49)

位置 X 27・28, Y 122・123 主軸方向 N - 65° - E 規模 東西軸 4.27 m、南北軸 3.55 m、壁現高 0.74 m。 調査区南東側から検出した。 面積 28.04 m² 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 H - 22・36と重複し、新旧関係は H - 36 → 本遺構 → H - 22である。 カマド 東壁南側に 1基検出。 確認長 1.25 m、焚口幅 0.54 m、燃焼部幅 0.59 m、袖の残存長は右(南)が 0.54 m、左(北)が 0.46 m、煙道は壁外に 1.13 m 突出している。 構築財として転用された瓦が複数出土している。 右袖内壁は平瓦(19)、左袖内壁は軒丸瓦(12)が据付けられており、軒丸瓦は瓦当面を下にして袖に埋め込むように元位置を留めていた。 この直立した 2 枚の瓦間を跨ぐように、丸瓦(14・15)を渡して焚口天井部を構築している。 カマド天井部は完全に崩落しているために、土圧によって瓦も焚口中央付近から、くの字状に脱落している。 使用面直上の灰層は、貯蔵穴へ向かって堆積しており、上位には被熱した焼土ブロック(天井部内壁)を含む崩落土が認められる。

貯蔵穴 長軸 0.81 m、短軸 0.57 m、深さ 0.34 m を測る不整円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 覆土中層には、カマドから流れ込んだ灰層が堆積している。 上層からは、貯蔵穴の蓋として使用したと考えられる、丸瓦が 2 点出土している。 この貯蔵穴の西側に浅い窪みが 2 基検出している。 西側は長軸 0.35 m、短軸 0.31 m、深さ 0.24 m を測り、梢円形を呈する。 東側は長軸 0.44 m、短軸 0.36 m、深さ 0.15 m を測り、不整円形を呈する。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、住居中央からカマドにかけてやや掘り込みが深く、凹凸面に As-C 軽石粒、粘質土ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築された貼床。 出土遺物 須恵器高盤(1・2・3)、須恵器長頸瓶(4)、須恵器壺(5・6)、体部外面に墨書「朝」が書かれた須恵器壺(7)、土師器暗文壺(8)、土師器壺(9~11)、上野国分寺創建期Ⅱの單弁5葉蓮華文軒丸瓦B 202 c(12)、同時期の右偏行唐草文軒平瓦P 001(13)、丸瓦(14~17)、平瓦(18・19)、錫杖頭と考えられる銅製品片(20)が出土している。 1・4・7・18は住居覆土、2・5・6・9~11・13・20は床面直上、3はカマド煙道部、8・16・17は貯蔵穴直上、12・14・15・19はカマドからの出土である。 なお、13は本遺構の北西に位置する、H - 12 号住居跡覆土出土軒平瓦片と接合している。 時期 出土土器の傾向からは 8世紀前半と想定される。 ただし、カマド構築材に用いられた瓦を考慮すると、天平 13 年(741 年)2月 14 日発布の「国分寺建立の詔」および天平 19 年(747 年)11 月「国分寺造営督促の詔」を考慮する必要があることから、若干の幅を持たせて 8 世紀中葉と想定したい。 備考 出土遺物と上野国分寺創建の時期が一致することから、カマド内で使用して

いる瓦は国分寺荒廃後持ち帰ったのではなく、造営中に使っていることになる。住居自体の重複関係、遺物出土状況を再確認したが、須恵器高盤・長頭瓶が複数の平瓦と同一層位で隣接して出土していること、型式名が判断できる軒丸瓦を含む、複数の瓦を構築材に転用したカマドの袖付近、床面直上からカマド崩落土に覆われた状態で出土している須恵器壺の時期から判断すると、検出状況および出土状況には齟齬はないといえる。また、軒平瓦が接合したH-13号住居跡の出土遺物が同時期であることも、傍証となるであろう。出土遺物の構成が通常の住居とは異なり、仏教系の遺物が多いことからも、造営に何らかの形で携わった者の住居ではないだろうか。

H-35号住居跡 (Fig.43・80, PL.17・49)

位置 X 22 ~ 24, Y 118 ~ 120 主軸方向 N - 95° - E 規模 東西軸 5.13 m、南北軸 5.73 m、壁現高 0.14 m。調査区中央から検出した。面積 (28.04) m² 床面 全体的に弱い硬化。重複 H-57と重複し、新旧関係は本遺構→H-57である。カマド 東壁中央に 1 基検出。北側に位置する A カマドは、確認長 1.16 m、燃焼部幅 0.76 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.57 m 突出している。燃焼部隔壁の袖側と奥壁にかけて計 4 点の安山岩が構築部材として、また燃焼部底面には、面取りされた粗粒安山岩が支脚として遺存していた。南側に位置する B カマドは、確認長 0.63 m、燃焼部幅 0.36 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.30 m 突出している。A カマドは使用面直上に灰層が堆積し、焼土ブロックをやや多く含む崩落土が住居貼床面にまで広がっている。B カマドは焼土・灰が混在した土層堆積のみで、遺物出土も A カマドが主体となることから、新旧関係は B カマド→A カマドとなる。貯蔵穴 長軸 0.58 m、短軸 0.56 m、深さ 0.36 m を測る円形の貯蔵穴が、南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層と直上の黒褐色土が起伏により混在した土層をベースとして、細かい凹凸面に砂層および暗黄褐色粘質土を少量含んだ暗褐色土を充填して構築する貼床。出土遺物 口縁部内外面に墨が付着した須恵器高台付塊（1）、須恵器塊（2）、酸化焰焼成の瓶（3）が出土している。1が床面直上、2が住居覆土、3がA カマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-36号住居跡 (Fig.41・42・80, PL.17・49)

位置 X 27 ~ 28, Y 123 ~ 124 主軸方向 N - 80° - E 規模 東西軸 5.44 m、南北軸 (4.20) m、壁現高 0.57 m。調査区南壁東寄りから検出し、南壁付近は調査区外となる。面積 (13.28) m² 床面 全体的によく硬化している。重複 H-34・45と重複し、新旧関係は本遺構→H-34→H-45となる。カマド 東壁中央より 1 基検出。確認長 1.52 m、燃焼部幅 0.47 m、天井部は燃焼部から煙道に至る箇所が一部残存している。袖の残存長は右（南）が 0.49 m、左（北）が 0.57 m、煙道は壁外に 0.51 m 突出している。床面より僅かに低い平坦な燃焼部から、煙道は戸外に向かって急激に立ち上がる形状となっている。内壁および天井部は非常に焼土化して堅緻であり、火床面には粗粒安山岩の支脚が中央奥に直立して灰層が厚く堆積していた。袖は総社砂層および粘性の強い暗褐色土を貼付けることによって構築され、構築部材である粗粒安山岩が焚口側に倒れて出土した。貯蔵穴 検出されず。柱穴 長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 0.42 m を測る不整円形の柱穴が、住居南西側から 1 基検出した。また、隣接する H-34 号住居跡南壁の西側掘り込み (SPJ) は、規模と深さから本遺構の柱穴の可能性が高い。掘り方 総社砂層をベースとした地山床。出土遺物 住居覆土より須恵器蓋（1）、カマドより土器器蓋が出土している。時期 出土遺物の傾向から 7 世紀前半と想定される。

H-37号住居跡 (Fig.44・80, PL.17・49)

位置 X 24 ~ 25, Y 117 ~ 118 主軸方向 N - 75° - E 規模 東西軸 (3.95) m、南北軸 (2.85) m、壁現高 0.11 m。調査区中央東側からの検出で、擾乱および複数住居との重複によって、大半は消失している。また、遺構確認面から極めて浅く、不明瞭な点が多い。面積 (4.36) m² 床面 弱い硬化。重複 H-4・24・26・27と重複し、新旧関係は H-4→H-24・26・27→本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 長軸 0.52 m、短軸 0.44 m、深さ 0.21 m を測る不整円形の貯蔵穴が、住居南東より検出した。柱穴 検出されず。掘り方

総社砂層をベースとして、凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を充填した貼床。 出土遺物 体部外面に判読不明の墨書が記された灰釉陶器碗（1）、酸化焰焼成の須恵器高台付塊（2）、須恵器坏（3）が出土している。1・2は住居覆土、3は貯蔵穴からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-38号住居跡 (Fig.44・81, PL.17・49)

位置 X 24, Y 113・114 主軸方向 N - 88° - E 規模 東西軸 2.94 m、南北軸 (4.50) m、壁現高 0.23 m。調査区北壁東側からの検出であり、住居北壁周辺は調査区外となる。 面積 (10.72) m² 床面 全体的に硬化は弱い。 重複 H-6と重複し、新旧関係は本遺構→H-6である。 カマド 東壁南側に1基検出。確認長 0.94 m、燃焼部幅 0.46 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.25 m、左（北）が 0.50 m、煙道は壁外に 0.23 m 突出している。使用面には灰層の堆積が認められず、焼土粒・灰および構築部材として転用した瓦片が混在した崩落土が、住居中央に向かって薄く堆積していた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、カマド付近の細かい凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を部分的に充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付塊（1）、須恵器塊（2）、須恵器壺の底部を使用した転用窓（3）が出土している。1・3が床面直上、2が住居覆土からの出土である。また、掲載には至らなかったが、瓦片がカマド崩落土から住居内全域にかけて、26点出土している。 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-39号住居跡 (Fig.44・81, PL.18・49)

位置 X 23・24、Y 120・121 主軸方向 N - 86° - E 規模 東西軸 (2.70) m、南北軸 (2.56) m、壁現高 0.14 m。調査区中央南側から検出した。住居中央から西壁・南壁に向かって、搅乱により削平されている。 面積 (3.80) m² 床面 全体的に弱い硬化。 重複 無し。 カマド 東壁に1基検出。確認長 0.39 m、燃焼部幅 0.42 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.15 m 突出している。 貯蔵穴 住居南東寄りから長軸 0.44 m、短軸 0.44 m、深さ 0.16 m、不整円形、北東寄りから長軸 0.65 m、短軸 0.35 m、深さ 0.17 m、椭円形の計 2 基が検出されている。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層と直上の黒褐色土が起伏によって混在している面をベースとして、浅い凹凸面に As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 カマド脇より、土師質坏（1）が出土している。 時期 出土遺物の傾向から8世紀前半と想定される。

H-40号住居跡 (Fig.45・81, PL.18・49)

位置 X 24 ~ 26, Y 123・124 主軸方向 N - 76° - E 規模 東西軸 4.84 m、南北軸 4.89 m、壁現高 0.42 m。調査区南側中央からの検出した。覆土中には Hr-FA ブロックが混入している。 面積 22.28 m² 床面 カマド前から住居中央にかけて硬化している。 重複 J-9と重複し、新旧関係は J-9 → 本遺構である。 カマド 東壁南側に1基検出。確認長 1.82 m、燃焼部幅 0.55 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.52 m、左（北）が 0.51 m、煙道は壁外に 0.71 m 突出している。燃焼部側壁は被熱によりよく焼土化しており、使用面直上には灰層が堆積する。崩落土には、構築材として使用された劣化した砂岩が、燃焼部から焚口にかけて崩れ落ちた状態で多く検出している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 やや変性した粘質の強い黒褐色土をベースとして、表面のみ薄く硬化した、地山硬化床。 出土遺物 土師器坏（1～4）、土師器壺が出土している。1は床面直上、2はカマド覆土、3～5は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から7世紀前半と想定される。

H-41号住居跡 (Fig.46・81, PL.18・50)

位置 X 26・27, Y 120・121 主軸方向 N - 98° - E 規模 東西軸 2.88 m、南北軸 3.53 m、壁現高 0.50 m。調査区南東側からの検出。 面積 9.77 m² 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 H-23・49と重複し、新旧関係は H-49 → H-23 → 本遺構である。 カマド 東壁南側から1基検出。確認長 1.05 m、燃焼部幅 0.43 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.55 m 突出している。燃焼部側壁下

半は焼土化しており、火床直上には灰層が堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、住居中央からカマドにかけては地山硬化床、他の壁周辺は凹凸面にAs-C軽石を少量含む黒褐色土を充填して構築している。出土遺物 カマド崩落土から須恵器塊（1）、住居覆土からかなり崩れたコの字状頭部をもつ土師器壺（2）が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-42号住居跡 (Fig.47・48・81, PL.18・19・50)

位置 X 27・28, Y 120・121 主軸方向 N - 95°- E 規模 東西軸 3.19 m、南北軸 4.20 m、壁現高 0.37 m。調査区南東隅からの検出。面積 1236 m² 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。重複 H-43～45と重複し、新旧関係はH-45→H-44→本遺構→H-43である。カマド 東壁南側から1基検出。確認長 0.67 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.14 m 突出する。構築部材の抜き取り痕跡によって、平面プランは元の形状を留めていないが、燃焼部使用面の直上には僅かに灰層が堆積している。貯蔵穴 長軸 0.45 m、短軸 0.43 m、深さ 0.18 m を測る、円形の貯蔵穴が南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、カマドから中央にかけては地山硬化床。壁付近は浅い凹凸面にAs-C軽石粒を含む黒褐色土を充填して構築している。出土遺物 赤色顔料を溶くに使用した酸化焰焼成の須恵塊（1）、体部外面に判読不明の墨書き記された須恵器塊（2）、羽釜（3・4）が出土している。1～3は床直上、4はカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-43号住居跡 (Fig.47・48・81, PL.19・50)

位置 X 28・29, Y 121・122 主軸方向 N - 95°- E 規模 東西軸 3.37 m、南北軸 4.56 m、壁現高 0.33 m。調査区南東隅から検出した。面積 14.23 m² 床面 カマド付近から中央東側にかけて硬化している。重複 H-42・44・45と重複し、新旧関係はH-45→H-44→H-42→本遺構である。カマド 東壁南側から1基検出。確認長 1.23 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、構築部材に転用した瓦片が出土している。袖の残存長は右（南）が 0.36 m、左（北）が 0.60 m、煙道は壁外に 0.49 m 突出している。燃焼部火床面は被熱により、よく焼土化しており、崩落土は住居東壁付近まで堆積していた。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層直上の黒褐色土をベースとして、凹凸面に砂層ブロックを少量含む暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 住居覆土から、有鉄台付鉢の口縁部片（1）、須恵器高台付塊の脚部（2）、羽釜（3）凸面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦（4）が出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H-44号住居跡 (Fig.47・82, PL.18・50)

位置 X 28・29, Y 121・122 主軸方向 N - 171°- W 規模 東西軸 4.70 m、南北軸 3.17 m、壁現高 0.25 m。調査区南東隅から検出した。面積 (7.46) m² 床面 全体的に硬化は弱い。重複 H-42・43・45、D-9と重複し、新旧関係はH-45→本遺構→H-42→H-43である。カマド 検出状況から判断すると、南壁に存在したと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面に砂層ブロックと As-C 軽石粒を少量含む暗褐色土を充填して構築されている。出土遺物 須恵器高台付塊（1）、内面黒色処理で花弁状の暗文を施した、酸化焰焼成の須恵器高台付塊（2）、羽釜（3）、鐵鏡（4）が出土している。1～3は床直上、4は住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-45号住居跡 (Fig.47・48・82, PL.19・50)

位置 X 28・29, Y 122・123 主軸方向 N - 97°- E 規模 東西軸 2.43 m、南北軸 4.39 m、壁現高 0.31 m。調査区南東隅から検出した。面積 (13.24) m² 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。

重複 H-36・42・44と重複し、新旧関係はH-36→本遺構→H-44→H-42→H-43である。カマド東壁南側に1基検出。確認長1.21m、燃焼部幅0.58m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.24m、煙道は壁外に0.59m突出している。燃焼部両側壁には、構築部材として安山岩が据付られており、直立気味の奥壁から緩やかに立ち上がる煙道へと至る。火床面直上には灰層が認められ、崩落土は貯蔵穴の方向へ堆積している。貯蔵穴 長軸0.71m、短軸0.67m、深さ0.26mを測る、円形の貯蔵穴が住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層と上層黒褐色土の起伏がある境をベースとして、カマドから住居中央にかけては地山硬化床で、壁周辺は浅い凹凸面にAs-C軽石を微量含む黒褐色土を充填して構築される。出土遺物 床面直上より、須恵器高台付塊(1)が出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-46号住居跡 (Fig.45・82, PL.50)

位置 X 21・22、Y 121・122 主軸方向 N-81°-E 規模 東西軸(3.15)m、南北軸3.38m、壁現高0.21m。調査区南側から検出し、東半は擾乱によって削平されている。面積 (7.66)m² 床面 全体的に薄い硬化面が認められる。重複 J-16と重複し、新旧関係はJ-16→本遺構である。カマド 検出していないが、削平された東壁にあったと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 黏性の強い黒褐色土をベースとした地山硬化床。出土遺物 住居覆土より、内外面に漆を塗布した土師器有段口縁坏(1)、土師器坏(2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から6世紀後半と想定される。

H-47号住居跡 (Fig.49・82, PL.19・50)

位置 X 23・24、Y 122・123 主軸方向 N-77°-E 規模 東西軸2.87m、南北軸3.89m、壁現高0.40m。調査区南側中央から検出した。面積 10.32m² 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。重複 J-9と重複し、新旧関係はJ-9→本遺構である。カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長0.89m、燃焼部幅0.41m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.45m、左(北)が0.59m、煙道は壁外に0.31m突出している。住居床面から火床面は比較的平坦で、奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。火床面直上に白灰色の灰層が認められ、焼土粒を含む崩落土層は住居内広域に堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 やや変性した粘性の高い黒褐色土をベースとして、黄白色粘質土とAs-C軽石を少量含む黒褐色土により構築される貼床。出土遺物 住居覆土より、土師器坏(1・2)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀後半と想定される。

H-48号住居跡 (Fig.49・82, PL.19・20・50)

位置 X 22・23、Y 122~124 主軸方向 N-71°-E 規模 東西軸(1.84)m、南北軸5.20m、壁現高0.36m。調査区南側の西壁際から検出し、住居中央から西半は調査区外となる。なお、隣接した元総社蒼海遺跡群(103)では、H-13号住居跡として報告されている。面積 (7.40)m² 床面 カマド前を中心として硬化している。重複 H-50と重複し、新旧関係はH-50→本遺構である。カマド 東壁や南寄りに1基検出。確認長(0.67)m、燃焼部幅0.24m、袖の残存長は右側(南)が0.40m、左(北)が0.36m、煙道は壁外に0.20m突出している。両袖残存部の先端には、面取りされた砂岩が直立して据付られており、その上を同じく面取りされた砂岩を跨がせて焚口を構築している。燃焼部奥壁の継斜面部には、円錐状に整形された安山岩の支脚が出土している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 やや変性した粘性の高い黒褐色土をベースとして、黄白色粘質土とAs-C軽石を少量含む黒褐色土により構築される薄い貼床。出土遺物 須恵器短頭壺(1)、土師器鉢(2・4)、土師器小型壺(3)が出土している。1~3は住居覆土、4は床面直上からの出土である。時期 出土遺物の傾向から7世紀前半と想定される。

H-49号住居跡 (Fig.46・82, PL.20・50)

位置 X 25・26、Y 121・122 主軸方向 N-84°-E 規模 東西軸(4.47)m、南北軸4.93m、壁現高0.26m。

調査区南側から検出した。東半は搅乱と住居跡の重複によって削平されている。面積 (14.12) m² 床面全体的によく硬化している。重複なし。カマド 検出されなかつたが、住居構造から判断すると東側に存在したと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面にAs-C軽石粒を含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 住居覆土より須恵器壺(1・2)、須恵器壺(3)、土師器壺(4・5)が出土している。時期 出土遺物の傾向から8世紀後半と想定される。

H-50号住居跡 (Fig.48, PL.20)

位置 X 23、Y 124 主軸方向 N - 31° - W 規模 東西軸 (1.50) m、南北軸 (2.08) m、壁現高 0.19 m。調査区南側西壁において北東隅のみの検出で、大半は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群(103)では、H-14号住居跡として報告されている。面積 (2.82) m² 床面 全体的によく硬化している。重複無し。カマド 検出されなかつたが隣接調査地点の検出状況から判断すると、北壁中央から西寄りに存在したと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 粘性の強い黒褐色土をベースとして、黄白色粘質土を少量含む暗褐色土を薄く貼って構築されている。出土遺物 無し。時期 狹小範囲のみ検出した結果、時期の判断はできなかつたが、同一遺構である元総社蒼海遺跡群(103) H-14号住居跡では、4点の出土遺物を図示して6世紀後半と推定されている。

H-51号住居跡 (Fig.30)

位置 X 17・18、Y 122 主軸方向 N - 120° - E 規模 東西軸 (0.24) m、南北軸 (0.14) m、壁現高 0.31 m。調査区西側南壁から北西隅のみの検出で、大半は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群(103)では、H-2号住居跡として報告されている。面積 (0.91) m² 床面 やや硬化している。重複 H-53と重複し、新旧関係はH-53→本遺構である。カマド 検出しなかつたが、隣接調査区域では東壁中央やや南寄りから1基検出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 粘性の強い黒褐色土をベースとして、浅い凹凸面に黄褐色粘質土ブロックを含む暗褐色土を充填して構築された貼床。出土遺物 無し。時期 狹小範囲のみ検出した結果、時期の判断はできなかつたが、同一遺構である元総社蒼海遺跡群(103) H-2号住居跡では、26点の出土遺物を図示して11世紀代と推定されている。

H-52号住居跡 (Fig.24・83, PL.20・50)

位置 X 25・26、Y 112・113 主軸方向 N - 101° - E 規模 東西軸 (3.02) m、南北軸 (2.68) m、壁現高 0.57 m。調査区北壁東端から南東隅のみの検出で、大半は調査区外となる。面積 (3.42) m² 床面 検出範囲内はよく硬化している。重複 H-6と重複し、新旧関係は本遺構→H-6である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面に砂層ブロックを含む暗褐色土を充填して構築された貼床。出土遺物 須恵器蓋(1)、須恵器壺(2~4)、土師器壺(6)が出土している。1・3・4が貯蔵穴、2・5が床面上から出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-53号住居跡 (Fig.30・83, PL.20・50)

位置 X 18・19、Y 121・122 主軸方向 N - 95° - E 規模 東西軸 5.98 m、南北軸 (4.88) m、壁現高 0.54 m。調査区西側南壁から北半のみの検出で、南壁は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群(103)では、H-12号住居跡として報告されている。面積 (26.12) m² 床面 よく硬化している。重複 H-13・15と重複し、新旧関係は本遺構→H-13→H-15である。炉 検出されず。貯蔵穴 西壁中央より2基検出。南側は長軸 0.62 m、短軸 0.58 m、深さ 0.16 m を測り、平面円形を呈する。北側は長軸 0.76 m、短軸 0.72 m、深さ 0.21 m を測り、平面円形を呈する。柱穴 検出されず。掘り方 変性した粘性の強い総社砂層をベースとして、黄褐色粘質土ブロックをやや多く含む黒褐色土を厚く充填して構築されている貼り床。出土遺物 S字状口縁台付壺(1・2)が出土している。1は住居覆土、2は床面上から出土である。時期 出土遺物の傾向か

ら、4世紀後半と想定される。

H-54号住居跡 (Fig.50・83, PL.20)

位置 X 26・27, Y 115~117 主軸方向 N - 85° - E 規模 東西軸 4.38 m、南北軸 4.12 m、壁現高 0.54 m。調査区西側中央からの検出。面積 16.90 m² 床面 全体的によく硬化している。重複 J-5と重複し、新旧関係は J-5 → 本遺構である。カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長は 1.11 m、燃焼部幅 0.50 m。天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右（南）が 0.67 m、左（北）が 0.70 m、灰褐色粘質土を用いて袖を構築し、煙道は壁外に 0.34 m 突出している。燃焼部内壁は被熱によってやや硬質焼土化しており、火床面直上には灰層が堆積している。上位の焼土粒・灰を含む崩落土は、南東方向の貯蔵穴へ流れ込んでいる。貯蔵穴 長軸 0.63 m、短軸 0.62 m、深さ 0.42 m を測る、不整円形の貯蔵穴が住居南東隅から検出した。その東側からは、長軸 0.49 m、短軸 0.29 m、深さ 0.18 m を測る、不整円形の浅い掘り込みが検出している。柱穴 4 基検出したが、掘り込みはいずれも浅い。P 1 は長軸 0.43 m、短軸 0.33 m、深さ 0.09 m を測り、楕円形を呈する。P 2 は長軸 0.32 m、短軸 0.31 m、深さ 0.18 m を測り、不整円形を呈する。P 3 は長軸 0.30 m、短軸 0.27 m、深さ 0.06 m を測り、不整円形を呈する。P 4 は長軸 0.41 m、短軸 0.40 m、深さ 0.09 m を測り、円形を呈する。掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 輪石粒と砂層ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築された貼床。出土遺物 住居覆土中より土師器壺（1・2）が出土している。時期 出土遺物の傾向から 7世紀前半と想定される。

H-55号住居跡 (Fig.50・83, PL.20・51)

位置 X 22・23, Y 116・117 主軸方向 N - 77° - E 規模 東西軸 3.41 m、南北軸 (3.43) m、壁現高 0.35 m。調査区中央北側から検出し、南側は搅乱によって削平されている。面積 (9.50) m² 床面 全体的に弱い硬化。重複 H-30・31 と重複し、新旧関係は本遺構 → H-31 → H-30 である。カマド 検出しなかつたが、床面における焼土粒の堆積状況から判断すると、東壁に存在したと考えられる。貯蔵穴 長軸 0.53 m、短軸 0.50 m、深さ 0.33 m を測る、円形の貯蔵穴が住居南東側から検出した。柱穴 検出されず。掘り方 北側は総社砂層、南側は砂層直上の黒褐色土をベースとして、部分的に黒褐色土を薄く充填して構築された貼床。出土遺物 住居覆土より、土師器暗文壺（1）、土師器甕（2）が出土している。時期 出土遺物の傾向から 8世紀前半と想定される。

H-56号住居跡 (Fig.48・83, PL.21・51)

位置 X 24・25, Y 120 主軸方向 N - 120° - E 規模 東西軸 (2.77) m、南北軸 (3.18) m、壁現高 0.04 m。調査区中央南寄りから、確認面がほぼ床面に近い状態で検出した。面積 (7.92) m² 床面 カマドから住居中央にかけて硬化している。重複 J-15、H-19・28、D-31 と重複し、新旧関係は J-15 → H-28 → 本遺構 → H-19 → D-31 である。カマド 東壁中央から 1 基検出。確認長 0.82 m、燃焼部幅 0.34 m、煙道は壁外に 0.15 m 突出している。燃焼部左壁側（北）に、構築部材の砂岩が 1 点検出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 J-15 の覆土をベースとして、凹凸面に薄く黒褐色土を充填した貼床。出土遺物 須恵器高台付壺（1）、須恵器壺（2）、土師器甕（3）が出土している。1 は床面直上、2 は住居掘り方、3 は住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9世紀後半と想定される。

H-57号住居跡 (Fig.51・83, PL.21・51)

位置 X 23・24, Y 117~119 主軸方向 N - 69° - E 規模 東西軸 (2.86) m、南北軸 (6.20) m、壁現高 0.13 m。調査区中央から検出した。周辺は遺構の重複が激しく、西側は搅乱によって削平されていることから、僅かに東壁の一部を含む床面が検出したのみである。面積 (5.63) m² 床面 硬化は認められない。重複 H-4・27・35 と重複し、新旧関係は本遺構 → H-4 → H-27 → H-35 である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層をベースとしている地山床。出土遺物 床面

直上より須恵器塊（1）、丸瓦（2）が出土している。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から、8世紀後半と想定される。

（2）溝跡

W-1号溝跡 (Fig.51、PL.21)

位置 X 30～31、Y 122 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ (3.85) m、上幅 (1.37) m、深さ (1.23) m、調査区南東隅からの検出で下端は未検出のため、下幅は不明。同一遺構として、東側に隣接する元総社蒼海遺跡群（123）ではW-1号溝、北側の元総社蒼海遺跡群（24）では31区W-2号溝、南側の小見II遺跡ではW-2号溝として報告されている。覆土中位にはAs-B軽石混土層が堆積しており、通水の痕跡は認められない。形状等 検出範囲が狭いため不明。 重複 無し。 出土遺物 灰釉陶器碗、須恵器塊・壺、土師器壺・壺、丸・平瓦、陶器鉢が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。 時期 元総社蒼海遺跡群（123）では、重複関係と出土遺物から、10世紀後半以降の開削で中世以降も存続したと想定されている。本遺跡地内では、狭小範囲のため判然としないが、堆積土層から判断すると上記想定と齟齬がないと考えられる。

（3）井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig.36・37・84、PL.51)

位置 X 25・26、Y 117 規模 上端部は幅2.65 mで逆ハの字に開き、2段の階段状の掘り込みから、幅127 mの井戸本体円柱部へと至る形状。確認面から基底面までは深さ4.86 mを測る。段部には部分的に灰白色粘質土を貼り付けた瓦片が凸面を上にして敷かれており、井戸本体の覆土からは落下したとみられる瓦片が380点出土していることから、井戸本体上端から開口部にかけて瓦積みがあった可能性が高い。なお、覆土最上層には、紫灰色火山灰層を含むAs-B軽石2次堆積層が確認されている。 重複 H-24・26・37と重複し、新旧関係はH-24・26・37→本遺構である。 出土遺物 上野国分寺修造期の軒丸瓦A 103（1）、凸面に「(那)波郡朝倉」と墨書きされた平瓦（2）、四面端部に二重開口「方」陰刻の押印がある平瓦（3）、凸面の叩き下端部に左字「雀」の平瓦（3）がいずれも井戸本体の覆土下層から出土している。 時期 重複関係から、10世紀前半以降と想定される。 備考 同種の遺構として、本遺跡の東方に位置する元総社蒼海遺跡群（18）I-4号井戸跡がある。

（4）土坑 (Fig.52・53・84・85、PL.21～23)

土坑32基を確認している。D-2は欠番で、時期は縄文時代中期後半加曾利EⅢ期から平安時代末までと幅があるが、出土遺物が無いことから時期不明の土坑も多い。D-3号土坑は、軟質な灰黄褐色土が底面から20cm程堆積し、直上に紫灰色火山灰層を上位に含むAs-B軽石1次堆積層が確認されている。各土坑の計測値については「Tab. 2 (116) 土坑・ピット計測表」を参照のこと。

（5）遺構外出土遺物 (Fig.85～87)

調査区南西隅においては、遺構確認面下黒色土の堆積が厚く、縄文時代の遺物が古代面調査時にも散発的に出土していた。擾乱と古代住居跡によって縄文面の遺構認定がやや困難な状況であったので、東西方向に1～3、南北にA～C、計8地点の任意メッシュを設定し、スライスによる掘り下げを行った。出土した遺物はできるだけ元位置に留め、遺構プランが判明した時点で当該遺構の帰属とした。該当しなかった遺物や遺構と時期が異なる混入遺物については、遺構外出土資料としてこちらに40点掲載している。

縄文時代の出土遺物は諸磯b期（1）と加曾利EⅡ～Ⅲ期（3～11）を主体とする。（11）は口縁下に円孔

による補修痕が認められる。他に1点のみ東関東に分布の中心をもつ、前期後半の興津式が出土している(2)。(12)～(14)は土製円盤、(15)は上下ともに渦巻状の沈線文を施した耳栓、(16)は砂岩製の尖頭器、(17)は安山岩製の打製石斧で擬形を呈する。(18)～(21)は黒色頁岩製の打製石斧で短冊形を呈する。(22)は珪質頁岩、(23)はチャート製の凹基無茎鍬である。

古代の出土遺物は6世紀後半から7世紀、10世紀以降を主体とする。(37)は鏃付台付鉢の有孔タイプで、H-21号住居跡出土遺物に同種の資料がある。(38)の羽口は使用により全体的に脆い状態で、高温に晒された結果、端部にはガラス質が軸出している。

繩文時代の遺構外遺物は、調査によって検出された遺構との時期が既ね一致するものの、古代の遺構外遺物に関しては、時期毎の住居件数の増減とは必ずしも一致しない結果となっている。

Tab. 2 (116) 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D-1	X 25・26, Y 116	1.56	0.82	0.19	長椭円形	半円状	縄17. 石3. 土24. 須5. 鉄2	
D-2	欠番							
D-3	X 24, Y 115	1.54	0.97	0.53	長椭円形	台形状	縄3. 土3. 須5. 瓦3	As-B軽石1沈堆積層有り
D-4	X 24, Y 114・115	1.49	0.99	0.33	長方形	階段状	縄20. 土1. 須1	
D-5	X 25, Y 115	1.79	(0.67)	0.11	長方形	弧状	縄23. 土2. 須1	
D-6	X 25, Y 115	1.03	(0.83)	0.13	方形	台形状	縄7. 土2. 須1	
D-7	X 25, Y 116	1.40	1.18	0.38	円形	階段状	縄39. 石3. 土9. 須6	
D-8	X 25・26, Y 116・117	0.98	0.93	0.20	円形	弧状	縄18. 土10. 須1	9世紀か
D-9	X 29・30, Y 121	1.59	1.55	0.49	方形	階段状	縄12. 土25. 須12. 瓦2. 瓦3	
D-10	X 28, Y 120・121	1.02	0.33	0.21	椭円形	弧状	縄17. 土6. 須4	
D-11	X 28, Y 122	0.59	0.53	0.34	円形	階段状	土7. 瓦1	9世紀か
D-12	X 27・28, Y 122	0.66	0.60	0.28	円形	半円状	石1. 土1. 須5	
D-13	X 25・26, Y 116	1.06	(1.01)	0.21	円形	弧状	縄7. 土6. 須2. 瓦3	
D-14	X 19・20, Y 120・121	1.47	1.21	0.40	椭円形	階段状	縄13. 土9. 須10. 瓦4. 鉄1	
D-15	X 26, Y 118	0.29	0.89	0.19	長方形	弧状	縄30. 石1. 土14. 須3. 瓦1. 瓦1	
D-16	X 20・21, Y 115	1.28	(1.08)	0.20	円形	台形状	-	
D-17	X 21, Y 115	0.85	0.54	0.25	長椭円形	台形状	縄3	
D-18	X 19・20, Y 121	1.50	0.91	0.29	長方形	梯状	縄13. 土4. 須8. 瓦1	
D-19	X 19, Y 116	2.47	(1.11)	0.54	長椭円形	弧状	縄11. 石1	
D-20	X 24, Y 122・123 (321)	2.97	0.79	円形	台形状	縄121. 石11. 土95. 須28. 瓦28	粘土探査坑	
D-21	X 23, Y 120	1.50	1.28	0.52	不整形	台形状	土1	
D-22	X 20, Y 121	1.14	0.74	0.33	不整形	弧状	縄16. 土8. 須11. 瓦1	
D-23	X 19・20, Y 121	0.99	(0.84)	0.32	不整形	弧状	縄12. 石1. 土3. 須8. 瓦1. 瓦1	9世紀後
D-24	X 23, Y 118・119	2.84	1.69	0.49	長方形	階段状	縄89. 石4. 土6. 須12. 瓦2	
D-25	X 23, Y 121	1.74	(1.17)	0.23	不整形	梯状	縄18. 土15. 須1	8世紀か
D-26	X 19・20, Y 115・116	3.06	1.20	0.19	長椭円形	弧状	縄9. 土3. 須2. 瓦1	
D-27	X 19・20, Y 116・117	2.48	1.27	0.19	長方形	台形状	縄18. 石5. 須1	
D-28	X 20, Y 116	1.06	0.95	0.35	円形	階段状	縄4	
D-29	X 20, Y 116	0.85	0.66	0.32	長方形	台形状	縄5	
D-30	X 20, Y 116・117	1.18	1.02	0.15	円形	弧状	縄6. 瓦1	
D-31	X 25, Y 120	0.55	0.51	0.27	円形	台形状	-	
D-32	X 25, Y 120	0.56	(0.51)	0.19	円形	V字状	縄4. 土3	
D-33	X 25, Y 120	1.15	(0.60)	0.25	円形	弧状	縄14. 石1. 土1. 須3	
X-1	X 23・24, Y 123	3.16	3.08	0.91	不整形	梯状	縄246. 石13. 土68. 須20. 瓦14	探査坑

Tab. 3 (116) 出土遺物調査表

J-1

No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.25	陶文上部 漆器		(28.0)	-	(12.0)	白色釉粒。 チャート胎土	やや表面 剥離	青灰	円筒形。 口縁は内側を有する。上部は直線的で、下部は斜面で構成。底部は内側に 角度を有する。丁寧な泥流痕が確認される。表面には「漆」字と「玉」字の 墨書きが確認される。	口縁部と足部に少々剥離。 胎土部と漆剥離。
2	No.1	陶文上部 漆器		(16.0)	-	(3.0)	白色。 白・茶色斑点。 黒墨跡	良好	赤茶	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。 胎土部と漆剥離。
3	No.3	陶文上部 漆器		(32.0)	-	(16.0)	白色釉粒。 白灰、黒墨跡	良好	青灰	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。 胎土部と漆剥離。
4	No.35-74	陶文上部 漆器		(28.0)	-	(13.0)	チャート胎土	良好	青 青灰	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。 胎土部と漆剥離。
5	裏土	陶文上部 漆器		(24.4)	-	(9.4)	白・茶色斑点。 白灰、チャート胎土	良好	青灰	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。 胎土部と漆剥離。
6	裏土	陶文上部 漆器		(22.2)	-	(15.0)	白色斑点、黒墨跡	良好	青灰	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。
No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
7	裏土 瓦上部	陶文上部 漆器		16.0	1.1	2.8	黒墨斑点 白灰	良好	青灰	円筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	口縁部と足部に少々剥離。
No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
8	No.25	石器 臼杵石		11.0	4.7	1.1	黒粘土質岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
9	No.26	石器 臼杵石		10.4	4.0	1.4	小ふくろ岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
10	No.62	石器 臼杵石		11.1	4.3	1.3	黒粘土質岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
11	No.29	石器 臼杵石		13.8	7.2	3.4	安息岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
12	No.72	石器 臼杵石		12.6	11.7	0.6	栗色頁岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
13	裏土	石器 臼杵石		2.2	1.3	0.3	黒粘土質岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
14	No.67	石器石 臼杵石		(12.0)	(8.7)	(4.6)	鶴見岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
15	No.25	石器石 臼杵石		(24.0)	(19.0)	(9.7)	鶴見岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
16	No.2-4	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色釉粒。 チャート胎土	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
17	No.9	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色。 白・茶色斑点	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。

J-2

No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.2-4	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色釉粒。 チャート胎土	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
2	No.9	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色。 白・茶色斑点	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。

J-3

No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No.2-4	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色釉粒。 チャート胎土	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
2	No.9	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色。 白・茶色斑点	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
3	No.29	石器 臼杵石		11.0	4.7	1.1	黒粘土質岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
4	No.29	石器 臼杵石		11.1	4.3	1.3	黒粘土質岩	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。

J-4

No	出土位置	種別	種類	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No.2-4	陶文上部 漆器		(30.0)	-	1.0	白色釉粒。 チャート胎土	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
2	No.25	石器 臼杵石		-	-	(7.3)	白・茶色斑点。 白灰	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
3	No.29	石器 臼杵石		-	-	(4.3)	白・茶色斑点。 白灰	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
4	No.29	石器 臼杵石		-	-	(7.6)	白・茶色斑点。 白灰	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。

J-5

No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形態、成・様形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏土	陶文上部 漆器		-	36.0	4.8	白色釉粒。 チャート胎土	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
2	裏土	陶文上部 漆器		-	36.0	4.8	白色。 白・茶色斑点。	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
3	裏土	陶文上部 漆器		-	36.0	4.8	白色。 白・茶色斑点。	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
4	裏土	陶文上部 漆器		-	36.0	4.8	白色。 白・茶色斑点。	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
5	裏土	陶文上部 漆器		-	36.0	4.8	白色。 白・茶色斑点。	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。
6	P-3 裏土	陶文上部 漆器		(23.0)	-	(7.4)	白色釉粒。 白灰	良好	青灰	丸筒形。 口縁は斜面で構成。底部は内側に角度を有する。丁寧な泥流痕が確認され る。	丸筒形。

J - 6 A

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
1	裏土	陶文玉器	棒	(220)	-	(180)	白色地刷、黒墨绘	高肩	黒	筒形から大きめの棒状。上部は口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒形の内側は滑らかで、筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面付下土壳残存。 墨跡有。
2	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(54)	白・茶色刷、黒墨绘	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。
3	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(82)	白・茶刷、黒墨绘、チャーチー軸付	高肩	白・茶色刷、黒墨绘	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。
4	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(40)	白色地刷、黒墨绘	高肩	白・茶色刷、黒墨绘	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。
5	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(60)	白・茶刷、黒墨绘	高肩	白・茶色刷、黒墨绘	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。

J - 6 B

No	出土位置	種別	断面	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
6	裏土	石器	石器	23	14	0.4	美和石	-	-	0.9	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	足跡有。 墨跡有。
7	Se-1	石器	多孔石	360	21.0	30.2	奈良石	-	-	3250	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	足跡有。
8	Se-4	石器	石器	(10.2)	(280)	(7.5)	奈良石	-	-	3610	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	足跡有。

J - 7

No	出土位置	種別	断面	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
1	Se-2	陶文玉器	棒	-	(111)	白色地刷、黒墨绘	高肩	黒	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。		
2	Se-8	陶文玉器	棒	-	(123)	白色地刷、黒墨绘	高肩	黒	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。		
3	Se-3	陶文玉器	棒	-	(130)	白・茶色刷、黒墨绘	高肩	黒	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。		
4	Se-9	陶文玉器	棒	-	(11)	(101)	白色地刷、黒墨绘	高肩	白・茶色刷、黒墨绘	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。	
5	Se-6	陶文玉器	棒	3.6	3.6	4.0	白・茶刷、黒墨绘	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面。 墨跡有。	
No	出土位置	種別	断面	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
6	裏土	石器	石器	24	24	0.30	青石	-	-	32	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	足跡有。
No	出土位置	種別	断面	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
7	Se-7	石器	石器	272	30.0	12.1	奈良石	-	-	3860	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	足跡有。

J - 8

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
1	Se-1・7-1 -2-1 -3-1 -4-1 -5-1 -6-1 -7-1	陶文玉器	棒	222	-	(140)	白色地刷、朱・赤	高肩	朱	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付・脚上手土壳残存。朱墨跡の変化。	
2	Se-70	陶文玉器	棒	-	-	(130)	白色地刷、石灰刷	中や直腹	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面・脚上手壳。	
3	Se-60	陶文玉器	棒	(261)	-	(120)	白・茶色刷、石灰刷	中や直腹	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面・脚上手壳。	
4	Se-20・27	陶文玉器	棒	(163)	-	22.2	白・茶色刷、白色地刷、青白刷	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面・脚上手壳。	
5	Se-20	陶文玉器	棒	(171)	6.0	20.3	黑刷、白色地刷	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付・脚上手壳。	
6	Se-30	陶文玉器	棒	(241)	-	(180)	白・茶色刷、黑墨绘	高肩	青・水刷	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面・脚上手壳。	

J - 9

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	重量	断面、成・型式、文様等の特徴	残存状況・備考
1	Se-6・7-1 -2-1 -3-1 -4-1 -5-1 -6-1 -7-1	陶文玉器	棒	6.0	-	(160)	白色地刷、白・朱	高肩	白・朱・茶色刷	2.0	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。下部は筒底付近で墨で書かれた文字が見られる。	口付一部は剥落あり及び、赤黒化。
2	Se-4	陶文玉器	棒	-	-	(120)	白・茶色刷、黑墨绘	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付断面・直腹。	
3	Se-12	陶文玉器	棒	-	-	(96)	白・茶色刷	中や直腹	直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付直腹・直腹。	
4	Se-42	陶文玉器	棒	(340)	-	(90)	白・茶・茶色刷、白色地刷	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付直腹。	
5	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(120)	白・茶色刷	高肩	に凹・直腹	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	口付直腹・1.0kg。	
6	裏土	陶文玉器	棒	-	-	(112)	白・茶色刷、黑墨绘	高肩	青・水刷	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	筒形から口付付近に粗い表面の凹凸がある。筒内には墨で書かれた文字が見られる。	

No

No</div

No	出土位置	種別	幅様	口幅	底幅	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
11	裏土	石器	石器	14.3	5.3	4.2	茶褐色	未	—	表面に白い火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。底面と側面が火照りで焼成された。	基部は灰黒色。
32	No.60	石器	石器	(13.7)	(46.0)	(6.8)	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。火照りは底面に濃くまで付いています。全体的に薄い。	表面は灰黒色。
33	No.63	石器	石器	(26.0)	(18.8)	(9.7)	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
24	No.67	石器	石器	(46.0)	(34.0)	(6.8)	茶褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 10

No	出土位置	種別	幅様	口幅	底幅	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	陶土	陶器	—	—	(14.0)	白色地、灰白色、黑色地	中火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。底面と側面が火照りで焼成された。	表面は灰黒色。
2	塗瓦場 D - 3	陶土	陶器	29.2	4.2	3.8	白色地、灰白色、黑色地	高火候	灰褐色	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。底面と側面が火照りで焼成された。	表面は灰黒色。
3	No.2	石器	多孔瓦	12.3	11.8	7.2	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
4	No.3	石器	多孔瓦	16.9	13.2	8.1	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 11

No	出土位置	種別	幅様	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	陶土	陶器	—	—	(14.0)	白色地、灰白色、黑色地	中火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
2	塗瓦場 D - 3	陶土	陶器	29.2	4.2	3.8	白色地、灰白色、黑色地	高火候	灰褐色	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
3	No.2	石器	多孔瓦	12.3	11.8	7.2	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
4	No.3	石器	多孔瓦	16.9	13.2	8.1	褐色	未	—	表面は褐色で、火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 12

No	出土位置	種別	幅様	口幅	底幅	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	陶土	陶器	—	—	(14.0)	白色地、灰白色、黑色地	高火候	—	表面を削った跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
2	裏土	陶器	陶器	(16.0)	—	(9.8)	白色地、灰白色	高火候	—	表面を削った跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
3	No. 1	陶土	陶器	22.2	4.7	6.7	黑色地	未	—	表面を削った跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
4	No. 1	陶器	多孔瓦	16.9	13.2	8.1	褐色	未	—	表面を削った跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 13

No	出土位置	種別	幅様	口幅	底幅	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	陶土	陶器	(20.0)	—	(8.0)	白色地、灰白色	高火候	—	口部に削られた跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
2	裏土	陶器	陶器	(16.0)	—	(9.8)	白色地、灰白色	高火候	—	口部に削られた跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
3	No. 1	陶土	陶器	(26.0)	—	(6.0)	白色地、灰白色	高火候	—	口部に削られた跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
4	裏土	陶器	陶器	(21.0)	—	(9.0)	白色地、灰白色	高火候	—	口部に削られた跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
5	P - 1	陶土	陶器	(20.0)	—	(10.0)	白色地、灰白色	高火候	—	口部に削られた跡がある。口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 14

No	出土位置	種別	幅様	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
6	No. 1	陶土	陶器	(13.4)	3.4	3.2	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
7	裏土	陶器	陶器	20.8	4.3	1.8	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
8	裏土	陶器	陶器	21.0	4.3	0.6	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
9	裏土	陶器	陶器	21.0	4.3	0.6	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
10	No. 6	陶器	石器	12.0	3.8	7.8	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
11	No. 3	陶器	石器	13.7	3.6	3.2	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J - 15

No	出土位置	種別	幅様	口幅	底幅	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	陶土	陶器	(25.0)	—	(10.0)	白色地、灰白色	中火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
2	裏土	陶器	陶器	(15.0)	—	(9.0)	白色地、灰白色	高火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
3	裏土	陶器	陶器	(16.0)	—	(8.0)	白色地、灰白色	高火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
4	裏土	陶器	陶器	(20.0)	—	(12.0)	白色地、灰白色	高火候	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。
5	No. 4	石器	石器	12.4	3.1	3.1	砾状岩	未	—	表面は白色地で火照りが付いており、口部周辺に火照りが付いている。火照りは全体的に薄い。	表面は灰黒色。

J-15

No	出土地名	種類	遺物	高さ	出土	焼成	色調	形態、量、形、型式、文化等の特徴			現状・状況・備考
								幅	厚さ	縦横	
1	No. 1	萬葉土器	灰陶	~75	台・灰陶・瓦類粘土・灰屑	未焼	赤褐色・茶褐色	円筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片	10cm	10cm	直筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片
2	No. 4	萬葉土器	灰陶	~110	口・素面・灰陶	未焼	茶褐色	円筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片	11cm	11cm	直筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片
3	西ノ	萬葉土器	灰陶	~160	口・灰陶・灰陶	未焼	灰褐色	円筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片	16cm	16cm	直筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片
4	東ノ	萬葉土器	灰陶	~160	口・白陶・灰陶	未焼	白い表面	円筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片	16cm	16cm	直筒形・口縁に内側を凹ませた外輪底付の灰陶片
No	出土地名	種類	遺物	高さ	幅	厚さ	色調	重量	形態、量、形、型式、文化等の特徴	現状・状況・備考	
5	東ノ	石器	石斧	44.3	5.6	2.2	ホルンブリッキ	386.5	直筒形の中に内側を斜めに削り出された手すり付手斧	直筒形・手すり付手斧	
6	東ノ	石器	石斧	111	4.9	1.7	黄色系	311.7	直筒形の中に内側を斜めに削り出された手すり付手斧	直筒形・手すり付手斧	
T	東ノ	石器	石斧	41.7	2.8	0.8	黒色系	101	直筒形の中に内側を斜めに削り出された手すり付手斧	直筒形・手すり付手斧	

J - 16

No	出土位置	種別	埋置	口径	底径	高さ	出土物	焼成	色調	断面、底、蓋形、文様等の特徴	現状状況・備考
1.	3647	廻天土器 鉢	—	(14)	丸底、高足、直口 縦、ナット付柱	—	中等量	焼	黒褐色(深め)・火炎部・火炎部に沿うて白い火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる 黒褐色に火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる 黒褐色に火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる	火被り部・火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる	
2.	3620	廻天土器 鉢	—	(14)	直口、单耳鉢	直口	少	焼	黒褐色(深め)・火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる 黒褐色に火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる 黒褐色に火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる	火被り部・火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる	
3.	廻天土器 鉢	廻天土器 鉢	—	24	11.2	10	白口底、高足、直口 縦、ナット付柱	焼成	黒褐色(深め)	直口底、火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる。直口底は織目が有る 直口底、火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる。直口底は織目が有る 直口底、火炎部・火被り部に白色の火被り、火被り部は火炎部より外側へと伸びる。直口底は織目が有る	直口底、 直口底は織目有る。
4.	廻天土器 鉢	廻天土器 鉢	—	30.0	6.6	28	直口	—	2015	直口底に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。 直口底に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。 直口底に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。	火炎部あり。
5.	廻天土器 鉢	廻天土器 鉢	—	20	2.2	07	直口	—	3.3	直口底に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。 直口底に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。	直口底、内底面。
6.	3646	廻天土器 鉢	—	16.0	9.6	14.6	直口底付柱	—	10000	上口直角付柱の内側に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。 直口付柱の内側に火炎部あり。火炎部に火被りあり。火被り部は火炎部より外側へと伸びる。	直口付柱。

H-1

No	出土位置	種別	樹高	直径	地質	樹皮	腐成	色調	形態、成・倒伏、文様等の特徴			現状状況・備考	
									根	葉	花		
1	Ma-1	根群落	4	120	7.0	24	白樺系地	樹齢	灰	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	GLH14.4m
2	Ma-7	根群落	7	[135]	7.9	37	楓系	樹皮	灰白	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	立木倒伏
3	Ma-26	根群落	9	[140]	6.0	35	楓系	樹皮	灰白	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	立木倒伏
4	Ma-20	土壤侵食	12	-	(67)	白色地、黒苔付地	底盤	灰白	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	山岸一面倒1.4m	
No	出土位置	種別	樹高	直径	地質	樹皮	腐成	色調	根	葉	花	現状状況・備考	
5	Ma-2	灰平地	[120]	120	2.0	白樺・白樺系	樹皮	樹皮	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	倒伏	
6	Ma-6	灰平地	[120]	[110]	2.0	白樺・白樺系	樹皮	樹皮	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	倒伏	
7	Ma-18	灰平地	[135]	[120]	1.8	白樺・白樺系	樹皮	樹皮	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	内側:樹皮カキナリ、外側:樹皮カキナリ、底面:樹皮カキナリ、側面:樹皮カキナリ	倒伏、内側にへり込みあり。 カサギの巣篭と倒伏に伴う落葉	

H-2

No	出世地名	種別	原名	底名	高名	博士	集成	色調	風流、形態、文學等の特徴			現存状況・参考
									風流	形態	文學	
1	新潟県 高田村	新潟春	1337	0.2	4.8	白丸、青丸各1枚	高麗	こぶし	内面: 褐縞コマツナ、裏面: ロウバナ、外縞: 鮎皮模様ナ。	白丸	鮎皮模様。	1丁目 現存廻転。
2	新潟県 高田村	新潟春	1210	-	(4.8)	白色丸、青丸各1枚	高麗	こぶし	内面: 褐縞コマツナ、裏面: ロウバナ、外縞: 鮎皮模様ナ。	高丸	鮎皮模様。	1丁目 現存廻転。
3	新潟県 高田村	新潟春	-	12.4	(6.0)	白色丸、青丸各1枚	高麗	こぶし	内面: 無地、裏面: ロウバナ、外縞: 鮎皮模様ナ。	白丸	鮎皮模様。	1丁目 現存廻転。
4	新潟	新潟	1200	-	(10.1)	白丸、青丸各1枚	高麗	こぶし	内面: 褐縞コマツナ、裏面: ロウバナ、外縞: 鮎皮模様ナ。	白丸	鮎皮模様。	1丁目 現存廻転。

三

No	出土位置	種別	器物	目印	底面	高さ	出土	地盤	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	霞ヶ浦 高井戸	土器	白陶器	(116)	(11.1)	4.6	白色陶器	直腹	灰	内側: 薄暗いオフホワイト。外側はロビンソン。周縁部は少し白。高部オフホワイト。	少しこれ。	
2	ガモラ窯	土器罐	土器	(117)	(22)	1.1	灰土、薄白、表面	高層	仁木	内側: 薄暗いオフホワイト。外側はロビンソン。	少しこれ。	
3	N-20	土器	土器	(102)	(2)	1.6	青白土	高層	灰	内側: 薄暗いオフホワイト。外側はロビンソン。	GHR上2号舟。	
No	出土位置	種別	器物	長さ	幅	厚さ	出土	地盤	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
4	霞ヶ浦 高井戸	土器	白陶器	(118)	9.6	1.8	白色、薄白有	高層	灰	内側: 白いオフホワイト。外側はロビンソン。	傾斜、内側へ丸み【△】あり。	
5	N-20	土器	土器	(107)	11.2	2.1	白土、薄白有	表面	灰	内側: 薄白有。外側: 黒カタクリ。	傾斜、右へ丸み【△】あり。	
No	出土位置	種別	器物	全長	幅	厚さ	時間	焼成	色調	変遷	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
6	霞ヶ浦 2号	土器	土器	(94)	11.1	2.0	直腹	-	-	136	内側: 灰白有。	反射光で黒が見出る。
No	出土位置	種別	器物	底面	壁面	厚さ	石材	焼成	色調	重量	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
7	霞ヶ浦	土器底盤	土器底盤	29	0.5	1.5	灰白色有	-	-	184	内側は少し白く、少しこれ。多肉の内側表面部分が剥がれ落ちる。周縁部は剥がれない。	反対。

H-4

出力状況	種別	品目	価格	高さ	幅	奥行	形状、寸法、構成		特徴	現地状況・備考
							横幅	奥行		
1 開口上	吸排風機	吸排風機	11430	77.45	65	65の丸芯	吸排風	吸排	片面吸排風機コアタイプ。吸風部140φ、排風部65φ。片面吸排風機コア。片面吸排風機コア。	片面吸排風機コア
2 カセット方式	吸排風機	吸排風機	132.6	63	29	55の丸芯	吸排	吸排	片面吸排風機コアタイプ。片面吸排風機コア。	片面吸排風機コア

No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
3	No. 2	底面付	筒形	12.8	6.6	3.1	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り。	
4	土上	底面付	筒形	13.4	7.6	3.8	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
5	No. 1 - 3	上端部	筒形	12.8	10.1	3.3	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1次削り。	
6	土上	上端部	筒形	-	-	-	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
7	A ハツフ 底面付	筒形	筒形	12.21	-	9.8	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
8	日本アド 底面付	筒形	筒形	[106]	-	9.89	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
No	出土位置	種別	種類	高さ	幅	厚さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
9	日本アド	土上部	筒形	14.3	1.4	1.4	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	3/4周削り。	
No	出土位置	種別	種類	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
10	土上	表面部	筒形	26.6	2.9	6.4	成層的	-	-	6072	表・裏共且し石表面は研磨仕上げにより滑らかで、長い距離を 走行せしる。	削り。
H-5												
No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No. 1	上端部	筒形	11.0	-	3.3	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
H-6												
No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No.11	上端部	筒形	13.7	17.1	4.9	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り。	
2	土上	底面付	筒形	13.1	6.4	2.8	粗面	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
3	土上	底面付	筒形	13.0	16.0	2.7	粗面	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り。	
4	No. 1	底面付	筒形	15.5	6.8	5.8	自然乾燥、 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
5	A ハツフ 底面付	筒形	筒形	-	-	(1.1)	粗面	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。表面に剥落あり。	
6	No.10	底面付	筒形	18.7	-	7.2	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
7	土上	筒形	筒形	16.0	-	9.0	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
H-7												
No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No. 13	底面付	筒形	12.3	7.0	4.1	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り。	
2	土上	底面付	筒形	12.0	8.2	3.2	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
3	土上	底面付	筒形	11.0	10.2	3.4	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り。	
4	No.19	上端部	筒形	-	-	-	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。	
5	A ハツフ 底面付	筒形	筒形	-	-	(1.1)	粗面	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	削り。表面に剥落あり。	
6	No.10	底面付	筒形	18.7	-	7.2	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
7	土上	筒形	筒形	16.0	-	9.0	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。内側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝あり。	1/2周削り+1次削り。	
H-8												
No	出土位置	種別	種類	高さ	幅	厚さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
8	土上	上端	筒形	27	2.1	1.96	自然乾燥も 含む	焼成	灰	削りササ。ササ。	削り。	
9	No. 1	底面付	筒形	16.0	10.0	0.2	粗	-	-	818	中央に凹部あり。及び左側に直角 3mm の穴が打たれている。	削り。左側に剥離。
10	No. 6	底面付	筒形	6.6	1.3	1.3	粗	-	-	206	左側に削れ。	削り。
11	No. 6	底面付	筒形	8.7	1.0	1.0	粗	-	-	137	左側に削れ。	削り。
12	No.11	底面付	筒形	12.0	10.7	0.7	粗	-	-	211	平らな内壁面が突出している。下端は鋭く突起。	削り。内壁。
No	出土位置	種別	種類	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	重量	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
12	No.25	右側面	筒形	12.9	6.0	5.8	成層的	-	-	7983	表・裏共且し石表面は研磨仕上げにより滑らかで、手触り下地は滑らかである。左側に斜面があり。表面に剥落がある。	1/2周削り。
13	土上	右側面	筒形	12.2	6.2	5.2	自然乾燥も 含む	焼成	-	2029	表・裏共且し石表面は研磨仕上げにより滑らかで、手触り下地は滑らかである。左側に斜面があり。	削り。
H-9												
No	出土位置	種別	種類	口径	底径	高さ	土質	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No. 4	底面付	筒形	12.3	8.0	4.2	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝、横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り。	
2	No. 6	底面付	筒形	12.3	6.8	2.8	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝。横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り。	
3	No.24	底面付	筒形	13.4	10.0	3.3	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝。横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り。	
4	土上	底面付	筒形	12.9	10.1	3.8	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝。横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り。	
5	No. 5	上端部	筒形	12.0	8.7	4.0	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝。横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り。	
6	No.20	上端部	筒形	16.0	-	9.0	自然乾燥も 含む	焼成	灰	外側に縦溝ヨコ溝。横溝ヨコ溝。内側に縦溝ヨコ溝。	1/2周削り+1次削り。	
No	出土位置	種別	種類	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	断面、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
7	No.23	左. R.K.	筒形	12.2	1.8	1.8	右斜面	焼成	灰	底付を削り、左斜面は左側に削り。右斜面は右側に削り。	1/2周削り。	
8	No.25	左. R.K.	筒形	10.0	10.0	2.2	自然乾燥も 含む	焼成	灰	底付を削り、右斜面は右側に削り。	削り。	

No	出土位置	種別	断面	国名	初期年代	材質	直径	口径	高さ	厚さ	肉厚	備考
9	5m-28	漆器漆器	円筒	日本	後JL 9年(660)	陶	25.0cm	6.0cm	19.0cm	17g	4寸丸舟、茎削二路。	
10	茎削	漆器漆器	円筒	日本	後JL 9年(660)	陶	20.0cm	6.0cm	23.0cm	22g	一舟丸舟、茎削三路。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	備考	現状状況・備考
11	No. 1.	漆器	11.3	4.1	0.7	陶	-	-	-	30.2	均白釉。	茎削丸舟。
H- 9												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	茎削	漆器漆器	圓筒	[136]	-	6.0	白・黑色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。外側:均白釉。内側:漆器コナギ。底:茎削コナギ。	1寸丸舟。	
2	茎削	漆器漆器	圓筒	[141]	6.4	5.5	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:茎削コナギ。底削四路割。	1寸丸舟。	
3	茎削	漆器漆器	圓筒	[142]	7.4	5.6	白色合も	陶器	灰	外部:漆器コナギ。底削四路割。底削四路割。	1寸丸舟。	
4	茎削	漆器漆器	圓筒	[128]	9.0	3.4	白色合も	陶器	黄	外部:漆器コナギ。底削四路割。底削四路割。	1寸丸舟。	
5	茎削	漆器漆器	圓筒	[168]	-	1.60	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底削四路割。底削四路割。	1寸丸舟。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
6	茎削	漆器	灰灰灰	[168]	9.2	2.2	石灰・灰合も	陶器	灰	均白釉。	均白釉。	均白釉。
H- 10												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	カマド裏	土器	長颈	[106]	-	2.88	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底削四路割。	1寸丸舟。	
H- 11												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 3.	土器	H	[130]	-	(1.5)	白色合も	陶器	均白	内部:漆器コナギ。底削四路割。	均白釉。	
H- 12												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	茎削	漆器漆器	[140]	-	10	白色合も	陶器	灰灰灰	灰	外部:漆器コナギ。底削四路割。	均白。	
2	カマド裏土器	土器	井	[134]	-	3.3	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
3	カマド裏土器	土器	井	[136]	-	3.2	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
4	No.12	土器	井	[186]	-	1.80	白色合も	陶器	灰灰灰	外部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸・頭削1寸丸舟。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
5	No.14	灰灰灰	28.1	25.4	2.8	石灰・灰合・草木灰合	陶器	灰灰灰	灰	内部:均白・赤い斑点・ナラ・茶色・底削ハセタナリ。	1寸丸舟。	
H- 13												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 5.	漆器漆器	[140]	-	10	白色合も	陶器	灰灰灰	灰	外部:漆器コナギ。底削四路割。	均白。	
2	カマド裏土器	土器	井	[134]	-	3.3	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
3	カマド裏土器	土器	井	[137]	8.6	3.9	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
4	カマド裏土器	土器	井	[147]	9.0	4.0	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
5	No. 1.	土器	井	[123]	-	2.3	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
6	灰	土器	井	[126]	-	3.0	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
7	灰	土器	井	[131]	-	3.6	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底:ハセタナリ。	1寸丸舟。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	備考	現状状況・備考
8	灰	灰灰灰	[142]	41.0	10.7	灰	-	-	-	34.2	均白釉。	均白釉。
H- 14												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 3.	漆器漆器	[122]	-	(1.1)	白色合も	陶器	灰灰灰	灰	内部:漆器コナギ。底削四路割。	1寸丸舟。	
2	茎削	漆器漆器	[113]	T.1	3.2	白色合も	陶器	灰	内部:漆器コナギ。底削四路割。	1寸丸舟。		
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	備考	現状状況・備考
3	茎削	漆器	[144]	12.0	0.3	灰	-	-	-	36.2	-	方舟半丸舟・垂幕丸舟。
4	No. 5.	漆器	[165]	0.6	1.6	灰	-	-	-	25.5	均白釉。	丸舟形。
H- 15												
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	图形、成・型態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 7.	漆器漆器	[104]	-	5.0	黑色合も	陶器	灰灰灰	灰	外側:漆器コナギ。底:均白釉合馬鹿脚。	1寸丸舟。	
2	茎削	漆器漆器	[150]	8.0	5.2	白色合も	陶器	灰	外側:漆器コナギ。底:ロウナリ。底削四路割。	1寸丸舟。		
3	No. 2.	漆器漆器	[134]	9.0	2.2	白色合も	陶器	灰灰灰	灰	外側:漆器コナギ。底:ロウナリ。底削四路割。	1寸丸舟。	
4	カマド裏土器	土器	井	[128]	9.0	3.0	白色合も	陶器	灰	外側:漆器コナギ。底:ロウナリ。	1寸丸舟。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	備考	現状状況・備考
5	茎削	漆器	灰灰灰	14.8	2.2	(4.1)	白色・灰合も	陶器	灰	外側:均白釉。底:灰1寸4.	1寸丸舟・半丸舟。	
No	出土位置	種別	断面	全長	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	備考	現状状況・備考
6	茎削	漆器	[140]	7.1	1.8	白色合も	陶器	灰	均白釉。	均白釉。	均白釉。	均白釉。

H - 16

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 2	土塹内	(130)	(90)	27	黒芯含む	灰質	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、底部ハラキリ。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	1/2残存。
2	カツマ園	土塹内	(100)	-	(26)	白灰土・素面	灰質	灰	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	1/2残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	外径	内径	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
3	No. 1	場	136.1	(27)	66	12=13	石英・貝石	灰質	内曲口縁部ヨコガラス(エビオラシ)、輪唇部斜削。	残存。

H - 17

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
1	カツマ園	土塹内	(114)	-	(35)	黒芯含む	灰質	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、底部ハラキリ。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	1/2残存。
2	No. 1	土塹内	(126)	-	(31)	白灰土・素面含む	灰質	灰	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	1/2残存。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
3	第	前庭	26	1.2	0.2	鉢	-	-	-	残存。

H - 18

No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No. 1	前庭	3.0	0.4	0.2	鉢	-	-	21.9	上部中央に規則的1mmの穴孔が空れています。

H - 20

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No.27	馬糞堆	(135)	(83)	3.2	石英・貝石含む	焼成	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。
2	No.18	馬糞堆	(145)	7.4	5.1	石英・貝石・雲母含む	焼成	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。
3	No. 4	馬糞堆	(125)	(140)	4.3	石英・貝石含む	焼成	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。
4	第	前庭	12.2	4.7	0.3	石英・貝石含む	焼成	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。	1/2残存。
5	石灰瓦裏土	馬糞堆	(121)	3.8	4.3	黒芯含む	高脚	灰	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。 輪郭造成。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
6	第	瓦	16.0	(76)	2.2	石英・貝石含む	高脚	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス。	残存。 ハリ毛先「瓦」文字あり。

H - 21

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考	
1	No.21	馬糞堆	(116)	-	(28)	黒芯含む	焼成	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
2	No. 2- 8 10	馬糞堆付近	(122)	(26)	12.7	石英・貝石・雲母含む	高脚	褐	内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口縁部ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。 輪郭造成。	
3	第	馬糞堆付近	(104)	(140)	1.0	白色粘・素面	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、白。	白。	
4	第	赤瓦跡付近	-	(22)	0.8	白色粘・素面	高脚	白	内曲口ヨコガラス、内側ヨコガラス。	輪。	
5	No.17	馬糞堆 転倒	-	(16)	1.3	石英・貝石含む	焼成	褐	内曲口ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。	高脚。	
6	第	馬糞堆付近	(120)	(132)	4.9	石英・貝石含む	高脚	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	輪。	
7	第	馬糞堆 転倒	(116)	(167)	5.2	黒芯含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。 輪郭造成。	
8	第	馬糞堆 転倒	(116)	(136)	5.4	黒芯含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。 輪郭造成。	
9	No.16- 17	馬糞堆	11.2	0.6	3.5	黒芯含む	焼成	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。 表面を手す。	
10	No. 4- 17	第	(107)	-	(28)	黒芯含む	高脚	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
11	No.28	田畠	-	(11.8)	-	黒芯含む	高脚	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
12	No.29	田畠	(127)	-	(11.8)	黒芯含む	高脚	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
13	No.30	田畠	(120)	-	(16)	黒芯含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
14	No.30- 41	田畠	36.5	-	(15.0)	黒芯含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
15	カツマ園	田畠	18.5	-	(10.7)	石英・雲母含む	高脚	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
16	No. 9	第	(12.7)	-	(22.7)	石英・貝石・雲母含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
17	No.29	田畠	18.2	-	(18.8)	石英・貝石含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。	
18	No.32	第	瓦	(160)	(97)	2.3	石英・貝石含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	輪。
19	No. 1	瓦	(162)	(134)	2.8	石英・貝石含む	高脚	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	輪。	

H - 22

No	出土位置	種別、器種	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考		
27	No.30	瓦	(26)	(26)	(2.8)	石英・貝石・雲母含む	高脚	内曲口有目、高脚ヘラキリ。 内曲口ヨコガラス。	輪。L字型少子骨頭直径はP-004足部分からも小さく、輪郭的骨頭P-004骨頭部で丸めてある。	
28	No.32	瓦	(160)	(97)	2.3	石英・貝石含む	高脚	灰	輪。	ハラ文字あり。

H - 23

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断形、成・難易、文様等の特徴	保存状況・備考
1	第	瓦	(160)	4.9	5.4	石英含む	焼成	褐	内曲口ヨコガラス、ヘラヨコガラス。 内曲口ヨコガラス。	輪内外。
2	カツマ園	瓦	(120)	(162)	3.2	黒芯含む	焼成	褐	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、高脚部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、12.5ヨコガラス。	1/2残存。
3	カツマ園	瓦	(160)	-	(6.0)	白灰土	焼成	灰	内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス、輪郭部ヨコガラス。 内曲口ヨコガラス、底裏ヨコガラス。	1/2残存。

No	出土位置	種別、断層	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
2	No.13	東側断層	[140]	96.5	29	白灰・板瓦含む	壘積	灰	内側に断面ヨコナギ。外側にヨコナギ。壁面にヨコナギ。	上2段残。
3	No.10	南側断層	[133]	6.5	52	白色灰・墨付含む	壘積	灰黑	外側に断面ヨコナギ。壁面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	完全。
4	No.1	南側断層	[133]	6.5	52	白色灰・墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。	保存・古瓦頭形。
5	No.2	南側断層	[125]	5.5	54	白色灰・墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。	1/2段切。保存・古瓦頭形。
6	No.2	南側断層	[134]	5.8	30	白色灰・墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。	上2段残。
7	ヨリヤマ遺土	断付付跡	[208]	-	5.86	白灰・石灰・焼緒	焼緒	灰	内側に断面ヨコナギ。外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。	上2段以上残。無記述。
8	No.9	土脚部	[180]	-	25.0	墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	上2段残。
No	出土位置	種別、断層	底径	幅	厚さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状・既存状況・備考
9	No.22	平底	[260]	160.0	21	白灰・板瓦含む	壘積	灰	内側有り。白灰。灰白色。	焼緒。既存不明で同上。

H - 24

No	出土位置	種別、断層	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
1	土	10.断層	[7.7]	[2.4]	2.4	白灰	壘積	灰	外側にヨコナギ。内側にヨコナギ。底面ヨコナギ。	内側に多量付加あり。軽度風化。
2	No.8	南側断層	[11.8]	7.0	39	白色灰含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	完全。
3	No.9	土脚部	[12.4]	-	3.4	墨付含む	壘積	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	1/2段残。
4	No.4	土脚部	[14.9]	-	2.6	白色灰含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。底面ヨコナギ。	上2段残。
5	土	土脚部	[18.0]	-	1.6	墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段・断脚。
No	出土位置	種別、断層	底径	幅	厚さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
6	No.5-6	平底	[6.1]	28.0	2.3	白灰・板瓦含む	壘積	灰	内側有り。白灰。板瓦ヘタナギ。	既存記述。
7	No.12	平底	[34.7]	27.7	2.3	白灰・石灰・焼緒	壘積	灰	内側有り。板瓦ヘタナギ。	完全。既存記述。既存記述。

H - 25

No	出土位置	種別、断層	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
1	南側断層	[14.0]	6.5	5.2	3.5	墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	内側に多量付加あり。軽度風化。
2	No.7	南側断層	[12.8]	6.1	3.2	砾石	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	完全。
3	No.20	南側断層	[13.0]	6.7	2.2	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	1/2段残。
4	No.22	南側断層	[13.4]	6.5	3.8	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段残。
5	Aキヤマ遺土	南側断層	[13.0]	6.1	2.7	墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	上2段残。
6	No.5-6	土脚部	[39.0]	-	6.30	墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段・断脚。
7	No.16	土脚部	[20.0]	-	4.80	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段・断脚。
No	出土位置	種別、断層	底径	幅	厚さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
8	Aキヤマ遺土	平底	[18.0]	7.7	2.8	白灰・板瓦含む	壘積	灰	内側有り。白灰。板瓦ヘタナギ。	既存記述。
										ヘタナギ「三」あり。

H - 26

No	出土位置	種別、断層	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No.5	南側断層	[10.1]	8.1	2.4	白色灰・小石含む	壘積	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段残。
2	土	南側断層	[10.2]	8.1	0.2	砾石	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	内側に自然剥離面あり。
3	No.26	南側断層	[11.4]	6.5	2.9	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	完全。
4	No.18	土脚部	[11.2]	7.0	3.0	墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	上2段・断脚。
5	No.16	土脚部	[11.2]	7.0	3.4	墨付含む	焼緒	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	上2段・断脚。
6	No.27	土脚部	[20.0]	-	2.0	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段・断脚。
No	出土位置	種別、断層	底径	幅	厚さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
7	No.1	右側断層	0.3	5.4	1.3	砾石含む	壘積	灰	内側に多方円柱状跡が継続で連なるかある。板瓦あり。	既存記述。

H - 27

No	出土位置	種別、断層	底径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No.18	南側断層	[10.2]	9.6	5.8	白色灰・石灰・黄・瓦石含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段残。
2	No.18	南側断層	[10.2]	8.0	4.8	墨付含む	壘積	灰	外側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	既存記述。
3	No.13	土脚部	[11.6]	9.0	3.5	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。内側にヨコナギ。	上2段残。
No	出土位置	種別、断層	瓦山街	瓦山街	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
4	土	瓦山丸山	[11.6]	2.6	4.8	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	瓦山街ガラス。瓦山街ガラス。	瓦山街ガラス。
5	No.7	瓦山街	[10.2]	10.6	2.6	白色灰・墨付含む	焼緒	灰	内側有り。瓦山街ガラス。瓦山街ガラス。	瓦山街ガラス。

H - 28

No	出土位置	種別、断層	口径	底径	高さ	地土	焼成	色調	断面、成・型式、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No.1	瓦山街	[10.2]	-	-	砾石	焼緒	灰	内側有り。内側ヨコナギ。	既存。
2	No.3	瓦山街	[22.8]	-	2.8	砾石	壘積	灰	内側に断面ヨコナギ。底面ヨコナギ。底面ヨコナギ。	完全。

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
3	No. 9	遺老骨	高台	11.5	8.4	7.2	白色陶 - 黒色芯	灰瓦	灰瓦	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	上手焼。
4	No. 5	遺老骨	高	11.0	8.2	5.8	白色陶皮	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	上手焼。
5	No. 8	遺老骨	高	12.2	7.6	5.7	黑色土 - 黑色芯	黒漆	黒	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	上手焼。
6	No.11	遺老骨	高	11.7	8.3	5.7	黑色土 - 黑色芯	灰瓦	灰瓦	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	上手焼 1/4 烧。
7	No.13	遺老骨	高	11.8	8.2	5.6	黑色土	灰瓦	灰瓦	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ、底面に赤茶褐色。	上手焼。
8	遺土	灰瓦	高	14.0	9.0	1.6	石	灰瓦	灰瓦	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、保護ヘタリナガ。	「萬葉」の印記あり。

H - 29

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
1	遺土	遺老骨	高	11.0	-	5.5	白色陶	黒漆	黒	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
2	遺土	土壤	高	11.0	-	4.2	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼 1/3 烧。
3	遺土	土壤	高	11.0	-	4.2	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
4	日 28 掘り立合土	土壤	高	11.0	-	3.1	黑色芯	灰瓦	黒	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼 1/4 烧。
5	遺土	土壤	高	11.0	-	4.2	石 - 石 - 石金	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
6	遺土	土壤	高	11.0	-	3.1	石	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
7	遺土	土壤	小壺	10.0	-	7.0	石 - 石 - 真	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
8	日 28 No. 4	土壤	高	-	15.1	16.0	石 - 石 - 真 - 鉛	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	掘前焼。

H - 30

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
1	No. 1	遺老骨	高台	11.0	8.0	6.7	黑色芯	灰瓦	黒	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。
1	No. 1	遺老骨	高台	11.0	7.6	6.3	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	難焼焼成。内面黒化。

H - 31

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
1	遺土	土壤	高	11.0	7.6	4.3	灰	灰	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。

H - 33

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
1	No. 1	石器	底瓦	16.0	15.7	1.1	灰	灰	-	-	-	全体に透かしてある。

H - 34

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考	
										裏面	前面		
1	No. 2 - 19	遺老骨	高	12.1	11.2	8.7	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼 1/2 烧。	
2	No. 4	遺老骨 高	高	10.0	-	5.0	白色陶 - 黑色芯	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
3	No.38	遺老骨 高	高	12.1	-	5.0	石 - 石 - 石 - 真	黒漆	黒	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
4	No. 2	底瓦	底瓦	-	11.0	9.9	白色陶 - 黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
5	No. 5	遺老骨	高	11.0	10.2	5.5	石 - 石 - 石金	灰瓦	黒	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
6	No.30	遺老骨	高	11.0	8.5	5.8	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
7	遺土	土壤	高	-	12.0	10.0	石 - 石 - 真	灰瓦	白	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
8	No. 1	土壤	高	15.0	10.0	4.5	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
9	No. 15	土壤	高	12.1	-	5.8	石 - 石 - 真	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
10	No.20	土壤	高	12.0	-	5.7	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
11	No.32	土壤	高	12.1	-	5.5	黑色芯	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	
No 出土位置 種別 器種 口径 底径 高さ 胎土 焼成 色調 適用、成・難易、文様等の特徴 保存状況・備考													
12	No.26	灰 A 瓦	15.0	12.2	6.0	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。部分的に剥離する所がある。	
13	No. 12 - 1	灰 A 瓦	12.0	8.0	4.2	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。部分的に剥離する所がある。	
No 出土位置 種別 器種 口径 底径 高さ 胎土 焼成 色調 適用、成・難易、文様等の特徴 保存状況・備考													
14	No.34	灰 A 瓦	10.5	12.2	1.8	石 - 石 - 真	黒漆	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。
15	No.24	灰 A 瓦	10.5	12.5	1.7	石 - 石 - 真	黒漆	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。
16	No.40	灰 A 瓦	10.2	14.5	1.2	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。	
17	No.41	灰 A 瓦	10.0	10.0	1.7	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。	
18	No.25	灰 A 瓦	10.0	10.0	1.8	石 - 石 - 真	黒漆	灰瓦	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。
19	No.37	灰 A 瓦	10.7	12.0	2.4	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。	
20	No.31	粗筋瓦	10.0	11.7	1.0	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。	上手焼。	
No 出土位置 種別 器種 全長 幅 厚さ 材質 焼成 色調 适用、成・難易、文様等の特徴 保存状況・備考													
21	No. 8	粗筋瓦	11.0	11.0	0.3	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内	-	15.1	高周波焼。	

H - 35

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	適用、成・難易、文様等の特徴		保存状況・備考
										裏面	前面	
1	No. 8	粗筋瓦	高	11.0	10.0	0.3	石 - 石 - 真	黒漆	灰	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	内面に暗緑色コマツギ、底面ヘタリナガ。	上手焼。高周波焼。

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	遺主	周沿部 磁	(129)	-	(35)	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	内面に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半残存。
3	木手マツダ 遺主	瓶	(104)	-	(27)	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半・側面1/4残存。 右側に残存。

H- 36

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺主	周沿部 磁	6.0	-	(26)	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	口縁部残存。 口縁部。
2	No. 2-4 5	土師器 磁	21.5	6.2	24.2	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半・側面1/4残存。 右側に残存。

H- 37

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺主	周沿部 磁	(16.0)	8.1	5.5	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	内面に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半残存。 外側に調節不同の調節あり。
2	遺主	周沿部 底付付属	(18.1)	8.8	7.7	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半残存。 側面焼成。
3	No. 3-4	周沿部 磁	(12.9)	6.5	12.7	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	はは記述。

H- 38

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	周沿部 底付付属	15.5	7.2	5.3	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半残存。
2	遺主	周沿部 底付付属	(14.1)	7.5	7.2	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	上半残存。
3	No. 18-19 20-22	周沿部 磁	-	15.2	13.0	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	周縁の焼成。

H- 39

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1-2	A 周沿部 磁	16.1	-	2.8	黄褐色	塑粘	焼成	黒	内面に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	1/2 残存。

H- 40

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	周沿部 磁	11.8	-	6.1	赤褐色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	2/3 残存。
2	カセット型	周沿部 磁	(11.6)	-	3.7	赤褐色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	1/3 残存。
3	遺主	周沿部 磁	(17.2)	-	(14.4)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	1/4 残存。
4	遺主	土師器 磁	(11.9)	-	(23.0)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	1/2 残存。
5	遺主	土師器 磁	(14.0)	-	10.0	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	口縁から断1/4残存。

H- 41

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カセット型	周沿部 磁	(12.6)	9.0	3.3	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	上半残存。
2	遺主	土師器 磁	(10.2)	-	6.0	白色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	口縁部1/2残存。 右側にかなり残った3つの字跡。

H- 42

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	周沿部 磁	(13.5)	9.6	4.2	白色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	上半・側面焼成。
2	No. 6	土師器 磁	(12.8)	-	3.7	黄色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	内側に調節不同の調節あり。
3	No. 5	遺主	(18.1)	-	(9.7)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	1/3 残存。
4	No. 8	遺主	(21.5)	-	(9.5)	白灰・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、底ハラカリガム、	焼成。

H- 43

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺主	周沿部 磁	(12.0)	-	(3.5)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	上半・側面焼成。
2	遺主	周沿部 底付付属	(12.0)	-	(3.7)	黄褐色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	内側に調節不同の調節あり。
3	遺主	底付	(17.8)	-	(7.4)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	高台部1/4 残存。
4	No. 5	周沿部 磁	(18.1)	-	(9.7)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	焼成。

H- 44

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 12	周沿部 底付付属	(16.8)	-	(9.0)	黄褐色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	口縁一部1/2残存。
2	No. 2	周沿部 底付付属	(13.6)	6.8	5.7	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	口縁部1/4・高台部残存。
3	No. 10	遺主	(18.7)	-	(5.5)	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	焼成1/4残存。
4	遺主	五平型	(12.2)	7.2	2.5	白色・黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	焼成。

H- 45

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 6	周沿部 底付付属	(12.7)	5.5	2.5	黄褐色	塑粘	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	高台部。

H- 46

No	出土位置	種別	基盤	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	断面、成・型形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺主	土師器 磁	(12.4)	4.2	2.5	1.7	陶	焼成	黒	外側に調節コリガム、底ハラカリガム、内面に調節コリガム、	上半残存。 内側に進むに通る焼成地。

No	出土位置	種別、標高	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・断面、文様等の特徴	残存状況・備考
2	裏土	土器部	130mm	(43)	古米・良石・雲母 含む	直壁	において	白褐色	馬頭形口縁ヨリゾン、底下にサクラ色。 内面に錐突ボタン、底にサクラ。	L-1周出。

H-47

No	出土品名	形態、寸法	状況	地質	成因	色調	風化、変形、整理、文様等の特徴		現状・状況・調査
							風化	整理、整形	
1	環状土器	土器部 16.4cm 内側部 14.2cm 外側部 13.2cm	裏面 裏面	黒褐色 灰青	自然	灰青 灰青→褐色	内側表面ガラス化、円錐トキナリ	無	L4地蔵。
2	環状土器	土器部 16.0cm 内側部 13.0cm 外側部 12.0cm	裏面 裏面	黒褐色 灰青	自然	灰青 灰青	内側表面ガラス化、円錐トキナリ、灰青 内側表面ガラス化、円錐トキナリ、灰青	無	L4地蔵。

H-48

No.	出典位置	種別	細別	口語	麻達	高さ	歯土	被成	色調	面感、成・形態、文様等の特徴	現状・状況・備考
1	第4回 金合宿 春日野 [106]	(未)	(未)	馬糞	馬糞	田原	馬糞	馬糞	白	馬糞ロコナフ。	14例有。
2	第4回 上総屋 [122]	(未)	春日野	青葉丸も	青葉	穂	馬糞	馬糞	白	内馬糞ロコナフタ、イマキタカズラ。	14例有(1~5例有)。
3	第4回 上総屋 小野路 [166]	田原	田原	馬糞	馬糞	青葉	馬糞	馬糞	白	内馬糞ロコナフタ、イマヘッカツヅリ。	13例(1~6例有)1~3例有。
4	No.1 上総屋 井上 [197]	田原	白石、其一・其二・其三	馬糞	馬糞	白石	馬糞	馬糞	白	内馬糞ロコナフタ、イマキタカズラ。	12例有。

H-4

地名	出土地点	断面	層位	地質	土質	地質、土壤、地形、文様等の特徴		測量範囲・調査
						地質	土壤	
1 鹿島	鹿島貝塚	(338)	(86)	4.2 黒葉土・素盞合土	砂質	黄灰	馬鹿山層(3-4)付近。断面はカットアンドリフティング。地盤は堅く、手で土を握ると粉々にならなかった。	山麓部1.4ha。
2 鹿島	鹿島御前塚	(236)	(74)	4.2 黑葉土・素盞合土	砂質	黄白	馬鹿山層(3-4)付近。断面はカットアンドリフティング。地盤は堅く、手で土を握ると粉々にならなかった。	1.4ha。
3 鹿島	城也原 芝	(23.9)	-	11.2 黑葉土・素盞合土	砂質	黄白	馬鹿山層(3-4)付近。断面はカットアンドリフティング。地盤は堅く、手で土を握ると粉々にならなかった。	山麓-丘陵1.4ha。
4 鹿島	上緑野 塚	(11.7)	-	13.0 灰葉土・石質	泥炭	灰白-褐色	馬鹿山層(3-4)付近。断面はカットアンドリフティング。地盤は堅く、手で土を握ると粉々にならなかった。	1.4ha。
5 鹿島	上緑野 塚	(11.6)	-	12.6 灰葉土	砂質	灰白-褐色	馬鹿山層(3-4)付近。断面はカットアンドリフティング。地盤は堅く、手で土を握ると粉々にならなかった。	1.4ha。

H-52

No.	出土位置	種類	形態	高さ	幅	厚さ	成形	色調	風面、蓋・盤形、文様等の特徴		現状・状況・備考	
									風面	蓋・盤形		
1	No. 6	須恵器 盖	輪郭線	12.0	小円筒	壁根	内側輪郭線コリナ、外側ハラヘタ、足部リカナ。	灰	内側輪郭線コリナ、外側ハラヘタ、足部リカナ。	1.2kg、 手標示		
2	No. 1	須恵器 盖	輪郭線	13.3	7.8	3.5	小丸底足付	壁根	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	3kg、 完整。	
3	No. 2	須恵器 盖	輪郭線	11.0	6.6	4.2	平底足付	壁根	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	1.5kg、 完整。	
4	No. 5	須恵器 盖	輪郭線	12.2	9.3	3.8	平底 色刷	壁根	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	1.5kg、 完整。	
5	No. 6	須恵器 盖	輪郭線	12.7	7.8	3.8	小丸底足	壁根	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	内側輪郭線コリナ、脚部リカナ。	1.5kg、 完整。	
6	前庭廻上	土器類	素面	17.0	16.0	6.0	石突、其の背面	板根	内側輪郭線コリナ、ハラヘタ。	内側輪郭線コリナ、ハラヘタ。	1.8kg、前庭上 1.8kg	

H-53

出力位置	規則性	複数	口座	前頭	高さ	歯土	被窓	窓	色調	透視、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
										左側	右側	
1 左	3字以上 空白未	140		160	基	中	左	右	白	内凹口頭はオカナギで「ナ」。 内凹口頭はオカナギ、15下ナ。		13個・削除1/4残存。
2 右	3字以上 空白未		120	基	中	中	左	右	白	内凹ナ。		留13・右内凹1/4残存。

No. 1

レ	属名	学名	原産地	花色	花期	葉色	特徴	栽培法	栽培地	栽培年数	栽培者
1	薔薇	月季花	(120)	(37)	白色、单瓣	单瓣	浓重香	月季花品种丰富，栽培广泛。	月季园	100年。	王太太
2	薔薇	蔷薇花	(120)	-	红色	单瓣	香	月季花品种丰富，以红色为主。	月季园	100年。	李太太

100

1	高橋 伸也	(115)	38歳	男性	新規	新規	内臓CT検査コリナ、送付下さい。	1回目(1.2kg)。
2	カマド 駿士	(256)	32歳	女性	既往	既往	内臓CT検査コリナ、既テキサギ。	1.4kg。

100

	地名	面積	高さ	標高	水系	流域	流域面積	流域平均高さ	流域平均標高	流域平均水系距離	流域平均斜度	流域平均坡度
1	新田	137	43	350	黒川	黒川	45.4	10.4	350	1.4	4.5	4.5
2	御子ヶ原	1321	59	357	黒川	黒川	1321.0	10.4	357	1.4	4.5	4.5
3	土居原	1366	59	343	黒川	黒川	1366.0	10.4	343	1.4	4.5	4.5

三

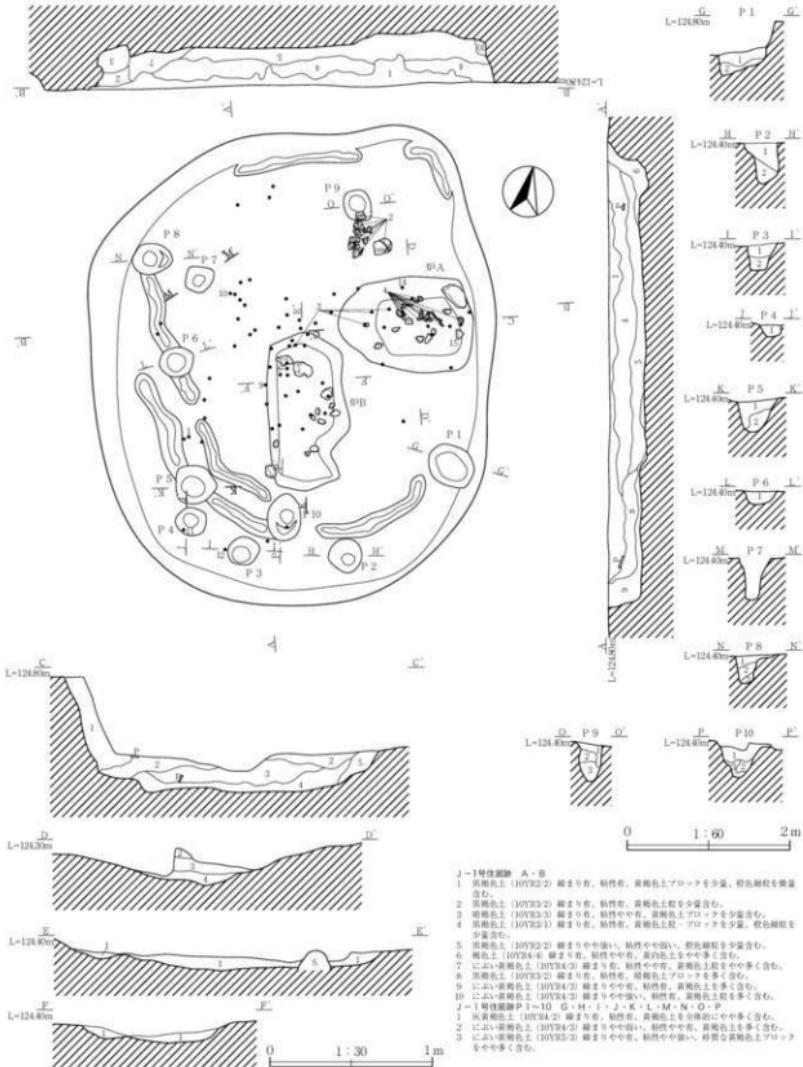
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	耐土	焼成	色調	崩壊、成形、形態、文様等の特徴	既往状況・備考
1	No.1 想原古墳	円筒	1100	—	142	高さ 1100	耐土 142	焼成 モリツク	馬鹿山(馬鹿山)モリツク 内輪は馬鹿山モリツク 外輪はモリツク	馬鹿山 内輪は馬鹿山 外輪はモリツク	既往
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	耐土	焼成	色調	崩壊、成形、形態、文様等の特徴	既往状況・備考
2	No.2 丸太	瓶	307	164	24	丸太・直筒・真耳	耐土 307	焼成 モリツク	内輪有背輪、外輪無 直筒、背輪モリツク	内輪有背輪、外輪無 直筒、背輪モリツク	既往状況

1

D-7											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	土器部	井	13.3	6.7	1.8	青白含む	素燒	浅黄	内側に網目コマツナ、外側にリカマツナ、底部に赤茶。	△△馬鹿。
D-8											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	複数	土器部	井	11.14	5.05	1.09	青白含む	素燒	黄	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ、底部にリカマツナ。	△△馬鹿。
D-12											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	複数	土器部	井	11.11	6.5	1.9	青白含む	素燒	黄	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ、底部にリカマツナ。	△△馬鹿。
D-13											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1~2	土器部	井	11.17	8.0	2.9	青白含む	素燒	黄	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ、底部にリカマツナ。	△△馬鹿。
2	No. 3	平底	井	10.8	5.2	1.9	青白含む	素燒	黄	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ。	△△馬鹿。
D-22											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	複数	土器部	井	11.37	9.6	5.2	青白含む	素燒	灰	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ、底部に赤茶。	△△馬鹿。 鏡光有。
D-23											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	複数	土器部	井	11.36	8.5	4.2	青白含む	素燒	黄	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ。	△△馬鹿。
2	複数	土器部	井	11.35	-	4.3	青白・青・薄青	素燒	灰	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ、底部にリカマツナ。	△△馬鹿。
D-25											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	複数	土器部	井	11.12	-	4.3	青白含む	素燒	灰	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ。	△△馬鹿。
2	複数	土器部	井	11.11	-	4.3	青白含む	素燒	灰	外側に網目コマツナ、内側にリカマツナ。	△△馬鹿。
遺構											
No.	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	古墳B A	陶土器	井	-	14.3	9.1	白・灰白含む	素燒	灰	上部は手で丁寧に削り出された井。下部は手で削り出された井口が残る。土色は白い陶土と灰白色の陶土が混在する。	上部は手で削り出された井。下部は手で削り出された井。
2	1~15 復元	陶土器	井	11.76	-	14.7	白・青・薄青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
3	古墳B	陶土器	井	11.11	-	14.6	白・青・薄青・ 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
4	古墳B 2	陶土器	井	11.61	-	14.0	白・灰白含む、 青白含む	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
5	古墳B D	陶土器	井	11.76	-	14.0	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
6	古墳B 1	陶土器	井	11.20	-	12.0	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
7	古墳B	陶土器	井	-	11.6	1.0	白・青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
8	古墳B	陶土器	井	-	11.0	1.1	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
9	古墳B 3	陶土器	井	11.60	-	14.0	白・灰白含む、 青白含む	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
10	古墳B A 2	陶土器	井	11.60	-	14.0	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
11	A 2	陶土器	井	10.51	-	13.0	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	手で削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
No.											
No.	出土位置	種別	器種	最大径	厚さ	土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	古墳C 1	陶土器	井	3.0	2.8	1.4	白色、青白含む	素燒	灰	上部は手で丁寧に削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
2	古墳C 2	陶土器	井	3.3	2.9	1.1	白・青・薄青	素燒	灰	上部は手で丁寧に削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
3	遺構B	陶土器	井	2.5	2.4	1.2	白・灰白含む、 青・墨青	素燒	灰	上部は手で丁寧に削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
4	遺構B 1	陶土器	井	2.7	2.7	1.9	白・青・薄青、 青・墨青	素燒	灰	上部は手で丁寧に削り出された井。下部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
No.											
No.	出土位置	種別	器種	厚さ		土色	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	墓室D	石器	石斧	21.3	6.1	3.0	-	-	300A	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
2	墓室E	石器	石斧	12.9	6.9	2.9	-	-	3547	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
3	墓室F	石器	石斧	10.3	3.9	1.7	黑色	-	4042	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
4	墓室G	石器	石斧	9.2	4.2	1.8	黑色	-	324	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
5	墓室H	石器	石斧	10.4	4.0	1.3	黑色	-	563	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
6	墓室I	石器	石斧	10.3	4.1	1.7	黑色	-	967	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
7	墓室J	石器	石斧	12.6	2.5	0.4	黑色	-	15	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。
8	遺構E	石器	石斧	24.6	1.8	0.4	黑色	-	13	表面・裏面共に手で削り出された井。上部は手で削り出された井。	△△馬鹿。

No	出土位置	種別	断面	底径	高さ	土質	焼成	色調	基部、成・型態、文様等の特徴	生存状況・備考
28	塗付壁 C-1	瓦器	筒瓦	(128)	-	37 黒丸瓦、白・灰丸 瓦	微燃 微燃	灰青 灰青	内面にクロコガラ模様と丁寧なハカリ目。口縁部ヨコゲ、火照部ヨコゲ。 内面にヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	上り丸瓦。 火照部 (66) cm.
29	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(122)	-	24 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	丸瓦。
30	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(126)	-	35 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	内面ヨコゲ丸瓦。
31	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(128)	-	28 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	上り丸瓦 (4) 例示。
32	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(121)	-	32 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	上り丸瓦。
33	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(120)	-	30 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	上り丸瓦。
34	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(118)	-	30 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	上り丸瓦 (2) 例示。
35	D-20 壁上	瓦器	筒瓦	116	-	33 黒丸瓦	微燃	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	火照部 (12) cm.
36	遺構外 土塹各所	瓦器	筒瓦	(148)	(76)	56 口沿程、チャード 瓦	微燃	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。花瓶形表面片側端部破け。	上り丸瓦。
37	遺構外 瓦筒 瓦筒内側	瓦器	筒瓦	(187)	92	53 白・黄色斑、灰丸 瓦	微燃	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。花瓶形表面片側端部破け。	上り丸瓦。
38	塗付壁 A-2	瓦器	筒瓦	(122)	(89)	44 白・黃色斑	微燃	灰火	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。内面端部破け。	内面ヨコゲ (4) 例示。
39	塗付壁 A-2	瓦器	筒瓦	(126)	(76)	33 白・黑・灰丸瓦	微燃	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。内面端部破け。	上り丸瓦。
40	遺構外 瓦筒	瓦器	筒瓦	(240)	-	132 白・黑色瓦	微燃	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。内面端部破け。	内面ヨコゲ (4) 例示。
41	遺構外 土塹	瓦器	筒瓦	(211)	-	122 白・灰石巻瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。内面端部破け。	上り・斜傾上 (2) 例示。
42	遺構外 有孔排水沟	瓦器	筒瓦	(108)	-	30 素面瓦	高火	灰青	内面にヨコゲヨコゲ、口縁部ヨコゲ。	丸瓦。
No 出土位置 種別 断面 底径 孔径 土質 焼成 色調 重量 基部、成・型態、文様等の特徴 生存状況・備考										
38	塗付壁 C-2	土器足	三足	(86)	-	24 黒丸瓦、白色砂 粒・小石	微燃 (24) 墓	深青 灰青	内面は子供瓦、ハラナ張出子供による内面剥離。 内面は火照による光沢が認められる。内面端部 直線的に口縁部ヨコゲの凹凸がある。	内面 (1.1) kg、火照部 (0.5) kg、子供部 (0.4) kg。 直線部 (0.4) kg。
39	塗付壁 D-2	土器足	三足	26	12	92 素面瓦	高火	灰火	29 内面は直線で中央付近に最高点を有する。	上り丸瓦。
40	遺構外	瓦筒内側	筒瓦	日本	-	宽度 寛 13 年 (180)	灰	22.1 mm	61 mm 内面ヨコゲ	丸瓦。

J-1



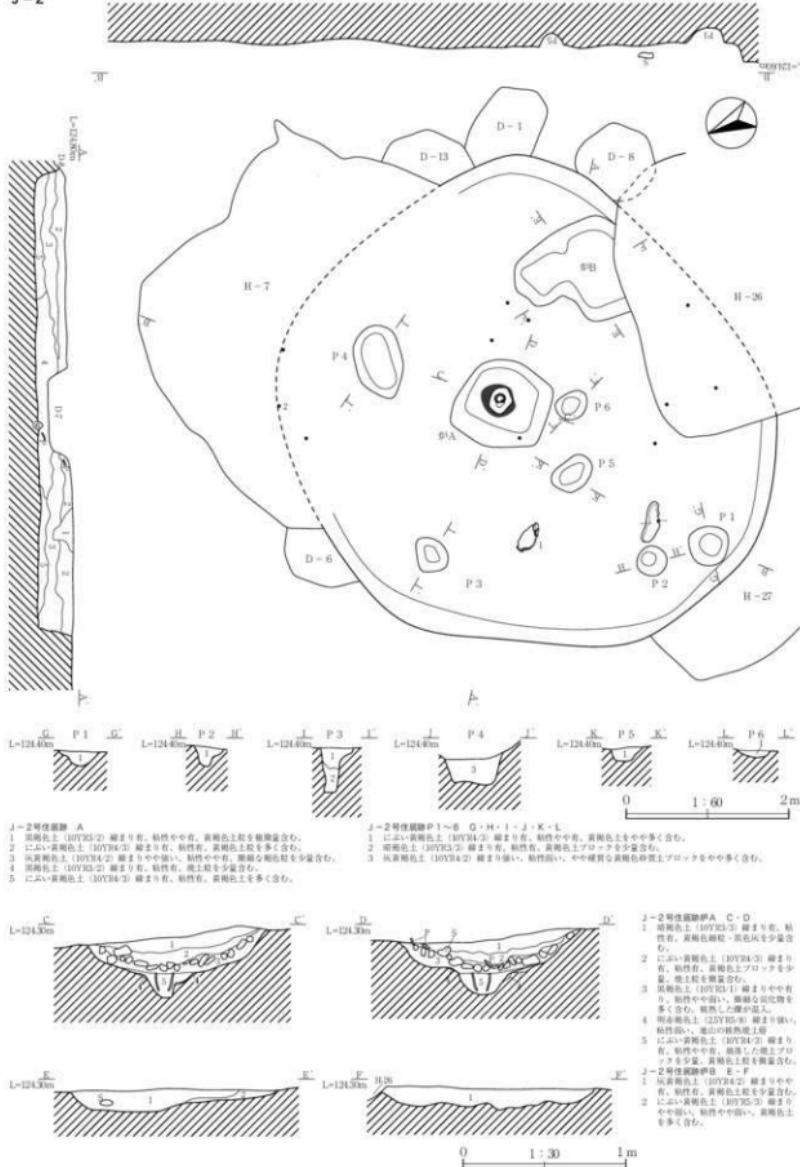
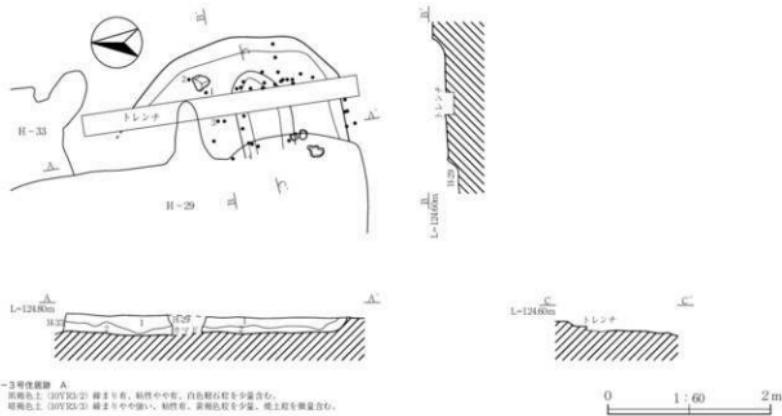
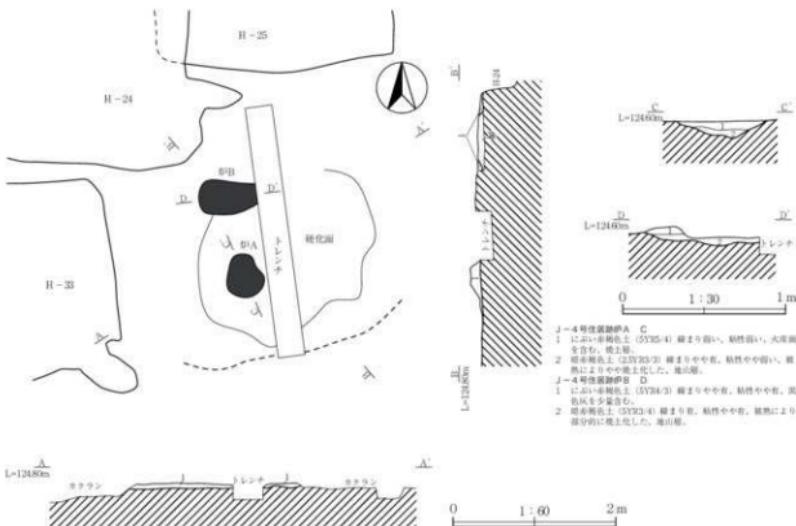


Fig.10 (116) J-2号住居跡



J-4



J-4 常住居屋 A・B
1 黄褐色土 (3Y3R/2) 硬さ有、粘性やや有、黄褐色土ブロック・地上松を少量含む。

Fig.11 (116) J-3·4号住居跡

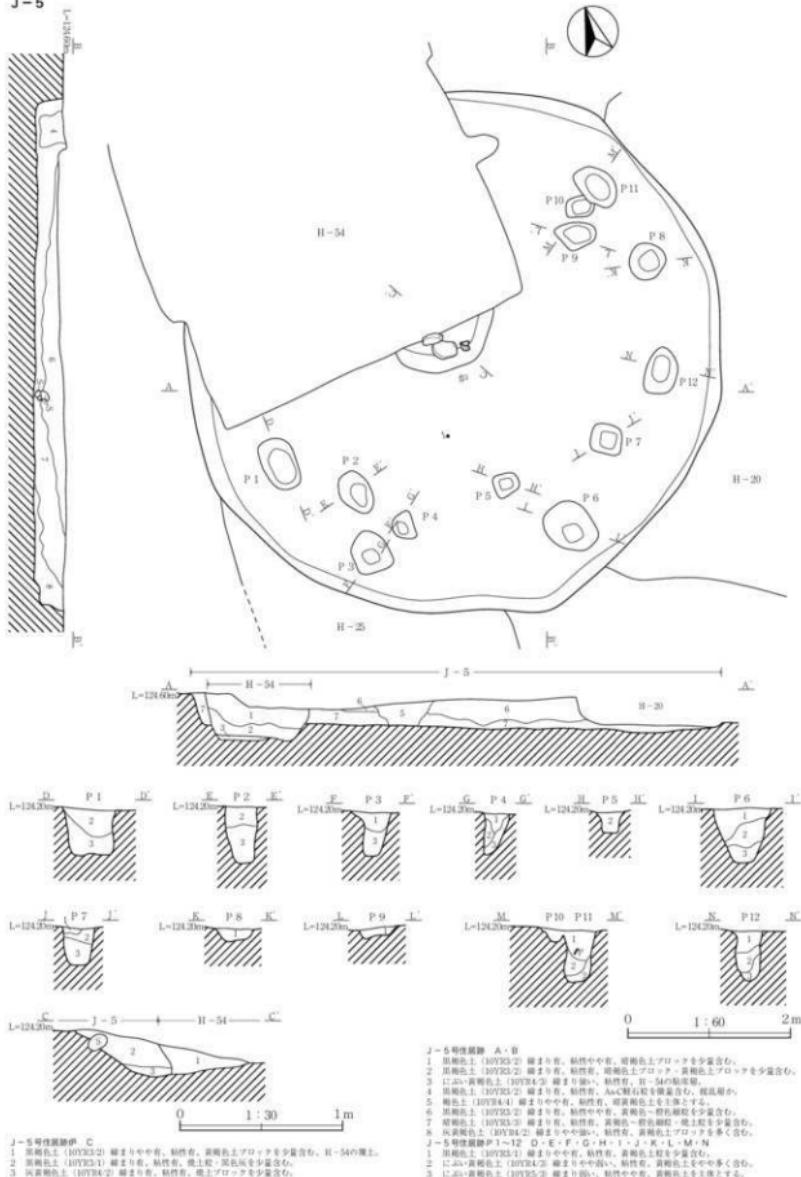
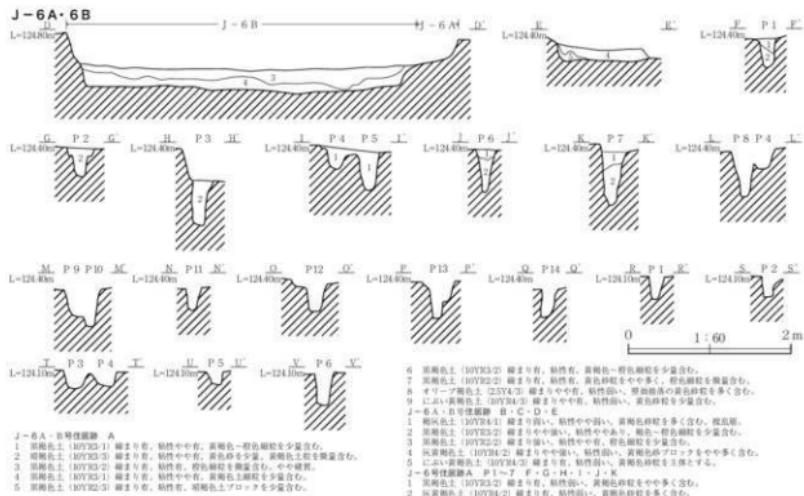


Fig.12 (116) J - 5号住居跡

J-6A-6B



Fig.13 (116) J-6 A·6 B号住居跡



J-7

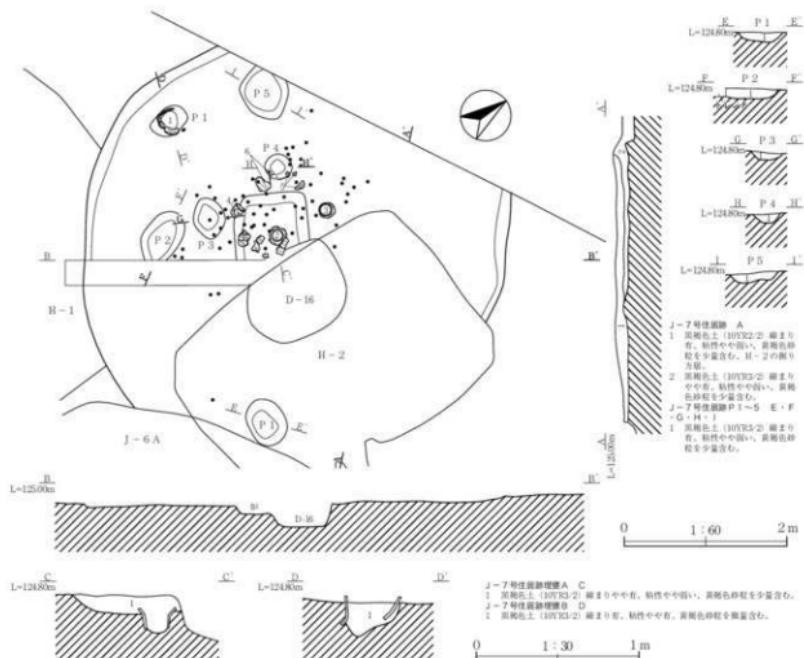


Fig.14 (116) J-6 A・6 B・7号住跡層断面

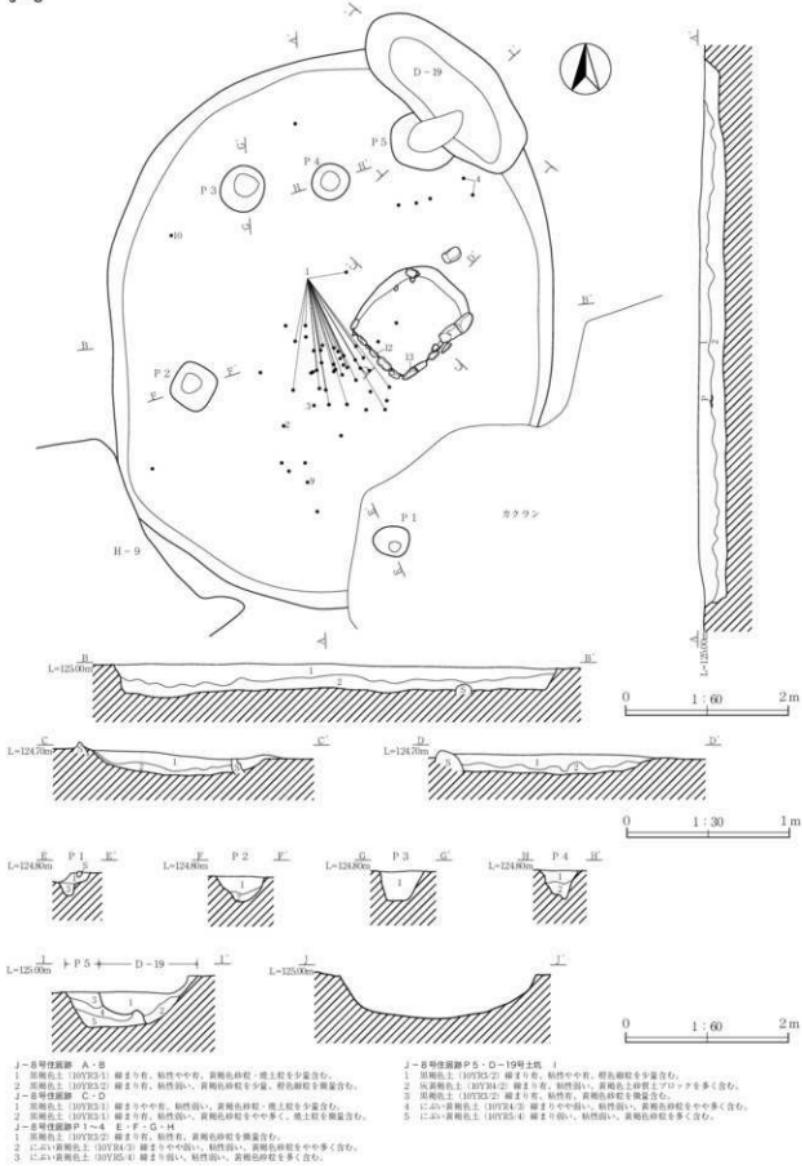
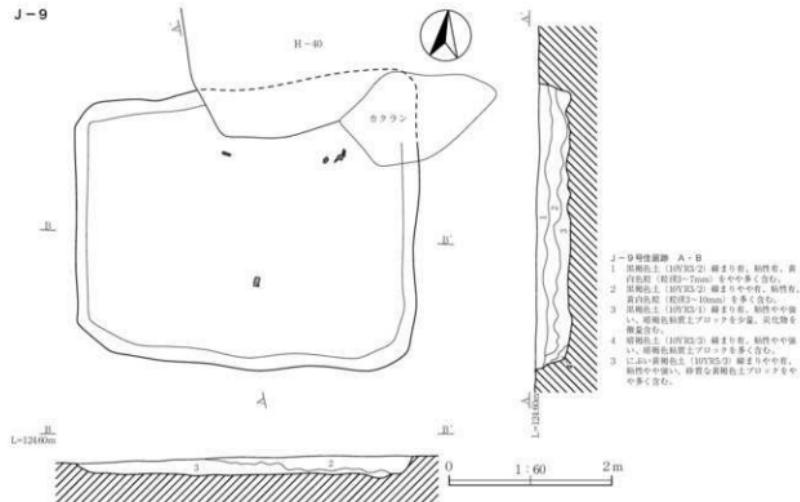


Fig.15 (116) J-8号住居跡、D-19号土坑

J-9



J-10

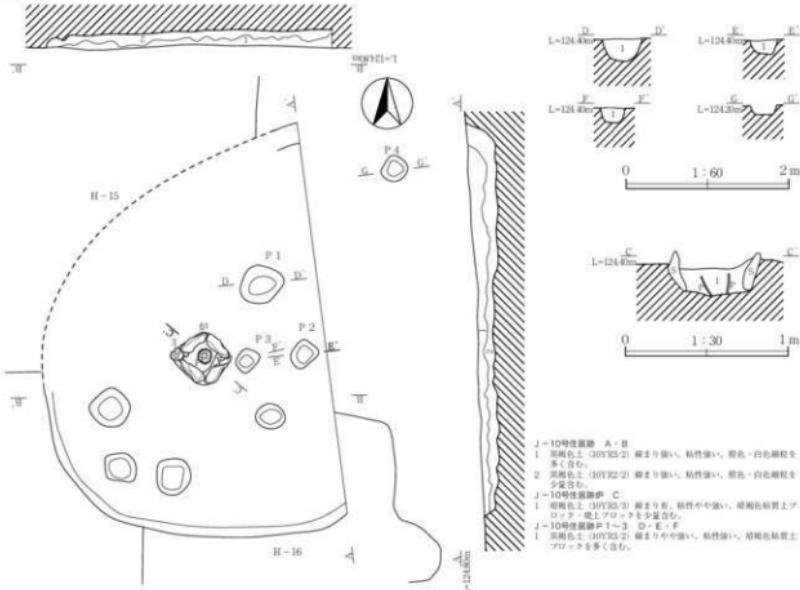
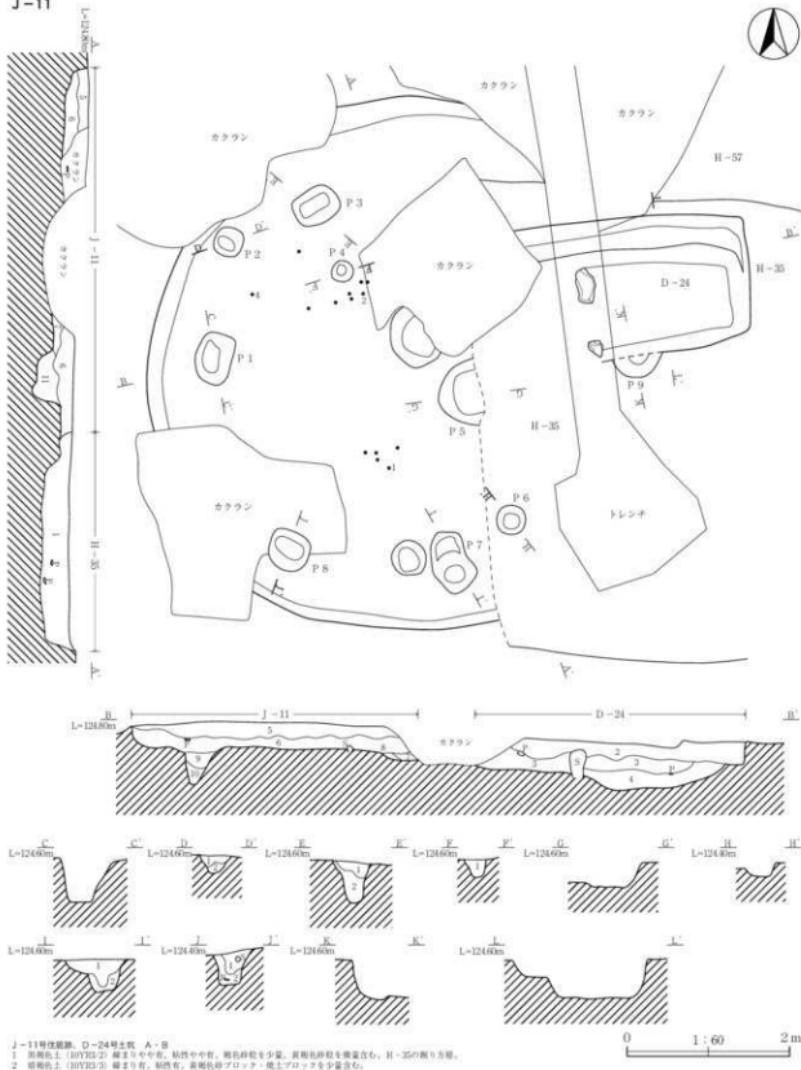


Fig.16 (116) J-9・10号住居跡

J-11



J-11号住跡、D-24号土壇 A・B

- 1 黄褐色土 (BOY152-2) 硬さ 3 やや柔らか、粘性やや有、褐色鉄鉱を少量含む。黄褐色鉄鉱を少量含む。H-35の削り土層。
- 2 布褐褐色土 (BOY152-3) 硬さ 3 や有、粘性有、黃褐色鉄鉄オーライト、他土プロックを少量含む。
- 3 布褐褐色土 (BOY152-4) 硬さ 3 や有、粘性有、黄褐色鉄鉄オーライト、他土プロックを多く含む。
- 4 黑褐色土 (BOY152-5) 硬さ 3 や有、粘性やや有、褐色鉄鉱を少量含む。
- 5 黑褐色土 (BOY152-6) 硬さ 3 や有、粘性やや有、褐色鉄鉱を少量含む。
- 6 黑褐色土 (BOY152-7) 硬さ 3 や有、粘性やや有、黄褐色鉄鉱を少量含む。
- 7 黑褐色土 (BOY152-8) 硬さ 3 や有、粘性やや有、黄褐色鉄鉱を少量含む。
- 8 にじみ黄褐色土 (BOY152-9) 硬さ 3 や有、粘性有、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。
- 9 黑褐色土 (BOY152-10) 硬さ 3 やや柔らか、粘性弱い、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。
- 10 灰褐色土 (BOY152-11) 硬さ 3 や有、粘性弱い、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。
- 11 黑褐色土 (BOY152-12) 硬さ 3 やや柔らか、粘性弱い、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。
- 12 黑褐色土 (BOY152-13) 硬さ 3 や有、粘性弱い、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。
- 13 黄褐色土 (BOY152-14) 硬さ 3 や有、粘性弱い、黄褐色鉄鉱をやや多く含む。

Fig.17 (116) J-11号住跡

J-12·13

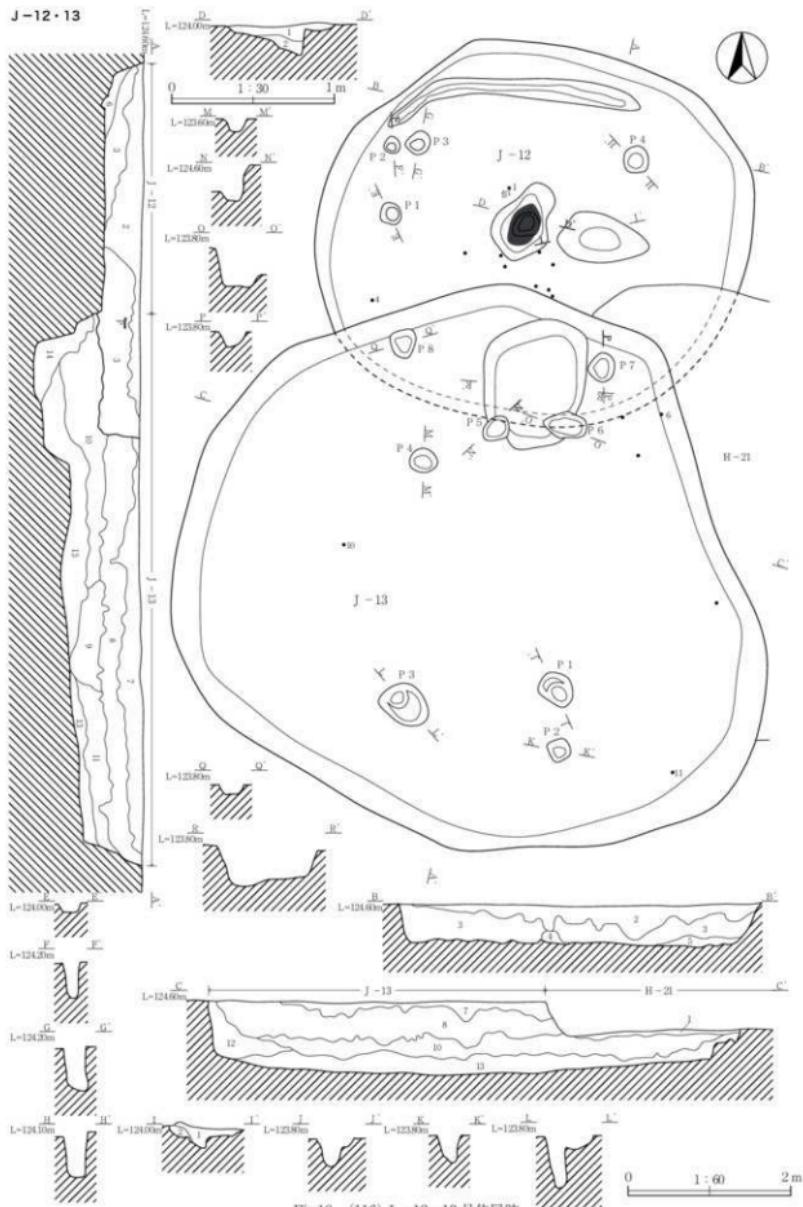


Fig.18 (116) J-12·13号住居跡

- J-12・13号菌糸 B-C

 - 1) 黒腐病菌 (DyFG 12) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸プロックを多く含む。日-21の船底に見られる。
 - 2) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部を多く含む。
 - 3) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸プロックを少し含む。
 - 4) 黒腐病菌 (DyFG 12) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色の上部と、褐色の下部を多く含む。
 - 5) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色の上部と、褐色の下部を多く含む。
 - 6) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色の上部と、褐色の下部を多く含む。
 - 7) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部、褐色菌糸下部を多く含む。
 - 8) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部、褐色菌糸下部を多く含む。
 - 9) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部、褐色菌糸下部を多く含む。
 - 10) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部、褐色菌糸下部を多く含む。
 - 11) 黒腐病菌 (DyFG 13) 繁殖するやいのう、初期は、黄褐色菌糸上部、褐色菌糸下部を多く含む。

- 12 黄斑地柏 (1094/2) 緑葉やや多い、粘性小叶。黄斑地柏土を多く、被毛の黄斑地柏アリカラを多少。触葉細胞を複数含む。

13 ひふき地柏 (1094/2) 緑葉や多い、粘性小叶。根部に、黄斑地柏土を多く。葉に、程々黄斑地柏アリカラを多少含む。

14 黄斑地柏 (1094/2) 緑葉やや多い、粘性小叶。黄斑地柏アリカラを多少含む。小中網眼。

15 12号母地柏 (1094/2) 緑葉やや多い、粘性小叶。黄斑地柏アリカラを多少含む。

16 地柏母 (1094/2) 緑葉多い、粘性有。地上枝上、枝に少含む。

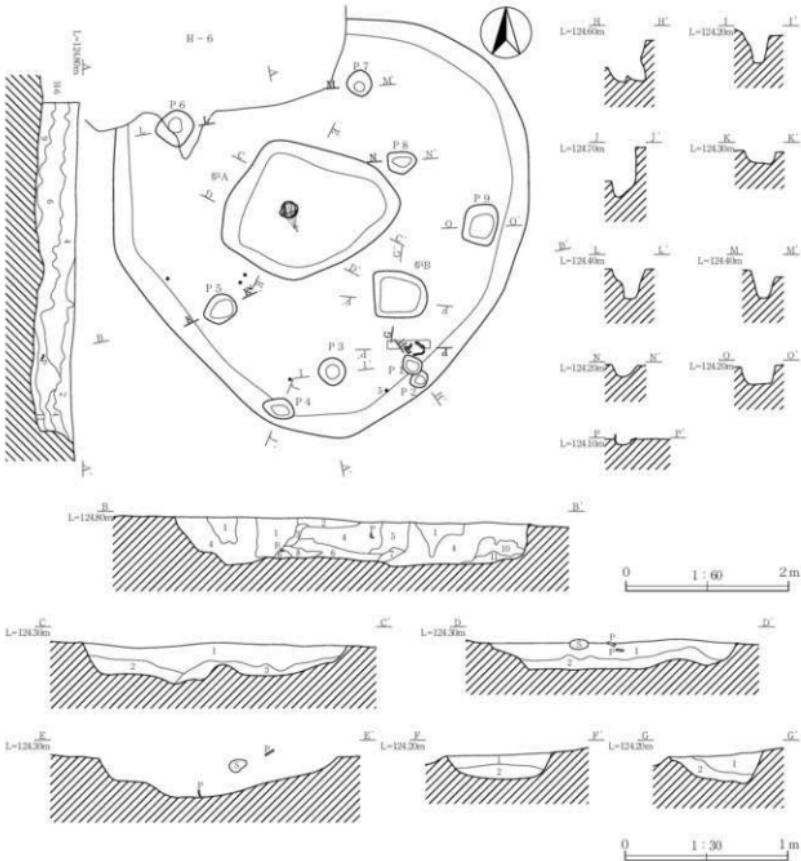
17 地柏母 (1094/2) 緑葉多い、粘性有。地下枝上アリカラを多く。地中土を少し含む。

18 12号母地柏 1

19 12号母地柏 (1094/2) 緑葉やや多い、粘性小叶。黄斑地柏土をやや多く、白粉地柏アリカラを多少含む。

20 ひふき地柏 (1094/2) 緑葉や少、粘性小叶。黄斑地柏土を少含む。

J-14



- J-149 佐藤屋 A・B

 - 1 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少やや小粒、粒形有、黄褐色土ブロッケをやや多く含む。粗糲感。
 - 2 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少、粒形や細白、白色、粗糲感を多少含む。
 - 3 にんじん巻白、HOY24 3 缶 稀少、粒形有、粗糲土塊を多く含む。粗糲感を幾分含む。
 - 4 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少、粒形有、黄褐色土ブロッケをやや多く含む。
 - 5 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少、粒形有、粗糲感を多少含む。
 - 6 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少やや小粒、粒形圓、黃褐色土ブロッケを多く含む。
 - 7 鮎巻白、HOY23 3 缶 稀少やや小粒、粒形圓、黄褐色土ブロッケをやや多く含む。
 - 8 鮎巻白、HOY24 2 缶 稀少やや小粒、粒形圓、黄褐色土ブロッケをやや多く含む。
 - 9 鮎巻白、HOY24 2 缶 稀少やや小粒、粒形圓、黄褐色土ブロッケを多く含む。小粒を多く含む。

Fig.19 (116) J-12·13·14号住居跡

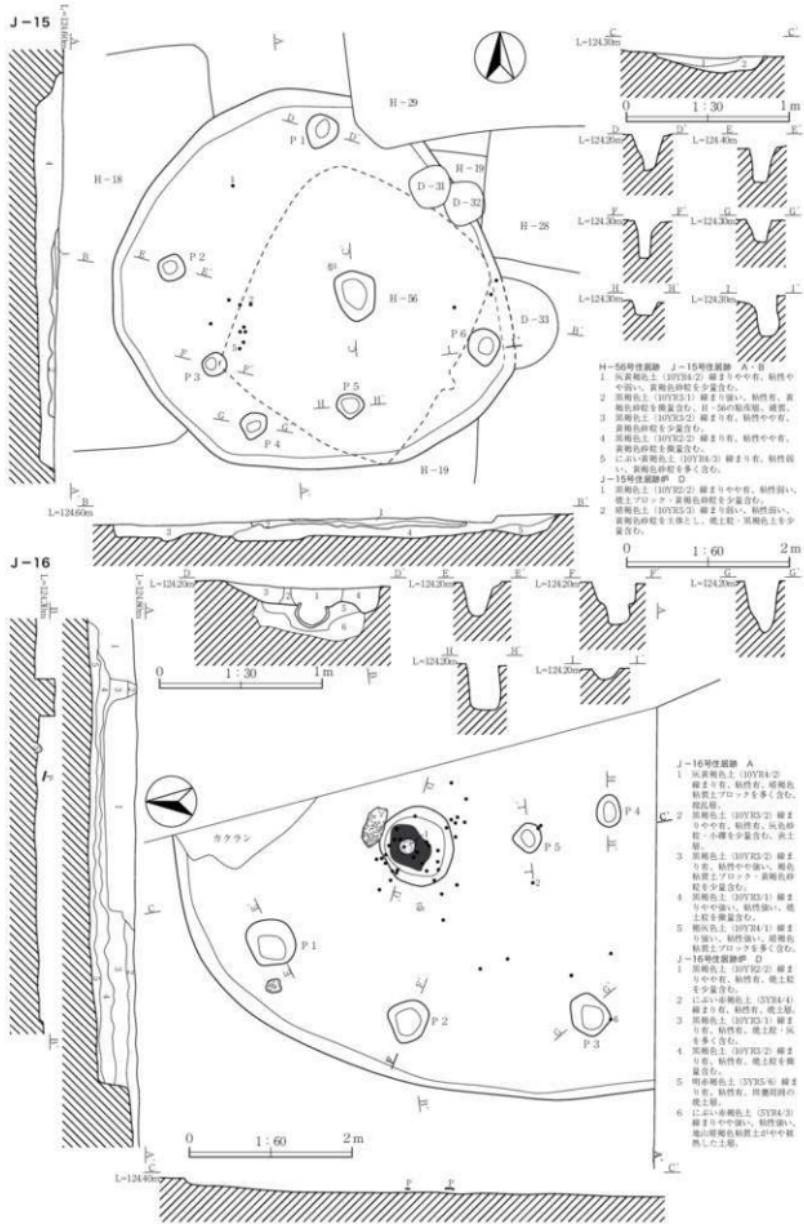
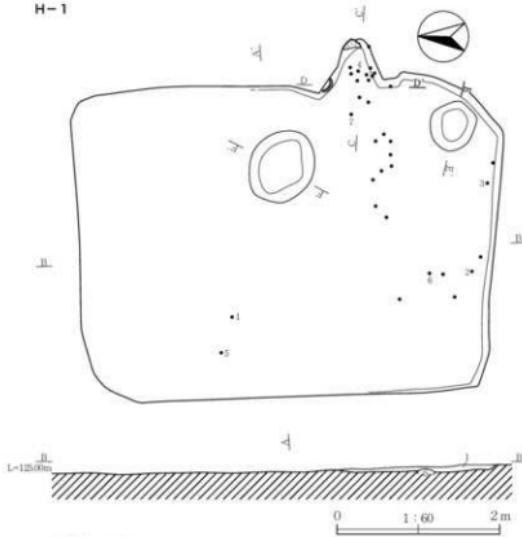


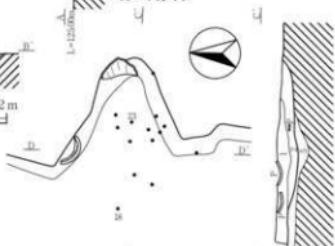
Fig.20 (116) J-15·16号住居跡

H-1

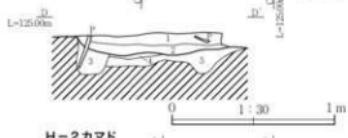
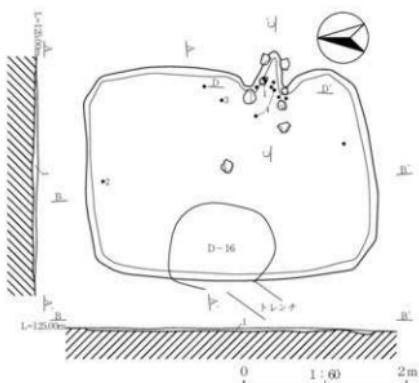


- H-1号住居跡 蔵穴 E
1 黒褐色土 (10YR3/2) 緩まりやや有、粘性やや弱い。
H-1号住居跡内土質 F
1 黑褐色土 (10YR3/1) 緩まりやや有、粘性有、地表付
・褐色粘土質フロクを少量含む。

H-1カマド



H-2



H-2カマド

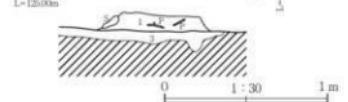
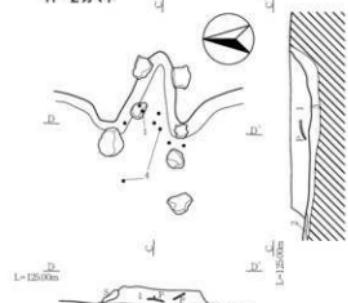
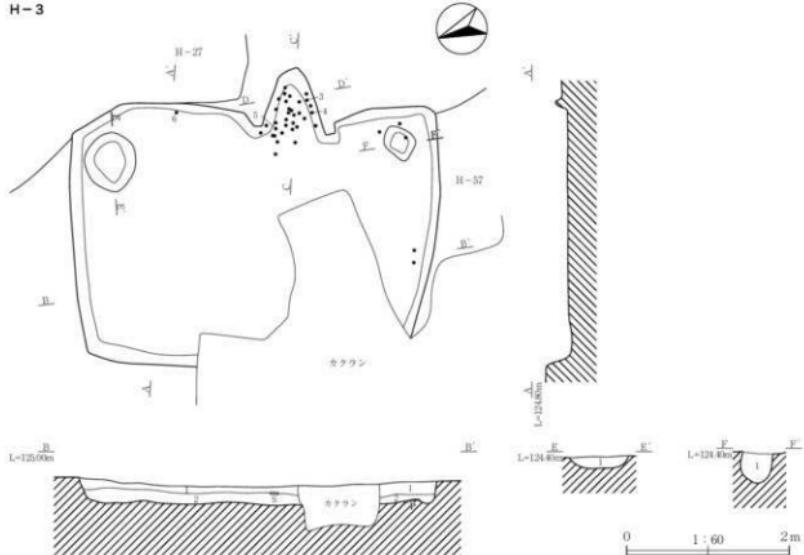


Fig.21 (116) H-1・2号住居跡

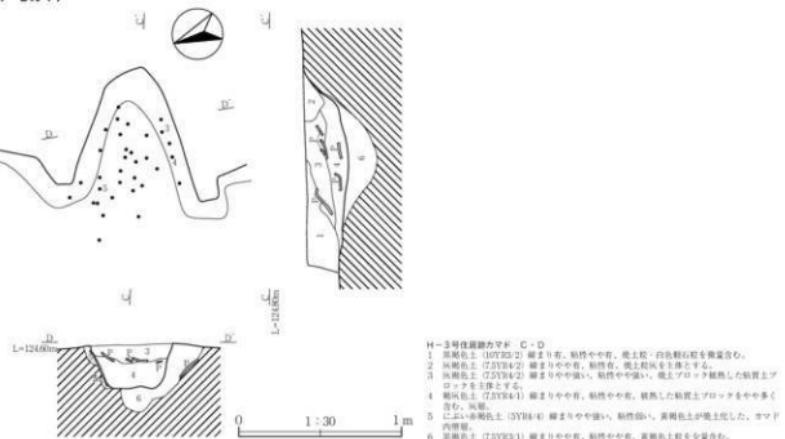
H-3



H-3 住居跡 B

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 粘まりやや弱い。粘性有。白色粗石を微量含む。
- 2 黄褐色土 (10YR3/2) 粘まりやや中弱い。粘性弱い。白色粗石と黄褐色土ブロックを微量含む。
- H-3号住居跡
- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 粘まり有。粘性有。黄褐色土ブロックを少量含む。
- H-3号住居跡窓穴 F
- 1 黄褐色土 (10YR4/2) 粘まりやや有。粘性有。黄色灰・灰白粘質土ブロックを多く含む。

H-3カマド

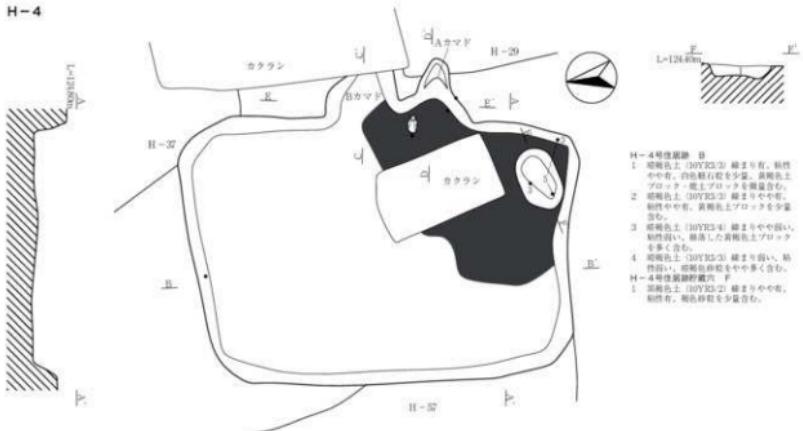


H-3号住居跡カマド C-D

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 粘まり有。粘性やや有。地土松・白色粗石を微量含む。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2) 粘まりやや中有。粘性有。地土松灰を主体とする。
- 3 灰褐色土 (7.5YR4/2) 粘まりやや中弱い。粘性やや強い。地土ブロック加熱した粘質土ブロックを含む。
- 4 亂向色土 (7.5YR4/1) 粘まりやや有。粘性やや有。熟した粘質土ブロックをやや多く含む。灰暗。
- 5 二重層灰褐色土 (5YR4/4) 粘まりやや強い。粘性弱い。黄褐色土が地土化した。カマドの窓壁。
- 6 黄褐色土 (7.5YR3/1) 粘まりやや有。粘性やや有。黄褐色土を少量含む。

Fig.22 (116) H-3号住居跡

H-4



H-4カマド

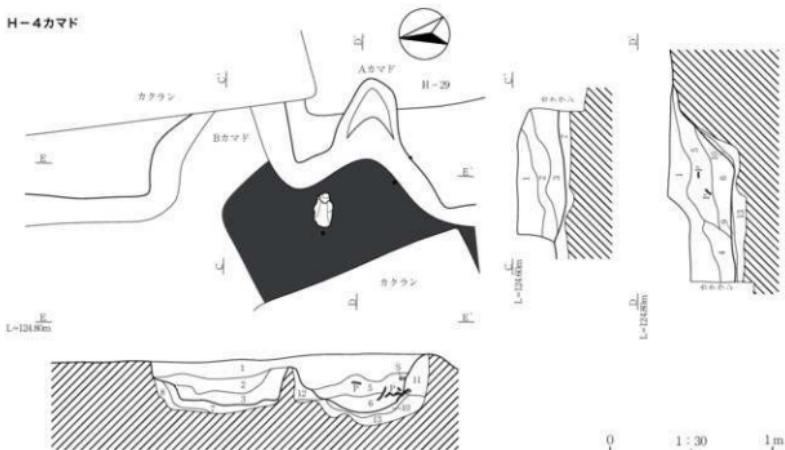


Fig.23 (116) H-4号住居跡



H-5 住居跡 A
1. 黄褐色土 (H-5a) 硬さよりや有。粘性や少有。白色粗石有。小礫を微量含む。
2. 白色粗石土 (H-5b) 硬さよりや有。粘性や少有。粘粗土を少量含む。白色粗石粒を微量含む。



H-5 住居跡 A・B・C
1. 黄褐色土 (H-5a) 硬さよりや有。粘性や少有。白色粗石有。小礫を微量含む。
2. 白色粗石土 (H-5b) 硬さよりや有。粘性や少有。白色粗石粒・網状物ブロックを少額含む。
3. 黄褐色土 (H-5c) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを少額含む。
4. 黄褐色土 (H-5d) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロック・地土粒を少額含む。
5. 黄褐色土 (H-5e) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを多く含む。
6. 黄褐色土 (H-5f) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを多く含む。
7. 黄褐色土 (H-5g) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを多く含む。
8. 黄褐色土 (H-5h) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを多く含む。
9. 黄褐色土 (H-5i) 硬さよりや有。粘性や少有。黄褐色土ブロックを多く含む。

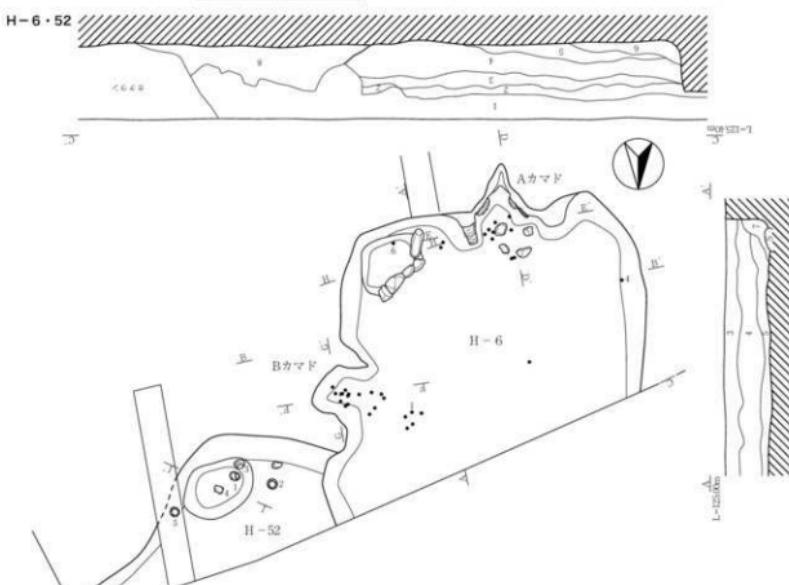
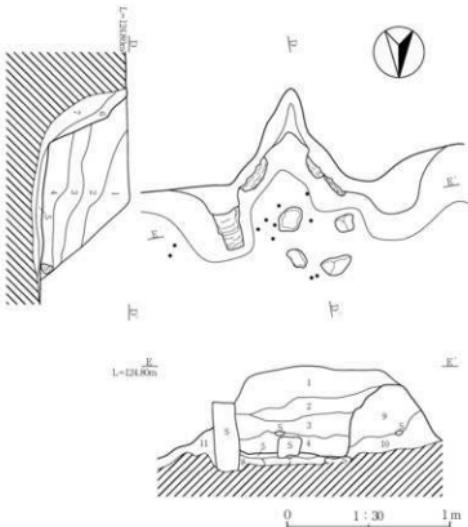
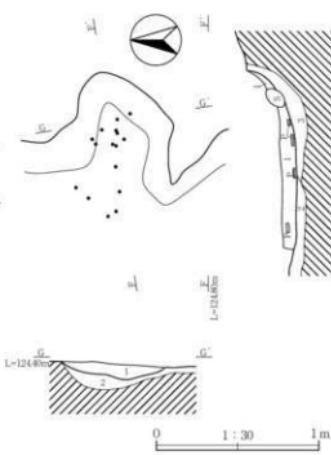


Fig.24 (116) H-5・6・52号住居跡

H-6 A カマド



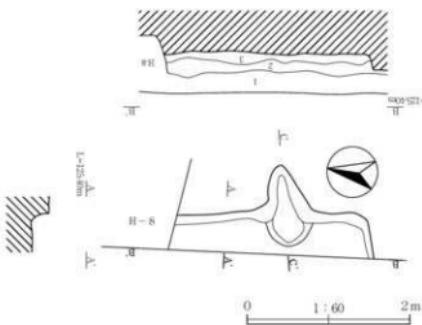
H-6 B カマド



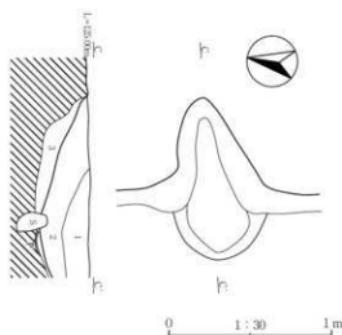
H-6号住居跡 A カマド D-E

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、白色粗粒石礫を少量含む。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりやや有、粘性有、黄褐色土層・黒色炭をやや多く、底土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 (23YR3/1) 線まりやや有、粘性弱い、黑色炭を多く、底土層を少量含む。
- 4 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや有、粘性有、黑色炭を多く、底土層を少量含む。
- 5 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや有、粘性有、黑色炭を多く、底土層を少量含む。
- 6 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりやや有、粘性弱い、白色砂・白色灰・白色炭を多く含む。カマド裏部。
- 7 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや有、粘性有、白色砂・白色灰をやや多く含む。
- 8 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや有、粘性有、黄褐色土ブロックをやや多く含む。カマド裏部。
- 9 黄褐色土 (10YR3/1) 線まり有、粘性有、黄褐色土ブロックを少量含む。カマド裏部。
- 10 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、黄褐色土ブロックを少量含む。カマド裏部。
- 11 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、黄褐色土層・ブロックを少量含む。

H-10



H-10 カマド



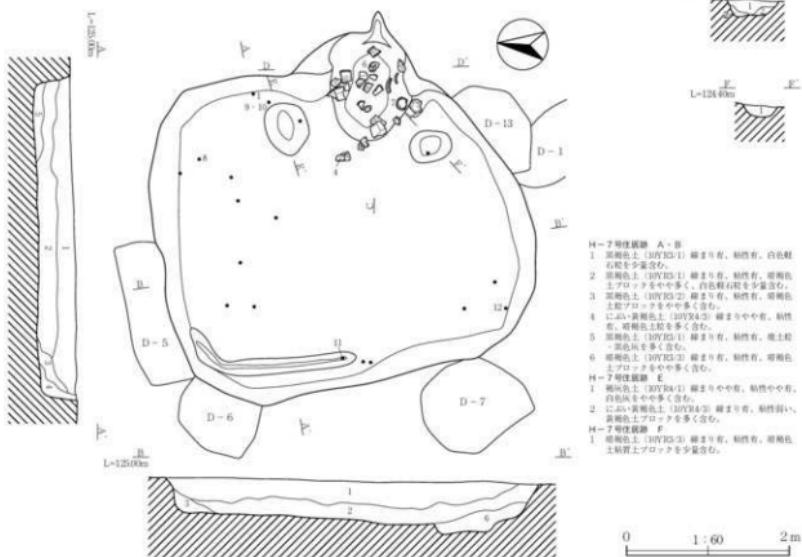
H-10号住居跡 B

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや弱い、粘性弱い、やや粗粒が大きい白色粗粒石を少量含む。光土層。
- 2 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、Ae層を含む。光土層を少量含む。
- 3 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、粗粒灰・底土層を少量含む。

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや弱い、粘性弱い、底土層・ブロックをやや多く含む。
- 2 黄褐色土 (10YR3/1) 線まり有、粘性有、底土層をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり有、粘性有、粗粒灰を少量含む。

Fig25 (116) H-6・10号住居跡

H-7



H-7カマド

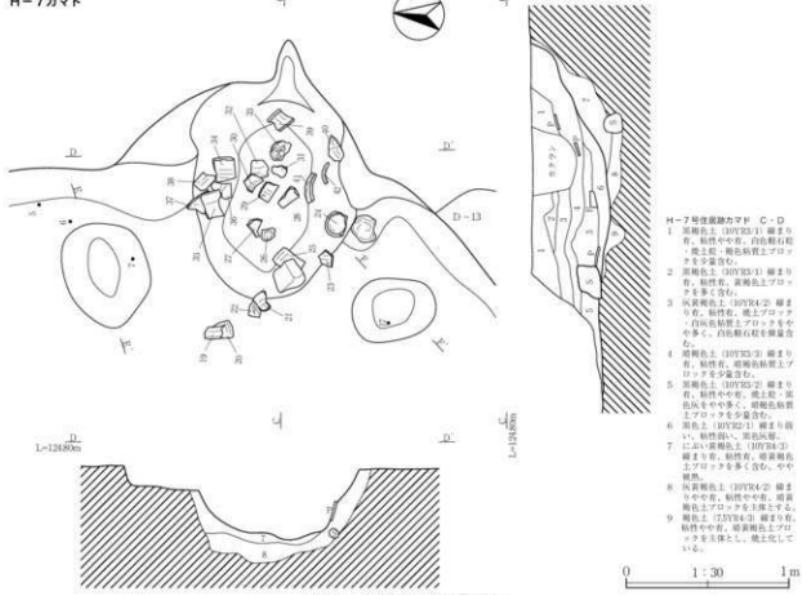
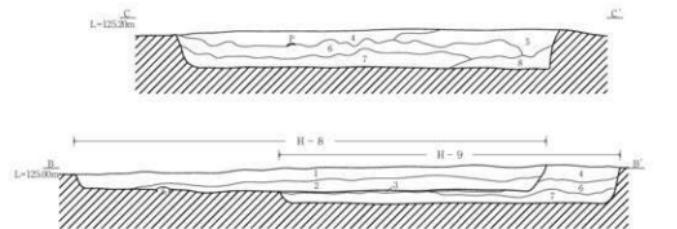
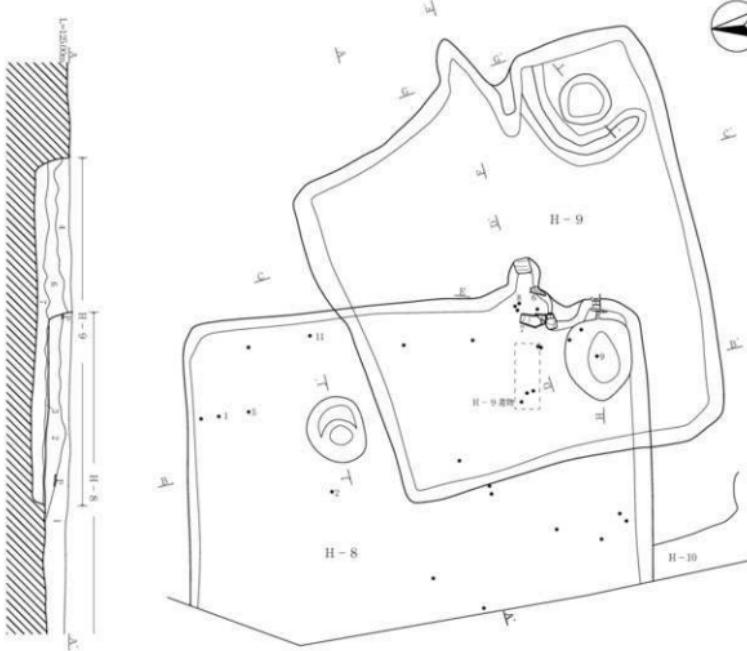


Fig.26 (116) H-7号住居跡

H-8・9



H-8・9号住居跡 A・B・C

1 黄褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、An-C帶有時を含む。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、黑色灰土層を含む。

3 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、黑褐色土層を含む。

4 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、白色點有、灰土層を含む。

5 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、白色點有、灰土層を含む。

6 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、白色點有、灰土層を含む。

7 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、灰土層、黄褐色土層を含む。

8 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、灰土層を含む。

H-8号住居跡

1 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、灰土層を含む。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、黑色灰土層を含む。

H-9号住居跡

1 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、黃褐色土層を含む。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 細より有、粘性有、黑色灰土層を含む。

3 深色黃褐色土 (10YR4/2) 細より有、粘性有、黃褐色土層を含む。

4 黄褐色土 (10YR4/2) 細より有、粘性有、灰土層、黃褐色土層を含む。

Fig.27 (116) H-8・9号住居跡

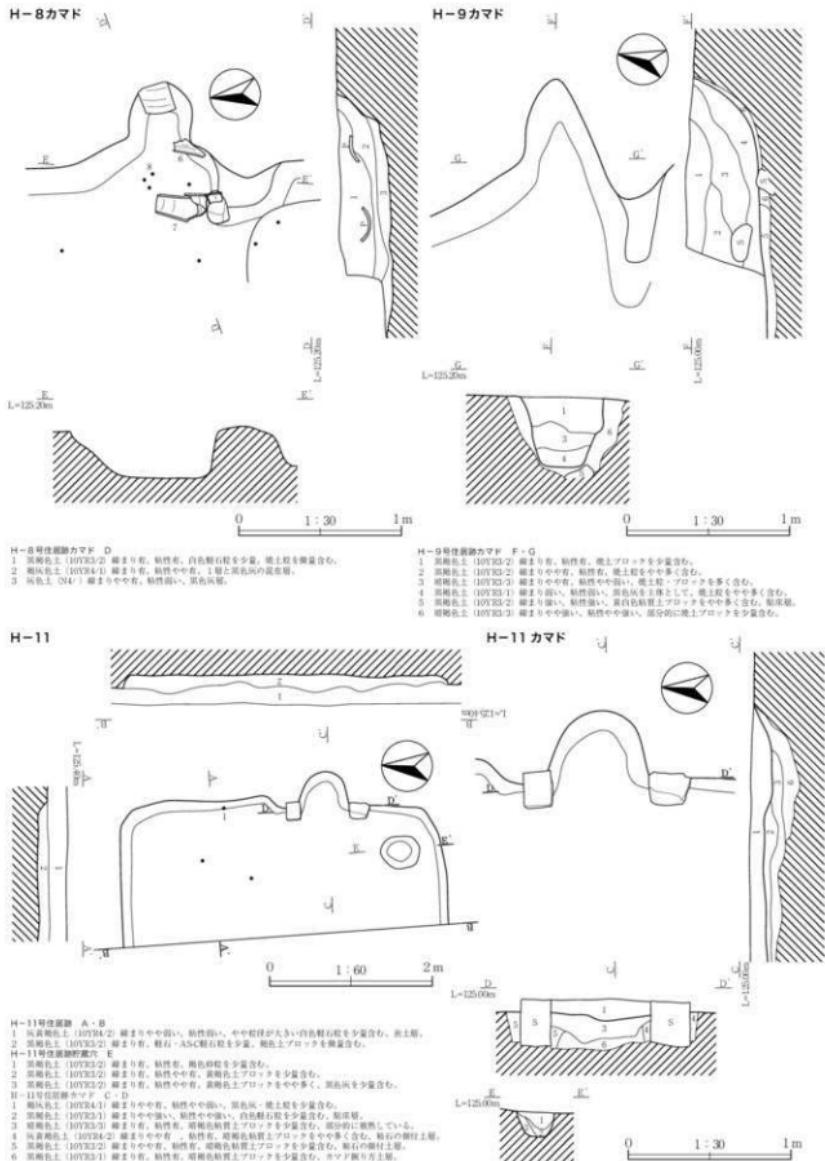


Fig.28 (116) H-8・9・11号住居跡

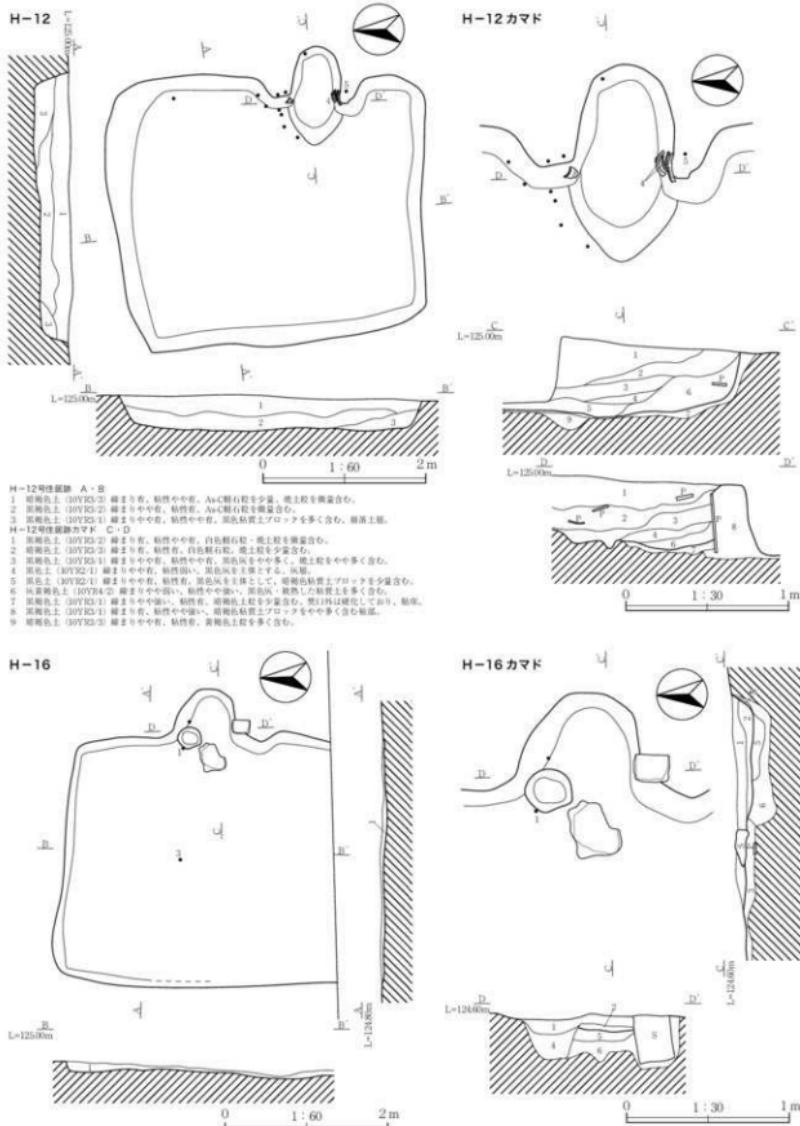


Fig.29 (116) H - 12 · 16 号居跡

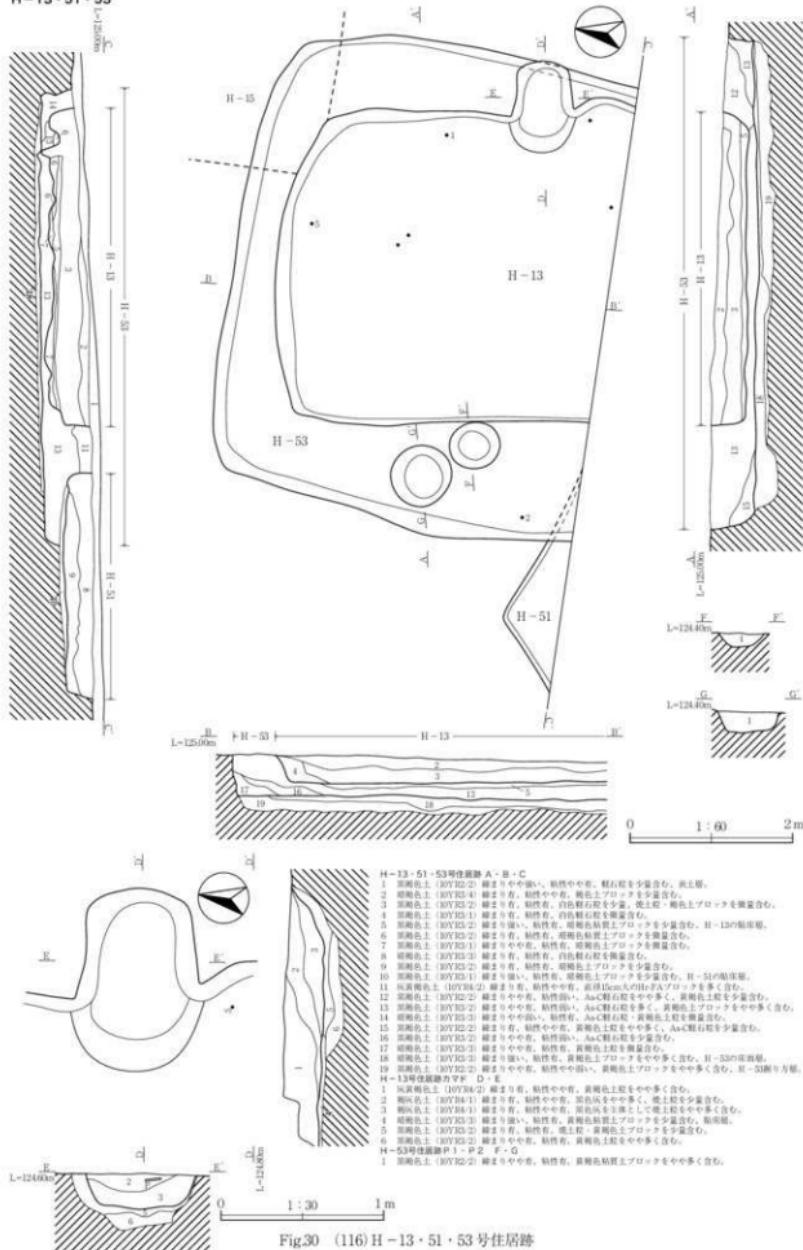
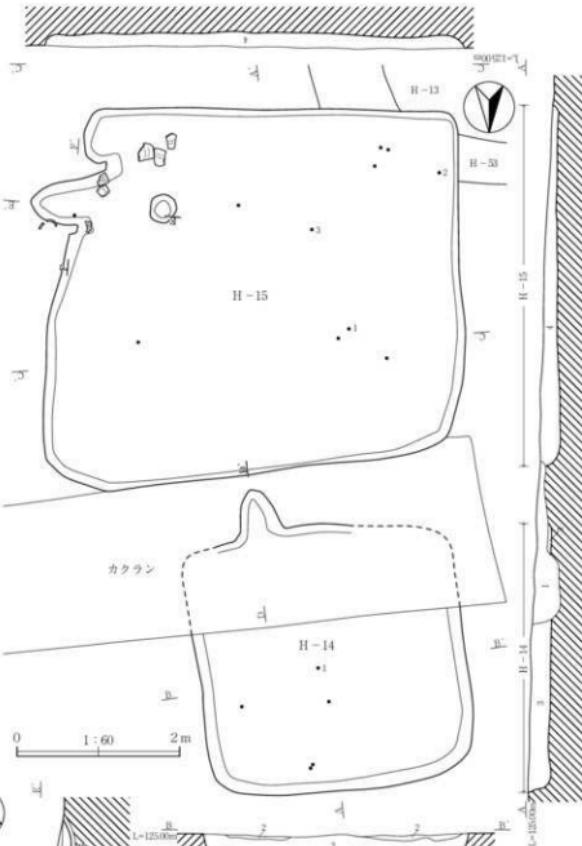
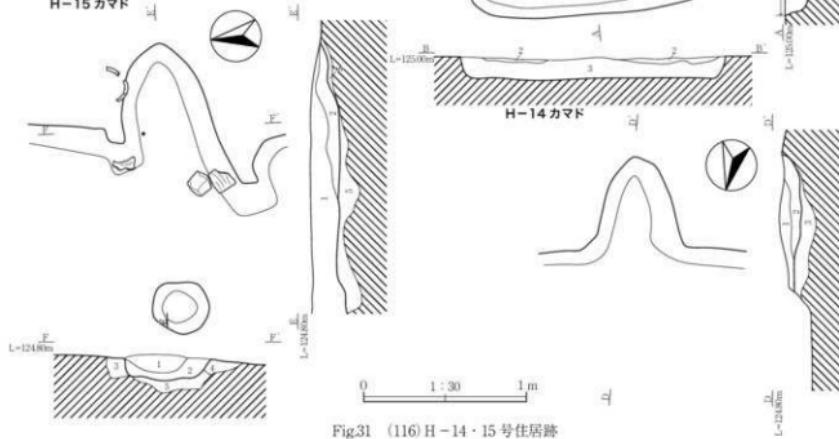


Fig.30 (116) H-13・51・53号住居跡

H-14・15



H-15カマド



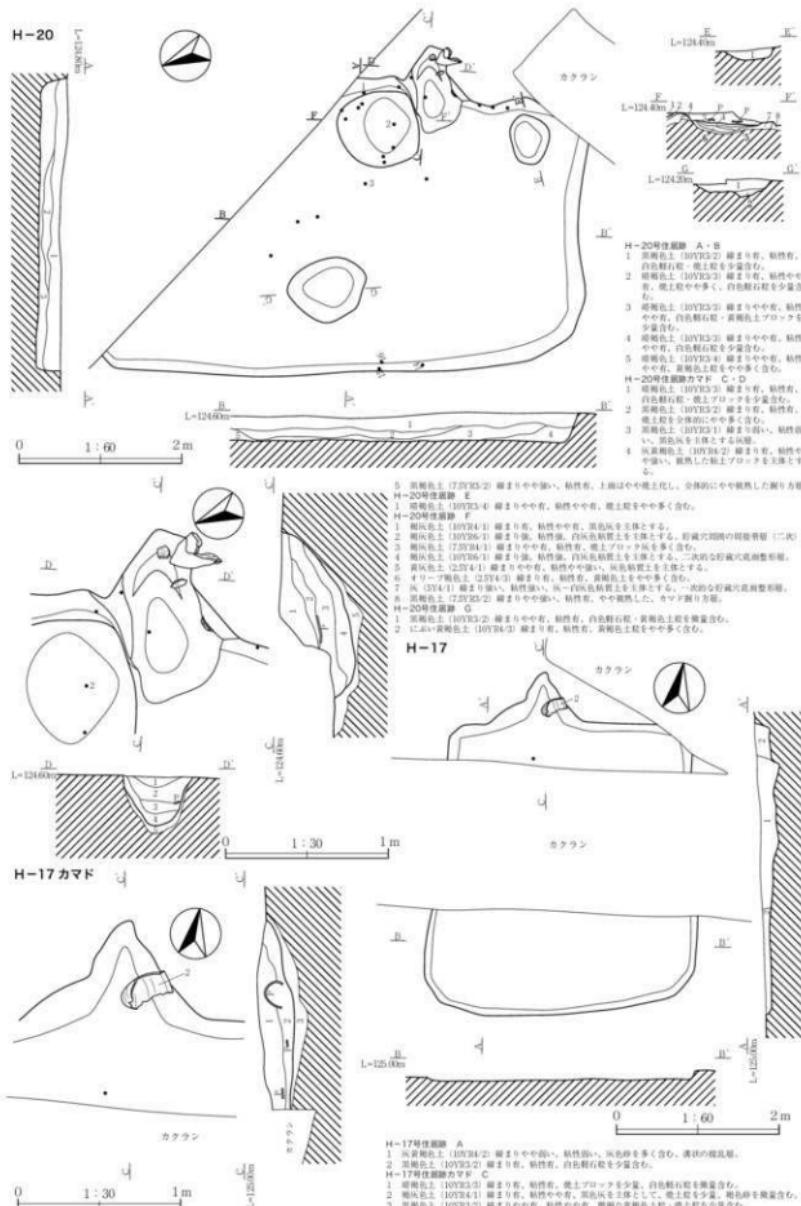


Fig.32 (116) H-17 - 20 号住居跡

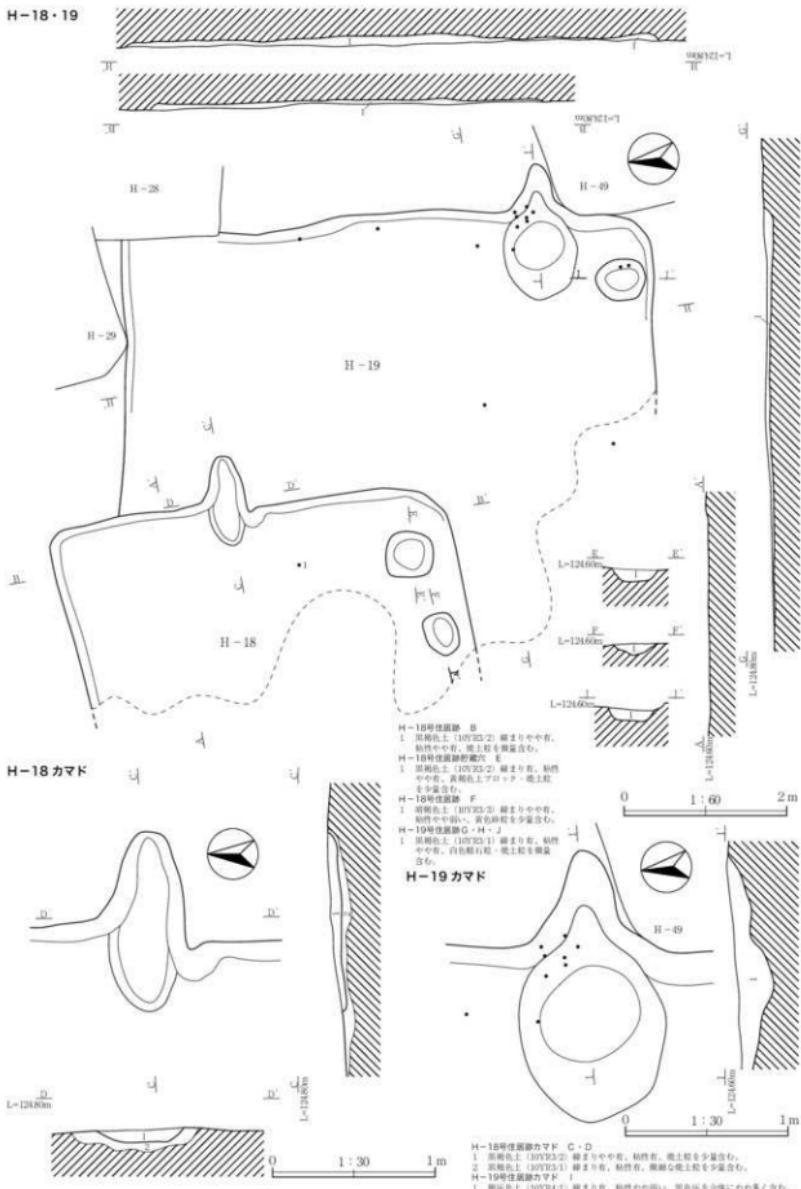


Fig.33 (116) H-18・19号住居跡

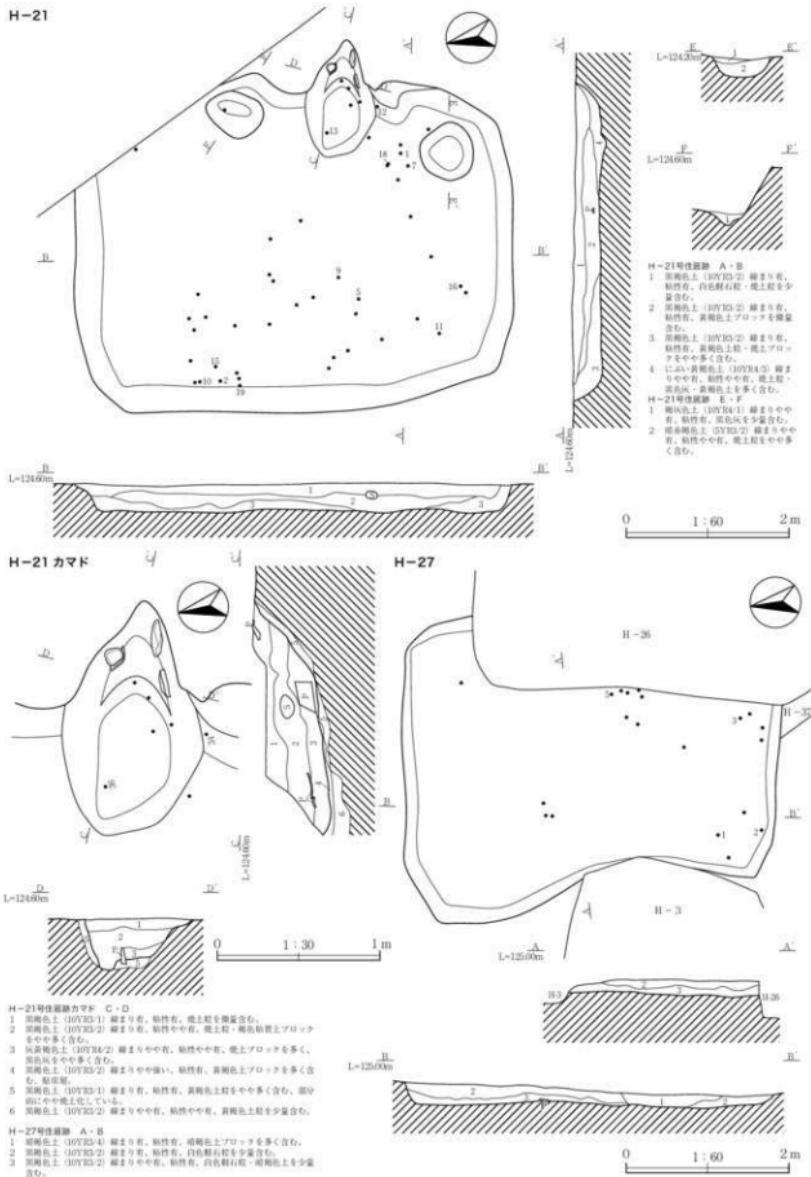


Fig.34 (116) H-21·27号住居跡

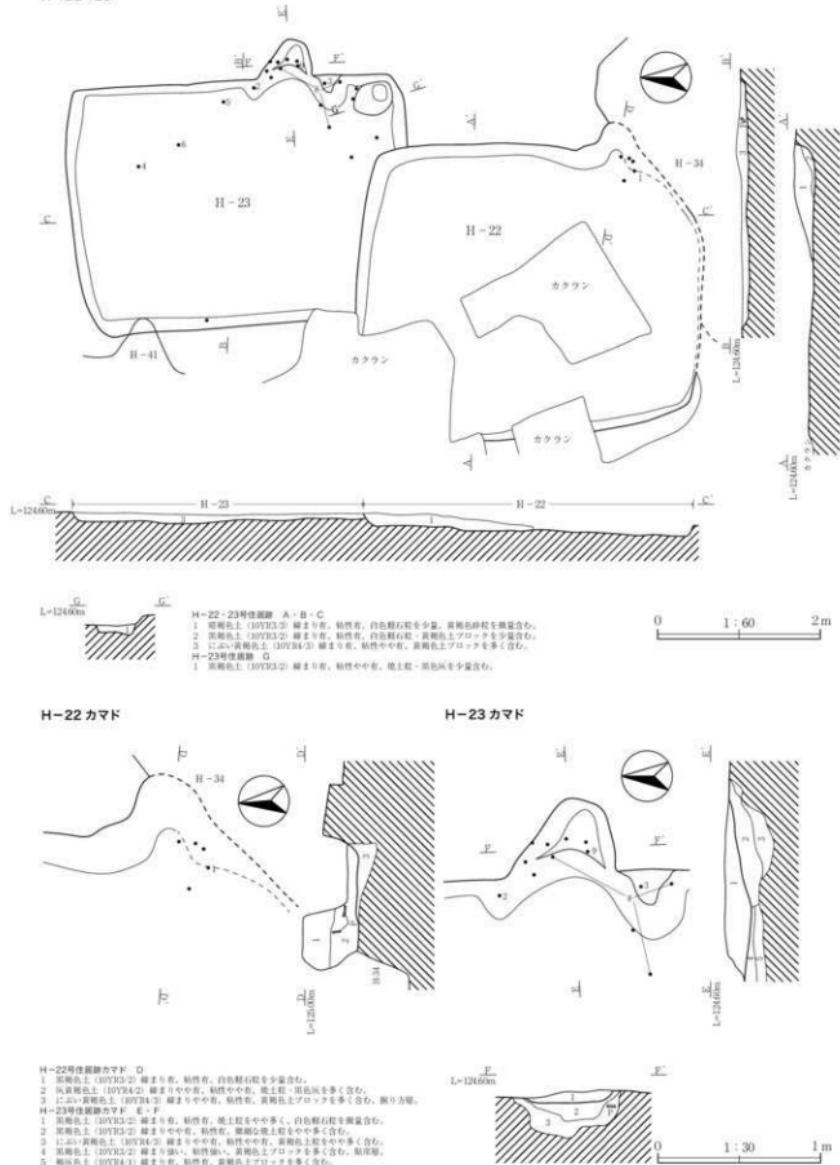


Fig35 (116) H-22・23号住居跡

H-24・25・26・33, I-1

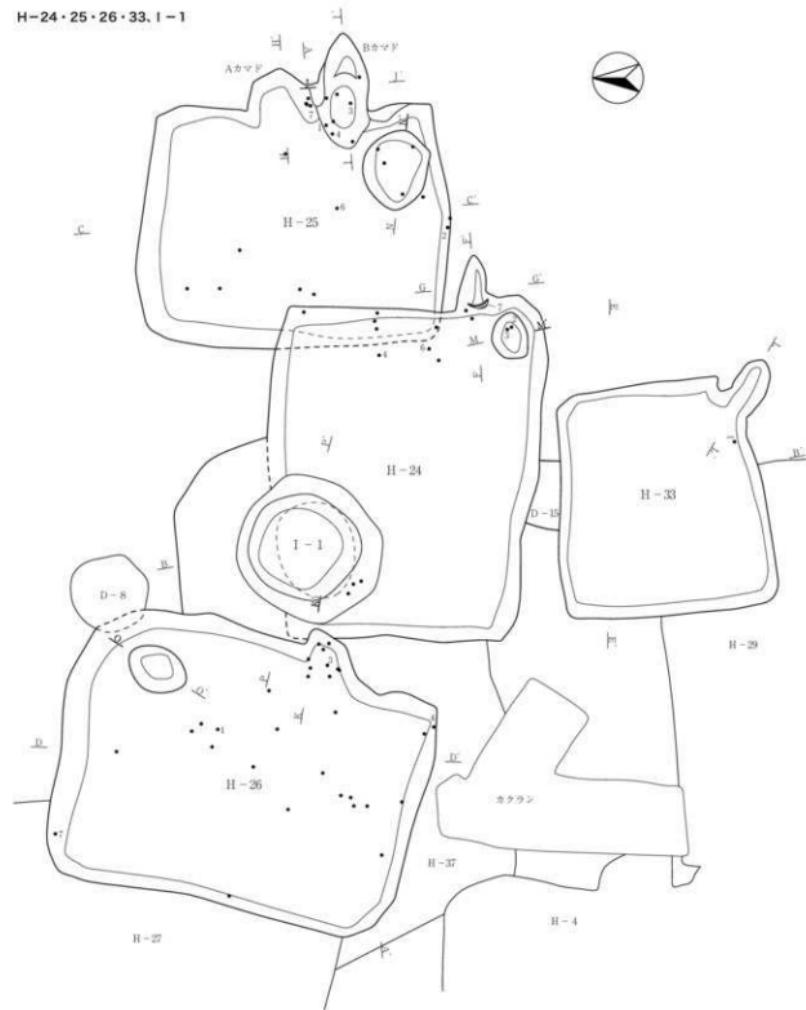
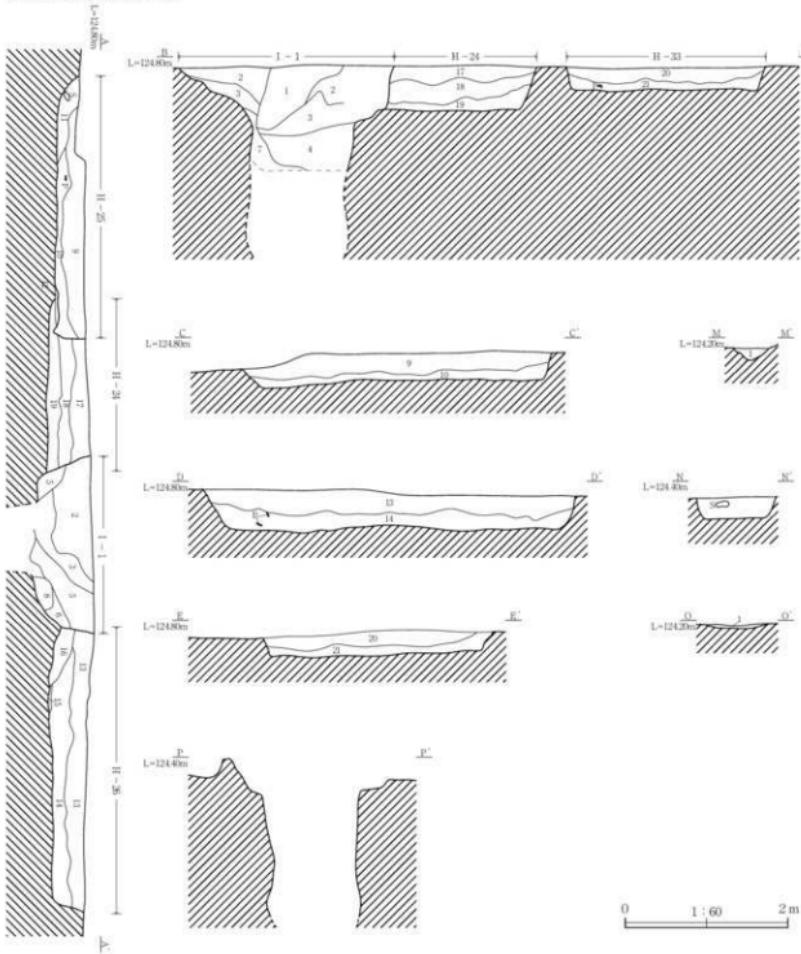


Fig.36 (116) H-24～26・33号住居跡、I-1号井戸 (1)

H-24・25・26・33号住跡、I-1号井戸 A-B・C-D・E



- 1 住跡土 (73Y4/1) 緩まりやや有り、粘性有り、Aa層間に二次充積層。重瓦色樹根灰白色を含む。
- 2 住跡土 (73Y4/1) 緩まりやや有り、粘性有り、Aa層間に二次充積層。重瓦色樹根灰白色を含む。
- 3 住跡土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性やや有り、地盤砂を含む。
- 4 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 6 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 7 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有、樹根土ブロックをやや多く含む。
- 8 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性やや有り、白泥色-褐色粘質土を主体とする。
- 9 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有り、白泥色-褐色粘質土を主体とする。
- 10 埋藏物土 (73Y4/2) 緩まりや有り、粘性有、白泥色-褐色粘質土を主体とする。
- 11 住跡土 (73Y4/2) 緩まりや有り、粘性やや有り、地盤砂を少量含む。
- 12 住跡土 (73Y4/2) 緩まりやや有り、粘性有り、白泥色-褐色粘質土を少量含む。
- 13 住跡土 (73Y4/2) 緩まりや有り、粘性有、白泥色-褐色粘質土を少量含む。
- 14 住跡土 (73Y4/2) 緩まりや有り、粘性有、白泥色-褐色粘質土を少量含む。

- 15 住跡土 (73Y3/1) 緩まりやや有り、粘性有り、サマヤから出る黒泥炭層。
- 16 住跡土 (73Y3/1) 緩まりや有り、粘性有、地盤砂ブロックをやや多く含む。
- 17 前開石土 (73Y3/2) 緩まりや有り、粘性有、白泥色-褐色土を少量含む。
- 18 前開石土 (73Y3/2) 緩まりやや有り、粘性有り、白泥色-褐色土を少量含む。
- 19 前開石土 (73Y3/2) 緩まりやや有り、粘性やや有り、黄褐色土ブロック、地盤砂を少量含む。
- 20 前開石土 (73Y3/2) 緩まりやや有り、粘性やや有り、白泥色土層、地盤砂を少量含む。
- 21 前開石土 (73Y3/2) 緩まりやや有り、粘性やや有り、黄褐色土ブロックを少量含む、白泥色粘土層、地盤砂を少量含む。
- H-24号住跡 M
- 1 住跡土 (73Y3/3) 緩まりやや有り、粘性やや有り、地盤砂土層を少量含む。
- H-25号住跡 M
- 1 住跡土 (73Y3/3) 緩まりやや有り、粘性やや有り、地盤砂土層を少量含む。
- H-26号住跡 O
- 1 住跡土 (73Y3/2) 緩まりや有り、粘性有、地盤砂土層を少量含む。

Fig.37 (116) H-24～26・33号住跡・I-1号井戸 (2)

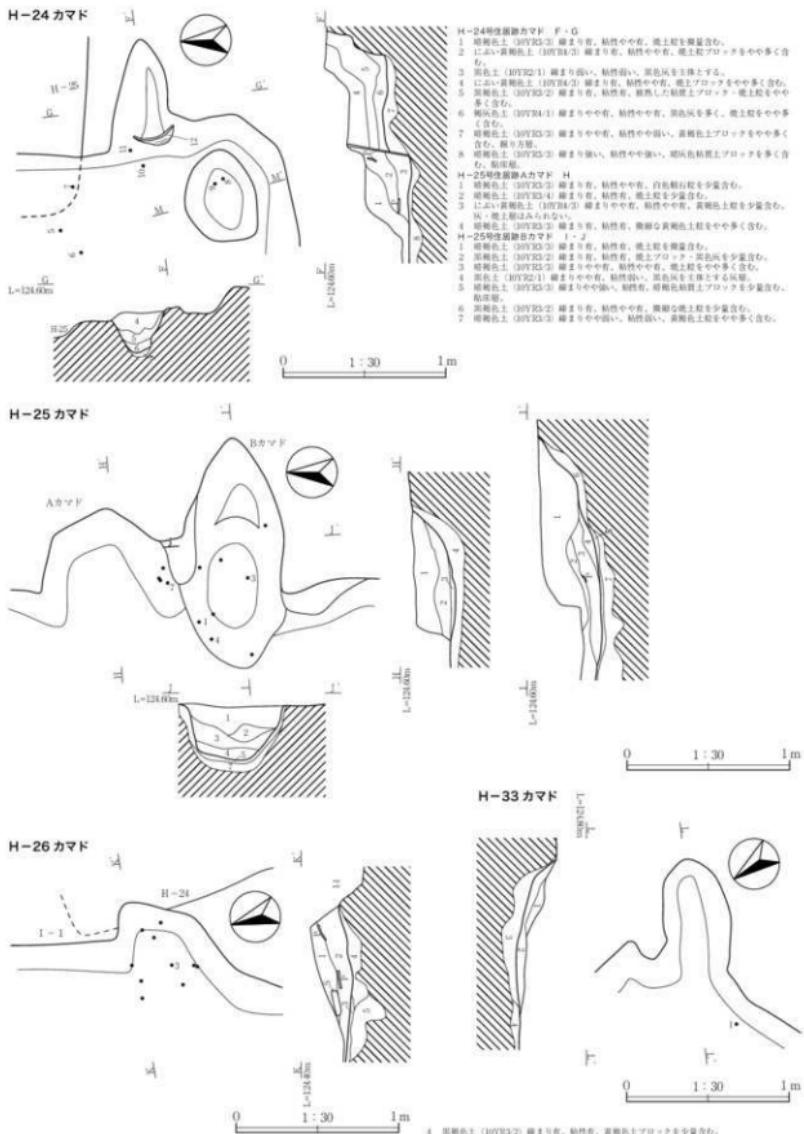


Fig.38 (116) H-24 ~ 26・33号住居跡

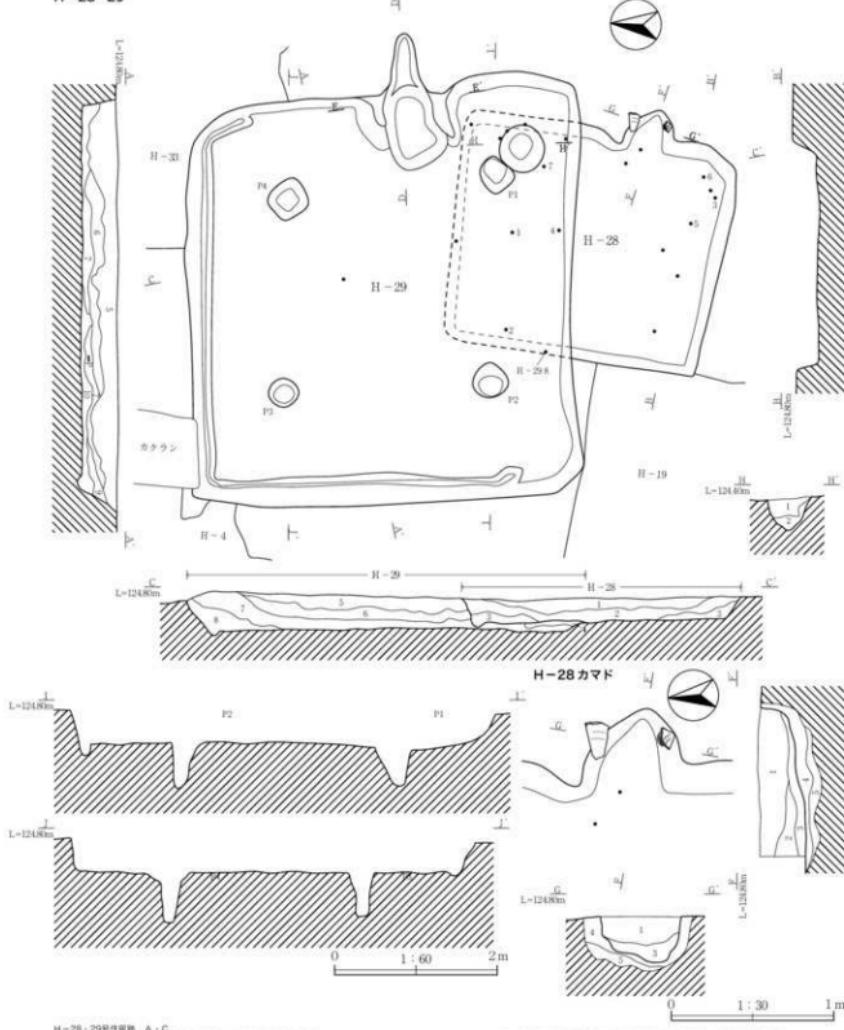


Fig.39 (116) H-28・29号住居跡

H-29 カマド

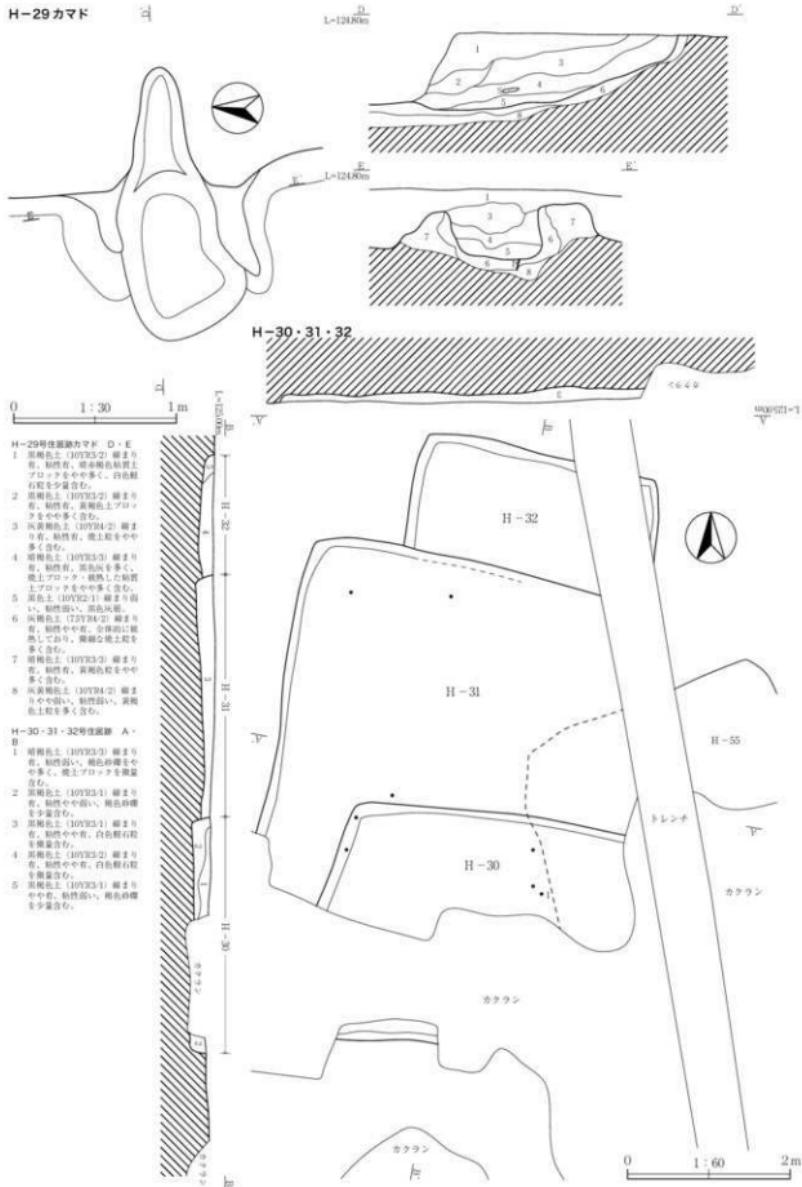
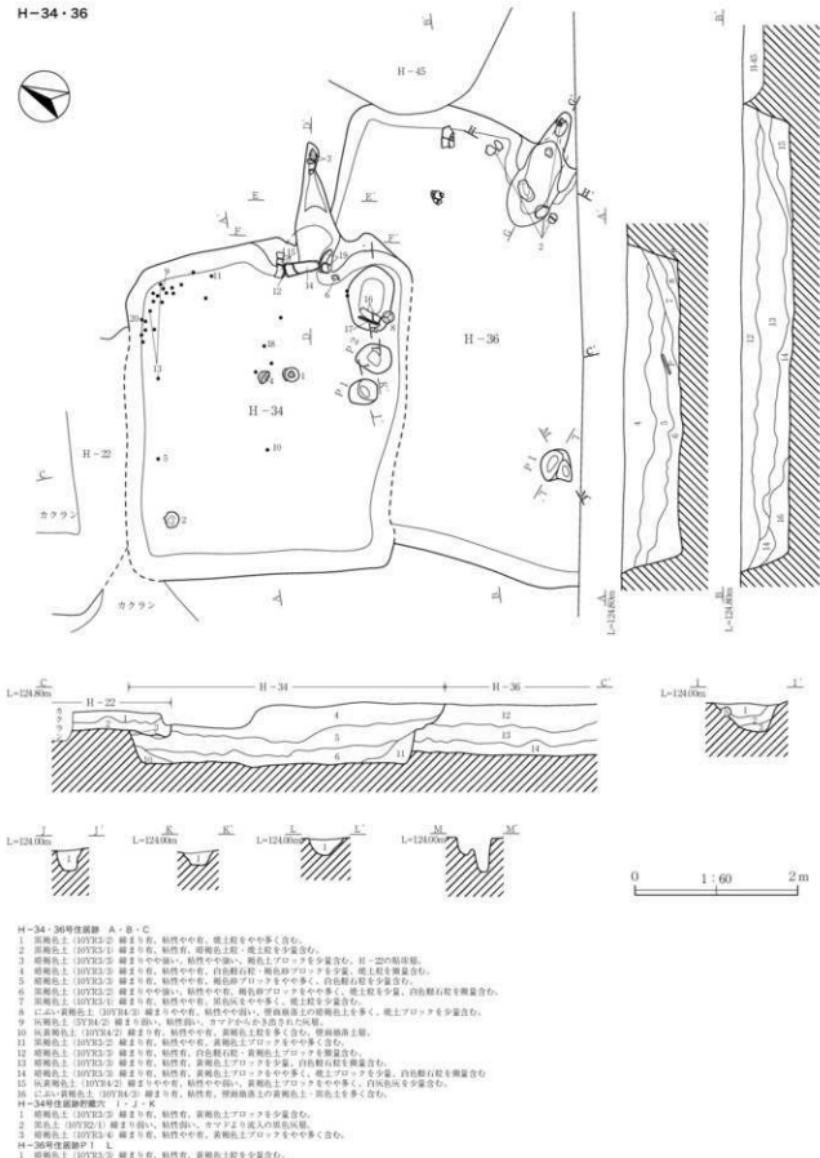
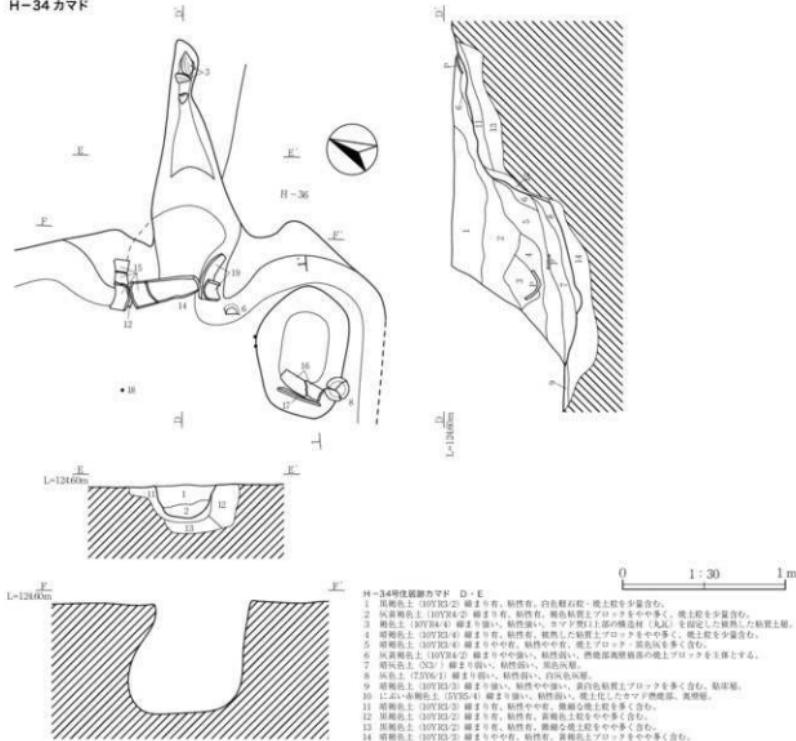


Fig.40 (116) H-29・30・31・32号住居跡



H-34 カマド



H-36 カマド

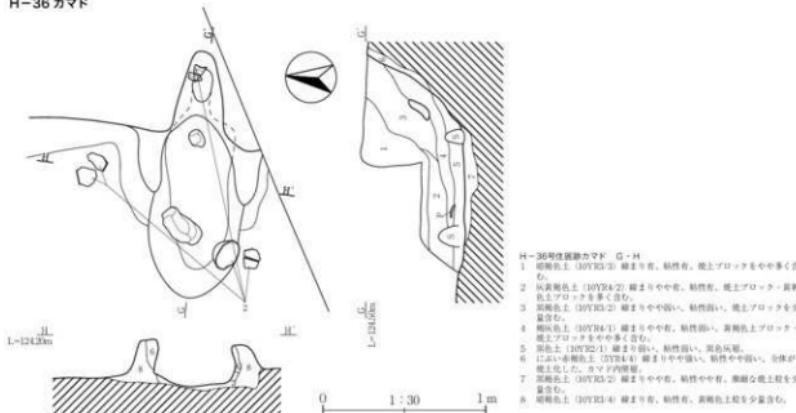
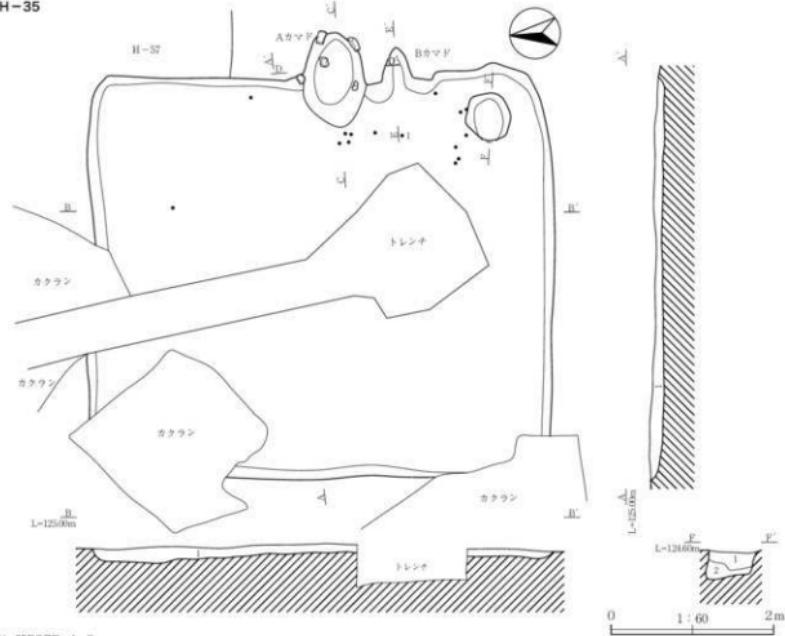


Fig42 (116) H-34・36号住居跡 (2)

H-35



H-35号住居跡 A・B
1. 黄褐色土 (30YR3/2) 線まり有、粘性やや有、白色粗粒石を微量含む。

H-35号住居跡窓穴 F
1. 黄褐色土 (30YR3/2) 線まり有、粘性やや有、褐色鉄鉱を少度含む。

2. 黄褐色土 (30YR3/2) 線まりやや有、粘性やや有、褐色鉄鉱をやや多く含む。

H-35 カマド

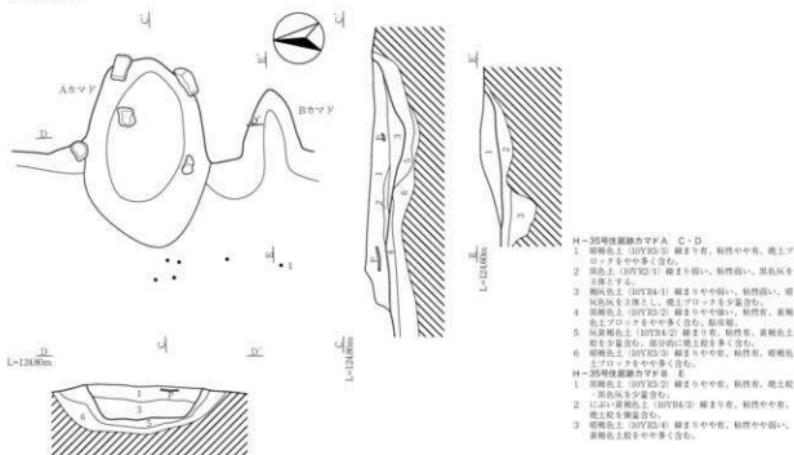


Fig.43 (116) H-35号住居跡

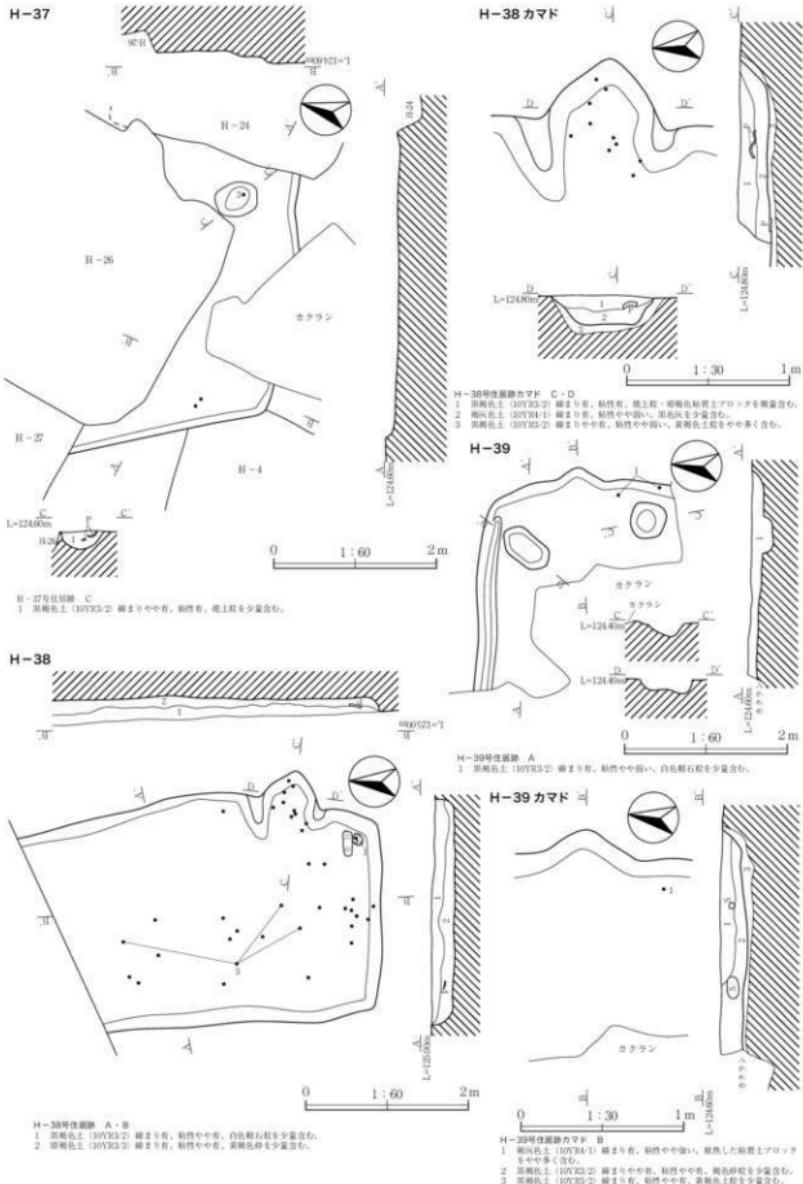
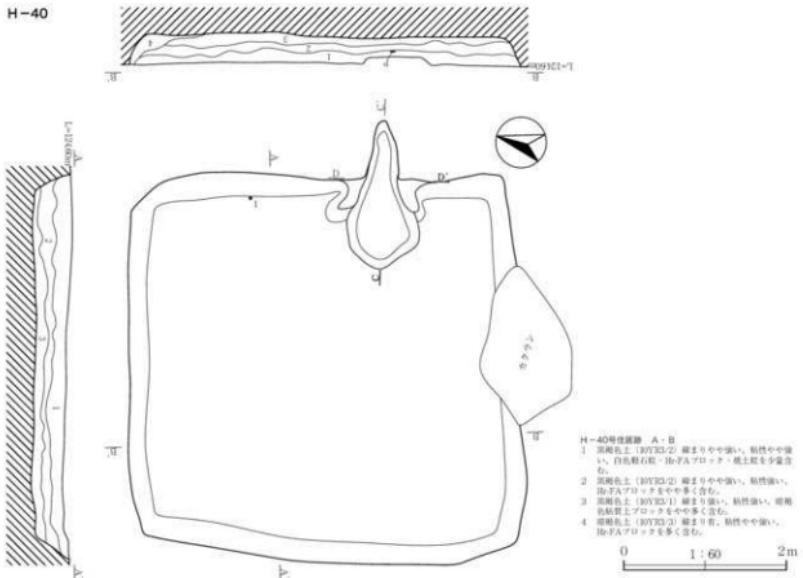
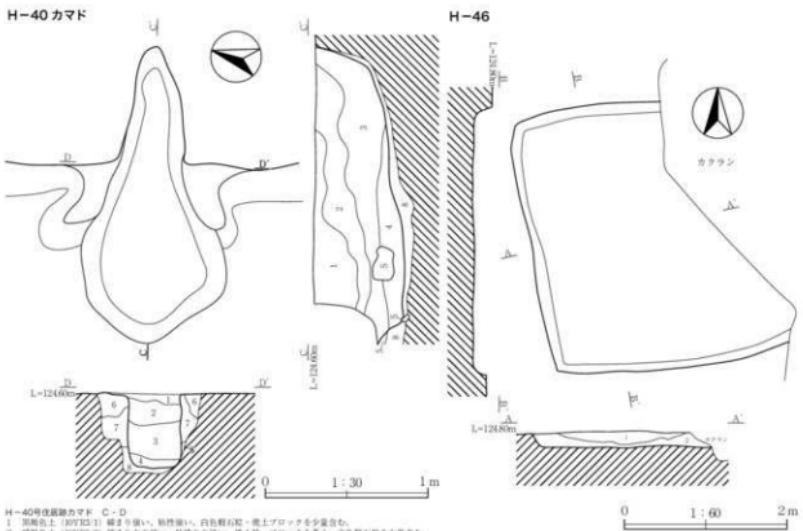


Fig.44 (116) H-37・38・39号住居跡

H-40



H-40 カマド



H-46

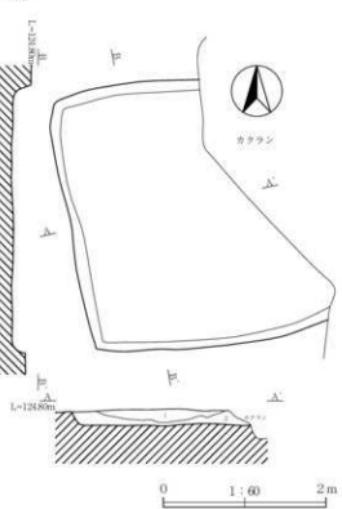
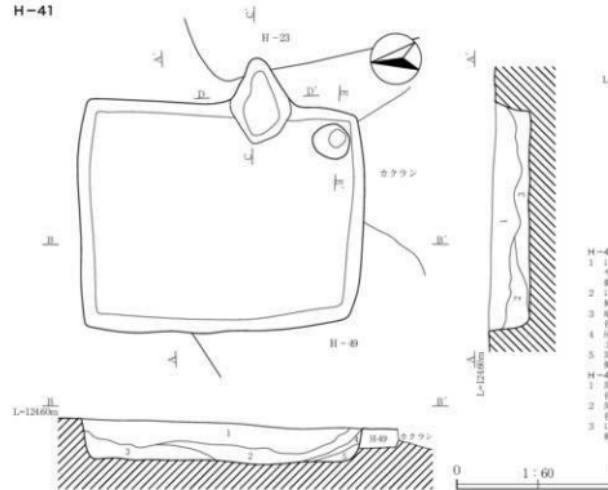
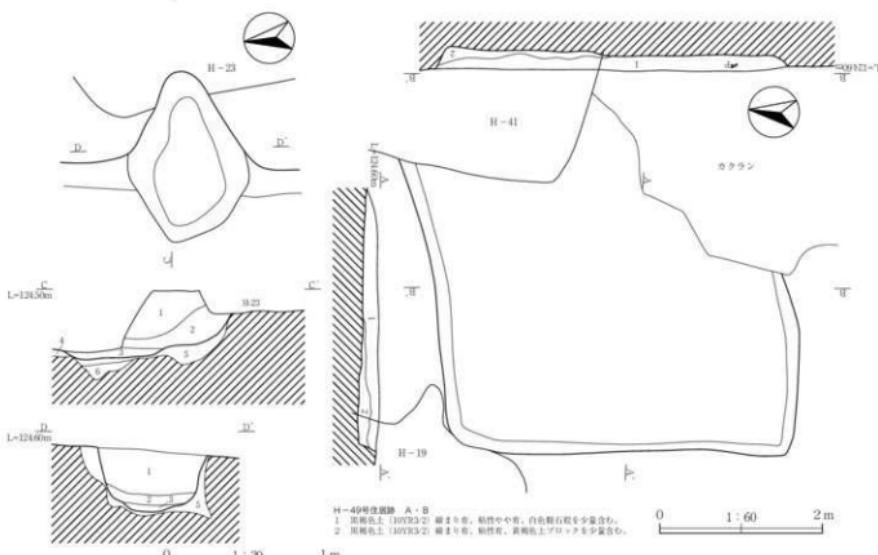


Fig 45 (116) H-40・46号住居跡

H-41



H-41 カマド



H-41 住居跡力グラフ C・D

- 1 赤い黄褐色土上 (10YR4/2) 繁まり有。粘性有。黄褐色土塊を少含む。
- 2 黄褐色土上 (10YR3/2) 繁まり有。粘性有。黄褐色土塊を少含む。
- 3 黑褐色土上 (10YR3/1) 繁まり固い。粘性固い。黑色土塊。
- 4 黄褐色土上 (10YR3/1) 繁まり有。粘性有。黄褐色土ブロックを少含む。粘性層。
- 5 黄褐色土上 (10YR3/2) 繁まりやや固い。粘性有。黄褐色土ブロックを少含む。

Fig.46 (116) H-41・49号住居跡

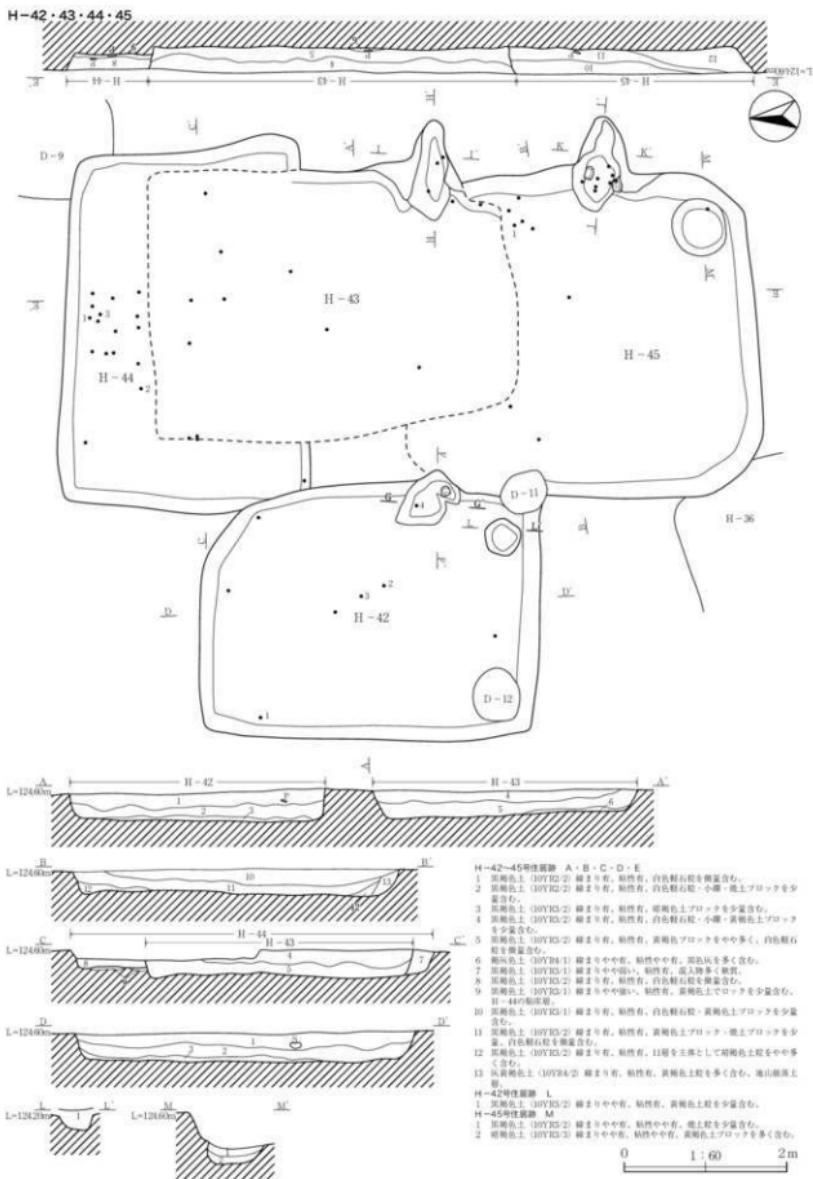


Fig.47 (116) H-42・43・44・45号住居跡

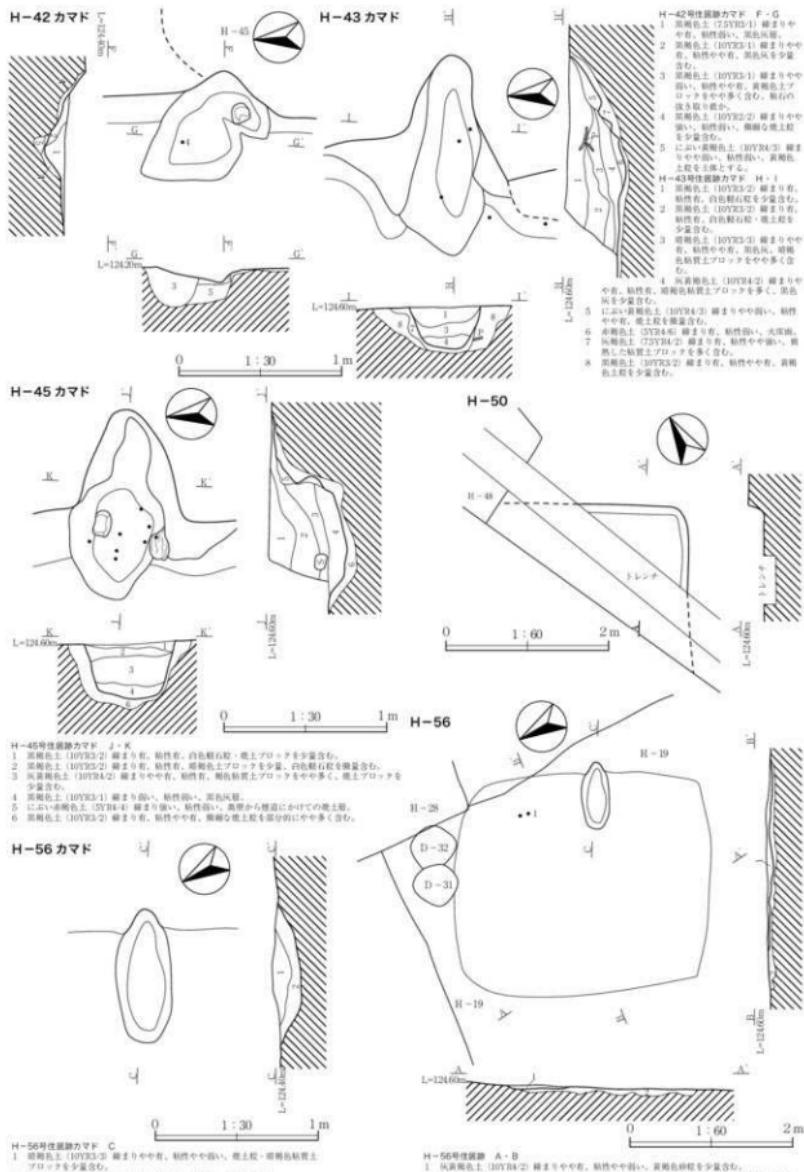
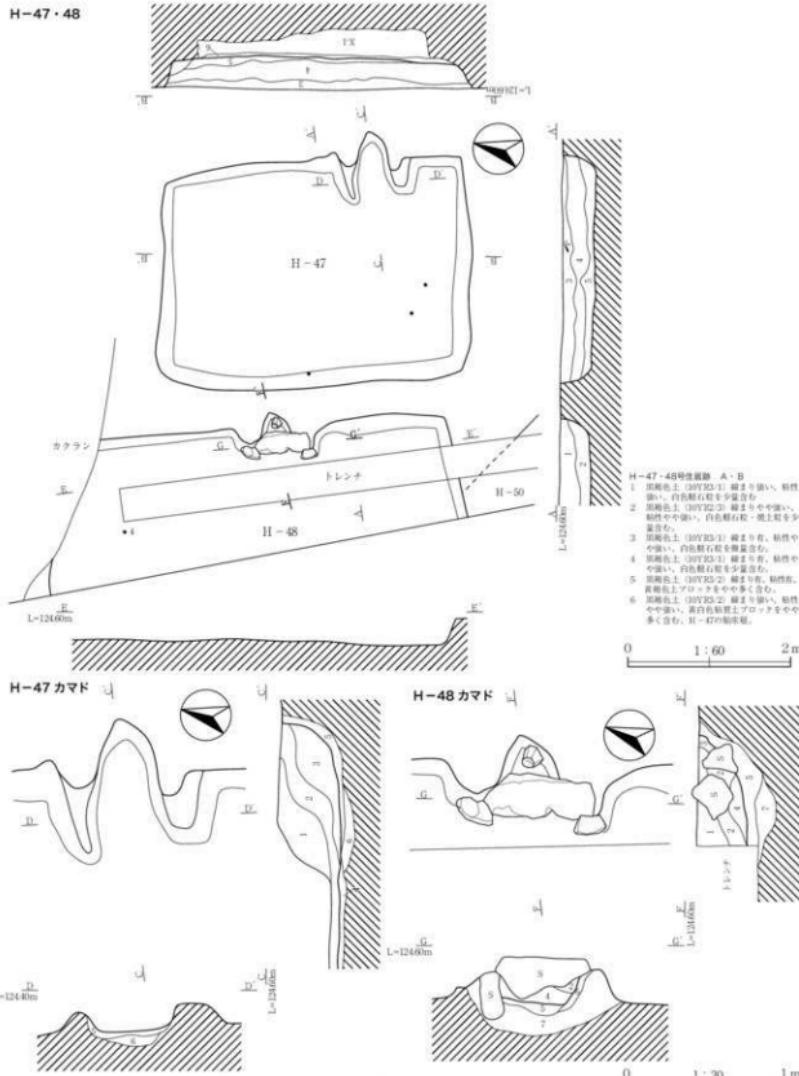


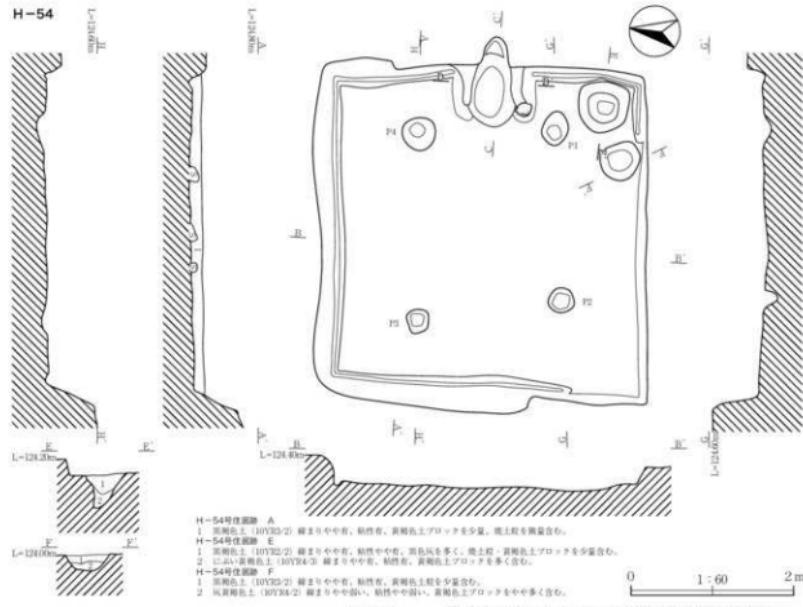
Fig.48 (116) H-42・43・45・50・56号住居跡



1 黒褐色土 (HOT32-1) 繊毛り有、粘性有。軽石質土層・塊土質を少量含む。
2 黒褐色土 (HOT32-2) 繊毛りやや有、粘性やや有。塊土質・プロックをやや含む。
3 風化土 (SY5-1) 繊毛り高い、粘性高い。白色色質。
4 黒褐色土 (HOT32-3) 繊毛り低い、粘性やや低い。白色軽石質・塊土質を少量含む。軽石質・プロックを少量含む。粘性質。
5 黒褐色土 (HOT32-4) 繊毛りやや低い、粘性やや低い。白色やや高い。白色軽石質土層を形成する。
6 黒褐色土 (HOT32-5) 繊毛り有、粘性有。白色やや高い。白色軽石質土・プロックを少量含む。
7 黒褐色土 (HOT32-6) 繊毛り有、粘性やや高い。白色軽石質土・プロックを少量含む。

Fig.49 (116) H-47・48号住居跡

H-54



H-54 カマド

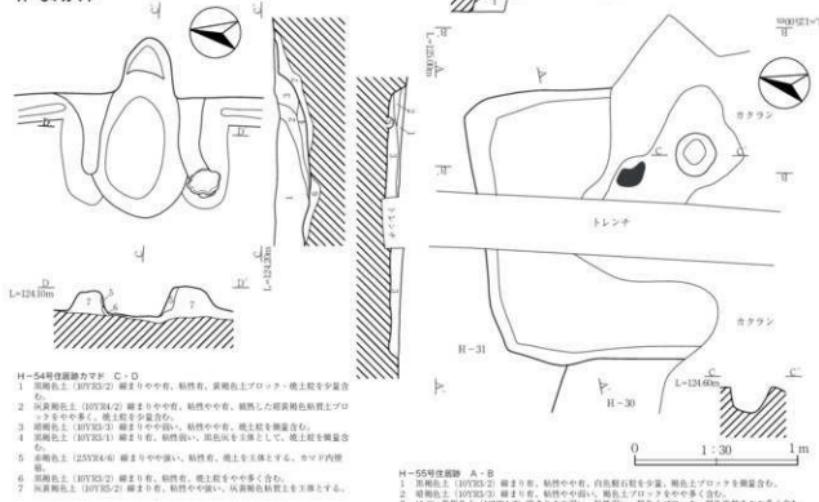
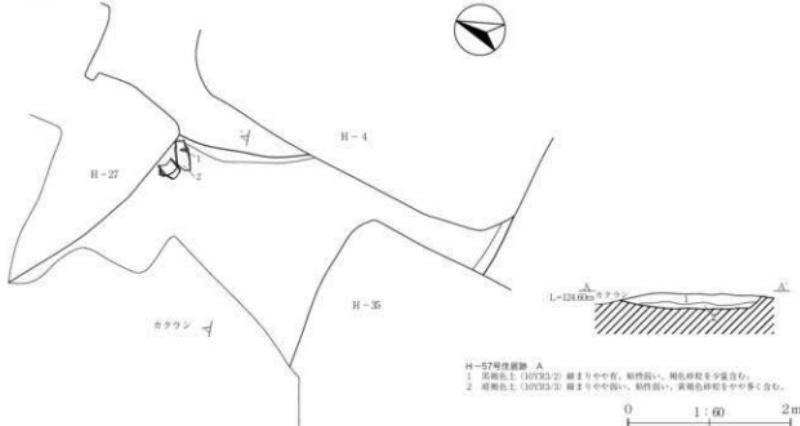
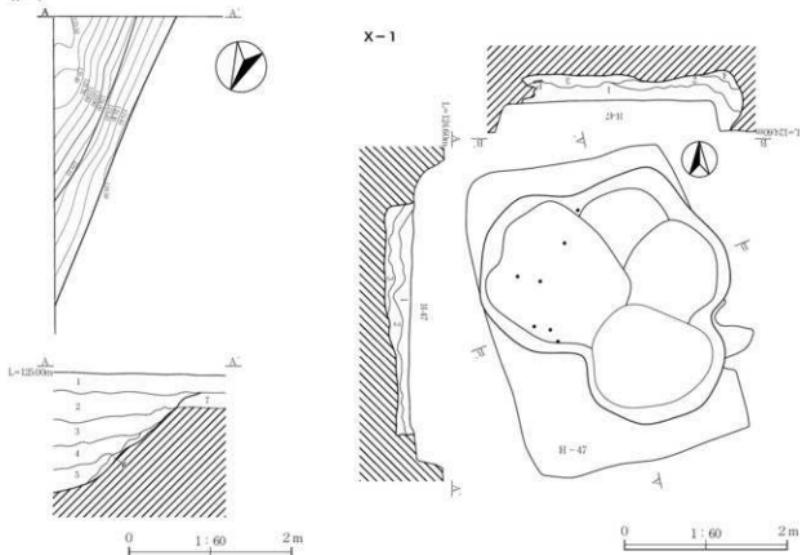


Fig.50 (116) H-54 - 55号住層跡

H-57



W-1



W-1号溝 A

- 1 黄褐色土 (10YR 4/1) 線まりやや有。粘性やや弱い。A6鉄石を少箇含む。瓦上層。
- 2 灰黃褐色土 (10YR 4/2) 線まりやや有。粘性やや弱い。A6鉄石をやや多く含む。瓦上層。
- 3 灰褐色土 (10YR 4/3) 線まりやや有。粘性弱い。A6鉄石を少箇含む。瓦上層。
- 4 灰褐色土 (10YR 4/2) 線まり有。粘性有。A6鉄石を多箇含む。瓦上層。
- 5 鉄鉱土 (10YR 4/1) 線まり有。粘性有。黄褐色土を少箇含む。
- 6 に点し黄褐色土 (10YR 4/2) 線まりやや有。粘性有。黄褐色土アーチロックをやや多く含む。
- 7 黄褐色土 (10YR 4/2) 線まり有。粘性有。白色粗石を少箇含む。

Fig.51 (116) H-57号住跡、W-1号溝、X-1

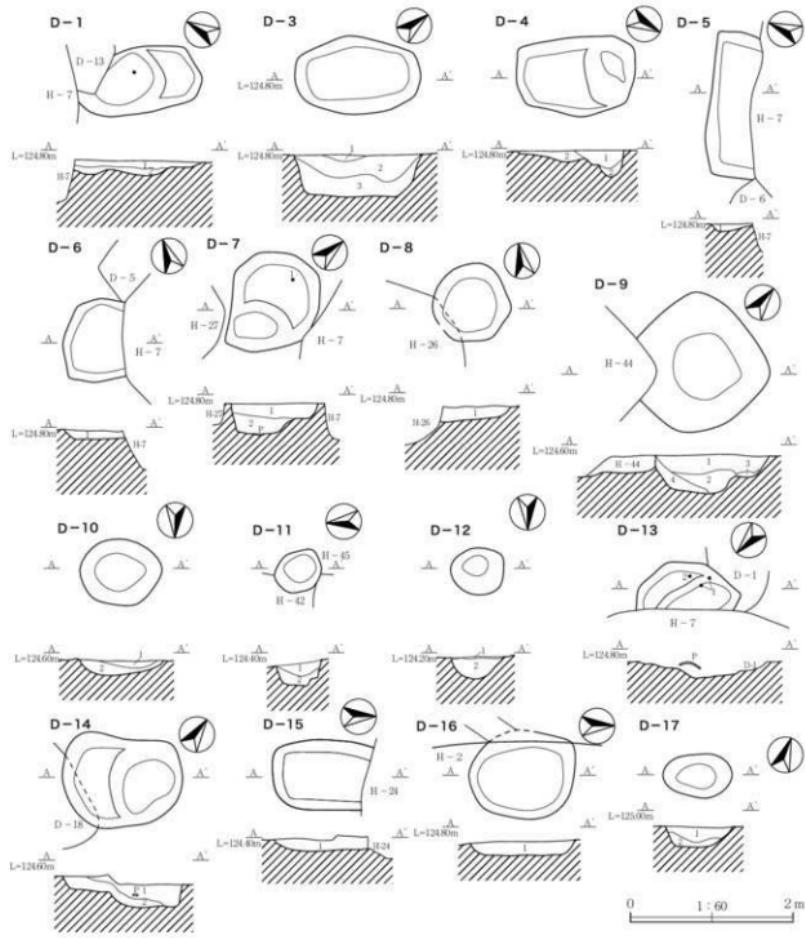
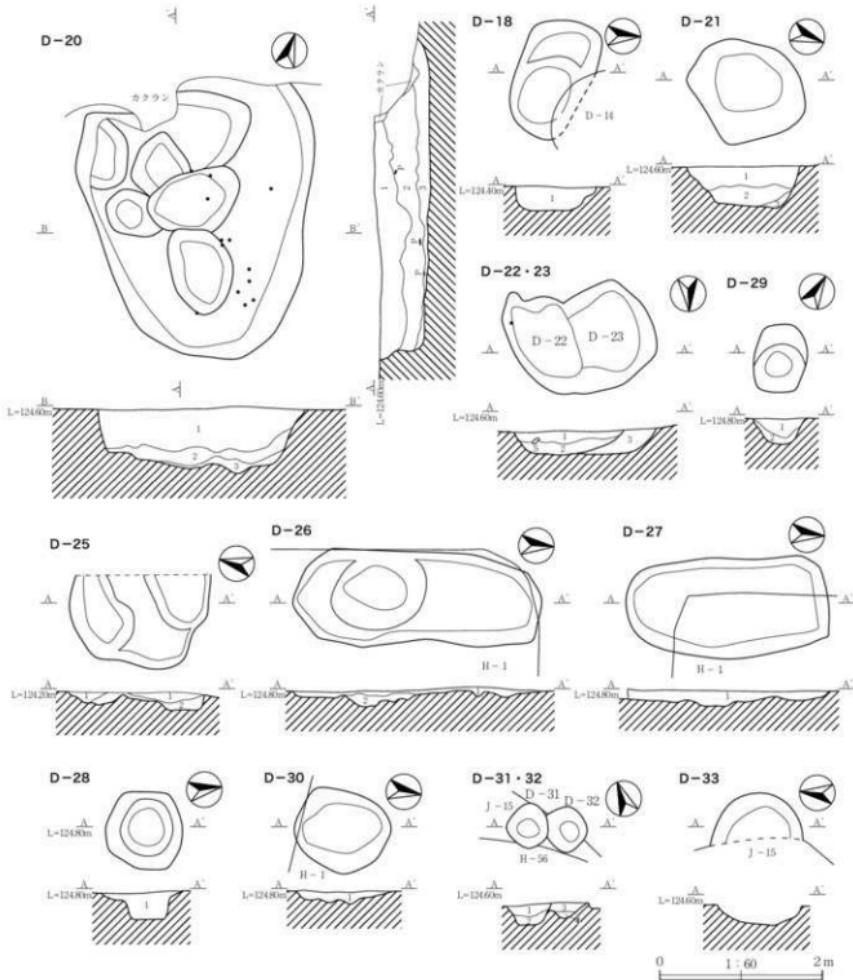


Fig.52 (116) 土坑 (1)



D-18号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 白色粒有, 地上部を少量含む。

D-20号土坑 A, B
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 白色粒有, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部・底をやや多く, 白色粒有, 地上部を少量含む。

3 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-21号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-14号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-18号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-22 · 23号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-29号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-25号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-26号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 黄褐色砂粒を少含む。

2 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部・プロックを多く含む。

D-26号土坑 B
1 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 黄褐色砂粒を少含む。

2 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部・プロックを多く含む。

D-28号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-30号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

2 黑褐色土 (10YR2(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部を少量含む。

D-31 · 32号土坑 A
1 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 黄褐色砂粒を少含む。

2 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 地上部・プロックを多く含む。

3 黑褐色土 (10YR3(2) 緩まりや中強), 粒性重, 黄褐色砂粒を少含む。

4 黄褐色土 (10YR4(2) 緩まりや中強), 粒性重, 黄褐色砂粒を少含む。

Fig.53 (116) 土坑 (2)

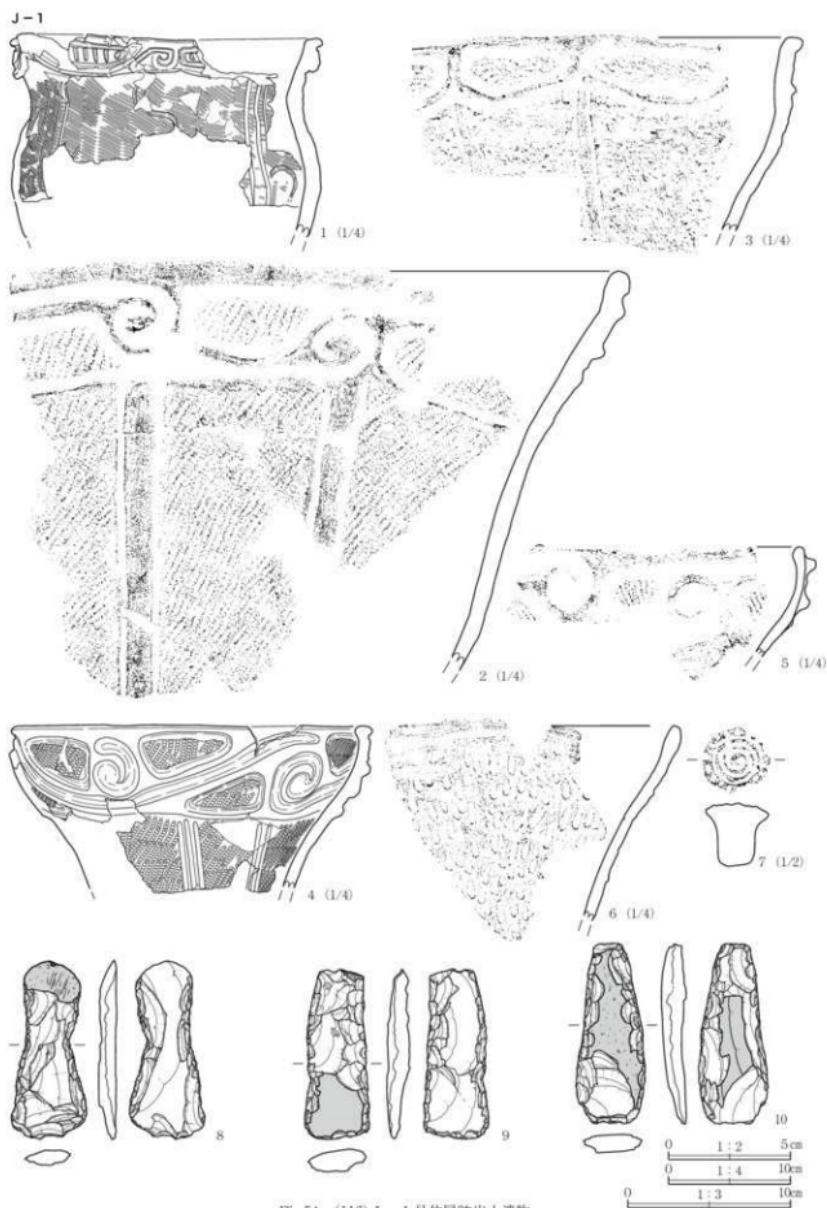


Fig.54 (116) J - 1 号住居跡出土遺物

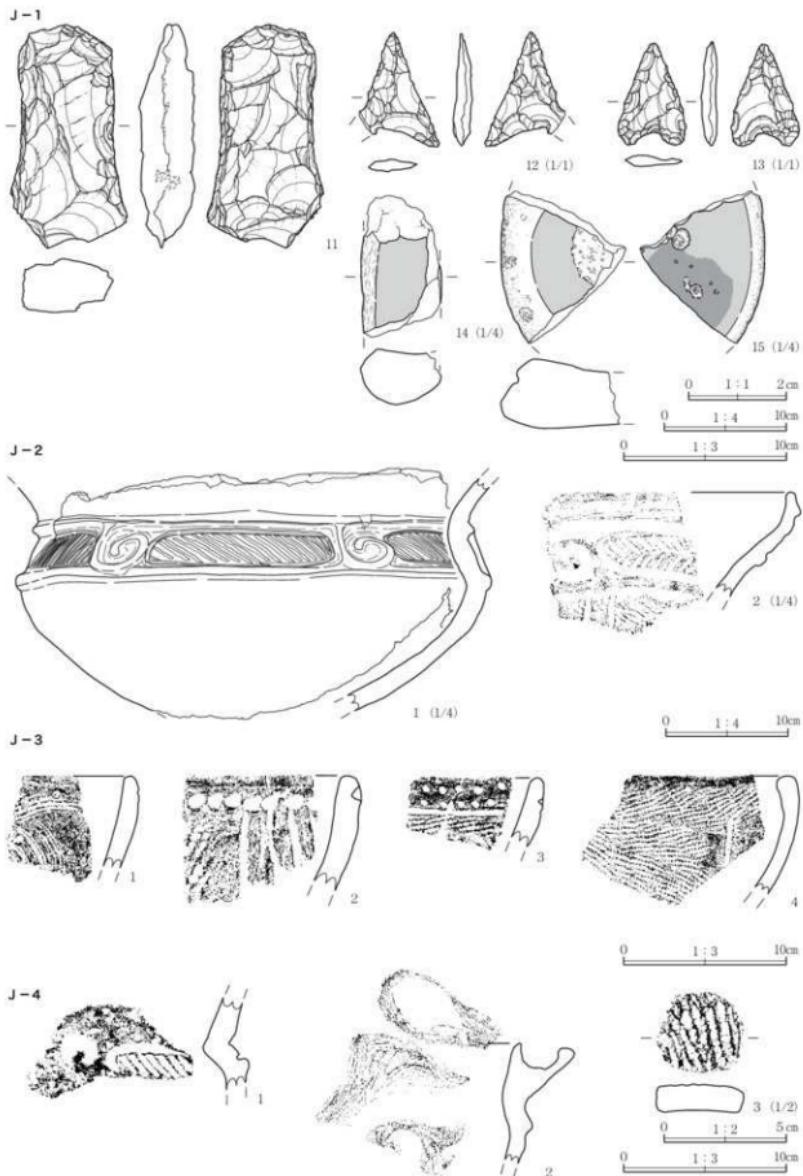
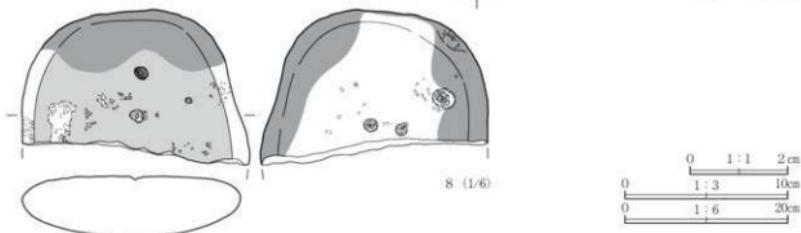
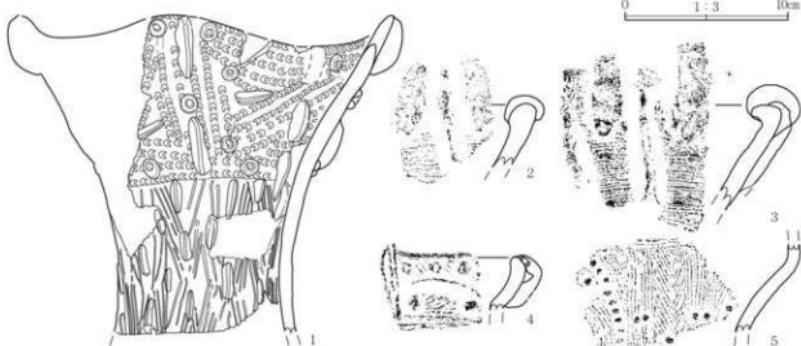


Fig.55 (116) J - 1 · 2 · 3 · 4 号住居跡出土遺物

J - 5



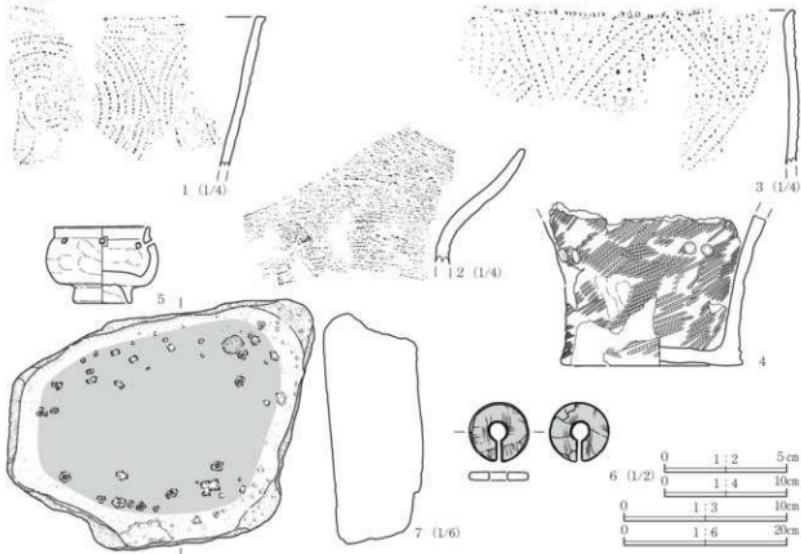
J - 6 A



0 1 : 1 2 cm
0 1 : 3 10cm
0 1 : 6 20cm

Fig56 (116) J - 5 · 6 A号住居跡出土遺物

J - 6B



J - 10

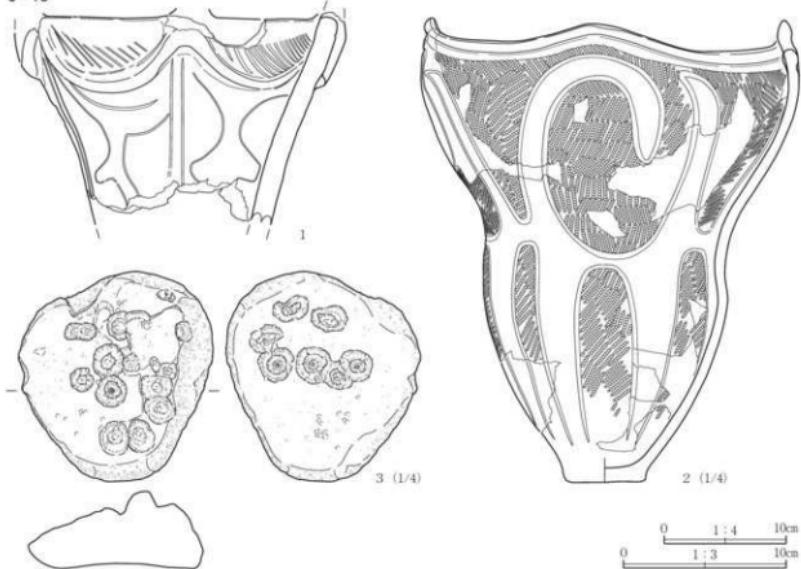
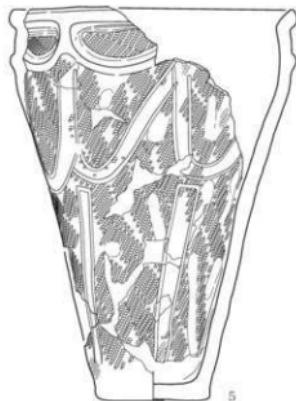
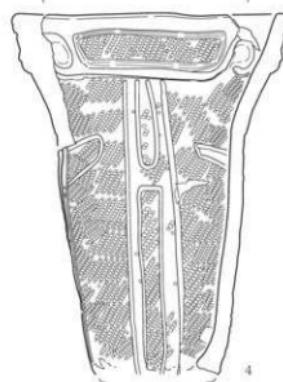
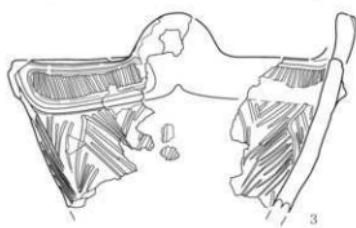
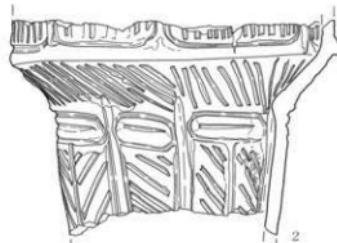
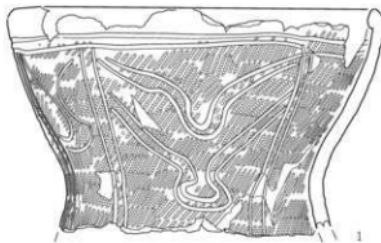


Fig.57 (116) J - 6B · 10号住居跡出土遺物

J-7



0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

J-8



0 1:4 10cm

Fig.58 (116) J - 7 · 8号住居跡出土遺物

J-8

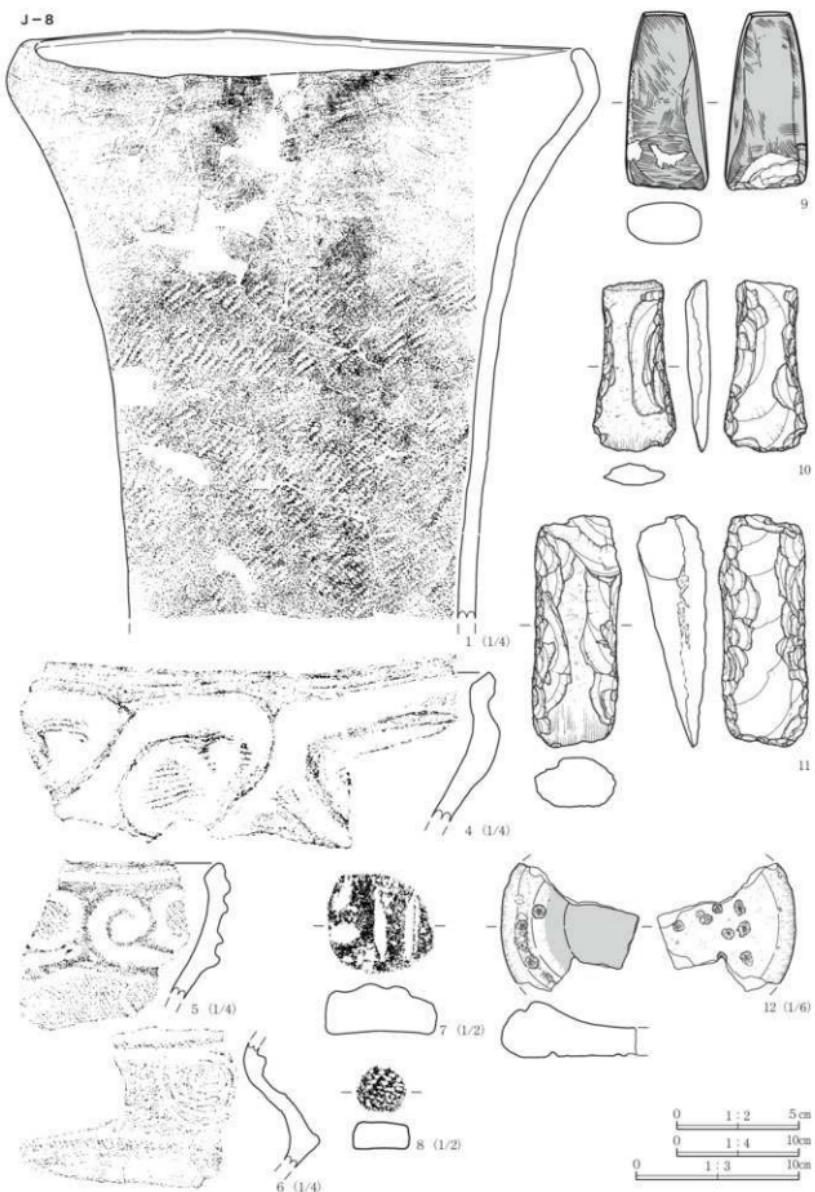
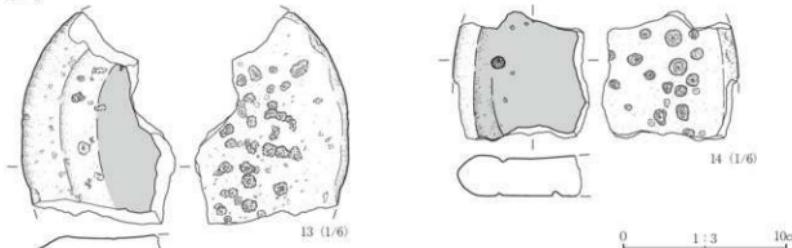
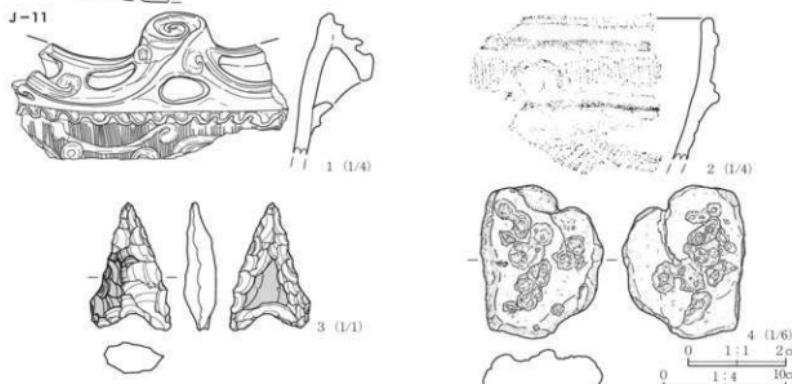


Fig59 (116) J - 8号住居跡出土遺物

J-8



J-11



J-12

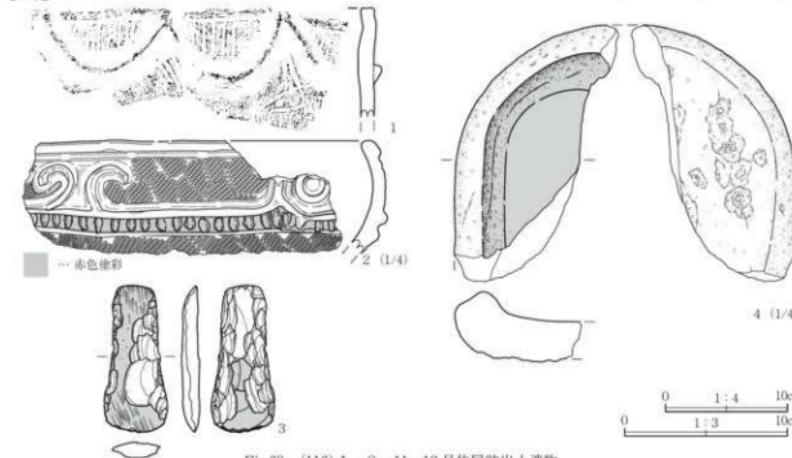
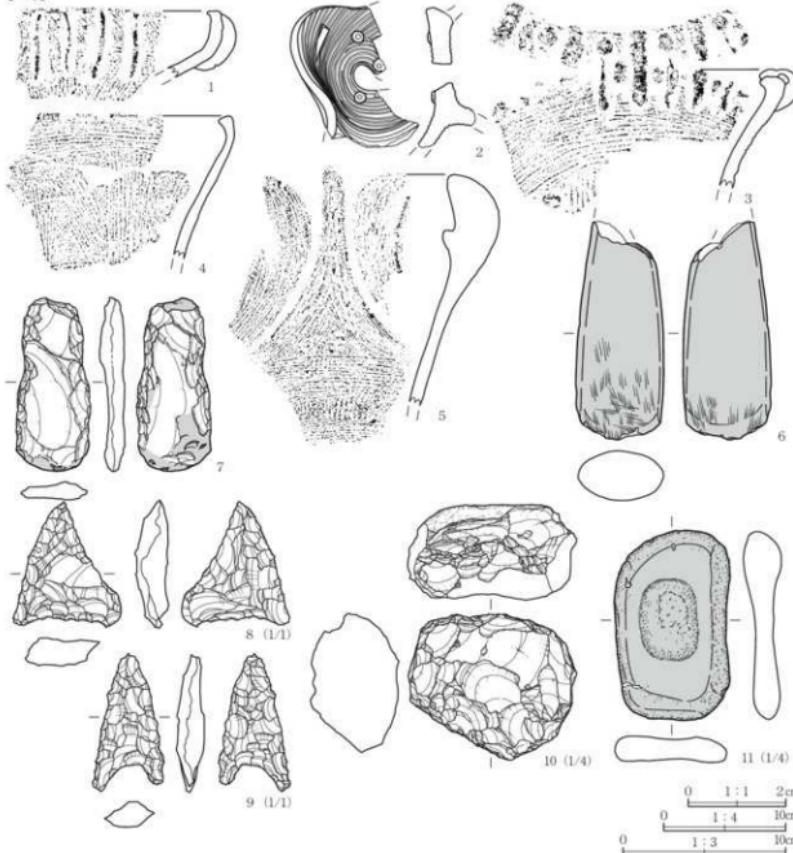


Fig60 (116) J - 8 · 11 · 12 号住居跡出土遺物

J-13



J-14

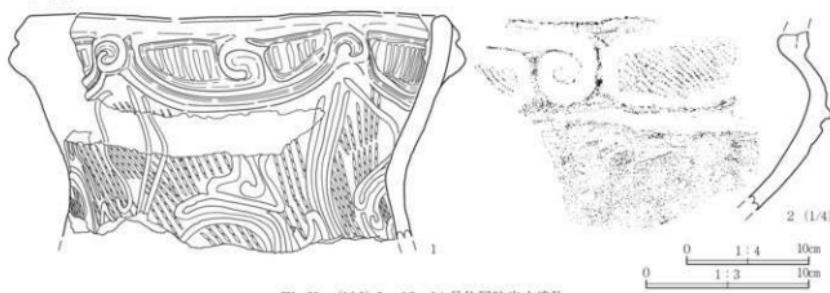
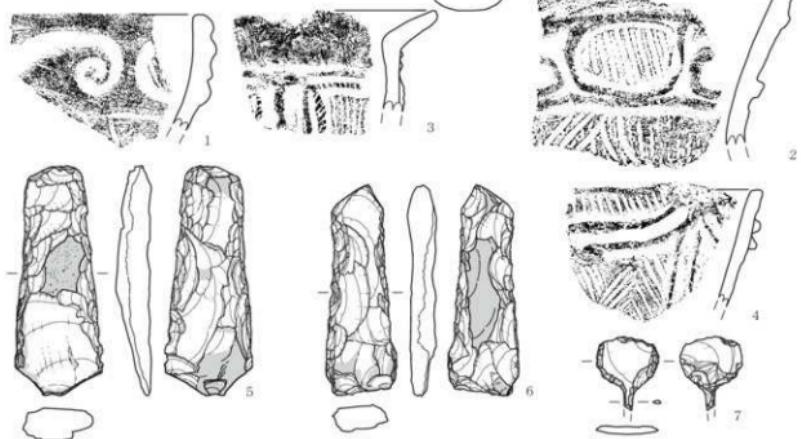


Fig61 (116) J-13·14号住居跡出土遺物

J-14



J-15



J-16

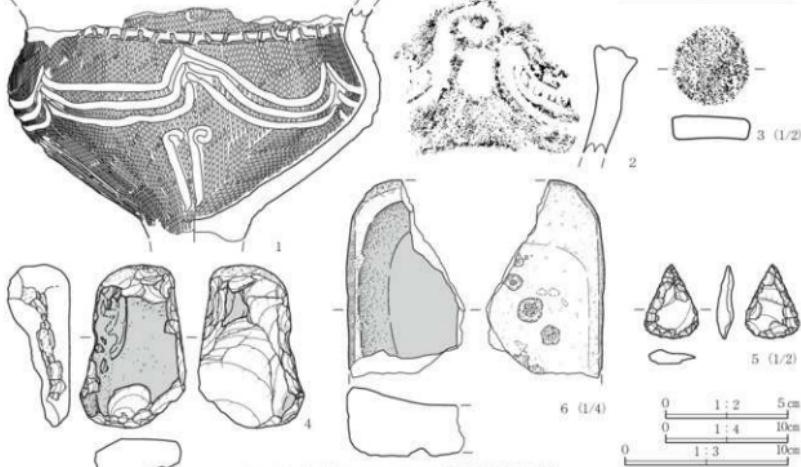


Fig.62 (116) J-14·15·16号住居跡出土遺物

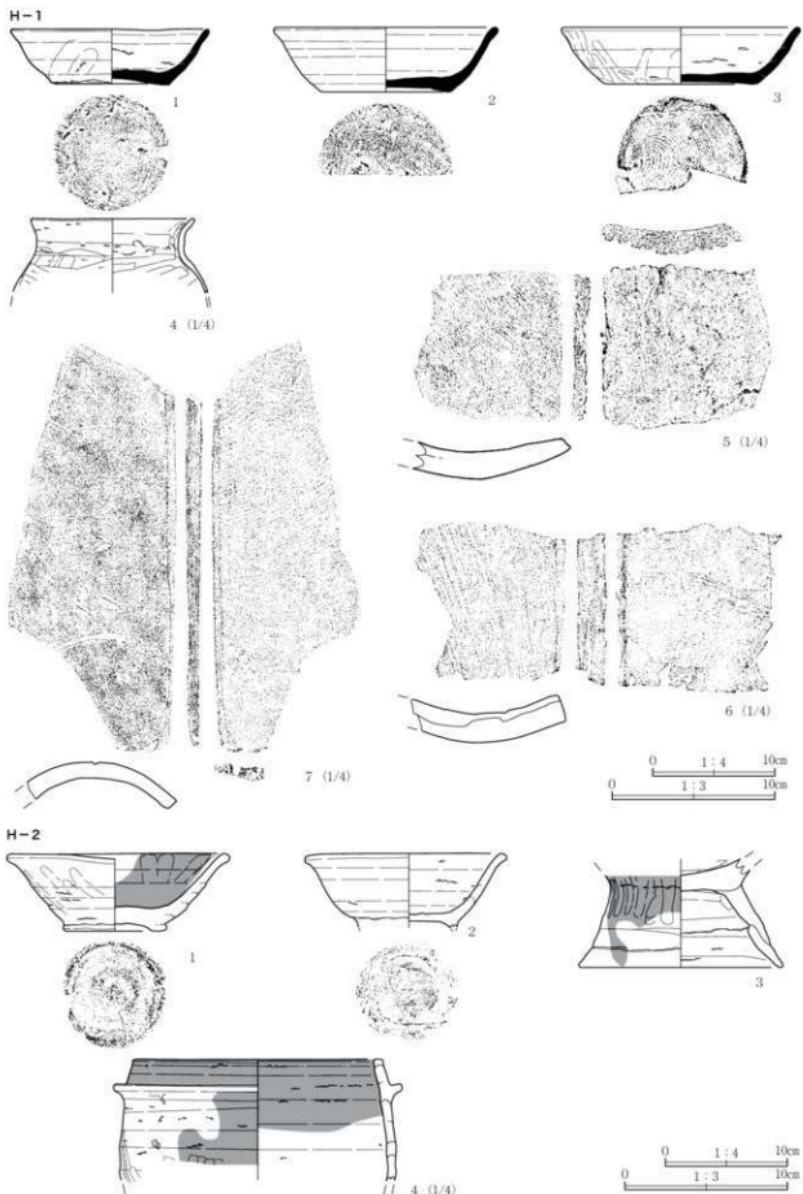


Fig.63 (116) H - 1 · 2号住居跡出土遺物

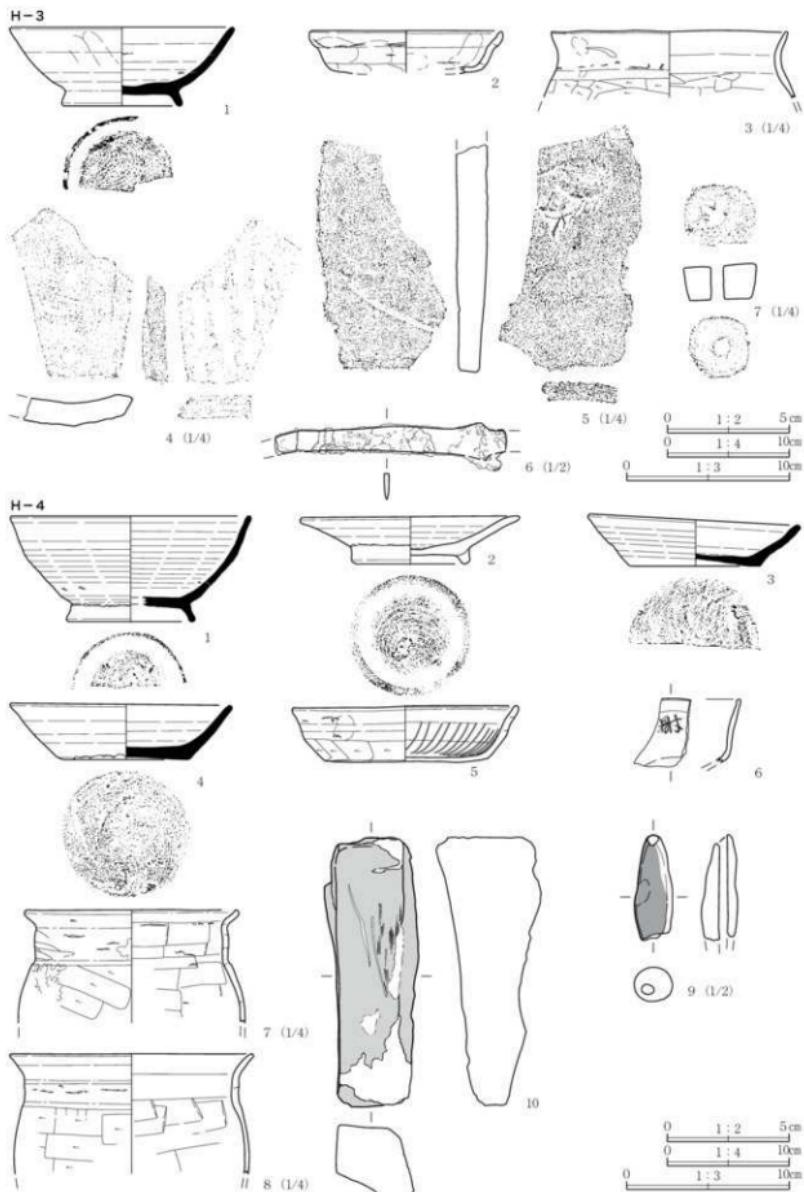


Fig64 (116) H - 3 · 4 号住居跡出土遺物

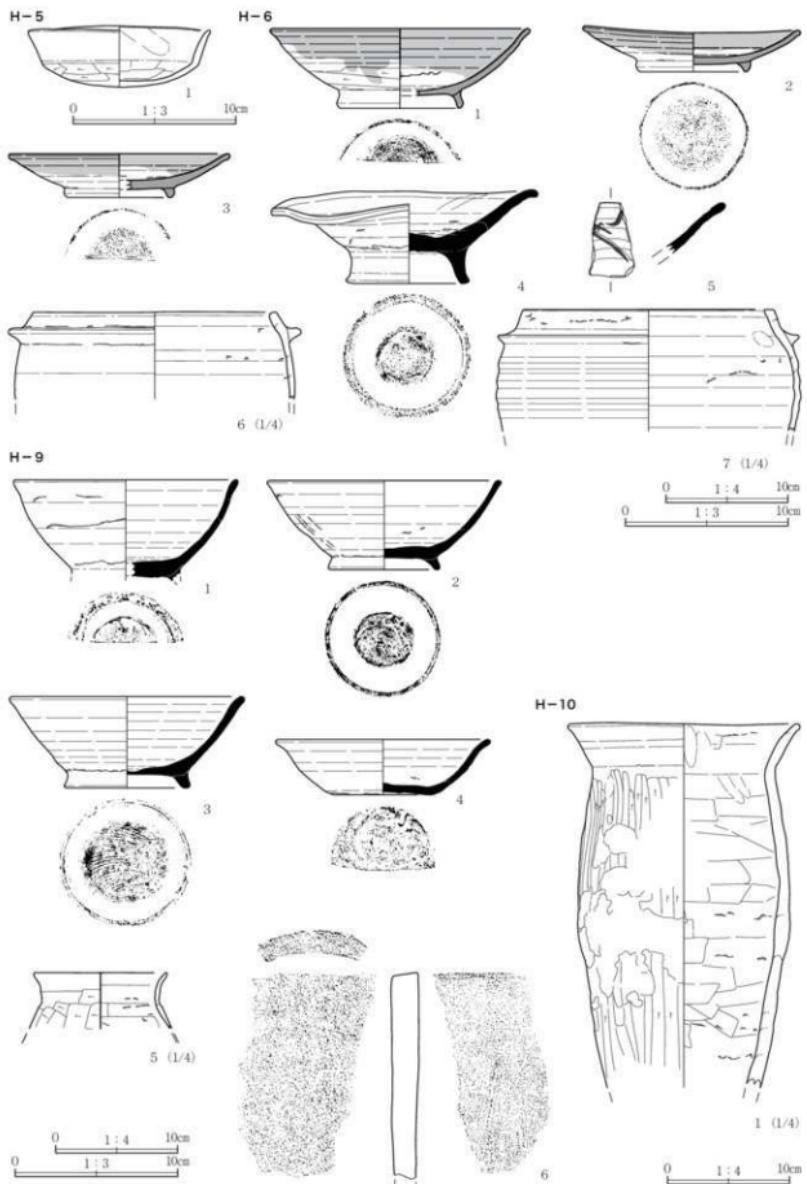


Fig.65 (116) H - 5 · 6 · 9 · 10 号住居跡出土遺物

H-7

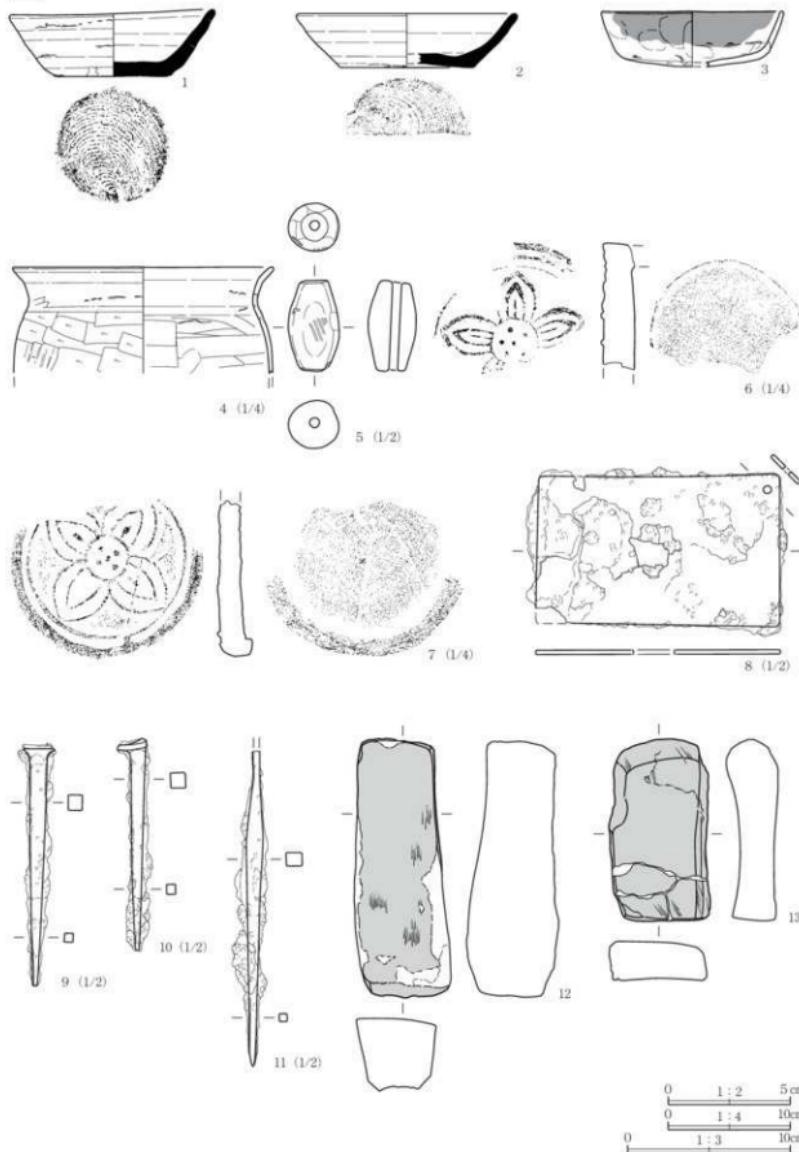


Fig66 (116) H-7号住居跡出土物

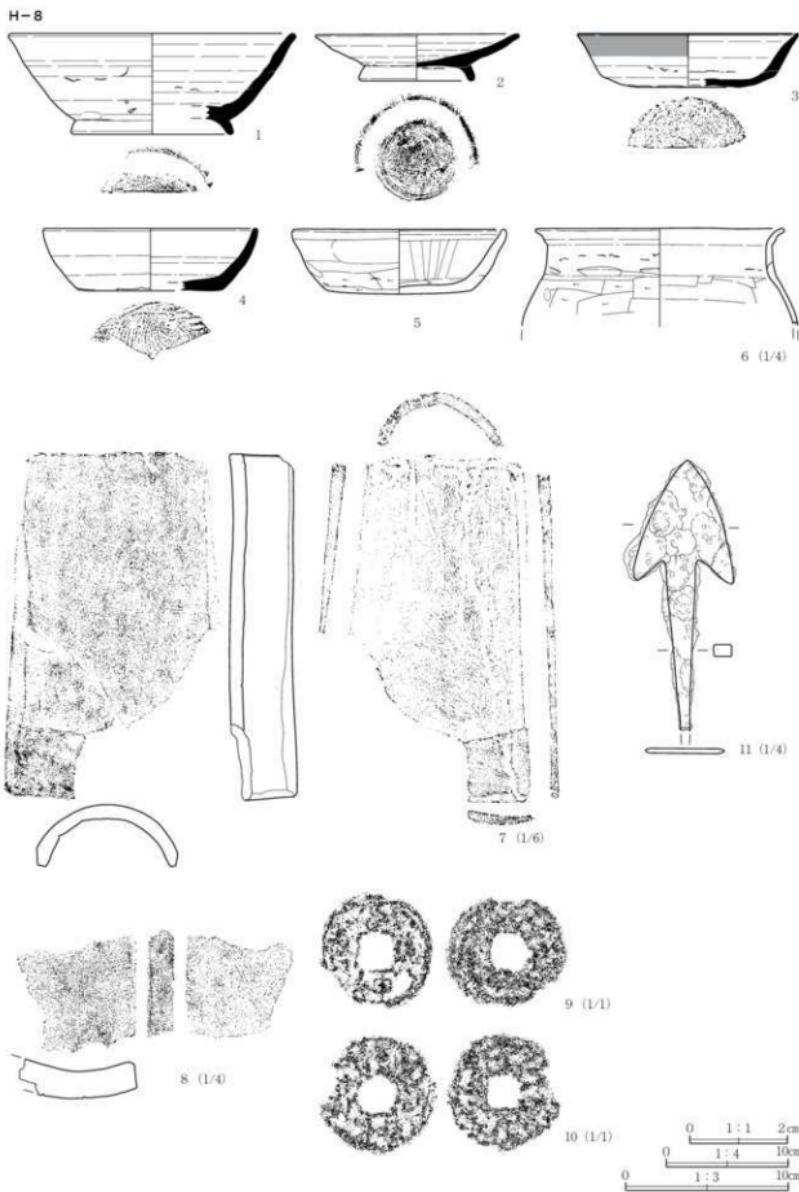


Fig.67 (116) H-8号住居跡出土遺物

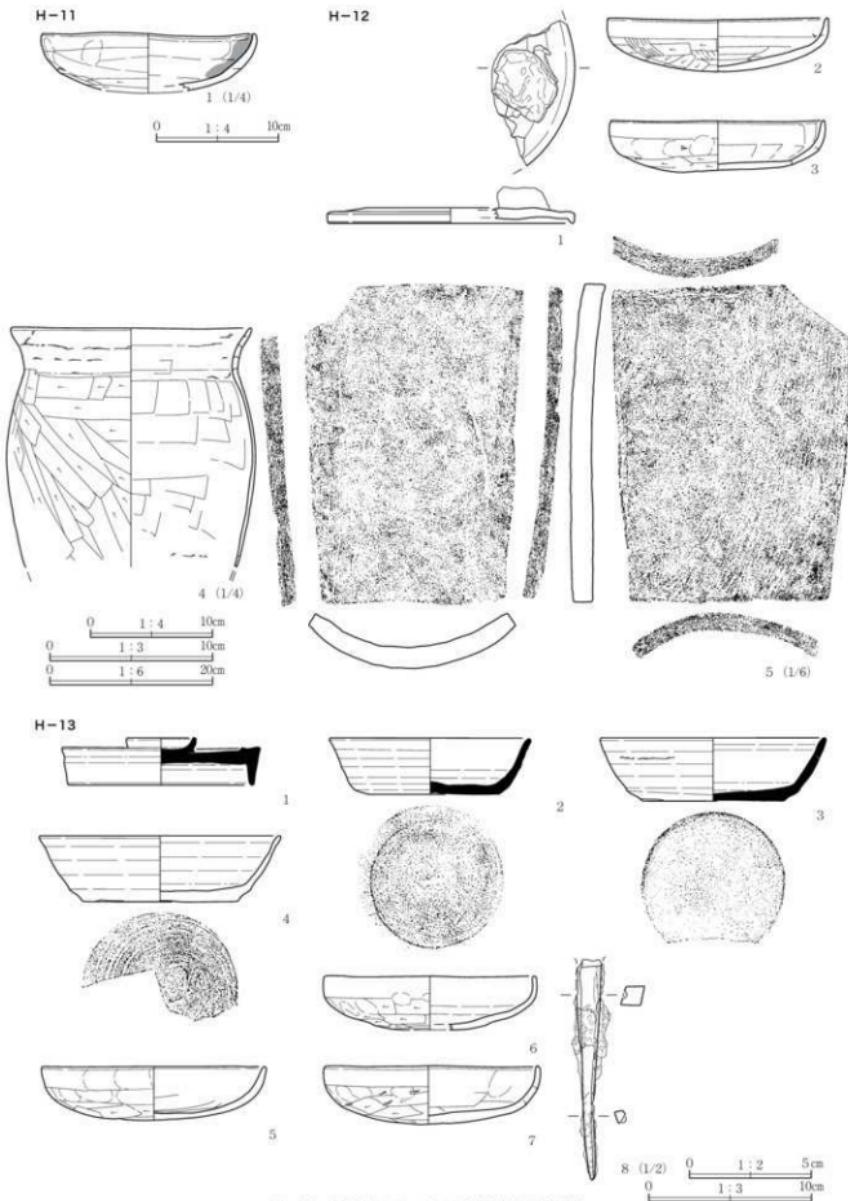


Fig.68 (116) H-11 · 12 · 13号住居跡出土遺物

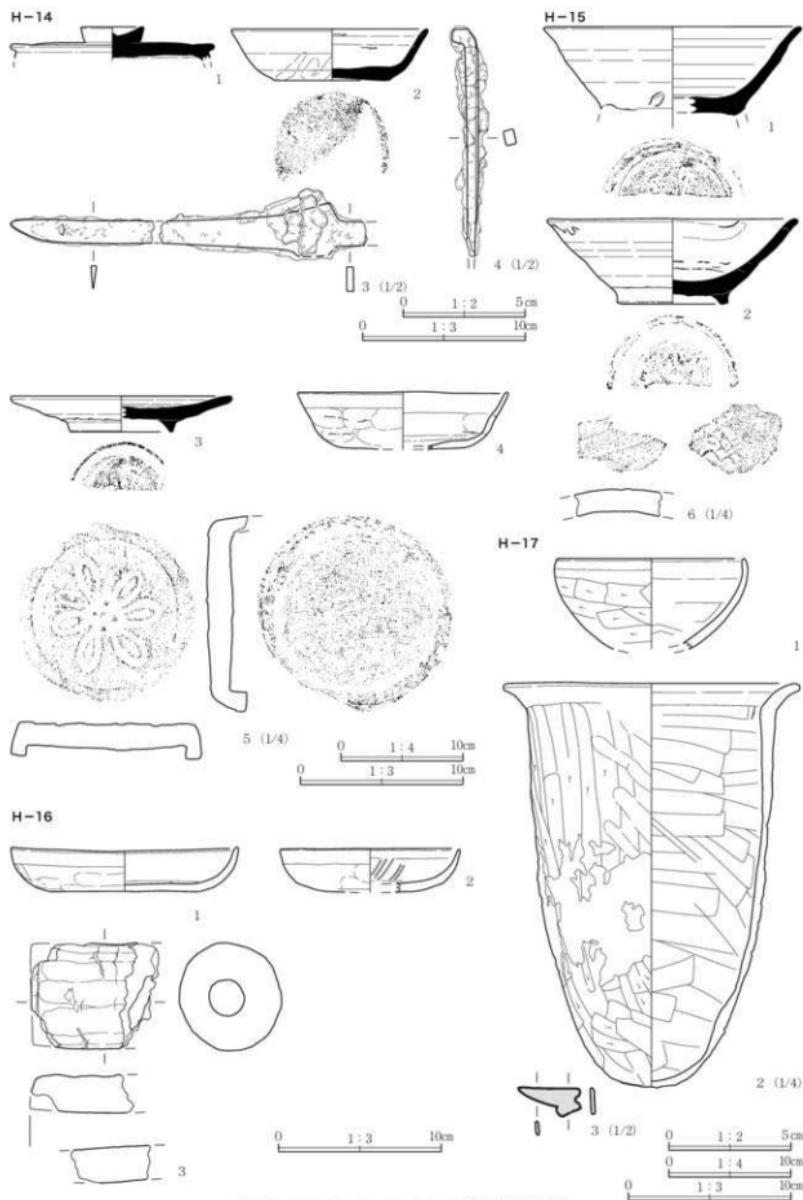


Fig.69 (116) H-14·15·16·17号住居跡出土遺物

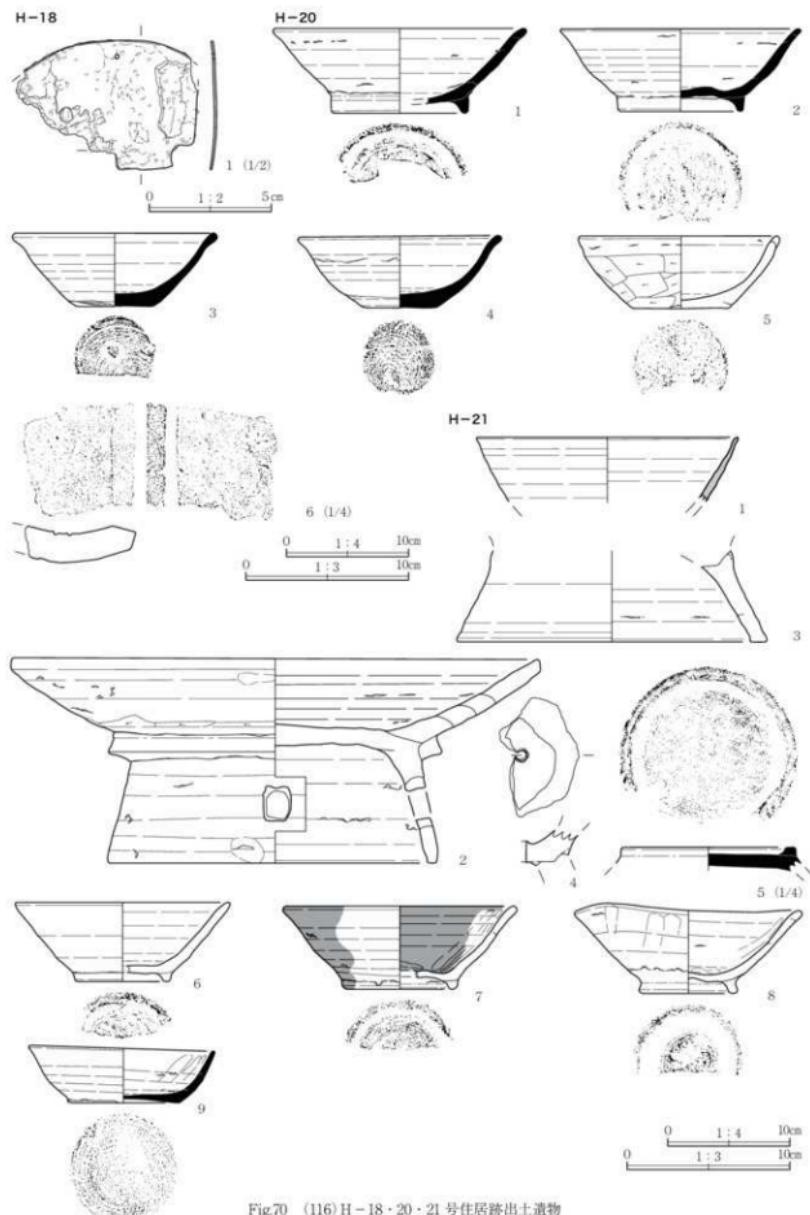


Fig.70 (116) H-18·20·21号住居跡出土遺物

H-21

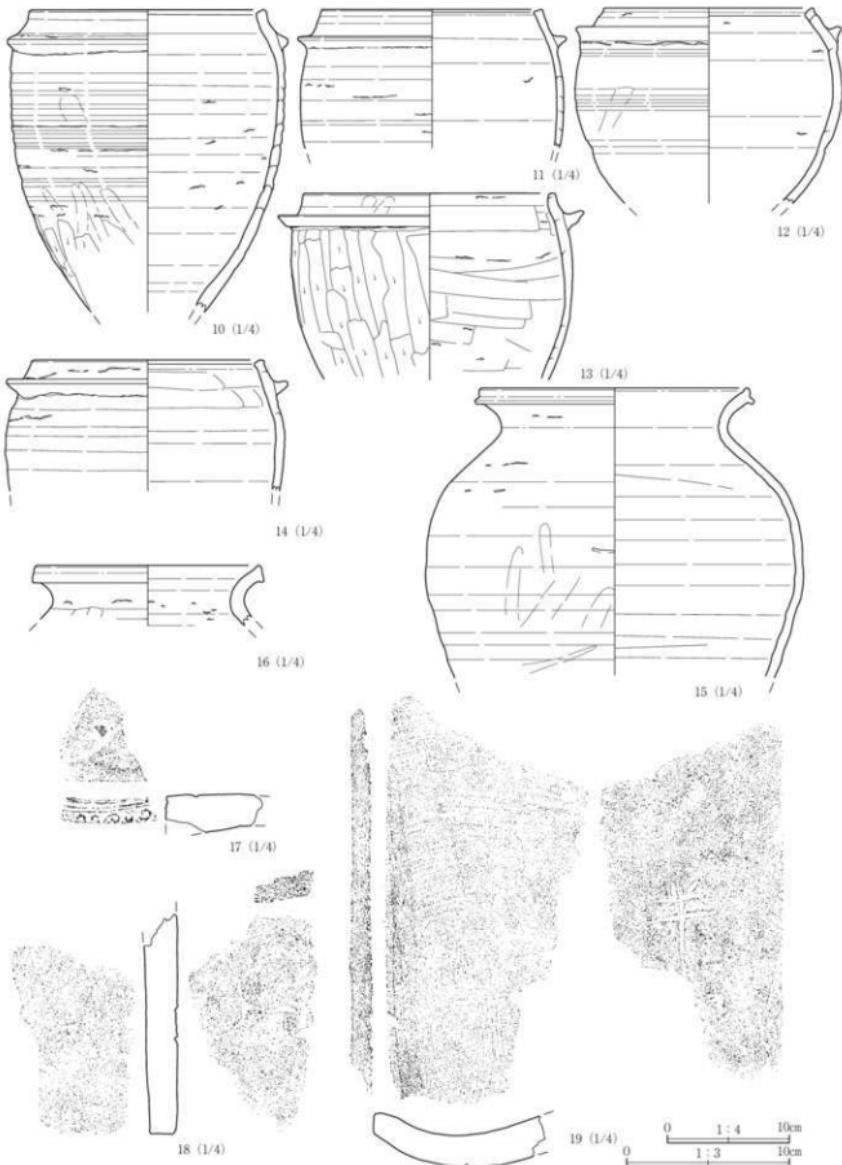


Fig.71 (116) H-21号住居跡出土遺物

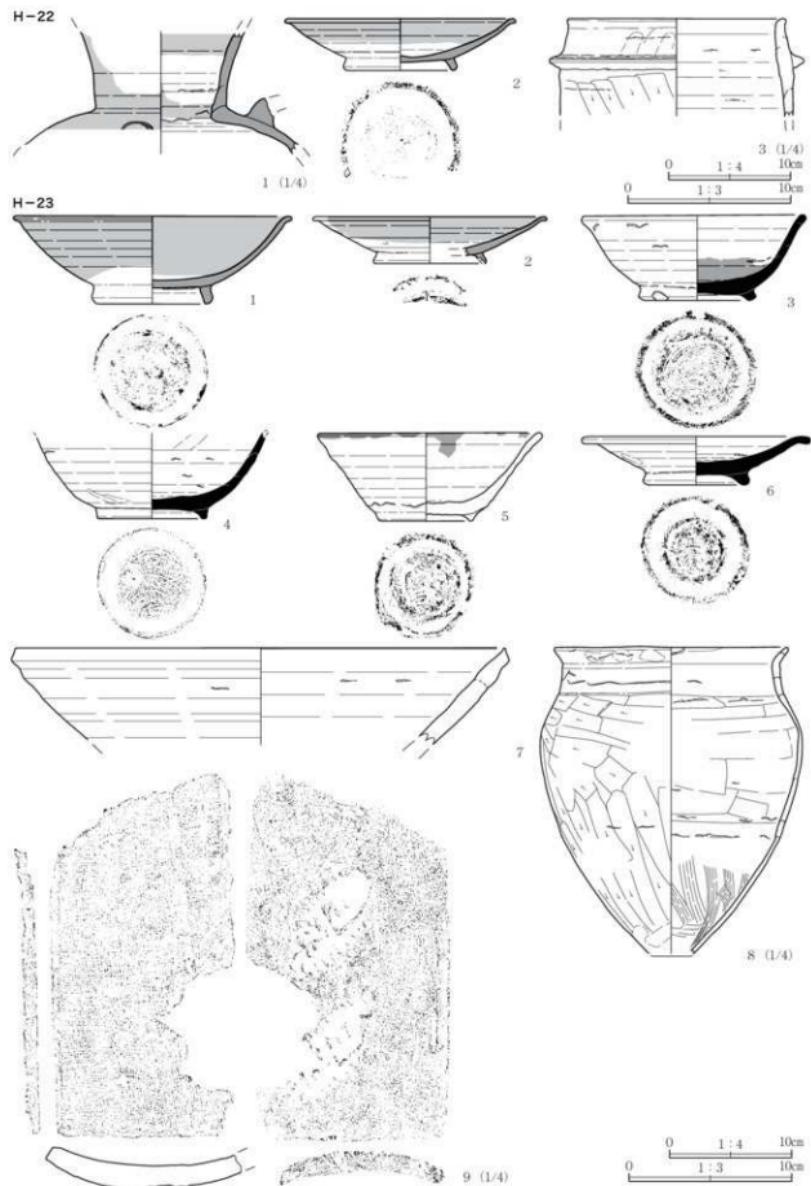


Fig.72 (116) H-22·23号住居跡出土遺物

H-24

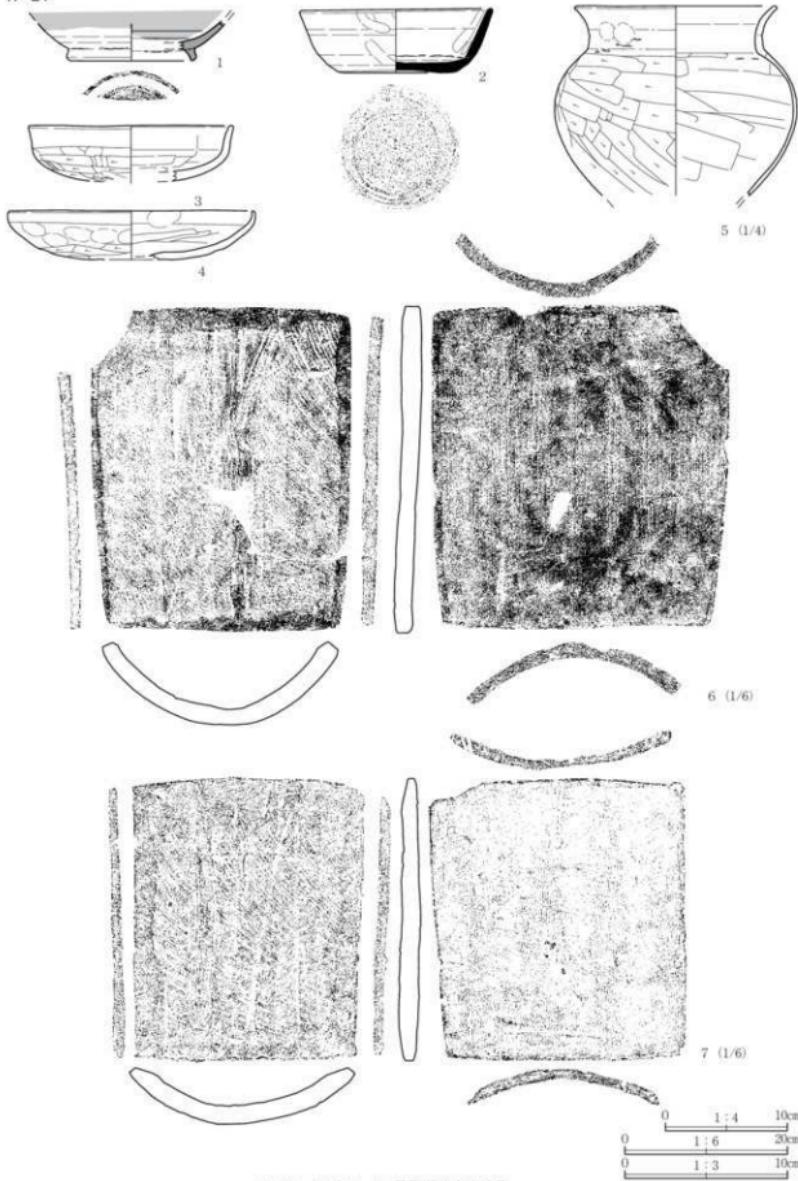
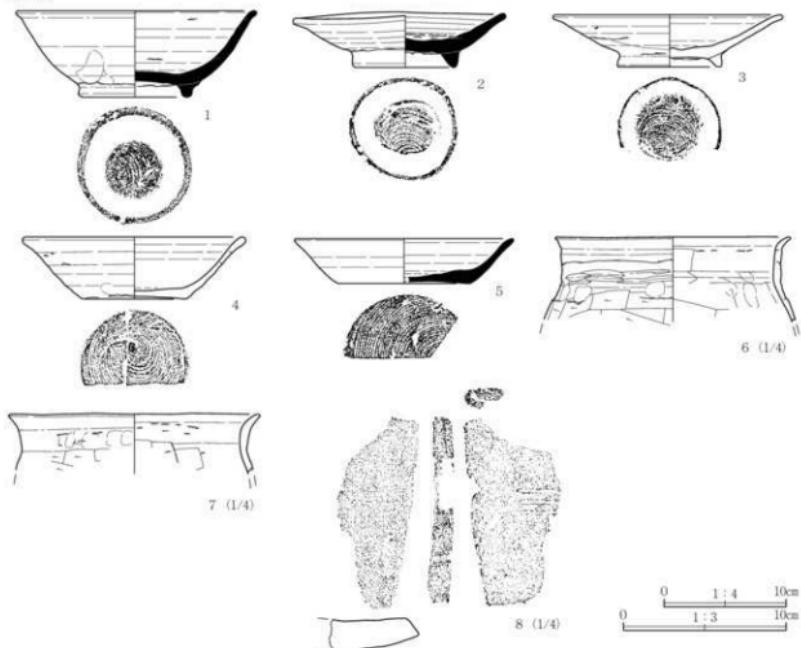


Fig.73 (116) H-24号住居跡出土遺物

H-25



H-26

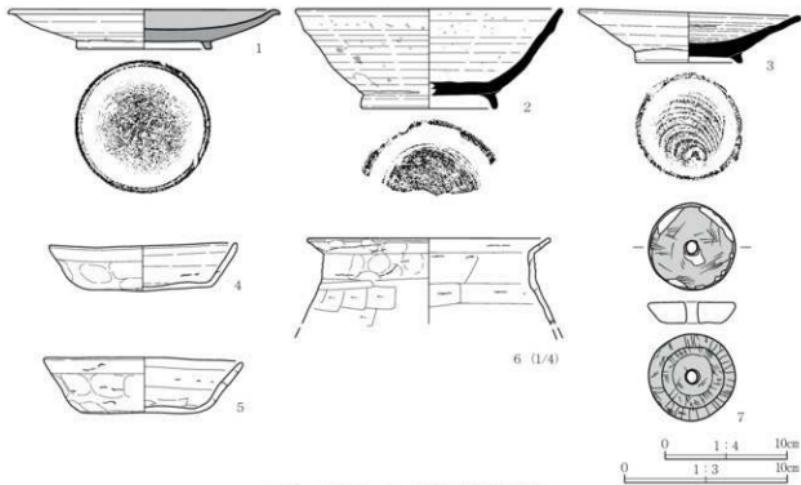
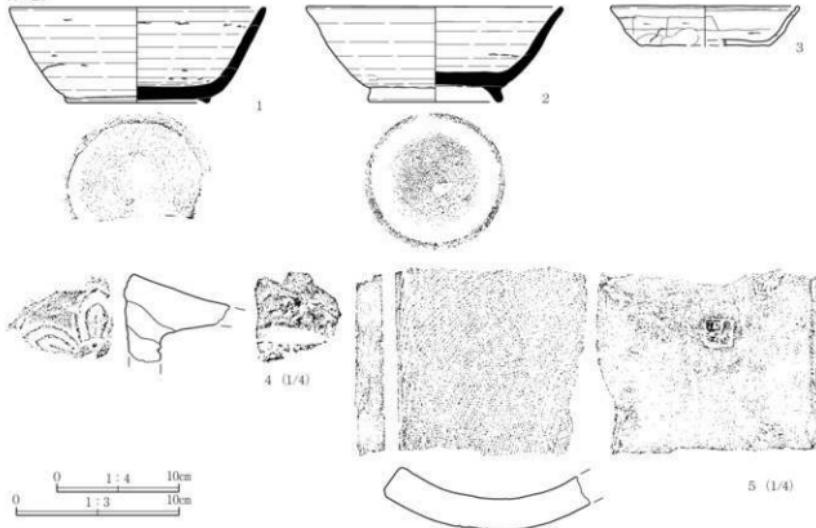


Fig.74 (116) H-25·26号住居跡出土遺物

H-27



H-28

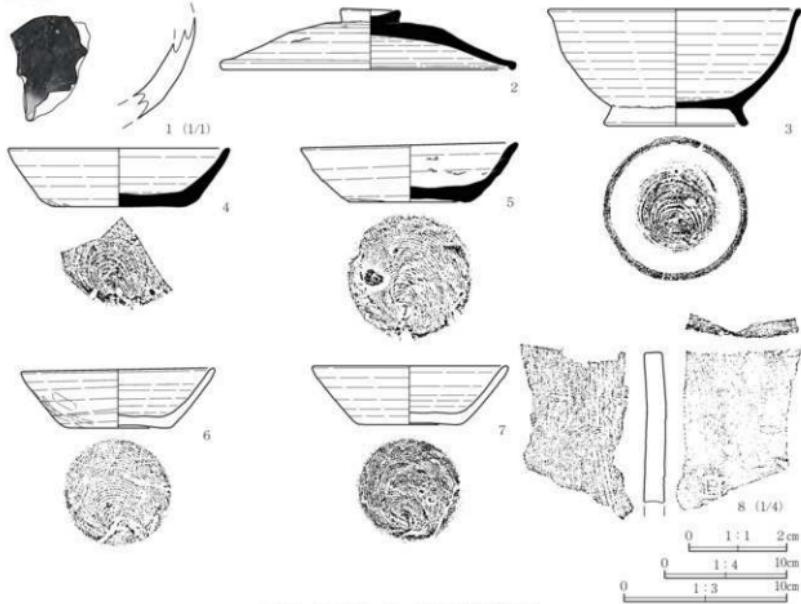


Fig75 (116) H-27・28号住居跡出土遺物

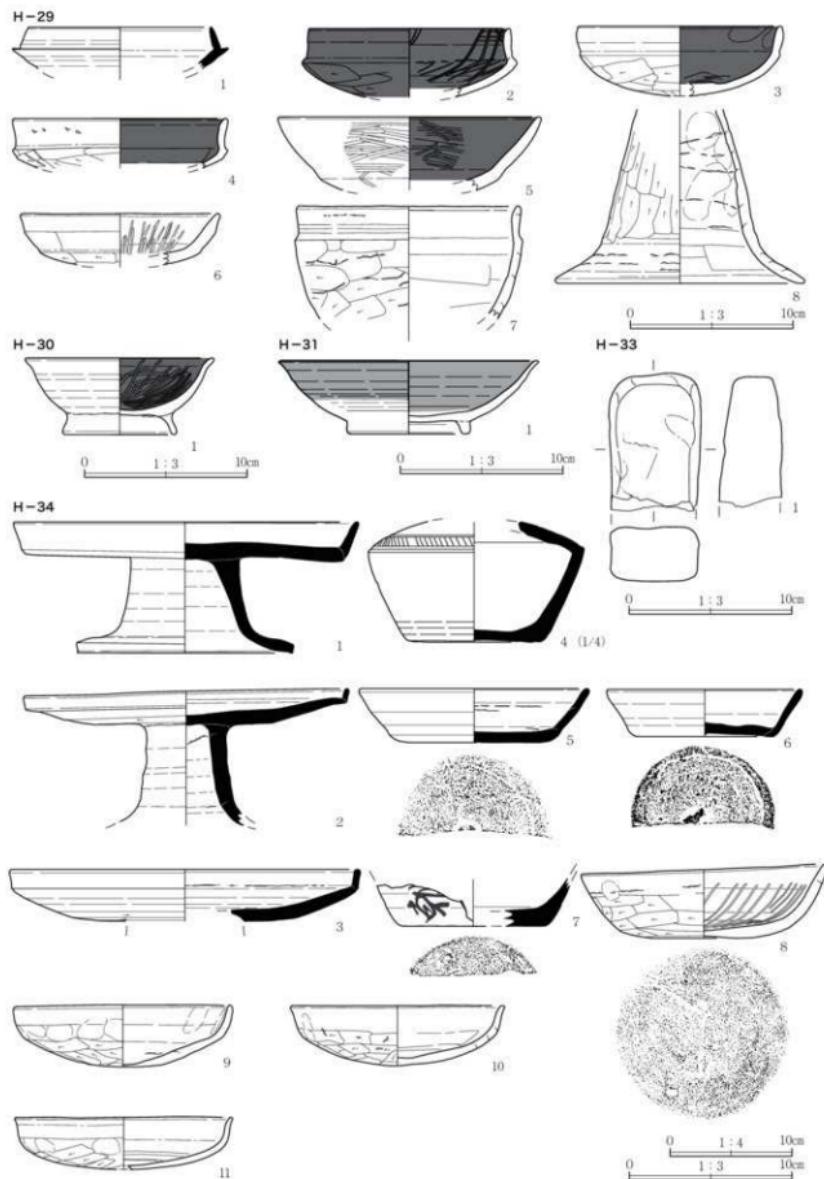
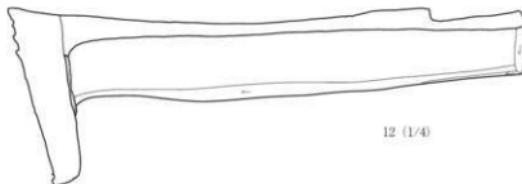
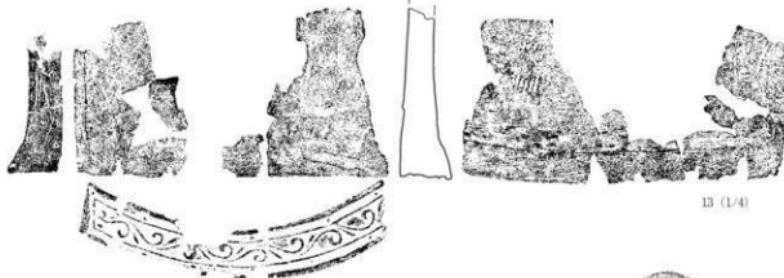


Fig.76 (116) H-29·30·31·33·34号住居跡出土遺物

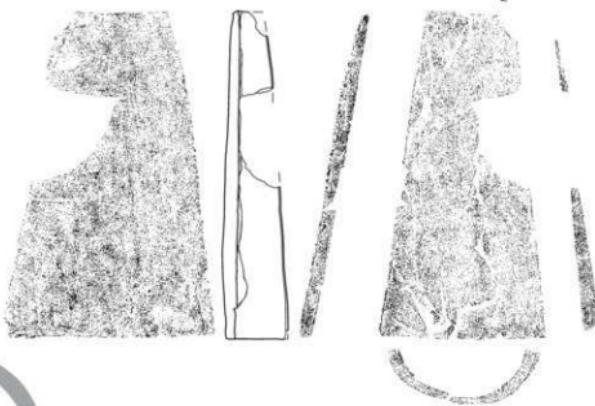
H-34



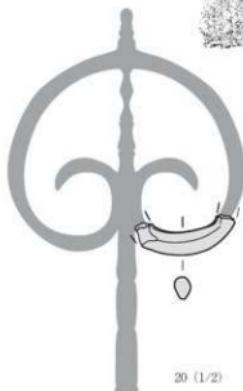
12 (1/4)



13 (1/4)

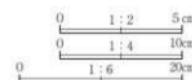


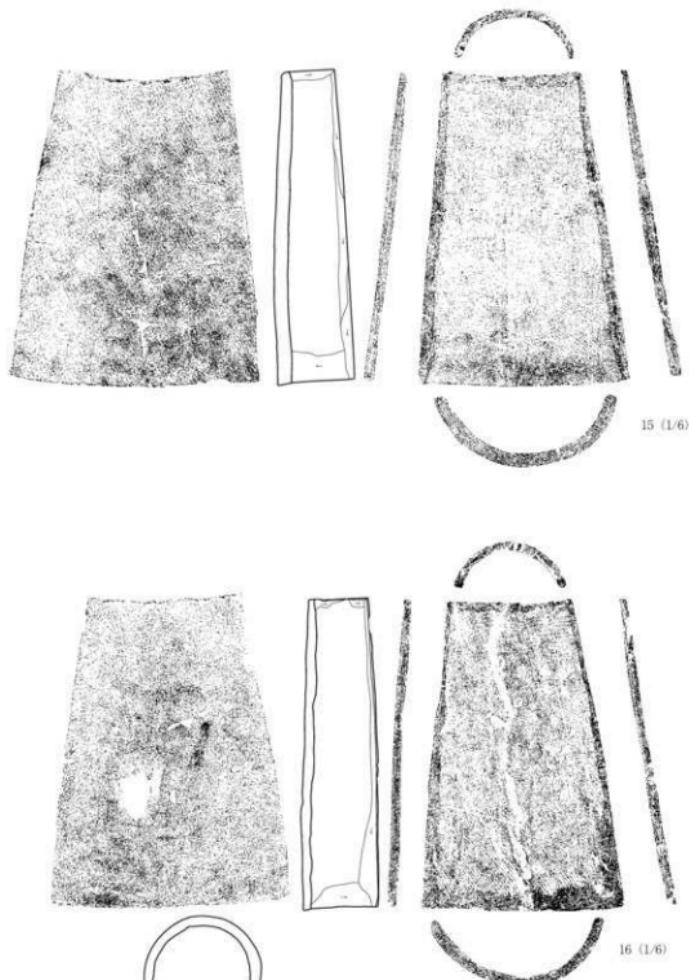
14 (1/6)



20 (1/2)

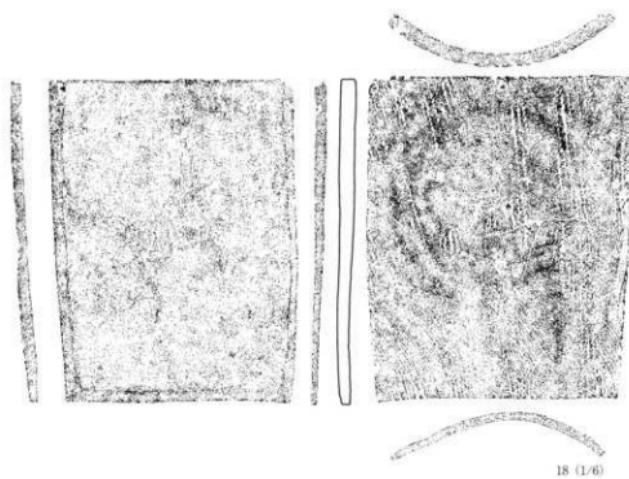
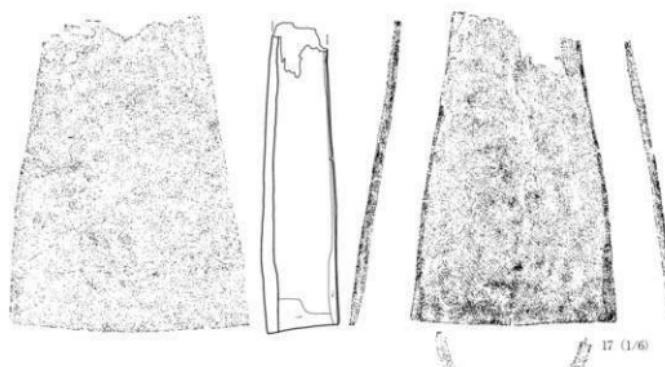
Fig.77 (116) H-34号住居跡出土遺物 (2)





0 1 : 6 20cm

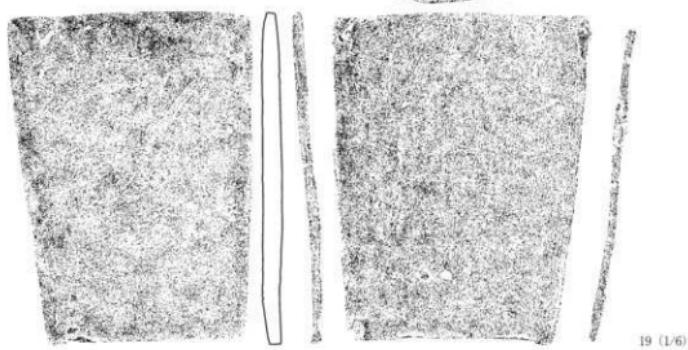
Fig.78 (116) H-34号住居跡出土遺物(3)



0 1 : 6 20cm

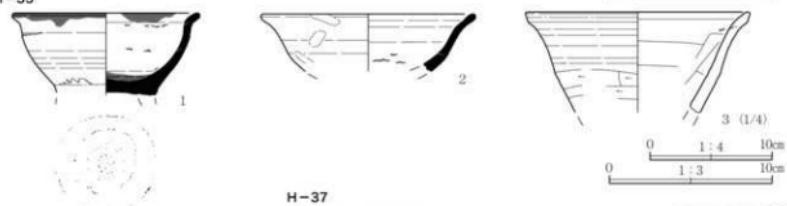
Fig.79 (116) H-34号住居跡出土遺物 (4)

H-34



19 (L/6)

H-35

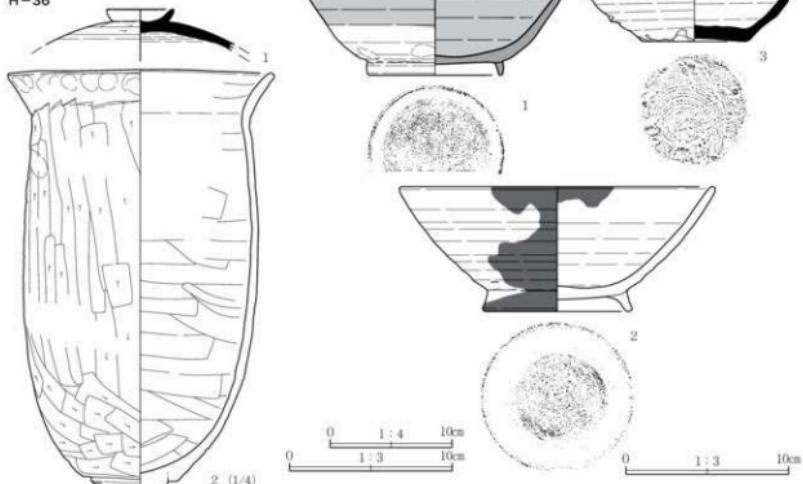


0 1 : 6 20cm

0 1 : 4 10cm

0 1 : 3 10cm

H-36



0 1 : 4 10cm

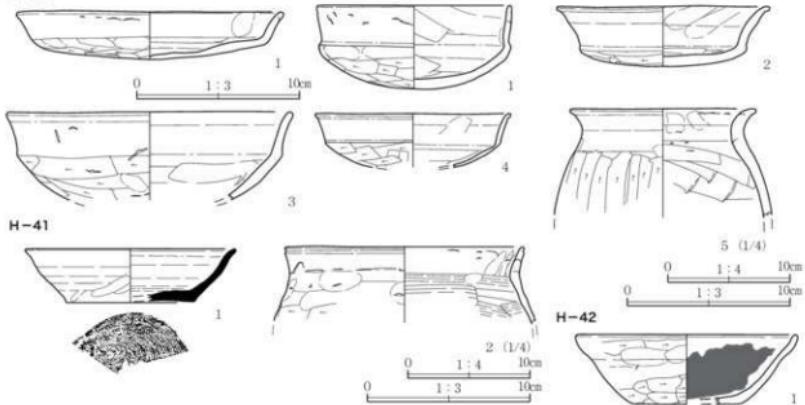
0 1 : 3 10cm

Fig.80 (116) H-34·35·36·37号住居跡出土遺物

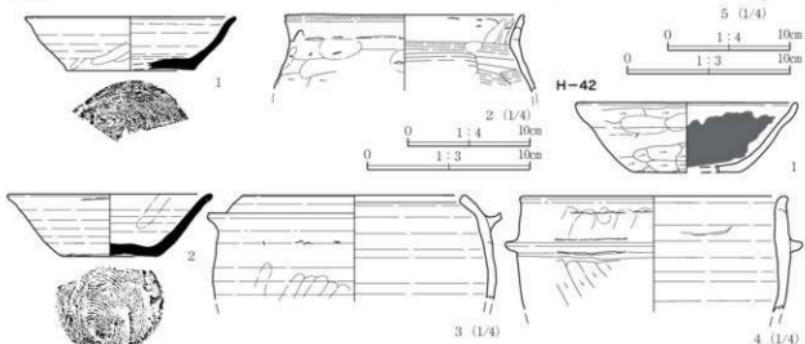
H-38



H-39



H-41



H-43

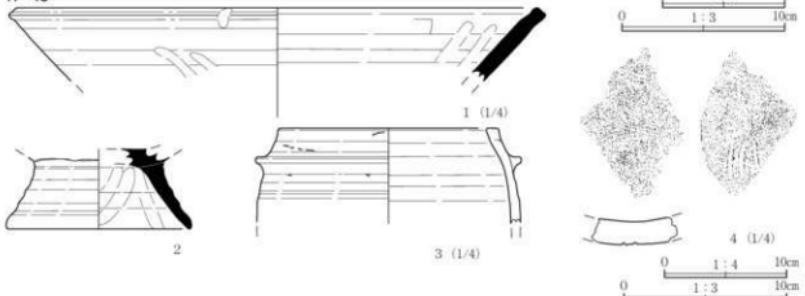


Fig81 (116) H-38·39·40·41·42·43号住居跡出土遺物

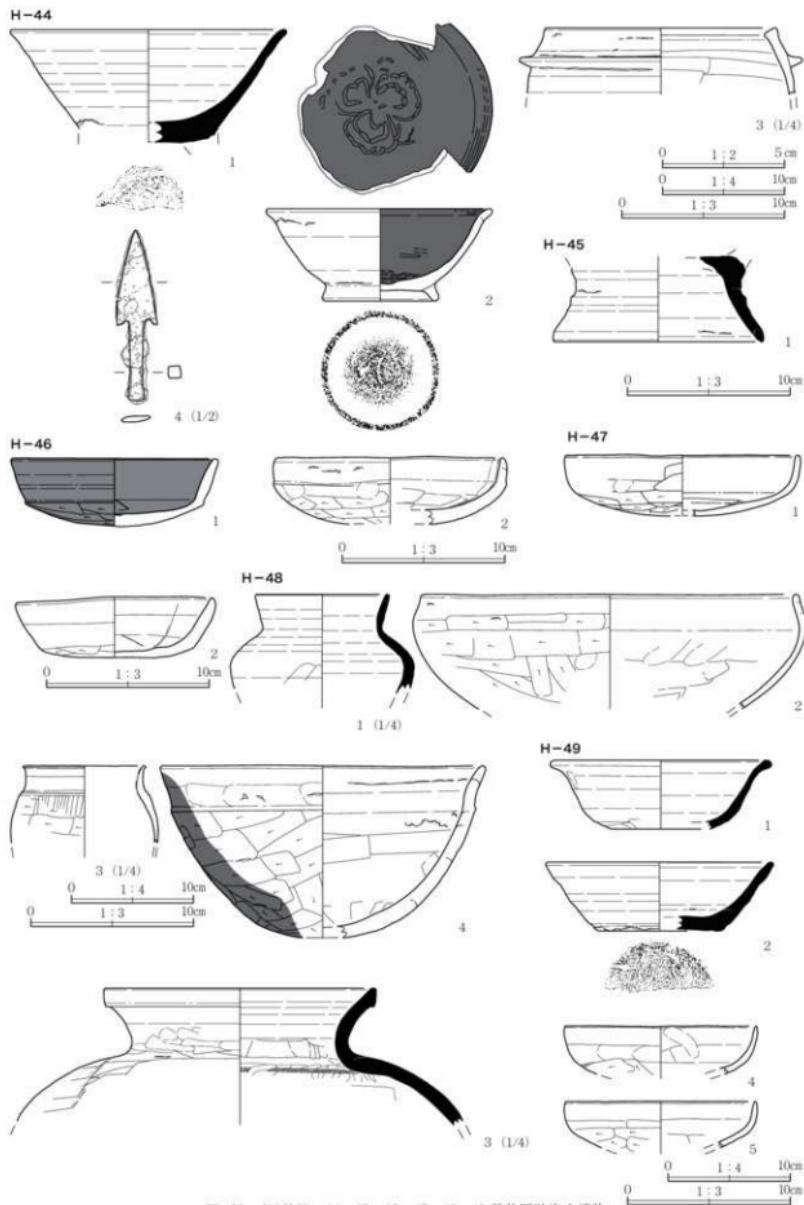


Fig.82 (116) H-44·45·46·47·48·49号住居跡出土遺物

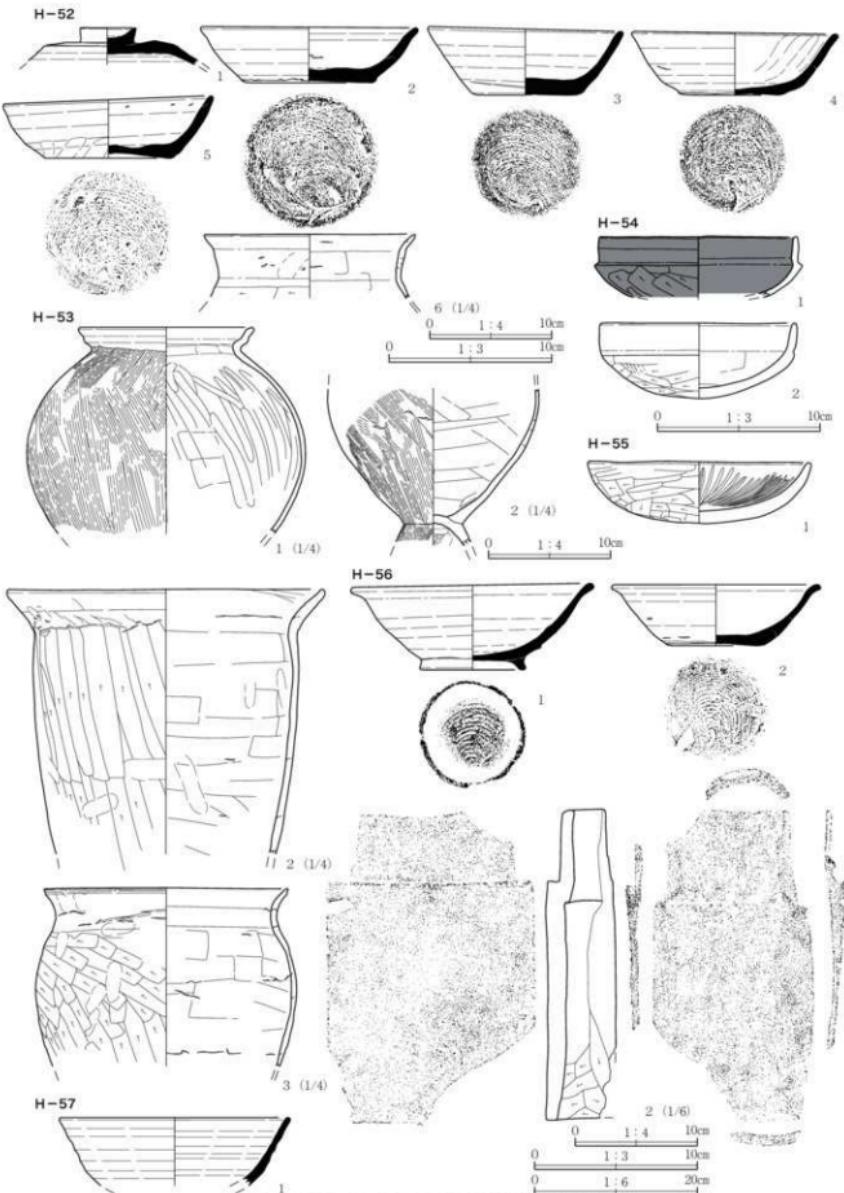
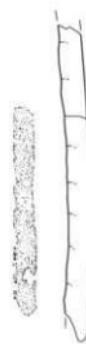
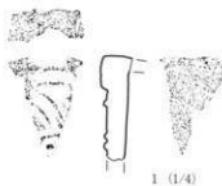


Fig.83 (116) H-52·53·54·55·56·57号住居跡出土遺物

I - 1



0 1 : 4 10cm

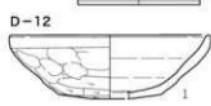
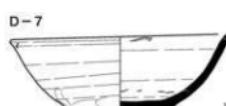
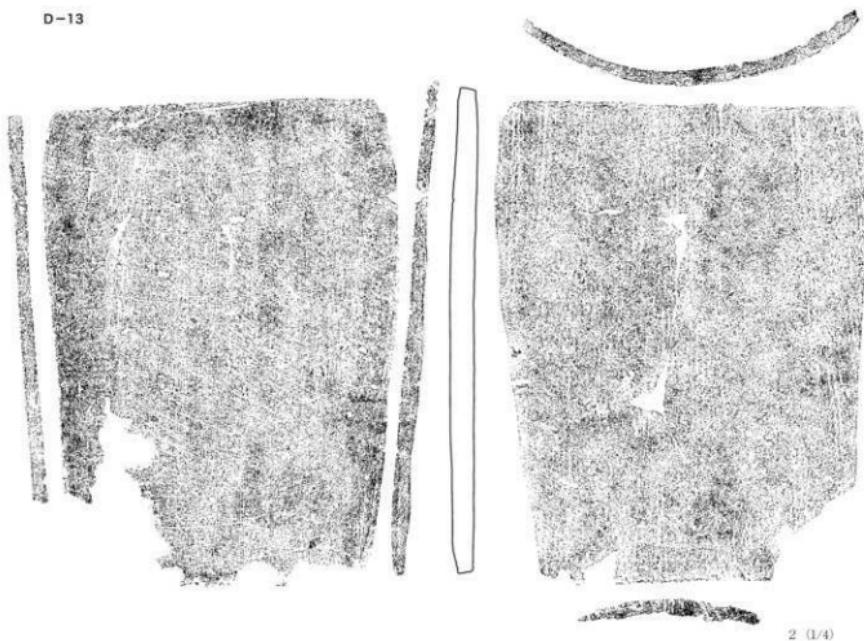
0 1 : 4 10cm
0 1 : 3 10cm

Fig.84 (116) I - 1 号井戸跡、土坑出土遺物

D-13



2 (1/4)

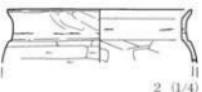
D-22



D-23

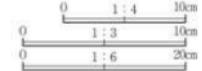
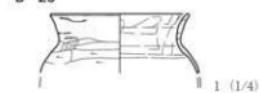


1



2 (1/4)

D-25



遺構外

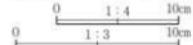
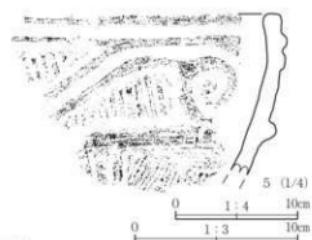
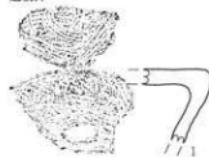


Fig.85 (116) 土坑、遺構外出土遺物

遺構外

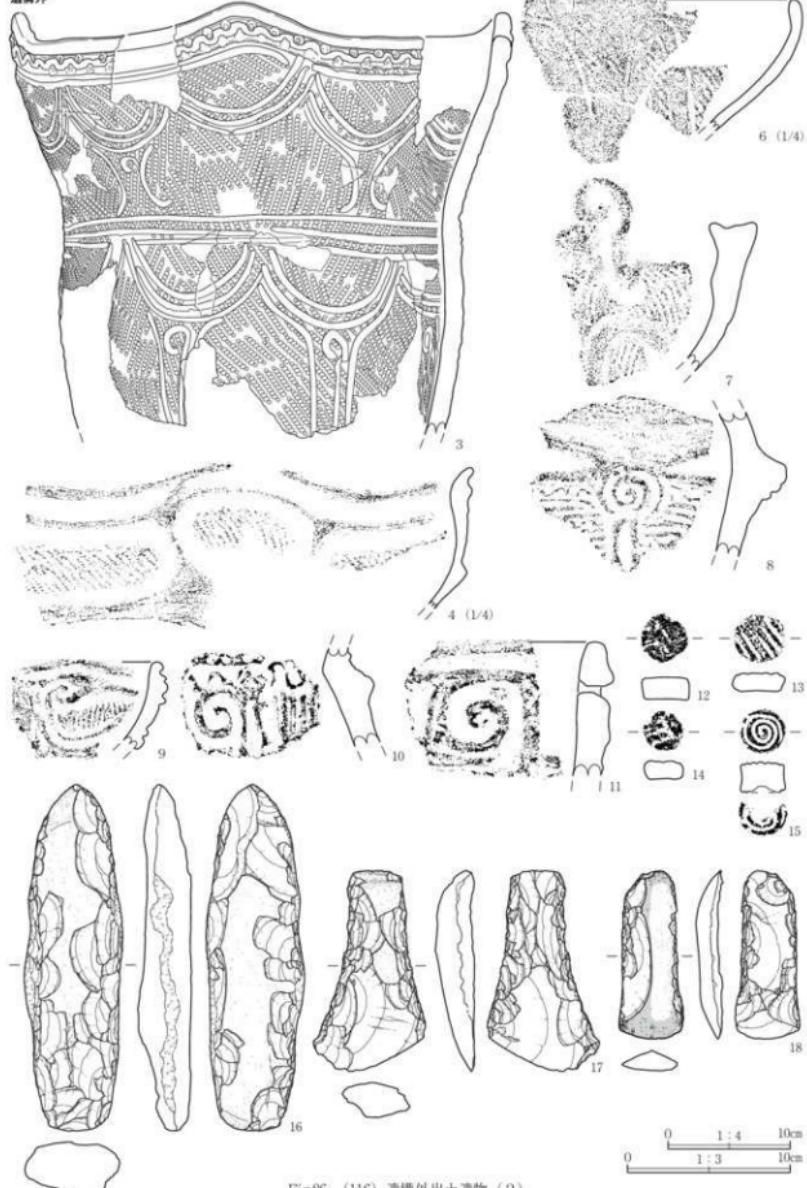


Fig.86 (116) 遺構外出土遺物 (2)

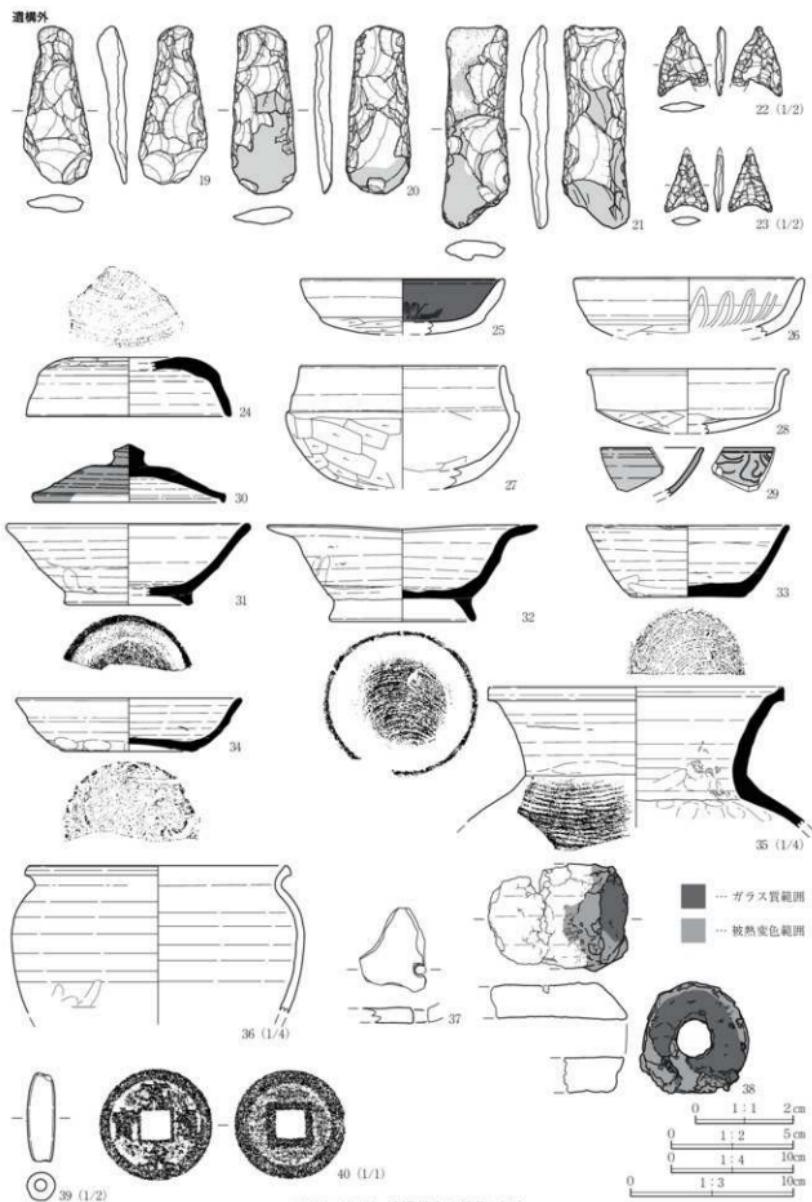


Fig.87 (116) 遺構外出土遺物 (3)



Fig.88 元總社舊海遺跡群（123）全体図（縄文時代）



Fig.89 元紹社蒼海遺跡群（123）全体図（古墳時代以降）

2 元総社蒼海遺跡群（123）

（1）竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig.90・91・130, PL.24・52)

位置 X37・38、Y116 主軸方向 N-35°-E 規模 東西 4.13m、南北 (2.61) m、壁現高 0.19m。住居南側の検出であり、北半は調査区外となる。面積 (7.94) m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。炉周辺にやや硬化した面が見られる。重複 J-3、W-6と重複し、新旧関係は J-3→本遺構→W-6である。炉 住居中央付近に1基検出された。長軸 0.53 m、短軸 0.42 m、深さ 0.11 m を測る。地山を掘りくぼめて構築しており、最下面是被熱により若干焼土化している。出土遺物 床面直上および覆土から出土した、加曾利EⅢ式土器と考えられる縄文土器深鉢5点を図示した。その他、縄文時代前期の諸磯c式土器、黒曜石を含む剥片、後世の流入である須恵器、土師器、瓦が出土しているが、いずれも極少量である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と推定される。

J-2号住居跡 (Fig.90・91・130, PL.24・25・52)

位置 X36、Y116 主軸方向 N-30°-E 規模 東西 4.06m、南北 (2.64) m、壁現高 0.18m。住居南側の検出であり、北半は調査区外となる。面積 (8.99) m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。硬化は弱く、明確な硬化面は確認されなかった。重複 J-3、A-1、W-6と重複し、新旧関係は J-3→本遺構→A-1→W-6である。炉 検出されず 出土遺物 縄文土器深鉢（1～3）、黒曜石製の石鎚（4）、打製石斧（5）、石皿（6）が床面直上および覆土から出土している。その他、少量であるが、須恵器、土師器、灰釉陶器、瓦などが出土しており、後世の流入である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と推定される。

J-3号住居跡 (Fig.90・91・131, PL.25・52)

位置 X36～38、Y116・117 主軸方向 N-13°-E 規模 東西 8.05m、南北 (6.53) m、壁現高 0.25m。住居南側の検出であり、北半は調査区外となる。東西の住居壁の立ち上がりは明瞭ではなく、柱穴等からの推定線となる。面積 (24.85) m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。炉周辺にやや硬化した面が見られる。重複 J-1・2、H-1・6、W-6と重複し、本遺構が最も古い。炉 住居中央付近に1基検出された。長軸 1.19 m、短軸 1.12 m、深さ 0.22 m を測る。炉の中心に縄文土器を据えた埋甕炉で、被熱した石材の残存や据え穴痕から、石組により周辺を開いていたものと考えられる。炉中央付近は被熱により下面が焼土化している。出土遺物 縄文土器深鉢5点を図示した。（1・2）は炉の中央に据えられていた深鉢で、（5）はEⅠ～EⅡ併行期とやや古相を示す。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と推定される。

J-4号住居跡 (Fig.92・131・132, PL.25・52)

位置 X31～33、Y116～118 主軸方向 N-40°-E 規模 東西 (5.56) m、南北 5.77m、壁現高 0.45m。北東から東側をW-8・搅乱、南西側をH-9・26により削平されている。面積 (17.36) m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。重複 H-9・26、W-8、D-36・37と重複し、本遺構が最も古い。炉 住居南西寄りに1基検出された。長軸 1.17 m、短軸 0.90 m、深さ 0.15 m を測る。石組により炉を構築しており、集中して出土する石材は被熱が顕著である。また、地山最下層でも被熱が強く焼土化する箇所も確認された。出土遺物 縄文土器深鉢（1～5）、石棒（6）、くはみ石（7）、石皿（8・9）が床面直上および覆土から出土している。縄文土器は口縁部文様帯が消失しており、新相を呈する。石棒（6）は白色花崗岩製であり、先端部のみの残存である。石皿（8）は炉の構築材に転用されていたもので、若干の被熱が認められる。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期終末（加曾利EⅣ期）と推定される。

J - 5号住居跡

欠番。

J - 6号住居跡 (Fig.93、PL.25)

位置 X32、Y115・116 主軸方向 N - 4° - E 規模 東西 (3.22) m、南北 3.71m、壁現高 0.26m。住居西側の検出であり、東側はW - 8により削平される。面積 (9.49) m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。床面はやや軟弱で、明確な硬化面は確認されなかった。重複 D - 34 ~ 37、W - 8と重複し、本遺構が最も古い。炉 検出されず。出土遺物 繩文土器深鉢が出土しているが、小破片で図示に至らず。出土量も他住居跡に比べ、少量である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と推定される。

J - 7号住居跡 (Fig.93・132、PL.26・52)

位置 X30、Y118・119 主軸方向 N - 25° - W 規模 東西 (2.89) m、南北 4.78m、壁現高 0.34m。住居西側の検出であり、東側はW - 1により削平される。面積 (10.89) m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。床面はやや軟弱で、明確な硬化面は確認されなかった。重複 W - 1と重複し、新旧関係は本遺構→W - 1。炉 明確な炉は検出できなかったが、W - 1の傾斜面に続く土坑状の掘り込みに焼土粒の混入が認められ、炉跡である可能性が考えられる。出土遺物 繩文土器深鉢（1・2）を図示した。（1）は加曾利EⅢ式土器であり、本遺構から出土する遺物群の主体となる時期である。（2）は両耳壺の把手である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）を中心とする時期と推定される。

J - 8号住居跡 (Fig.94・133、PL.26・53)

位置 X31・32、Y118・119 主軸方向 N - 24° - W 規模 東西 (1.82) m、南北 (4.52) m、壁現高 0.32m。住居東側の検出であり、西側はW - 1により削平される。住居北側の一部はH - 9が重複している。面積 (9.94) m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。炉周辺にやや硬化した面が見られる。重複 H - 9、W - 1と重複し、新旧関係は本遺構→H - 9→W - 1である。炉 住居中央付近に1基検出された。長軸 0.93m、短軸 0.74m、深さ 0.16 m を測る。焼土は覆土最下層に極少量含むのみであり、被熱も弱く火床面は認められない。出土遺物 覆土中から出土した繩文土器深鉢（1）、黒曜石の石核（2）、くぼみ石（3）を図示した。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と考えられる。

J - 9号住居跡 (Fig.95・96・133、PL.26・53)

位置 X32 ~ 34、Y112 ~ 115 主軸方向 N - 7° - W 規模 東西 (7.40) m、南北 9.06m、壁現高 0.32m。ほぼ全形を検出したが、住居東端の一部がW - 10により削平される。また住居東側に風倒木と考えられる床面の攪拌が見られる。土層の観察から北東に向かって倒れたものと推測される。面積 (57.76) m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。全体的に硬化するが断続的であり、明確な硬化面として範囲を確認できるのは炉周辺である。重複 H - 28、W - 7・8・10と重複し、本遺構が最も古い。炉 住居中央付近に1基検出された。長軸 0.61 m、短軸 0.56 m、深さ 0.17 m を測る。炉の中央に深鉢を埋設している。出土遺物 繩文土器深鉢（1～5）、尖頭器もしくは削器（6）、打製石斧（7）が床面上および覆土中から出土している。（1）は炉の中央に埋設されていた深鉢で、文様の構成から唐草文系土器（郷土式）で、E II併行期とやや古相を示す。（2）は連弧文土器である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と考えられる。

J - 10号住居跡 (Fig.94・134、PL.26・53)

位置 X32 ~ 34、Y110・111 主軸方向 N - 15° - W 規模 東西 4.86m、南北 4.89m、壁現高 0.53m。面積 (18.31) m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。明確な硬化面は確認できず。重複 H - 32、W - 8・9と重複し、本遺構が最も古い。炉 住居中央やや東寄りに1基検出された。長軸 0.91 m、短軸 0.53 m、深

さ0.13mを測る。被熱は弱く、火床面は認められない。出土遺物 床面直上および覆土中から縄文土器深鉢（1～4）が出土している。その他、図示には至らなかつたが多孔石や台石などの石製品も出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と考えられる。

J-11号住居跡 (Fig.96・134, PL26・27・53)

位置 X28・29, Y113・114 主軸方向 N-2°-E 規模 東西（4.49）m、南北（4.95）m、壁現高0.43m。住居西側の検出である。北側および東側は後世の住居跡により削平される。面積（14.78）m²。床面 地山床で、全面的に平坦である。明確な硬化面は確認でなかった。重複 H-22・23・30, D-19・21・57と重複し、本遺構が最も古い。炉 住居中央やや西寄りに1基検出された。長軸1.02m、短軸0.99m、深さ0.06mを測り、炉の中心には深鉢を埋設している。焼土は覆土最下層に極少量含むのみであり、被熱も弱く火床面は認められない。出土遺物 縄文土器深鉢（1～3）、土製品耳栓（4）が床面直上および覆土中から出土している。（1）は炉の中央に埋設されていた深鉢であるが腹下部以下を欠く。（3）は雨垂れ状に列点文を施文し、元社社蒼海遺跡群（116）J-1出土遺物と接合する。（4）の耳栓は表裏両面に彫書きによる文様が施されている。時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半（加曾利EⅢ期）と考えられる。

H-1号住居跡 (Fig.97・135, PL27・53)

位置 X37・38, Y117・118 主軸方向 N-100°-E 規模 東西軸2.69m、南北軸3.95m、壁現高0.39m。面積 10.93 m²。床面 黄褐色砂質ブロックを含む褐色土で、床面を構築する。西半はH-6覆土を掘り込んでおり、部分的にH-6覆土を床面としている。また、カマド前を中心として全体的に締まりやや強い。重複 J-3, H-6, W-5と重複し、新旧関係はJ-3→H-6→本遺構→W-5である。カマド 東壁南寄りに1基検出された。確認長1.04m、燃焼部幅0.62m、袖は右側のみ残存しており残存長0.41mを測り、褐色粘質土により構築されている。煙道は壁外に0.68m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口前面を中心には焼土粒を少量含む灰屑が床面直上まで堆積している。貯蔵穴 南東隅に1基検出された。平面円形で長軸0.52m、短軸0.51m、深さ0.21mを測る。柱穴 検出されず。掘り方 黄褐色ブロックを少量含む褐色土により構築される。全体的には平坦な掘り方であるが、住居北・南側を土坑状に掘り込む箇所が見られ、住居中央がやや浅くなっている。出土遺物 カマド付近床面直上より須恵器壺（1）が、貯蔵穴内から土師器壺（2）が出土している。その他、須恵器高台付塊、土師器壺・甕、瓦類などが出土している。時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と推定される。

H-2号住居跡 (Fig.98・135, PL28・53)

位置 X39・40, Y119 主軸方向 N-97°-E 規模 東西3.22m、南北3.73m、壁現高0.57m。南東隅は調査区外となり、他遺構による削平もあり東半部の詳細は不明である。面積（7.77）m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。締まりやや強く一部では硬化面も見られ、カマド前と想定される。重複 H-3・5、W-4、D-39と重複し、新旧関係はH-5→H-3→本遺構→W-4、D-39である。カマド 検出されず。しかしながら焼土・灰が床面直上に残存しており、その残存範囲から東壁南寄りにあったと思われ、W-4およびD-39に削平されているものと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 床面直上より縁釉陶器碗（1）、須恵器高台付塊（2）、丸瓦（3）が出土している。丸瓦（3）は凸面にヘラ記号「×」、凹面に判読不明だが押印が確認できる。その他、灰釉陶器碗、須恵器壺、土師器甕などが出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から10世紀前半と推定される。

H-3号住居跡 (Fig.98・99・135, PL28・53)

位置 X39・40, Y118・119 主軸方向 N-93°-E 規模 東西2.64m、南北（2.54）m、壁現高0.36m。住居南側をH-2に、東側からカマド前をW-4により削平されている。面積（4.51）m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。重複により全面は不明であるがカマド前を中心として締まりやや強い。重複 H

- 2・5、W-4と重複し、新旧関係はH-5→本遺構→H-3→W-4である。カマド 住居の南東隅に1基検出された。確認長0.89m、燃焼部幅0.87m、煙道は壁外に0.72m突出している。両袖はともに残っていないが、砂岩が4つ残っており構築芯材と考えられ、右袖手前の砂岩は倒れているが、その他は原位置を保っているものと思われる。また、カマド覆土中からも弱いながらも被熱した砂岩が出土しており、残存する砂岩と合わせて、石組によりカマドが構築されていたものと考えられる。天井部は完全に崩落しており、焚口前面はW-4による削平を受けている。焼土・灰層は焚口を中心にW-4をまたぎ、住居中央まで堆積している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 遺物の出土はカマドに集中しており一部は床面直上で、覆土中からの出土は比較的少なかった。床面直上から酸化焰焼成の須恵器高台付塊（1）、カマドから土師器鉢（2）、羽釜（3）、覆土中から刀子と思われる鉄製品（4）が出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から10世紀前半と推定される。

H-4号住居跡 (Fig.98・99・135, PL.28・53)

位置 X38・39、Y117・118 主軸方向 N-104°-E 規模 東西 3.35m、南北 4.35m、壁現高 0.51m。北東隅はW-3により削平される。面積 (12.22) m²。床面 地山硬化床で、カマド前を中心にはめりやや強い。重複 H-5、W-1と重複し、新旧関係はH-5→本遺構→W-1である。カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長0.91m、燃焼部幅0.66m、煙道は壁外に0.39m突出している。燃焼部の焼土化は弱い。左袖は黄褐色粘質土を主体とする構築部材が比較的良好に残存し、残存長1.09mを測る。掘り方では袖石が埋め込まれたと思われる掘り込みが両袖に確認された。天井部は完全に崩落しており、焼土粒を含む灰屑が焚口から左袖周辺部にかけて薄く堆積している。貯蔵穴 南東隅に1基検出され、平面円形で長軸0.32m、短軸0.30m、深さ0.29mを測る。柱穴 P1～P4が検出された。北西の柱穴は検出されず、W-3により削平された可能性が考えられる。出土遺物 須恵器壺（1～3）、須恵器皿（4）、須恵器高台付塊（5）が床面直上および貯蔵穴内から出土し、その他土師器壺、瓦類が覆土中から出土している。高台付塊（5）は酸化焰焼成であり、内面は黒色処理および暗文が施されている。なお、土師器壺（6）が出土しているが、器形や調整・施文の特徴から8世紀代のものと思われ、混入遺物である。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀前半～中期と推定される。

H-5号住居跡 (Fig.98・99, PL.29)

位置 X39、Y118 主軸方向 N-98°-E 規模 東西 (2.37) m、南北 2.92m、壁現高 0.14m。住居北西隅がH-4、住居中央から東半がH-3と重複し削平されている。面積 (3.89) m²。床面 地山硬化床で、平坦である。住居中央から東側にかけて硬化面を確認した。重複 H-2・3・4と重複し、新旧関係は本遺構→H-2・3・4である。カマド 検出されず。硬化面の範囲と若干の焼土・灰の検出状況から住居東壁に構築されていたものと考えられ、H-3により削平されている。貯蔵穴 北西隅に1基検出された。平面円形で長軸0.59m、短軸0.56m、深さ0.25mを測る。柱穴 1基検出された。平面円形で深さ0.06mと浅いものである。組み合った柱穴は検出されず。出土遺物 床面直上より須恵器高台付塊・壺などが少量出土しているが、いずれも小破片で図示に至らず。時期 出土遺物が僅少で判然としないが、重複関係などから9世紀前半と推定される。

H-6号住居跡 (Fig.100・101・136, PL.29・53・54)

位置 X35～37、Y117～119 主軸方向 N-35°-W 規模 東西 6.14m、南北 6.40m、壁現高 0.59m。北西隅がA-1、南東隅がH-1により削平され壁高が低くなるが、床面は残存している。面積 (36.71) m²。床面 地山硬化床で、全面的に平坦な床を構築する。カマド前を中心全体的に硬化しているが、南北両隅はやや縫まりが弱い。カマド・貯蔵穴周辺を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。重複 H-1、A-1、W-5と重複し、新旧関係は本遺構→H-1、A-1、W-5である。カマド 住居の北壁東寄りに1基検出された。確認

長0.95m、燃焼部幅0.60m、煙道は壁外に0.24m突出している。両袖とともに比較的の残存状態は良好で、残存長0.72mを測る。凝灰質砂岩を面取り加工した袖石を芯材として構築されている。また、凝灰質砂岩の支脚が残り、燃焼部内壁は被熱が強く焼土化している。焚口を中心に両袖周囲にかけて焼土粒を含む灰層が堆積している。貯蔵穴 北東隅に1基検出され、平面楕円形で長軸0.55m、短軸0.51m、深さ0.62mを測る。覆土上層にはカマド崩落土の流入と思われる焼土粒を含んでいる。貯蔵穴南側には黄褐色粘質土により構築された周堤帯が半円状に巡る。柱穴 P 1～P 12が検出された。P 1～P 4はいずれも深さが50cmを超えるものであり、主柱穴として組み合うものと考えられる。出土遺物 須恵器蓋（1）、土師器坏（2～7）、土師器瓶（8）、土師器甕（9）が床面上から出土している。（1）の須恵器蓋はつまみを欠損するが、ほぼ完形であり外面に波状文が巡る。土師器坏は須恵器模倣坏の特徴を示し、甕は長胴甕の上半部であり縱方向のヘラケズりが施される。

時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-7号住居跡 (Fig.102・136, PL.29・54)

位置 X32・33, Y121・122 主軸方向 N-35°-W 規模 東西2.72m、南北2.91m、壁現高0.15m。上方から擾乱を受けており、浅い掘り込みでの検出となっている。面積 7.42 m²。床面 地山硬化床で、平坦な床面である。カマド前から住居中央を中心で硬化しており、締まりは強い。重複なし。カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長0.68m、燃焼部幅0.41m、煙道は外に0.51m突出している。袖、天井部とともに残存しておらず、燃焼部の焼土化も認められない。焚口部分にわずかに灰・焼土層が残るのみである。貯蔵穴 南西隅に1基検出された。平面円形で長軸0.45m、短軸0.42m、深さ0.24mを測る。覆土中にカマド崩落土の流入と考えられる焼土粒・灰を主体とする層を確認できる。柱穴 検出されず。出土遺物 床面上より須恵器甕（1）、高台付塊（2・3）、羽釜（4）が出土しており、塊・高台付塊はすべて酸化焰焼成である。その他、小破片で図示し得なかったが灰釉陶器碗、羽釜、砥石などが覆土中から出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀前半～中頃と推定される。

H-8号住居跡 (Fig.103・136, PL.29・54)

位置 X33・34, Y119・120 主軸方向 N-72°-E 規模 東西4.07m、南北3.94m、壁現高0.39m。面積 15.52 m²。床面 地山硬化床で、住居中心部に細かな凹凸が見られるが、概ね平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、全体的に締まりやや強い。またカマド周辺を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。重複 W-7と重複し、新旧関係は本遺構→W-7である。カマド 住居の東壁中央（カマド1）と、東壁南寄り（カマド2）に2基検出された。残存状況および周溝の巡りからカマド2が先行し、作り替えによりカマド1が構築されたものと思われる。カマド1は確認長0.61m、燃焼部幅0.52m、煙道は外に0.08m突出している。両袖とともに白色砂粒を微量に含む暗褐色粘質土により構築されている。左袖の残存状態がよく、残存長0.52mを測る。天井部は完全に崩落しており、覆土中に天井崩落土と考えられる焼土粒・粘土粒が含まれている。焚口周辺に焼土・灰が床面上まで薄く堆積している。燃焼部の被熱は強く、内壁は焼土化する箇所が見られる。カマド2は確認長0.78m、燃焼部幅1.07m、煙道は外に0.54m突出している。平面形状から、掘り方まで壊されていると思われ、カマド構築材と考えられる黄褐色粘質土の散在が確認された。貯蔵穴 検出されず。柱穴 P 1～P 4が検出された。出土遺物 床面上より土師器坏（1～5）、土師器甕（6・7）が出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-9号住居跡 (Fig.104・137, PL.29・30・54)

位置 X31・32, Y117・118 主軸方向 N-98°-E 規模 東西(2.68)m、南北3.82m、壁現高0.32m。住居西側はW-1により削平される。面積 (10.93) m²。床面 地山硬化床で、全体的に平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まり強い。重複 J-4、H-26、W-1と重複し、新旧関係はJ-4→H-26→本遺構→W-1である。カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長0.87m、燃焼

部幅 0.47 m、煙道は外に 0.26 m 突出している。両袖ともに面取り加工した凝灰岩質砂岩を芯材に構築されており、天井に架けられていたと思われる同質の砂岩がカマド周辺に確認された。また、左袖前面からは平瓦が出土しており、袖の構築材として用いられていた可能性が考えられる。燃焼部上層には粘質土が確認でき、部分的には天井部が残存しているものと思われる。焚口を中心に焼土粒・灰が薄く堆積しているが、燃焼部を含めて全体的に被熱は弱かったためか、焼土化は認められない。

貯藏穴 南東隅に 1 基検出され、平面橢円形で長軸 0.61 m、短軸 0.46 m、深さ 0.11 m を測る。

柱穴 検出されず。

出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗（1）、須恵器壺（2）、須恵器（3・4）、須恵器高台付塊（5）、土師器甕（6）、羽釜（7）が出土している。須恵器高台付塊（5）は酸化焰焼成となっている。

時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀前半と推定される。

H-10 号住居跡 (Fig.102・137, PL.30・54)

位置 X33・34、Y118・119 主軸方向 N - 94° - E 規模 東西 283m、南北 2.89m、壁現高 0.29m。面積 7.34 m²。

床面 地山硬化床で、平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりは強い。

重複 H - 12、W - 8 と重複し、新旧関係は H - 12 → 本遺構 → W - 8 である。

カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長 0.74 m、燃焼部幅 0.33 m、煙道は外に 0.12 m 突出している。両袖ともに面取り加工した凝灰岩質砂岩を芯材に用いて構築されており、支脚にも同質の砂岩が用いられる。

貯藏穴 南東隅に検出され、平面橢円形で長軸 0.54 m、短軸 0.44 m、深さ 0.14 m を測る。

柱穴 検出されず。

出土遺物 カマドおよび貯藏穴周辺での出土量が多い。床面直上およびカマド覆土から灰釉陶器皿（1）、須恵器壺（2～4）、須恵器高台付塊（5～8）が出土している。塊・高台付塊は酸化焰焼成のものも含み、（8）はいわゆる「足高高台付塊」である。

また、国分寺跡からの搬入と考えられる軒丸瓦（9）が覆土中より出土している。瓦当面約 1/3 を欠損しているが残存状態から単弁 5 葉蓮華文と考えられ、蓮弁間に珠文を配している。中房の膨らみではなく平坦で中房径も縮小しており、蓮子は 1 つ配している。瓦当裏面は強くナデ付けられている。

諸特徴から国分寺出土の B 001 a と同様の軒丸瓦と考えられる。

時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀中頃と推定される。

H-11 号住居跡 (Fig.105・138, PL.30・54・55)

位置 X32・33、Y118 主軸方向 N - 107° - E 規模 東西 2.82m、南北 (2.11) m、壁現高 0.42m。住居の北側約 1/2 は搅乱により削平される。

面積 (4.74) m²。

床面 地山硬化床で、全面的に細かな凹凸が見られるが、平坦な床面を構築している。カマド周辺から住居南側にかけて特に硬化しており締まりは強い。

重複 W - 8 と重複し、新旧関係は本遺構 → W - 8 である。

カマド 住居の南東隅に 1 基検出された。確認長 0.65 m、燃焼部幅 0.40 m、煙道は外に 0.48 m 突出している。煙道部の掘り方は東側の H - 12 カマド 1 の覆土を掘り込んでいる。

天井部および袖部は崩落しており、焚口から燃焼部にかけて焼土粒を含む灰屑が薄く堆積している。

貯藏穴 南西隅に 1 基検出され、平面橢円形で長軸 0.57 m、短軸 0.40 m、深さ 0.23 m を測る。

柱穴 検出されず。

出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗（1・2）、須恵器瓶（3）、須恵器壺（4～6）、須恵器高台付塊（7）、羽釜（8）が出土している。また、覆土中より国分寺跡からの搬入と考えられる軒平瓦（9）が出土している。

瓦当面の残存が悪く、一部が残るのみで詳細は不明であるが、右偏行唐草文と考えられ、界線は 1 本で珠文はない。

額の形態は曲線額である。

時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀中頃と推定される。

H-12 号住居跡 (Fig.106・107・138, PL.30・55)

位置 X33～35、Y117・118 主軸方向 N - 108° - W 規模 東西 5.65m、南北 6.41m、壁現高 0.34～0.43m。

住居の東～南東にかけて A - 1 により床面まで削平されている。

面積 (30.71) m²。

床面 全面的に、にぶい黄褐色土を中心とした貼り床である。

住居東側は削平により不明であるが、北東側を除き削溝が巡る。

カマド 1 前を中心として硬化しており、締まりは強い。

重複 H - 10、A - 1、W - 7 と重複し、新旧関係

は本遺構→H-10、A-1、W-7である。カマド 住居の西壁南寄り（カマド1）と、北壁中央（カマド2）の2基が検出された。残存状況などからカマド2が先行し、カマド1へと造り替えられたものと考えられる。カマド1は確認長1.55m、燃焼部幅0.59m、煙道は外に0.31m突出している。両袖ともに灰黄褐色粘質土を主体として構築されており比較的の残存状態は良く、右袖残存長0.66m、左袖残存長0.51mを測る。燃焼部奥壁から急激に立ち上がるが、煙道部は短い。天井部は崩落しており、覆土中層に崩落土が多く見られる。被熱は弱く内壁の焼土化は部分的に見られるのみであり、灰層の広がりは少ないものである。カマド2は確認長0.37m、燃焼部幅0.24m、煙道は外に0.27m突出している。天井部は崩落し袖部は残存せず、焚口から燃焼部にかけて焼土粒・灰が少量が残るのみである。カマド1への造り替えに伴い、壊されたものと考えられる。貯蔵穴 南西隅に1基検出され、平面隅丸長方形で長軸0.99m、短軸0.88m、深さ0.51mを測る。平面長方形の中段をもつ。柱穴 P1～P20の20基が確認された。位置関係からP1～P4が主柱穴として組み合うものと考えられる。

掘り方 にぶい黄褐色土を中心として構築される。全体的には平坦な掘り方であるが、住居壁際ではやや掘り込みが深くなる箇所も見られる。出土遺物 床面直上より土師器壺（1～4）、土師器甕（5～8）が出土している。壺は須恵器の模倣壺、甕は長胴甕であり、胴部には縱方向のヘラケズリによる調整が施されている。その他は須恵器壺、すり石・こも編石などが出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-13号住居跡 (Fig.105・139, PL.31・55)

位置 X30、Y119・120 主軸方向 N-99°-E 規模 東西（1.82）m、南北3.95m、壁現高0.28m。住居の東側約1/2はW-1により削平される。面積（6.29）m²。床面 地山硬化床で、住居南側がやや低くなるが全体的に平坦な床面である。住居の中心が硬化しており、縮まりが強い。重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 検出されず。W-1に削平されていると考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 床面直上から出土した鉄製品刀子（1）を図示した。小破片で掲載できなかつたが、床面直上および覆土中からは灰釉陶器碗、須恵器高台付甕なども出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀後半と推定される。

H-14号住居跡 (Fig.105, PL.31)

位置 X34、Y115・116 主軸方向 N-45°-E 規模 東西（1.64）m、南北（1.70）m、壁現高0.35m。住居の南西隅の検出で、大部分は調査区外となる。面積（1.46）m²。床面 検出した範囲では地山直床で、平坦である。住居隅にあたるためか硬化面は認められず。重複 なし。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 P1・2の2基が検出された。P1は深さ0.32mを測り、位置的に住居の主柱穴の1つと考えられる。出土遺物 P1覆土中から須恵器蓋が出土したが、小破片のため図示に至らず。時期 出土遺物が僅少で判然としないが、7世紀代の遺構と推定される。

H-15号住居跡 (Fig.108・139, PL.31・55)

位置 X29・30、Y117・118 主軸方向 N-16°-W 規模 東西2.93m、南北2.81m、壁現高0.44m。覆土中にAs-C軽石を多く含有する。面積 7.68 m²。床面 黄褐色砂粒を含む黒褐色土による貼り床で、住居中央を中心に硬化が顕著で、縮りが強い。重複 なし。炉 炭化材が散在するが、火焼面ではなく炉と判断できる遺構は検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 全体的に平坦な掘り方であるが、住居東側に集中して掘削工具痕と思われる凹凸が確認された。出土遺物 床面直上より土師器壺（1）、S字状口縁台付甕（2・3）が出土している。胴下半から台部にかけて残存しており、外面には縱方向のハケメ調整を施している。時期 出土遺物の傾向から4世紀後半と推定される。

H-16号住居跡 (Fig.108・139、PL31・55)

位置 X29、Y115・116 主軸方向 N-97°-E 規模 東西 3.33m、南北 2.68m、壁現高 0.19m。面積 7.53 m²。床面 黄褐色ブロックを含む暗褐色土による貼り床で、平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりはやや強い。重複 D-14・16と重複し、新旧関係は D-14・16 → 本遺構である。カマド住居の東壁や南寄りに1基検出された。確認長 0.51m、燃焼部幅 0.58m、煙道は外に 0.40m 突出している。天井部および両袖とも残存しないが、構築材と考えられる砂岩が確認された。被熱は弱く、燃焼部内壁が一部焼土化するのみで、カマド前面に灰・焼土の薄い堆積が広がる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。

掘り方 全体的に平坦な掘り方であるが、部分的に掘削工具痕と思われる凹凸が確認された。また、住居北西側には平面楕円形で、長軸 1.20m、短軸 0.87m、深さ 0.23m を測る床下土坑が検出された。出土遺物 床面直上から須恵器高台付皿（1）、土師器壺（2）が出土している。（1）は底部を回転糸切り後高台貼付けであるが、高台部は欠損している。（2）は「コ」の字彫りで、器壁も薄いものである。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀中頃～後半と推定される。

H-17号住居跡 (Fig.109・139、PL31・55)

位置 X28、Y115・116 主軸方向 N-84°-E 規模 東西 (1.76)m、南北 3.69m、壁現高 0.25m。住居西半は調査区外となる。面積 (4.97) m²。床面 地山硬化床で、細かな凹凸が見られるが全体的に平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりは強い。重複 H-21と重複し、新旧関係は H-21 → 本遺構である。カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長 0.74m、燃焼部幅 0.55m、煙道は外に 0.51m 突出している。天井部および両袖は残存していないが、燃焼部左奥にカマド構築材である砂岩が1個確認された。これと同じくカマド構築材であったと考えられる被熱した石材が、貯蔵穴上層で検出された。カマドの被熱は強く、特に燃焼部底面および左側内壁での焼土化が顕著である。焼土粒を含む灰層は薄く、焚口周辺に広がるものである。貯蔵穴 南東隅に1基検出された。平面楕円形で、長軸 (0.62) m、短軸 0.46m、深さ 0.19m を測る。上層ではカマド構築材と思われる人頭大の礫が出土している。柱穴 検出されず。出土遺物 カマド周辺から貯蔵穴周辺にかけての出土量が多い。床面直上および覆土から須恵器壺（1）、土師器壺（2）、土師器壺（3・4）、鉄鋤（5）が出土している。（1）の須恵器壺は墨書き土器であり、外面に「吉」が書かれている。その他は須恵器壺、瓦類などが出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀前半～中頃と推定される。

H-18号住居跡 (Fig.108・139、PL31・55)

位置 X28、Y117 主軸方向 不明 規模 東西 (0.38) m、南北 (1.18) m。カマド部分のみの検出であり、住居西側の大部分は調査区外となる。面積 (0.28) m²。床面 検出されず。重複 なし。カマド 確認長 0.38m、燃焼部幅 0.32m、煙道は外に 0.16m 突出している。天井部は崩落しており、その崩落土と考えられる多量の焼土粒を含む層が覆土上層で確認された。被熱は強く、全体的に焼土化が顕著である。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 覆土より出土した土師器壺（1）を図示した。その他は須恵器壺、土師器壺、丸瓦の小破片が少数出土している。時期 出土遺物および他の遺構との関係から9世紀前半と推定される。備考 位置関係から H-24号住居に付随するカマドとなる可能性が考えられる。また、平面形状がやや歪になるが、本調査区西側の元総社舊海遺跡群（116）の H-20号住居跡と同一の住居になることも考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.109・139、PL32・55)

位置 X31・32、Y115 主軸方向 N-89°-E 規模 東西 (2.38) m、南北 2.76m、壁現高 0.14～0.23m。住居の西側は W-1 により削平される。面積 (5.01) m²。床面 地山硬化床で、住居中央がやや浅い掘り込みとなっている。カマド前から住居中央にかけて硬化しており、締まりはやや強い。重複 W-1 と重複し、

新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 住居の東壁やや南寄りに1基検出された。確認長0.68m、燃焼部幅0.51m、煙道は外に0.26m突出している。凝灰岩質砂岩を芯材として構築しており、カマド覆土中に被熱した砂岩が確認された。右袖は構築粘土が崩落しており袖石のみの検出である。左袖は残存長0.39mを測る。また、袖石と同質の砂岩を用いた支脚も出土している。なおカマド覆土中の石材に多孔石が1点確認でき、カマドの構築材として転用されたものと考えられる。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 灰釉陶器碗・須恵器塊・高台付塊、土師器坏・甕・羽釜、瓦類などが出土している。床面直上およびカマドより出土した灰釉陶器碗（1・2）、須恵器塊（3・4）、須恵器高台付塊（5）を図示。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と推定される。

H-20号住居跡 (Fig.110・140, PL.32・55)

位置 X29・30、Y114～116 主軸方向 N-20°-W 規模 東西(3.78)m、南北4.38m、壁現高0.44m。住居の東側はW-1により削平される。面積 (13.91) m²。床面 地山硬化床で、カマド前を中心として締まり強い。重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 住居の北壁に1基検出された。確認長1.27m、燃焼部幅0.70m、煙道は外に0.68m突出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 床面直上および覆土より灰釉陶器皿（1）、灰釉陶器碗（2）、須恵器塊（3・4）、須恵器高台付塊（5）、瓦（6・7）、鉄製品刀子（8）が出土している。（6）は軒平瓦で、子葉はなく主葉のみの表現であり、方向の違うものが1組となる。界線は2本であるが、下側は部分的に1本となる。顎は断面三角形を呈する。国分寺出土軒平瓦（P 302）と同範か。（7）は凸面にヘラによる刻書をもつ平瓦で、「平カ」が確認できる。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀後半と推定される。

H-21号住居跡 (Fig.110・140, PL.32・55・56)

位置 X28・29、Y115 主軸方向 N-94°-E 規模 東西3.17m、南北3.31m、壁現高0.36m。面積 10.08 m²。床面 にぶい黄褐色土による貼り床で、カマド前を中心として硬化しており締まりは強い。重複 J-11、H-17、D-18と重複し、新旧関係はJ-11→D-18→本遺構→H-17である。カマド 住居の北壁中央に1基検出された。確認長0.57m、燃焼部幅0.62m、煙道は外に0.43m突出している。天井部および袖は完全に崩落しており、残存しない。被熱は強く、燃焼部奥壁には顕著な焼土化が認められる。焼土粒を含む灰屑が焼口からカマド前にかけて堆積している。貯蔵穴 住居南東隅に1基検出した。平面梢円形、長軸0.60m、短軸0.44m、深さ0.27mを測る。柱穴 住居南東（P1）と、住居南西（P2）に2基検出した。掘り方 掘り方は住居中央が高く、両端がやや窪む形となる。住居南側に床下土坑を検出し、平面長方形で長軸1.13m、短軸0.92m、深さ0.20mを測る。出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗（1）、須恵器塊（2）、須恵器高台付塊（3）、ヘラ記号のある丸瓦（4）、鉄製品刀子（5）が出土している。時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀前半と推定される。

H-22号住居跡 (Fig.112・113・141, PL.32・33・56)

位置 X29・30、Y113・114 主軸方向 N-83°-E 規模 東西5.16m、南北4.82m、壁現高0.29～0.62m。面積 20.21 m²。床面 地山硬化床で、カマド前を中心として硬化しており、締まり強い。部分的に途切れながらも、ほぼ全周に周溝が巡る。また、住居西側に張り出しをもち、石組を検出した。この張り出し部分は当初、下層の縄文遺構と捉えていたが、石組覆土から土師器坏が出土し、周溝も住居中央より伸びてくるためH-22号住居の張り出しと判断した。石組については石材の被熱もなく、灰・焼土も認められなかった。重複 J-11、H-30と重複し、新旧関係はJ-11→H-30→本遺構である。カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長1.34m、燃焼部幅0.60m、煙道は外に0.49m突出している。右袖は褐色灰色粘質土を主体とする袖構築土が良好に残存し、0.43mを測る。貯蔵穴 住居南東隅に検出した。平面梢円形、長軸0.76m、短軸0.69m、深さ0.41mを測る。柱穴 11基検出された。出土遺物 床面直上および覆土中より須恵器蓋（1）、須恵

器盤（2）、須恵器フラスコ瓶（3）、須恵器壺（4）、須恵器壺（5）、土師器壺（6・7）、土師器鉢（8）、土師器壺（9～12）が出土している。なお、須恵器高窓（13・14）、土師器壺（15・16）は古い段階の遺物群であり、先行するH-30号住居跡に伴う遺物である可能性が考えられる。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から7世紀前半～中頃と推定される。

H-23号住居跡 (Fig.113・141, PL.33・56)

位置 X28・29、Y112・113 主軸方向 N-4°-W 規模 東西3.16m、南北3.76m、壁現高0.47m。面積10.38 m²。床面 地山硬化床で、中央付近が締まり強い。住居南東および南西に2基の床下土坑を検出した。床下土坑1は平面不整形円形で長軸0.97m、短軸0.95m、深さ0.21mを測る。床下土坑2は平面円形で長軸0.87m、短軸0.87m、深さ0.28mを測り、南側に平面方形の中段をもつ。重複 D-20・23と重複し、新旧関係はD-20・23→本遺構である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 覆土より綠釉陶器皿（1）、須恵器壺（2・3）、土師器壺（4）が出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀後半と推定される。

H-24号住居跡 (Fig.110・141, PL.33・56)

位置 X28、Y116 主軸方向 N-84°-E 規模 東西（1.54）m、南北（1.77）m、壁現高0.41m。住居北東隅のみの検出で、大半は調査区外となる。面積（1.29）m²。床面 地山直床。硬化面は認められず。重複なし。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 覆土より須恵器壺（1）、土師器壺（2）が出土している。 時期 出土遺物および他の遺構との関連から9世紀前半と推定される。備考 位置関係からH-18のカマドが本遺構に伴う可能性が考えられる。また、西側の元経社蒼海遺跡群（116）のH-20号住居跡と同一住居になることも考えられる。

H-25号住居跡 (Fig.114・141, PL.33・56)

位置 X31・32、Y114 主軸方向 N-6°-W 規模 東西（2.23）m、南北3.04m。住居西側はW-1により削平される。面積（5.60）m²。床面 地山硬化床で、住居中心部の硬化が顕著で締まり強い。重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 須恵器蓋（1）が出土した。他は土師器壺の小破片が3点出土したのみである。 時期 出土遺物が少なく判然としないが、9世紀代の遺構と推定される。

H-26号住居跡 (Fig.114, PL.33)

位置 X31、Y117 主軸方向 N-68°-E 規模 東西（1.23）m、南北（2.20）m。住居南側はH-9、西側はW-1により削平され、一部分のみの検出である。面積（2.00）m²。床面 地山直床で、硬化面は認められない。重複 H-9、W-1と重複し、新旧関係は本遺構→H-9→W-1である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 須恵器壺、土師器壺、平瓦が数点出土しているが、いずれも小破片のため図示に至らず。 時期 出土遺物が少なく判然としないが、重複関係から9世紀代の遺構と推定される。

H-27号住居跡 (Fig.115・141, PL.33・56)

位置 X31・32、Y111・112 主軸方向 N-75°-E 規模 東西（2.77）m、南北3.02m、壁現高0.16～0.44m。住居西側はW-1により削平されている。面積（6.31）m²。床面 地山硬化床で、カマド前を中心として締まり強い。重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1である。カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長0.52m、燃焼部幅0.42m、煙道は外に0.37m突出している。天井部および袖は完全に崩落している。カマド覆土中に天井崩落による焼土粒を多量に含む灰黄褐色土が堆積している。貯蔵穴 住居北東側に1基検出された。平面梢円形で、長軸0.48m、短軸0.40m、深さ0.25mを測る。柱穴 住居南西側に1基検出された。出土遺物 覆土から灰釉陶器碗（1）が出土している。その他、須恵器壺、土師器壺・壺の小

破片が数点出土しているが、小破片のため図示に至らず。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と推定される。

H-28号住居跡 (Fig.116・142, PL.33・34・56)

位置 X31～33, Y112・113 主軸方向 N-50°-E 規模 東西 5.73m、南北 3.71m、壁現高 0.61m。北西隅を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。面積 19.50 m²。床面 地山硬化床で、カマドを中心として住居東半に硬化面が見られ、締まりは強い。重複 W-8と重複し、新旧関係は本遺構→W-8である。カマド 住居の東壁中央に1基検出された。確認長 1.21m、燃焼部幅 0.44m、煙道は外に 0.40 m 突出している。左袖はW-8に伴う先行トレンチにより破損してしまったが、トレンチ調査中に土構築とと考えられる粘質土と焼土粒の堆積を確認した。天井部は完全に崩落している。被熱は弱く焼土化は認められず、灰層の堆積も極めて薄いものである。貯蔵穴 住居南東隅に1基検出された。平面楕円形で、長軸 0.45 m、短軸 0.41 m、深さ 0.66 m を測る。柱穴 住居西側に2基検出された (P 1・2)。いずれも平面円形で、深さ 0.05 m と掘り込みは浅いものである。出土遺物 床面直上より土師器甕 (1～3) が出土している。いずれも長胴壺で胴部には縦方向のヘラケズリを施している。その他は、須恵器壺、こも編石などが床面直上および覆土中から出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-29号住居跡 (Fig.114, PL.34)

位置 X38・39, Y120 主軸方向 N-17°-W 規模 東西 (2.88) m、南北 (0.36) m、壁現高 0.34m。住居北壁のみの検出で、大部分は調査区外となる。面積 (0.68) m²。床面 地山直床。床面の検出範囲が狭小で、硬化面の確認はできなかった。重複 なし。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 なし。 時期 出土遺物がないことから時期判断できないが、後述する他遺構との関連から9世紀後半と推定される。備考 位置関係から本遺跡南側の元總社小見Ⅶ遺跡のH-37ないしは48号住居跡と同一住居になると考えられる。

H-30号住居跡 (Fig.112, PL.32)

位置 X29, Y113・114 主軸方向 N-86°-E 規模 東西 (3.71) m、南北 (4.77) m、壁現高 0.59m。住居中央から東側はH-22に削平される。面積 (6.25) m²。床面 地山直床。残存範囲が狭小であり、硬化面の確認はできなかった。重複 J-11, H-22と重複し、新旧関係はJ-11→本遺構→H-22である。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 なし。 時期 出土遺物がないことから直接の時期判断はできない。しかしながら、重複するH-22号住居跡の出土遺物の中で古相を示す遺物群があり (H-22出土遺物 13～16)、それらが本遺構に伴う可能性が考えられ、6世紀後半に帰属するものと推定される。

H-31号住居跡 (Fig.114・142, PL.34・56)

位置 X33・34, Y110 主軸方向 N-0° 規模 東西 (2.31) m、南北 (0.94) m、壁現高 0.39m。住居南西隅の検出であり、大部分は調査区外となる。面積 (2.38) m²。床面 地山直床。硬化面の確認はできなかった。重複 なし。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 P 1・2の2基が検出された。出土遺物 土師器壺 (1) が出土している他、灰釉陶器甕、須恵器、土師器が小破片ながら出土している。 時期 出土遺物が少ないと判然としないが、9世紀代の遺構と考えられる。

H-32号住居 (Fig.115, PL.34)

位置 X34, Y110 主軸方向 N-55°-E 規模 東西 (1.36) m、南北 (1.67) m、壁現高 0.36m。住居南西隅の検出であり、大部分は調査区外となる。面積 (1.21) m²。床面 地山直床。硬化面の確認はできなかった。重複 なし。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。出土遺物 丸瓦と繩文土器の小破片が数点出土したのみである。 時期 出土遺物が少ないと判然としないが、他遺構との

関連から9～10世紀代の遺構と推定される。

(2) 道路跡

調査区東側において検出した。周辺の調査では道路状遺構の性格を考慮されつつも、溝跡としての記載であった。今回の調査では、溝跡とは区別し道路跡として記載する。

A-1号道路跡 (Fig.117・142、PL.34・56)

位置 X 34～36、Y 116～121 主軸方向 N-2°-W 規模 長さ (20.39) m、上幅 5.01～5.93 m、下幅 3.12～3.64 m、深さ 0.63～0.77 m。形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面は台形状を呈するが、底面両端に幅 0.80～0.91 m を測る浅い溝状の窪みが検出され、道路遺構に見られる両側側溝と考えられる。底面は比較的平坦であり、周辺遺跡で確認されている波板状凹凸面や道下土坑などは検出されていない。硬化面 側溝を除く、路面中央に顕著な硬化面が確認された。また、断面観察から覆土中に砂・砂礫の水成堆積が確認され、流水を伴う自然埋没の状況を示している。その中で、少なくとも 2 つの硬化層が確認され、遺構の埋没過程にあっても道路としての機能は継続していたものと考えられる。重複 H-6・12、D-38、ピットと重複し、新旧関係は H-6・12→本遺構→D-38、ピットである。出土遺物 底面直上および覆土から出土した縄輪陶器（1）、国分寺跡からの搬入と考えられる軒平瓦（2・3）およびヘラ記号・文字のある丸・平瓦（4～6）を図示した。縄輪陶器（1）は底部片で、内面には暗文状のミガキが施されている。（2）の軒平瓦は国分寺出土の R 002 と同范瓦と考えられ、流水文として分類されている。界線は上側が 2 本で、下側が 1 本となる。顎の形状は曲線顎と思われるが、段顎の整形とも指摘される。（3）は右偏行草唐草文軒平瓦で、界線は 1 本、外区に非常に小さな珠文を配する。顎は断面三角形形状を呈する。国分寺出土 P 002 B と同范と考えられる。（4）は丸瓦で凸面にヘラ記号「×」が見られる。（5）・（6）は平瓦の小破片で（5）は凹面に、（6）は凸面にヘラ文字が確認できるが、全体が残っておらず判読不能である。その他の出土遺物としては繩文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などあり、かなりの時期幅が見られ周囲からの流れ込みと思われる。時期重複関係および出土遺物、周辺遺跡の調査歴などから 7～8 世紀代に構築され、中世（As-B 降下以前）には埋没していたものと考えられる。備考 走行方向から、W-10 号溝跡は本遺構の延伸部になることも考えられる。なお、本調査区南側の元総社小見Ⅱ遺跡 W-1 号溝跡、さらに隣接する元総社小見Ⅱ遺跡 W-4 号溝跡と同一遺構であり、北側の元総社蒼海遺跡群（24）W-8 号溝跡へ続くものと思われる。

(3) 溝跡

10 条の溝跡を検出、いずれも古代から中世にかけての溝跡である。W-1・2 号溝跡は規模・形状から溝跡としているが通水の痕跡はなく土地区画の機能を持った溝もしくは、断続的ではあるが硬化面を確認していることから道路として機能していた可能性も考えられる。また、W-3 号溝跡は形状から蒼海城に関連する遺構と考えられる。

W-1号溝跡 (Fig.118・142、PL.34・56)

位置 X 30・31、Y 110～122 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ (49.33) m、上幅 3.99～6.08 m、下幅 1.79～3.60 m、深さ 0.94～1.12 m。形状 南北方向に走行し、南から北へ緩やかに傾斜する。断面は台形状を呈する。底面は比較的平坦であるが部分的に硬化した箇所が認められ、この硬化は西側に接続する W-2 号溝跡へと続く。また、覆土中にも断続的な硬化層が確認された。重複 J-7・8、H-9・13・19・20・25～28、D-33・45～48 と重複し、本遺構が最も新しい。なお、W-2 号溝跡と交差するが新旧関係は平面・断面的に確認できず、同時機能していたものと考えられる。出土遺物 カワラケ（1）、墨書のある須恵器塊（2・3）、道具瓦（4）、軒丸瓦（5）、古銭（6）が出土している。（3）の墨書は土器の残存状況から判

読不明だが、（3）は「田」の字が読み取れる。（4）は鬼瓦の可能性が考えられる。表面にはヘラ描きによる意匠が見られ、裏面は平坦にナデつけられる。小破片で表面の剥落も著しいため、詳細は不明な遺物である。

（5）の軒丸瓦は外区および周縁部のみ残存する小破片であり、全体の文様構成は不明。（6）は熙寧元寶（初鑄：1068年）である。その他の出土遺物は繩文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、古代瓦、板碎片などあり、先行する遺構からの混入が見られる。 時期 重複関係にある10世紀前半の住居跡を壊していることや、周辺での調査歴などから10世紀後半以降の開削で、覆土中の硬化層や出土遺物から中世以降も存続していたものと推定される。 備考 本調査区北側の元総社蒼海遺跡群（24）31区W-2号溝跡および南側の元総社蒼海遺跡群（116）W-1号溝跡、元総社小見II遺跡W-2号溝跡と同一遺構である。

W-2号溝跡 (Fig.118, PL.34)

位置 X 26～30, Y 111・112 主軸方向 N - 88° - E 規模 長さ（13.34）m、上幅 4.14 m、下幅 2.03 m、深さ 0.80 m。 形状 東西方向に走行し、東から西へ緩やかに傾斜する。断面は台形状を呈する。東端はW-1号溝跡に接続する。底面にはW-1号溝跡から続く硬化面が断続的に確認できるが、覆土中の硬化層は認められなかった。 重複 D - 44・49・56と重複し、本遺構が最も新しい。なお、上述のようにW-1号溝跡との新旧関係は平面・断面的に確認できず、同時機能していたものと考えられる。 出土遺物 須恵器、土師器、古代瓦を中心として出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係や出土遺物、W-1号溝跡との関係からなどから、10世紀後半以降の開削で中世以降も存続していたものと推定される。 備考 本調査区西側の元総社蒼海遺跡群（24）31区W-1号溝跡と同一遺構である。

W-3号溝跡 (Fig.119, PL.35)

位置 X 38～40, Y 116～118 主軸方向 N - 2° - W 規模 長さ（東西 5.65、南北 6.72）m、上幅 2.85～3.58 m、下幅 0.51 m、深さ 1.59 m。 形状 南北方向に走行し、直角に屈曲して東西方向となる。断面はV字状で、薬研掘りに近い形状を呈する。 重複 H-4、W-4・6と重複し、本遺構が最も新しい。なお、東端でテラス状の落ち込みが見られる。断面観察からも他遺構の重複が考えられるが、擾乱の可能性もある。 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係や形状などから中世以降の開削と推定される。 備考 時期や規模・形状などから蒼海城に関連する遺構と推測される。また、東側延伸部は元総社蒼海遺跡群（11）W-1号溝跡にあたり、走行方向や規模・形状から同一遺構と考えられる。

W-4号溝跡 (Fig.119, PL.35)

位置 X 39・40, Y 116～119 主軸方向 N - 1° - W 規模 長さ（14.11）m、上幅 0.88～1.00 m、下幅 0.29～0.50 m、深さ 0.46 m。 形状 南北方向に走行し、断面台形状および弧状を呈する。 重複 H-2・3、W-3・6、D-39と重複し、新旧関係はH-2・3→W-6→本遺構→W-3、D-39である。 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 本調査区南側の元総社小見VII遺跡W-3号溝跡と同一遺構である。

W-5号溝跡 (Fig.120, PL.35)

位置 X 37・38, Y 18・19 主軸方向 N - 9° - E 規模 長さ 3.63（東西）×4.09（南北）m、上幅 0.57～0.82 m、下幅 0.44 m、深さ 0.07 m。 形状 方形に巡り、断面弧状を呈する。 重複 H-1・6と重複し、新旧関係はH-1・6→本遺構である。 出土遺物 繩文土器の小破片が出土しているが、重複関係や覆土から、他遺構からの混入遺物である。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 掘り込みの極めて浅い溝が方形に巡る遺構である。内部にはピットなどの施設は確認できず、時期・性格を示すような出土遺物もないことから、遺構の性格は不明である。

W-6号溝跡 (Fig.120, PL.35)

位置 X 37 ~ 39、Y 116 主軸方向 N - 90° - W 規模 長さ (11.71) m、上幅 0.38 ~ 0.78 m、下幅 0.23 ~ 0.52 m、深さ 0.13 ~ 0.20 m。 形状 東西方向に走行し、東から西へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。重複 J - 1 ~ 3、W - 3、D - 2 と重複し、新旧関係は J - 1 ~ 3 → 本遺構 → W - 3、D - 2 である。出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。

W-7号溝跡 (Fig.120, PL.35)

位置 X 33 ~ 34、Y 113 ~ 121 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ (34.86) m、上幅 0.40 ~ 1.90 m、下幅 0.29 ~ 0.81 m、深さ 0.16 m。 形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。重複 J - 9、H - 8・12、D - 51 と重複し、新旧関係は J - 9、H - 8・12、D - 51 → 本遺構である。出土遺物 繩文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 走行方向や規模・形状などから、W - 9号溝跡と一連の遺構と考えられる。

W-8号溝跡 (Fig.120, PL.35)

位置 X 32 ~ 33、Y 110 ~ 122 主軸方向 N - 2° - W 規模 長さ (48.74) m、上幅 1.37 m、下幅 0.62 m、深さ 0.43 m。 形状 南北方向に走行し、断面台形状および弧状を呈する。 重複 J - 4・6・9・10、H - 10・11・28、土坑、ピットと重複し、本遺構が最も新しい。 出土遺物 繩文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 本調査区南側の元総社小見Ⅳ遺跡W - 2号溝跡と同一遺構である。

W-9号溝跡 (Fig.120, PL.35)

位置 X 33、Y 110 ~ 112 主軸方向 N - 0° 規模 長さ (10.28) m、上幅 0.40 ~ 1.90 m、下幅 0.29 ~ 0.81 m、深さ 0.13 m。 形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。 重複 J - 10、H - 31、土坑と重複し、新旧関係は J - 10、H - 31、土坑 → 本遺構である。 出土遺物 繩文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 走行方向や規模・形状などから、W - 7号溝跡と一連の遺構と考えられる。

W-10号溝跡 (Fig.120, PL.36)

位置 X 34、Y 111 ~ 115 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ (13.16) m、上幅 (0.78) m、下幅 (0.25) m、深さ 0.44 m。 形状 南北方向に走行する。断面形状は部分的な検出のため、全容は不明であるが台形状を呈すると思われる。 重複 J - 9 と重複し、新旧関係は J - 9 → 本遺構である。 出土遺物 繩文土器、須恵器、土師器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から古代以降と推定される。 備考 走行方向から、A - 1号道路跡と同一遺構になる可能性が考えられる。

(4) 性格不明遺構

調査区南西において 1基検出している。遺構確認面精査時に炭化材のまとまりと、それに沿っての土坑状のプランを検出したが、周辺の土壤に被熱はなく焼土や灰も確認されなかった。掘り方においても焼土・灰などはなく、遺構の性格は不明である。

X-1 (Fig.121, PL.36)

位置 X33・34、Y121 主軸方向 N - 60° - W 規模 長軸 1.35m、短軸 0.91m、深さ 0.48m。 形状 平面形状は不整形な楕円形を、断面は箱状を呈する。 重複 なし。 出土遺物 なし。 時期 出土遺物がなく炭

化材の検出のみであり時期決定できないが、検出層位などから中世以降と推定される。

(5) 土坑・ピット

本調査区では土坑を55基(D-9・27は欠番)、ピットを170基(P-103・170は欠番)を検出している(Fig.121~129・142~144、PL.36・57)。

出土遺物や遺構検出面などから、確実に縄文時代に属する土坑はD-3・5・12・33・42~48・50~58号土坑の19基である。出土する遺物は諸磯式を中心とした縄文時代前期の土器を極少数含むが、主体となるのは加曾利EⅢ式を中心とした土器であり、縄文時代中期後半の時期に帰属するものである。この傾向は検出した縄文住居跡と同様で、時期的な乖離は見られない。このうちD-50・56では出土する土器数が他の土坑に比べ極めて多く、出土状況などから縄文住居跡になることも考えられるが、後出する遺構などにより調査段階では判然としなかったため土坑としておく。D-50出土遺物は加曾利EⅡ併行期の唐草文系土器を含み、やや古相を示す。なお、D-51・52・53は不整形な掘り込みの連続であり、断面観察から風倒木の可能性も考えられる。その他は古墳時代から古代を中心とした土坑である。

170基を検出したピットについては遺構の重複関係や出土遺物から、P-1号ピットが縄文時代、それ以外のピットについては古墳時代以降、特に古代から中世にかけての遺構と判断している。しかしながら重複や出土遺物が多く、覆土からも判別困難であり、縄文時代に遡るものも少なからず存在すると思われる。

各計測値については「Tab.4 (123) 土坑・ピット計測表」を参照のこと。

(6) 遺構外出土遺物

遺構外遺物は30点掲載した(Fig.144・145)。いずれも調査区内で検出した遺構群との時期的な乖離ではなく、各時期での特徴的な遺物を抽出した。以下に簡単であるが、個別の特徴について触れておく。

(1) は縄文土器深鉢で、口縁下に無文帯、縄文RL施文後に沈線文を施文する。(2) は縄文土器深鉢で、体部には貝殻状痕または櫛状工具による集合沈線文を縦位に施文する。(1)・(2)ともに加曾利EⅢ期の範疇で捉えられ、縄文時代中期後半と時期比定できる。(3)・(4) は土製円盤であるが縄文土器片からの転用で、周縁部に2次調整が見られる。(5)・(6) は須恵器壺蓋であり(5)は宝珠、(6)は環状の摘みを持つ。(7)~(11) は須恵器壺であり、(7)は口端部を欠損するものの、全体的な形状から6世紀中頃の時期と考えられる。(9)~(11) は須恵器壺でロクロ整形、底部回転糸切りといった特徴を持つ。なお、(11)は底部に墨書きが見られ、「七」が書かれているものと思われる。(12) は須恵器で方形穿孔のある脚部片であり、破片の形状から円面鏡と考えられる。(13) は土師器壺の脚部片で、外面に「カ」と考えられる墨書きが確認できる。(14) は灰釉陶器皿、(15)~(17) は灰釉陶器碗の体部以下の破片である。(18) は平瓦で凸面にヘラ記号が施される。(19)・(20) は丸瓦で、(19)は凹面にヘラ記号が施され、(20)は凸面に「田」の押印が見られる。

(21) は円盤形の石製模造品であり、石材は滑石を用いている。周縁には研磨方向が顯著な平坦面が複数認められ、製作途中の未製品とみられる。(22) は黒曜石製の凹基無茎鑿、(23) は黒色頁岩製の石錐で、完品である。(24)~(26) は黒色頁岩製の打製石斧で、(27) も同様に黒色頁岩製の打製石斧であるが分銅形を呈する。括れ部の作出は丁寧ではば左右対象であるが、刃部には凹凸が確認でき、使用による欠損剥離の可能性が考えられる。

(28) は鉄製の雁股鑿でありY字状を呈しているが、茎部は欠損している。(29) は銅製の春霞形煙管の吸口であるが、吸口先端は欠損する。(30) も銅製品であるが、薄手で中空の形状を呈するが、器種については不明である。

Tab. 4 (123) 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D-1	X 40, Y 118	(2.04)	(0.39)	0.45	(長方形)	(箱状)	縄2、土2	
D-2	X 38, Y 116	1.12	0.99	0.47	円形	箱状	縄10、土12、須8	
D-3	X 38・39、Y 119	1.57	1.30	0.37	椭円形	弧状	縄3、石2	縄文土坑 縄文中期か
D-4	X 38, Y 120	1.44	0.94	0.14	椭円形	台形状	縄5、土6	
D-5	X 38, Y 119	0.76	0.40	0.16	長方形	弧状	縄4	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-6	X 36, Y 120	0.49	0.46	0.14	円形	弧状	縄4、土2	
D-7	X 36, Y 119	0.69	0.60	0.16	円形	弧状	土1、須1	
D-8	X 36, Y 120	0.65	0.59	0.29	円形	台形状	縄1、土1、須1	
D-9	欠番							
D-10	X 32, Y 120	0.74	0.51	0.32	椭円形	箱状	縄1、土1、須1	
D-11	X 32, Y 120	1.05	0.75	0.21	椭円形	台形状	縄1、土8、須1	6世紀末～7世紀初頭
D-12	X 29, Y 118	(0.75)	(1.41)	0.15	(椭円形)	台形状	縄5	縄文土坑 加曾利EⅢ・Ⅳ式
D-13	X 30, Y 116・117	1.38	1.12	0.57	椭円形	箱状	縄19、石2、土5、須2	
D-14	X 29, Y 116	(0.94)	1.06	0.26	(椭円形)	弧状	縄9、石1、土9、須7	10世紀代
D-15	X 29, Y 116	0.79	0.53	0.41	椭円形	U字状	縄5、須3	
D-16	X 29, Y 116	0.98	0.45	0.43	(長方形)	台形状	縄14、土6、須9	9世紀代
D-17	X 28, Y 114	0.85	0.81	0.46	円形	箱状	縄13、石1、土2、須1、瓦1	10世紀代
D-18	X 28, Y 114	(1.13)	1.02	0.42	(椭円形)	(台形状)	縄2、土3、須1	9世紀代
D-19	X 28, Y 114	1.03	0.60	0.50	長方形	箱状	縄7、石2、土1、須1	
D-20	X 28, Y 113	1.58	1.09	0.44	椭円形	箱状	縄19、土1、瓦2	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-21	X 29, Y 113	1.54	1.17	0.52	長方形	箱状		
D-22	X 27, Y 114	0.93	0.71	0.24	椭円形	弧状	縄2、土1	
D-23	X 29, Y 112・113	1.03	(0.84)	0.44	椭円形	U字状	縄7、土2、須2	
D-24	X 27, Y 112	0.88	0.78	0.25	椭円形	箱状	縄10、石1、土2、須1	
D-25	X 27, Y 112	(0.91)	0.66	0.17	(椭円形)	台形状	縄8、土1、須4、瓦1	
D-26	X 27, Y 112	(1.07)	1.00	0.44	(円形)	U字状	縄8、須7、瓦1、鉢2	9世紀代
D-27	欠番							
D-28	X 34, Y 111	(1.12)	0.25	0.33	(長方形)	(弧状)		
D-29	X 33, Y 110	0.64	0.62	0.29	円形	U字状		
D-30	X 33・34, Y 111	0.79	0.57	0.42	椭円形	(箱状)	縄3	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-31	X 33, Y 111	0.70	0.49	0.20	(椭円形)	(弧状)	縄7、土1、須1	
D-32	X 32, Y 114	1.01	0.57	0.47	椭円形	台形状	縄17、石1、土5	
D-33	X 31, Y 114	(0.96)	(0.54)	0.14	(椭円形)	(弧状)	縄6、石1	縄文土坑
D-34	X 32, Y 115	1.15	0.86	0.44	長方形	台形状	縄21、土3、須6、瓦1	
D-35	X 32, Y 116	0.97	0.68	0.09	椭円形	弧状	縄3	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-36	X 32, Y 116	1.12	0.85	0.28	椭円形	U字状	縄4、土1、須1	
D-37	X 32, Y 116	(1.09)	0.64	0.30	椭円形	台形状	縄5、土1、須2	
D-38	X 35・36, Y 117	2.13	0.92	0.50	長方形	箱状	縄1、土3、瓦1	11世紀末、墓坑。
D-39	X 40, Y 119	(1.74)	1.21	0.76	(長方形)	(箱状)	石3、土3、須4、瓦3	
D-40	X 28, Y 113・114	(1.81)	1.75	0.29	不整円形	台形状	縄5、土2、須11、灰3、瓦1	
D-41	X 28, Y 114	(2.11)	1.24	0.47	不整円形	台形状	縄3、土1	
D-42	X 32, Y 110・111	2.34	(1.13)	0.16	椭円形	弧状	縄5	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-43	X 32, Y 111・112	2.04	1.99	0.43	不整円形	台形状	縄192、石10、須2	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-44	X 28, Y 112	2.89	1.35	0.86	不整円形	台形状	縄50、石1、土1、須1	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-45	X 31, Y 111・112	(1.13)	1.04	0.39	不整円形	台形状	縄316、石7、土3	縄文土坑 加曾利EⅣ式
D-46	X 31, Y 111	(0.68)	0.57	0.21	不整円形	(弧状)		
D-47	X 31, Y 112	(0.82)	0.63	0.20	不整円形	(台形状)	縄8	縄文土坑 加曾利EⅢ式
D-48	X 32, Y 111	0.56	0.52	0.15	円形	台形状	縄15	縄文土坑 加曾利EⅢ式

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D - 49	X 27, Y 112	0.71	0.61	0.15	椭円形	台形状	土6、灰4	
D - 50	X 28, Y 112	(0.88)	0.82	0.41	不整円形	台形状	縄635、石40、土14、灰9	縄文土坑 加賀利EⅢ式
D - 51	X 33・34, Y 115	2.55	1.24	0.36	不整長方形	台形状		
D - 52	X 33, Y 115	2.21	1.17	0.33	不整長方形	台形状		
D - 53	X 33・34, Y 115	2.83	1.13	0.24	不整長方形	弧状		
D - 54	X 28, Y 113	1.15	1.03	0.62	円形	台形状		
D - 55	X 32, Y 119・120	1.72	0.87	0.33	椭円形	箱状	縄69、石9、灰2	縄文土坑 加賀利EⅢ式
D - 56	X 27・28, Y 112	3.14	1.37	0.23	不整長方形	箱状	縄109、石1	縄文土坑 加賀利EⅢ式
D - 57	X 29, Y 114	1.37	1.25	0.37	不整方形	台形状	縄18、石1	縄文土坑 加賀利EⅢ式
P - 1	X 38, Y 119	0.76	(0.44)	0.19	(椭円形)	(弧状)	縄1	縄文遺構
P - 2	X 39, Y 119	0.44	0.43	0.22	円形	箱状	縄1	
P - 3	X 38, Y 119	0.64	0.48	0.31	椭円形	箱状	縄5	
P - 4	X 38, Y 119	0.54	0.53	0.41	円形	U字状	縄10、土2	
P - 5	X 38, Y 119	0.67	(0.64)	0.46	円形	U字状	縄14、土2	
P - 6	X 38, Y 119	(0.56)	0.48	0.34	椭円形	箱状		
P - 7	X 39, Y 119	0.40	0.39	0.17	円形	台形状	土2	
P - 8	X 38, Y 120	0.29	0.29	0.07	円形	箱状	縄3、灰5	
P - 9	X 37, Y 119	0.36	0.32	0.25	円形	U字状	縄3、石1	
P - 10	X 37, Y 119	0.32	0.32	0.27	円形	U字状	石1	
P - 11	X 37, Y 120	0.36	0.33	0.43	円形	U字状	縄1	
P - 12	X 36・37、Y 120	0.45	0.44	0.59	円形	U字状	土1	
P - 13	X 36, Y 120	0.71	0.56	0.36	椭円形	U字状	縄7、石1	
P - 14	X 36, Y 120	0.36	0.36	0.12	円形	弧状		
P - 15	X 36, Y 120	0.44	0.34	0.13	椭円形	台形状	縄6、土2、灰1	
P - 16	X 36, Y 120	0.32	0.31	0.41	円形	U字状	縄3	
P - 17	X 38, Y 116	0.25	0.23	0.28	円形	U字状		
P - 18	X 38, Y 116	0.32	0.30	0.33	円形	U字状		
P - 19	X 38, Y 116	0.63	0.55	0.51	椭円形	台形状	縄2、土1、灰2、瓦1	
P - 20	X 38, Y 116・117	0.71	0.65	0.41	椭円形	台形状	縄3、石1、土2、灰1	
P - 21	X 38, Y 117	0.92	0.57	0.73	椭円形	U字状	縄3、灰3、瓦1	
P - 22	X 38, Y 117	0.67	0.43	0.26	椭円形	箱状	縄1、土2、瓦1	
P - 23	X 37, Y 117	0.74	0.76	0.45	不整円形	台形状	縄10、石1、灰1	
P - 24	X 37, Y 117	(1.00)	0.82	0.43	不整橢円形	U字状	縄7、石1、土2、灰2	
P - 25	X 37, Y 117	0.61	0.48	0.37	椭円形	箱状	縄7、灰1	
P - 26	X 38, Y 119	0.34	0.31	0.47	円形	U字状	縄2、土1	
P - 27	X 38, Y 118	0.41	0.38	0.22	円形	箱状	縄1、石1、土1	
P - 28	X 38, Y 118	0.91	0.78	0.42	椭円形	弧状	縄3、土7	
P - 29	X 37, Y 119	0.54	0.44	0.28	椭円形	U字状	縄1、土1、瓦1	
P - 30	X 38, Y 117	0.31	0.29	0.43	円形	U字状		
P - 31	X 38, Y 117	0.32	0.22	0.50	椭円形	U字状		
P - 32	X 38, Y 117	(0.66)	0.57	0.55	(椭円形)	U字状	灰1	
P - 33	X 38, Y 117	0.31	0.28	0.37	円形	U字状		
P - 34	X 38, Y 117	(0.79)	0.72	0.11	(椭円形)	台形状	灰2、瓦1	
P - 35	X 38, Y 117	0.30	0.30	0.29	円形	U字状		
P - 36	X 39, Y 118	(0.30)	0.29	0.19	(円形)	箱状	土2、灰1、瓦1	
P - 37	X 39, Y 118	0.63	0.57	0.50	椭円形	U字状		
P - 38	X 39, Y 117	0.32	0.24	0.37	椭円形	U字状		
P - 39	X 39, Y 118	0.27	0.27	0.12	円形	箱状	縄1	
P - 40	X 33, Y 121	0.41	0.40	0.45	円形	U字状	土1、灰1	

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P - 41	X 33, Y 121	0.31	0.31	0.20	円形	U字状		
P - 42	X 32, Y 122	0.41	0.36	0.09	不整円形	台形状		
P - 43	X 32, Y 122	0.50	0.37	0.25	椭円形	台形状		
P - 44	X 32, Y 121	0.69	(0.26)	0.36	(椭円形)	箱状	縄8、石1、頬1	
P - 45	X 32, Y 121	0.85	(0.25)	0.36	(椭円形)	箱状		
P - 46	X 32, Y 121	0.47	0.46	0.15	円形	台形状		
P - 47	X 32, Y 121	0.38	0.32	0.20	円形	箱状		
P - 48	X 32, Y 121	0.37	0.33	0.09	円形	弧状	縄1、頬1	
P - 49	X 32, Y 121	0.35	0.31	0.12	円形	弧状		
P - 50	X 34, Y 121	0.41	0.28	0.47	椭円形	U字状	石1、頬1	
P - 51	X 34, Y 121	0.36	0.35	0.41	円形	U字状	縄1	
P - 52	X 34, Y 120	0.32	0.27	0.19	円形	U字状	縄1	
P - 53	X 34, Y 120	0.49	0.31	0.17	椭円形	台形状		
P - 54	X 34, Y 120	0.36	0.36	0.35	円形	U字状	縄1	
P - 55	X 34, Y 120	0.27	0.17	0.32	椭円形	U字状	縄1	
P - 56	X 34, Y 120	0.25	0.20	0.35	椭円形	U字状		
P - 57	X 34, Y 120	0.22	0.21	0.57	円形	U字状		
P - 58	X 34, Y 120	0.35	0.34	0.19	円形	U字状	土2	
P - 59	X 32-33, Y 121	0.48	0.42	0.34	椭円形	台形状	縄1、頬1、瓦1	
P - 60	X 33, Y 121	0.52	0.42	0.18	椭円形	弧状		
P - 61	X 32, Y 121	0.20	0.20	0.26	円形	U字状		
P - 62	X 32, Y 121	0.33	0.30	0.37	円形	U字状	縄1	
P - 63	X 32, Y 120	0.29	0.27	0.38	円形	U字状		
P - 64	X 32, Y 120	0.34	0.34	0.42	円形	U字状	石1、土1	
P - 65	X 32, Y 120	0.43	0.36	0.31	椭円形	台形状		
P - 66	X 32, Y 120	0.47	0.41	0.63	椭円形	U字状	縄2、頬1	
P - 67	X 33, Y 120	(0.45)	0.40	0.44	(椭円形)	U字状	縄1	
P - 68	X 33, Y 120	0.32	0.29	0.33	円形	U字状	縄1	
P - 69	X 33, Y 120	0.48	0.38	0.22	椭円形	箱状		
P - 70	X 32, Y 120	0.36	0.24	0.36	椭円形	U字状	頬1	
P - 71	X 32, Y 120	0.54	0.39	0.33	椭円形	弧状		
P - 72	X 33, Y 120	0.58	(0.36)	0.33	(椭円形)	(U字状)	縄1、土1	
P - 73	X 33, Y 120	0.30	0.29	0.37	円形	U字状		
P - 74	X 34, Y 121	0.41	0.35	0.52	椭円形	U字状	縄1、土1	
P - 75	X 34, Y 121	0.59	0.49	0.32	椭円形	箱状	縄1、土1	
P - 76	X 34, Y 121	0.59	0.47	0.38	椭円形	U字状		
P - 77	X 34, Y 120	0.47	0.38	0.18	椭円形	台形状		
P - 78	X 33, Y 120	0.32	0.30	0.21	椭円形	箱状		
P - 79	X 33, Y 120	0.69	0.55	0.40	椭円形	U字状		
P - 80	X 32, Y 119	0.50	0.34	0.51	椭円形	U字状	土2、瓦2	
P - 81	X 32, Y 119	0.30	0.29	0.21	円形	U字状	縄1	
P - 82	X 32, Y 118	0.38	0.31	0.56	椭円形	U字状	縄4	
P - 83	X 32, Y 118	0.41	0.34	0.13	椭円形	箱状	土1	
P - 84	X 32, Y 118	0.47	0.42	0.60	円形	U字状	縄3、頬2	
P - 85	X 29, Y 118	0.45	0.42	0.12	円形	弧状	縄3、石1	
P - 86	X 30, Y 117	0.62	0.59	0.26	円形	U字状	縄13、石1、土1	
P - 87	X 30, Y 117	0.69	0.60	0.30	椭円形	箱状	縄8	
P - 88	X 29, Y 117	0.31	0.26	0.20	椭円形	U字状	縄4	

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P-89	X 30, Y 117	0.50	0.39	0.43	椭円形	U字状	縄5.土3.須3	
P-90	X 30, Y 116	0.48	0.38	0.42	椭円形	U字状	縄1.土7.須3.瓦1	
P-91	X 30, Y 119	0.54	0.41	0.15	椭円形	台形状	縄4	
P-92	X 28, Y 116	(0.30)	0.30	0.49	(円形)	U字状		
P-93	X 28, Y 116	0.37	(0.34)	0.44	(円形)	U字状	土2.須2	
P-94	X 28, Y 114	0.42	0.34	0.28	椭円形	箱状	縄11.石1.須1	
P-95	X 27・28, Y 114	0.50	0.38	0.29	椭円形	弧状		
P-96	X 27, Y 113	0.30	0.21	0.33	椭円形	U字状		
P-97	X 27, Y 113	0.41	0.34	0.08	椭円形	弧状	須1	
P-98	X 27, Y 113	0.36	0.33	0.07	円形	弧状	縄3	
P-99	X 27, Y 113	0.28	0.26	0.09	円形	弧状		
P-100	X 28, Y 113	1.31	0.94	0.65	椭円形	階段状	縄1	
P-101	X 28, Y 112	0.34	0.27	0.32	椭円形	U字状	縄3	
P-102	X 28, Y 113	0.29	0.28	0.23	円形	階段状	縄1.石1	
P-103	欠番							
P-104	X 27, Y 113	0.38	0.34	0.21	円形	弧状	須1	
P-105	X 32, Y 110	0.81	0.61	0.38	椭円形	弧状	縄5.土2	
P-106	X 32, Y 115	0.37	0.29	0.65	椭円形	U字状	縄3.土3.瓦2	
P-107	X 32, Y 115	0.35	0.34	0.59	円形	U字状	縄12.土8	
P-108	X 32, Y 114・115	0.54	0.27	0.71	不整椭円形	U字状	縄3.土1	
P-109	X 34, Y 111	0.47	0.32	0.49	椭円形	U字状		
P-110	X 34, Y 111	0.35	0.28	0.48	椭円形	U字状	土1	
P-111	X 33, Y 111	0.33	0.32	0.22	円形	U字状		
P-112	X 33, Y 112	0.41	0.38	0.32	円形	U字状	縄2.瓦1	
P-113	X 32, Y 116	0.46	0.34	0.11	椭円形	弧状	縄2	
P-114	X 32, Y 116・117	0.53	0.46	0.28	椭円形	U字状	縄3.土1	
P-115	X 32, Y 117	0.44	0.37	0.32	椭円形	U字状		
P-116	X 32, Y 115	0.60	0.47	0.37	椭円形	台形状	縄1	
P-117	X 36, Y 117	0.62	0.40	0.56	椭円形	U字状	土1.瓦1	
P-118	X 36, Y 117	0.71	0.66	0.45	不整方形	U字状	縄5.瓦3	
P-119	X 36, Y 117	0.71	0.66	0.45	不整方形	U字状		
P-120	X 37, Y 116・117	0.53	0.38	0.52	椭円形	階段状	縄3.須1	
P-121	X 36, Y 116	0.54	0.38	0.21	椭円形	台形状	瓦1	
P-122	X 36, Y 116・117	0.73	0.37	0.44	不整椭円形	台形状	土1.瓦1	
P-123	X 36, Y 116・117	0.56	0.41	0.42	椭円形	U字状	土1.瓦1	
P-124	X 36, Y 116	0.53	0.24	0.32	椭円形	U字状		
P-125	X 36, Y 116	0.48	0.31	0.39	椭円形	U字状	須1	
P-126	X 35, Y 117	0.50	0.43	0.13	椭円形	台形状		
P-127	X 35, Y 117	0.36	0.32	0.36	円形	U字状		
P-128	X 36, Y 117	0.63	0.39	0.08	(椭円形)	弧状		
P-129	X 36, Y 117	0.44	0.39	0.25	椭円形	U字状		
P-130	X 32, Y 115	0.32	0.29	0.30	円形	U字状	土1	
P-131	X 32, Y 115	0.44	0.32	0.44	椭円形	U字状		
P-132	X 32, Y 115	0.41	0.31	0.33	椭円形	U字状		
P-133	X 27, Y 114	(0.78)	0.66	0.08	(椭円形)	台形状	縄4.土1	
P-134	X 32, Y 118	0.50	0.39	0.53	椭円形	U字状	縄2.土1.須1	
P-135	X 32, Y 115	0.37	0.35	0.28	円形	箱状	瓦1	
P-136	X 36, Y 116	0.41	0.29	0.23	椭円形	U字状	須1	

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P - 137	X 36, Y 116	0.30	0.26	0.07	円形	台形状		
P - 138	X 36, Y 116 - 117	0.85	0.50	0.60	不整椭円形	U字状	縄4, 瓦1	
P - 139	X 36, Y 117	0.42	0.41	0.39	円形	U字状	縄6, 石3	
P - 140	X 36, Y 116	0.38	0.30	0.31	椭円形	U字状		
P - 141	X 36, Y 116 - 117	0.50	0.37	0.25	椭円形	U字状	縄3, 土1	
P - 142	X 36, Y 116 - 117	0.54	(0.27)	0.25	椭円形	U字状		
P - 143	X 36, Y 116 - 117	0.35	0.25	0.28	椭円形	U字状		
P - 144	X 37, Y 117	0.50	0.31	0.52	不整椭円形	階段状	縄1, 瓦1	
P - 145	X 37, Y 116	0.29	(0.25)	0.56	(円形)	U字状		
P - 146	X 37, Y 116	0.33	0.31	0.49	方形	U字状		
P - 147	X 37, Y 116	(0.27)	0.23	0.19	(椭円形)	U字状		
P - 148	X 37, Y 117	0.28	0.23	0.33	方形	U字状		
P - 149	X 37, Y 117	0.52	0.38	0.18	不整椭円形	階段状		
P - 150	X 37, Y 116	0.32	0.26	0.50	椭円形	U字状		
P - 151	X 37, Y 117	(0.42)	0.25	0.49	(椭円形)	U字状	縄4, 瓦1	
P - 152	X 37, Y 117	(0.22)	0.21	0.36	(椭円形)	U字状		
P - 153	X 37, Y 117	0.23	0.23	0.28	円形	階段状		
P - 154	X 32, Y 115	(0.22)	0.20	0.31	(椭円形)	U字状		
P - 155	X 32, Y 115	0.34	0.28	0.31	椭円形	U字状		
P - 156	X 32, Y 115	0.42	0.32	0.33	椭円形	U字状		
P - 157	X 32, Y 114	0.45	0.28	0.38	不整椭円形	箱状		
P - 158	X 32 - 33, Y 115	0.26	0.19	0.16	椭円形	弧状		
P - 159	X 32, Y 114	0.34	0.24	0.19	椭円形	台形状		
P - 160	X 32, Y 114	0.28	0.24	0.30	椭円形	U字状		
P - 161	X 32, Y 114	0.33	0.21	0.12	椭円形	箱状		
P - 162	X 33, Y 115	0.31	0.25	0.20	椭円形	U字状		
P - 163	X 33, Y 114	0.49	(0.32)	0.29	不整方形	箱状		
P - 164	X 33, Y 114	0.30	0.22	0.13	椭円形	台形状		
P - 165	X 33, Y 114	0.52	(0.30)	0.24	椭円形	階段状		
P - 166	X 33, Y 110	0.33	0.24	0.60	椭円形	U字状		
P - 167	X 27, Y 113	0.44	0.43	0.28	円形	台形状		
P - 168	X 27, Y 113	0.34	(0.32)	0.10	(円形)	台形状		
P - 169	X 27, Y 113	(0.58)	0.36	0.32	(椭円形)	U字状		
P - 170	欠番							
P - 171	X 28, Y 114	0.64	0.43	0.57	椭円形	U字状	縄1, 土6	
P - 172	X 28, Y 114	0.33	0.25	0.26	椭円形	U字状	瓦1	

Tab. 5 (123) 出土遺物觀察表

1

项号	出土位置	形制、	器物	底座	施灰	色调	用途、成、分、文、考、等的推断			现况状况、	备注
							形制、	成、分、	文、考、等的推断		
1	36-2	城工部 南墙	-	(38)	白陶 单耳杯	直壁 口沿外侈 腹深而直 圈足	直壁，口沿外侈，腹深而直，圈足。高10.5cm，口径12.5cm，圈足径6.5cm。 身上施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。
2	36-3	城工部 南墙	-	(39)	白色陶 单耳杯	直壁 口沿外侈 腹深而直 圈足	直壁，口沿外侈，腹深而直，圈足。高10.5cm，口径12.5cm，圈足径6.5cm。 身上施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。
3	36-4	城工部 南墙	-	(34)	白陶 茶托	直壁 圈足	直壁，圈足。高10.5cm，口径12.5cm，圈足径6.5cm。 身上施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。
4	76-21	城工部 南墙	-	(36)	白陶 茶托	直壁 圈足	直壁，圈足。高10.5cm，口径12.5cm，圈足径6.5cm。 身上施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。
5	76-22	城工部 南墙	-	(36)	白陶 茶托	直壁 圈足	直壁，圈足。高10.5cm，口径12.5cm，圈足径6.5cm。 身上施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。	17.2g的重量，器身施灰，圈足内施灰，器物底部有少量红烧土。

3

No	出土位置	樹形	樹高	根幅	地質	地床	色調	形状、成・構造、文様等の特徴			現状状況・備考
								根幅	根厚	根原	
1	No. 1	高木立	1.0m	0.8m	(1) 黒松、 チャコウ	丘原	褐色	円錐形。頂上は丸く、側面は斜面で、根元は丸く、根幅は根高より大きい。	高さ1.0m、根幅0.8m。	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。
2	No. 233	高木立倒木	1.3m	0.7m	(1) 第一葉松、 モミ	丘原	褐色	圓錐形。根幅は根高より大きい。	高さ1.3m、根幅0.7m。	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。
3	倒木	高木立倒木	1.0m	0.6m	(1) 黒松、 チャコウ	丘原	褐色	圓錐形。根幅は根高より大きい。	高さ1.0m、根幅0.6m。	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。
No		樹形	樹高	根幅	地質	地床	色調	形状、成・構造、文様等の特徴			現状状況・備考
4	倒木	巨樹立倒木	1.6m	1.2m	0.6m	原生林	褐色	楕円形。根幅は根高より大きい。根幅は根高より大きい。	65	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。
5	No. 26	巨樹倒木	11.8	5.2	17	原生林	褐色	圓錐形。根幅は根高より大きい。	1108	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。
6	倒木	巨樹倒木	10.1	10.4	0.6	原生林	褐色	圓錐形。根幅は根高より大きい。	11428	根原付近に土塁跡がある。	土塁跡付近に立木柱子。

3

No	出土位置	形態、器種	口径	底面	高さ	地質	焼成	色調	風貌、形態、特徴、文様等の概要		現状・状況・備考
									輪郭	内面	
1.	No. 9 溝土器 鉢形	(灰陶)	-	(367)	口：灰褐色。 身：灰褐色。 底：灰褐色。	中生葉茎 層	口に凹 底に凸	褐色	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様に富む。底に灰褐色の陶土で成る。身に凹陷部がある。	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様に富む。底に灰褐色の陶土で成る。身に凹陷部がある。	上縁に斜めの溝がある。
2.	No. 5 溝土器 鉢形	-	(33.1)	(22.8)	口：灰・米色系。 身：灰 底：灰褐色。筋状。	明治 層	口に凹 底に凸	褐色	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。	斜めの溝がある。
3.	匂土 溝土器 鉢形	-	(25.5)	白色系、茶褐色 底：灰褐色	良材 層	口に凹 底に凸	白色系、茶褐色 底：灰褐色	褐色	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。	斜めの溝がある。
4.	匂土 溝土器 鉢形	-	(14.1)	白色系、茶褐色 底：灰褐色	良材 層	口に凹 底に凸	白色系、茶褐色 底：灰褐色	褐色	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。身の外側には外側に凸起した外縫合部がある。	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。身の外側には外側に凸起した外縫合部がある。	斜めの溝がある。
5.	No. 1 溝土器 鉢形	-	(36.0)	口：米色系。 身：白	良材 層	口に凹 底に凸	白色系、茶褐色 底：白	褐色	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。身の外側には外側に凸起した外縫合部がある。	直口淺腹，口部有凹陷，底部有凸起。身部有中生葉茎文様。口の内側に灰褐色の筋状の文様がある。身の内側には内側に凹陷した内縫合部がある。身の外側には外側に凸起した外縫合部がある。	斜めの溝がある。

J =

No	出土位置	樹種、品種	口径	底面	高さ	地質	灰度	色調	形状、成形、文様、色彩等の特徴		現状状況・備考
									縦	横	
1	石川、二 重井戸	楠木(山田 氏家)	[346]	-	[85]	白・黒・灰色系 灰岩	灰岩	明褐色	円筒形。口部は外側に傾いており、底面は内側に傾いており、底面には丸みを帯びた凹部がある。内側の底面には「十」字の溝が複数走る。 内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	上部は一個の柱で、下部は三脚式。
2	名古屋市 西区	楠木(山田 氏家)	[405]	-	[86]	白・黒・茶色系 チャート	灰岩	明褐色	円筒形。口部は外側に傾いており、底面は内側に傾いており、底面には丸みを帯びた凹部がある。 内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	上部は一個の柱で、下部は三脚式。
3	名古屋市 西区	楠木(山田 氏家)	-	-	[225]	白・灰色系 チャート	灰岩	明褐色	円筒形。口部は外側に傾いており、底面は内側に傾いており、底面には丸みを帯びた凹部がある。 内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	上部は一個の柱で、下部は三脚式。
4	名古屋市 西区	楠木(山田 氏家)	-	-	[240]	白・茶・灰色系 チャート	灰岩	明褐色	円筒形。口部は外側に傾いており、底面は内側に傾いており、底面には丸みを帯びた凹部がある。 内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	上部は一個の柱で、下部は三脚式。
5	尾上	楠木(山田 氏家)	-	-	[90]	白・灰色系 チャート	灰岩	明褐色	円筒形。口部は外側に傾いており、底面は内側に傾いており、底面には丸みを帯びた凹部がある。 内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	内側の底面には「十」字の溝が複数走る。	上部は一個の柱で、下部は三脚式。
No	出土位置	樹種、品種	縦	横	底面	石種	地質	色調	重量	形状、成形、文様、色彩等の特徴	現状状況・備考
6	名古屋市 西区	白檀木(山田 氏家)	[347]	[302]	[84]	御殿石(白檀)	-	-	2910	御殿石(白檀)で作成された柱頭。柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。 柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。	下部断続的。
7	名古屋市 西区	白檀木(山田 氏家)	[311]	[73]	-	御殿石(白檀)	-	-	2621	御殿石(白檀)で作成された柱頭。柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。 柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。	直角。
8	名古屋市 西区	白檀木(山田 氏家)	[369]	[293]	[82]	御殿石(白檀)	-	-	39910	御殿石(白檀)で作成された柱頭。柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。 柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。	直角。
9	名古屋市 西区	白檀木(山田 氏家)	[339]	[269]	[84]	御殿石(白檀)	-	-	4179	御殿石(白檀)で作成された柱頭。柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。 柱頭は外側に「十」字の溝が複数走る。	上部断続的で直角。

11

J - 9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.7	陶土器 鉢	-	18.0	14.0	口・黑色地、石斑	やや軟質	褐	鉢最大径の約1/3を有する浅い鉢。底面は糊により、表面は一様で、底面は糊で保護され、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。表面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	2.「内側」 糊剥離痕、糊剥離痕(深さ2mm)、糊剥離痕(深さ1mm)、糊剥離痕(深さ1mm)。
2	直.1	陶土器 鉢	-	18.0	14.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
3	直.1	陶土器 鉢	-	18.0	14.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
4	陶西ダリッフ	陶土器 鉢	-	18.0	14.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
5	直土	陶土器 鉢	[18.0]	-	18.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	手跡、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。

J - 10

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考	
6	No.2	陶器 鉢	32	16.2	1.6	無粘着	-	-	白	白目は同じくやや細い縦筋が整然と並んでおり、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
7	南アリック	陶器 鉢	16.0	8.0	1.3	無粘着	-	-	白	表面に手筋を押す操作痕と糊剥離痕が複数ある。	手筋、糊剥離痕。

J - 11

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.2	陶土器 鉢	-	-	12.0	口・黑色地、石斑	高脚	灰	直線的口縁、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
2	直土	陶土器 鉢	-	-	12.0	口・黑色地、石斑	糊質	褐	直線的口縁、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
3	北アリック	陶土器 鉢	[12.0]	-	7.2	口・黑色地、石斑	高脚	褐	内側の縁に手筋の跡があり、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
4	No.3	陶土器 鉢	[12.0]	-	6.0	口・黑色地、石斑	糊質	褐	内側の縁に手筋の跡があり、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。

J - 12

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.1	陶土器 鉢	[25.0]	-	17.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	直線的口縁、口幅を保つ深い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
2	No.5	陶土器 鉢	[24.0]	-	17.0	口・黑色地、石斑	高脚	褐	直線的口縁、口幅を保つ深い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。
3	直土	陶土器 鉢	[24.0]	-	17.0	口・黑色地、石斑	糊質	褐	直線的口縁、口幅を保つ深い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。

H - 1

No	出土位置	種別、器種	直径	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.7	陶器 鉢	13.0	7.0	4.0	高脚	褐	直線的口縁、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。	
2	No.1	土器 鉢	13.0	8.0	4.0	口・白色糊質、白	高脚	褐	直線的口縁、口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。

H - 2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.8	陶器 鉢	-	10.0	12.0	口・黑色地、石斑	糊質	褐	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。
2	No.7	陶器 鉢	-	10.0	12.0	口・黑色地、石斑	糊質	褐	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。
3	No.1	土器 鉢	[12.0]	-	23	口・白色糊質、白	糊質	褐	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。

H - 3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.20	地物土 鉢	[12.0]	4.0	12.0	粘土	糊	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。	
2	No.18	地物土 鉢	[12.0]	6.0	12.0	粘土	糊	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。	
3	No.11-13	地物土 鉢	[10.0]	-	10.0	粘土	糊	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。	
4	直.3	地物土 鉢	[10.0]	-	10.0	粘土	糊	口幅を保つ浅い鉢。底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	口幅維持、糊剥離痕。	

H - 4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	基形、成・型形、文様等の特徴	現行状況・備考
1	No.10	地物土 鉢	12.0	6.0	2.0	粘土	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。	
2	No.11	地物土 鉢	12.0	7.0	2.0	地物土 鉢	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。	
3	No.19	地物土 鉢	12.0	7.0	2.0	地物土 鉢	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。	
4	No.8	地物土 鉢	[10.0]	7.0	2.0	第一・四 地物土 鉢	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。	
5	No.24	地物土 鉢	12.0	6.0	2.0	地物土 鉢	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋、糊剥離痕。	
6	No.20	地物土 鉢	-	7.0	13.0	地物土 鉢	糊	内側の縁に手筋の跡があり、底面は糊により、表面は糊が剥がれ、底面は糊が剥がれ、底面内には糊が残る。	手筋の底部分。	

H- 6

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 4	直筒形	8.3	11.3	4.2	白・灰白色、石目 陶器	墨	褐	内側にコロコロした凹凸がある陶器で、底は丸い。4.4cm高さで、外周に凹凸がある。	状況不明。 陶器欠損。
2	No. 1	直筒形	13.4	9.8	4.1	白・灰色	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
3	No. 9	直筒形	12.7	8.8	4.2	白色系、チャート 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
4	No.13	直筒形	13.1	8.8	4.3	白・茶色、チャート 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
5	No.30	直筒形	12.3	8.8	3.7	白・灰・茶色類似 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
6	No.12	直筒形	12.7	8.8	4.4	白・茶色類似 陶器	墨	棕	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
7	No.3	直筒形	13.5	8.8	4.5	白・茶色類似、茶色 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
8	No. 2	直筒形	12.7	11	11.3	白色系、白色類似 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
9	No. 8	直筒形	12.0	-	12.0	チャート・白 陶器	墨	棕	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。

H- 7

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 9	直筒形	13.8	9.9	4.7	白色系	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
2	No. 2	直筒形	13.8	6.1	5.3	石灰岩、茶色系 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
3	No. 7	直筒形	13.0	[9.1]	5.8	石灰岩、茶色系 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
4	No. 6	直筒形	12.7	-	12.0	白色系	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。

H- 8

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 9	直筒形	13.8	9.9	4.7	白色系	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
2	No. 2	直筒形	13.8	6.1	5.3	石灰岩、茶色系 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
3	No. 7	直筒形	13.0	[9.1]	5.8	石灰岩、茶色系 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 陶器欠損。
4	No. 6	直筒形	12.7	-	12.0	白色系	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。

H- 9

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 20	直筒形	13.0	10.6	4.7	灰五	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
2	No. 26	直筒形	12.0	-	10.0	灰五	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
3	No. 19	直筒形	13.0	-	10.0	墨	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
4	No. 21	直筒形	12.0	-	10.0	墨	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
5	No. 2	直筒形	12.0	-	10.0	白色系	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
6	No. 4	直筒形	12.0	4.8	3.6	白色系、灰五、黄 陶器	墨	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 外側にミクニ接着剤付。
7	No. 2	直筒形	14.7	24	22.7	墨	白	灰	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。

H- 10

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	直筒形	14.3	7.0	3.3	墨	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
2	No. 3	直筒形	12.0	4.8	4.8	墨	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。 内側に凹凸がある。
3	タツノ原	直筒形	13.3	8.9	4.8	墨	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
4	No.10	直筒形	12.5	5.2	4.7	白色系、灰五、黄 陶器	墨	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
5	No. 26	直筒形	14.0	-	10.1	墨	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
6	No. 6	直筒形	12.0	-	9.0	白	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
7	No. 6	直筒形	12.0	-	12.0	白	白	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。

H- 11

No	出土位置	埋形、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No.19	直筒形	-	(8.0)	(12)	墨	墨	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。
2	No.20	直筒形	-	(8.0)	(12)	墨	墨	白	内側に凹凸がある陶器で、底は丸い。	状況不明。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 6	雨道部 築	-	[15.0]	[6.0]	白色系	堅焼	灰	外輪口コリナ。内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	最高1.2m残存。
4	No.14	雨道部 築	[11.0]	5.4	4.3	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.2m残存。
5	No.23	雨道部 築	[12.2]	5.8	4.8	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	最高1.3m残存。
6	No. 9	雨道部 築	[12.0]	[6.0]	[6.0]	石系、黄系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	最高1.2m残存。
7	No.27	雨道部 築(付帯)	-	14.3	[6.0]	石系、白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	最高1.3m残存。
8	No.22	剥落	[20.0]	-	[23.0]	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
9	壁上	瓦平瓦	[11.0]	24	[3.0]	白色系、青系	堅焼	灰白	内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。	保存なし。 瓦残存。

H - 12

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.20	上雨道 築	12.4	丸底	4.2	白色系、青系	堅焼	灰	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。
2	壁上	上雨道 築	[14.0]	-	[4.0]	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。
3	No.27	上雨道 築	11.7	丸底	4.2	第一白色系、青系	堅焼	灰白系、青系	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。又一部、 内輪口部付近。
4	No.25	上雨道 築	11.7	丸底	4.3	白色系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。又一部、 内輪口部付近。
5	No. 7	上雨道 築	17.6	-	[18.0]	石系、黄系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上半周残存。
6	No.12	上雨道 築	18.3	-	[11.0]	第一白色系、白色系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上半周残存。 窓。
7	No.14	上雨道 築	18.6	-	[27.0]	石系、黄系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上半周残存。 窓。
8	No.24	上雨道 築	[26.0]	-	[19.0]	白色系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。

H - 13

No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重宝	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	表裏面 瓦子	0.80	-	0.06	鉄	-	-	133	日本古式を守る施設が残る。既述は不明確。又予字系。墨は多少 を守る。	部分生地丸化。 墨人幅1.3cm。

H - 15

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 4	上雨道 築	[15.0]	-	[4.0]	堅焼	堅焼	灰	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	既述既焼。 口部既焼。
2	No. 4	半壁上雨道 窓	-	-	[4.0]	石系、青系	堅焼	青白	外輪口部コリナ。	既述の窓既焼。
3	No. 2	半壁上雨道 窓	-	-	[4.0]	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。	既述の窓既焼。

H - 16

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	雨道部 築	[18.0]	-	[20]	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。 高さ既焼。
2	No.20-11	上雨道 築	[26.0]	-	[19.0]	白色系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上半周1.0m既焼。

H - 17

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 20	雨道部 築	[12.0]	[5.0]	[3.0]	石系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。
2	壁上	上雨道 築	[13.0]	[6.0]	[3.0]	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m残存。
3	No. 2	上雨道 形窓	-	[8.7]	[2.0]	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。	既述既焼。
4	壁上	上雨道 築	[14.0]	[5.0]	[3.0]	白色系、青系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上1.0m既焼。

H - 18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	木造屋上	上雨道 築	[15.0]	-	[6.0]	石系、白系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m-頂上半周既焼。

H - 19

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	上雨道 築	16.4	8.2	4.0	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。 内輪口部既焼。
2	No.24	上雨道 築	[12.0]	[7.0]	[4.0]	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。
3	No.15	雨道部 築	16.7	5.5	2.2	白色系	堅焼	青白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	既述既焼。
4	No.18	雨道部 築	16.7	8.2	3.3	石系、白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	既述既焼。
5	No.14	雨道部 築(付帯)	12.1	7.2	3.8	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。 内輪口部既焼。

H - 20

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・形態、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 4	上雨道 築	[15.0]	[7.0]	[2.7]	堅焼	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。
2	壁上	上雨道 築	[14.0]	[6.0]	[5.0]	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。
3	No. 1	雨道部 築	[12.0]	[6.0]	[4.8]	石系、白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。
4	壁上	上雨道 築	[13.0]	[6.0]	[4.2]	白色系	堅焼	灰白	外輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。 内輪口部コリナ。底身の内側を削り、口部へカットせり。	1.0m既焼。 既述既焼。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考	
5	No-12	須恵器 瓢箪形 M1711-1	(136)	(72)	49	白色灰、石炭、貝	高熱	灰褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ、腹周縁部に朱色を施す。	上段丸。	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考	
6	No-13	灰 扇平瓶	(135)	—	42.0	(96)	石炭、灰石	高熱	灰褐色	口部に十字割、側面に三連縦溝を有する。	上段丸。内面に手写「P-20」と記入がある。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考	
7	No-18	灰 扇平瓶	(182)	(96)	23	石炭、灰石	高熱	灰褐色	内面に白帯、腹部にタオチ(口下部を除く)、口部にタオチ。	灰褐色。ハク文字「P-2」。	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考	
8	裏3	須恵器 盆子	(25)	(18)	66	灰	—	—	14.8	口部は破損、	

H- 21

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No-1	須恵器 瓢箪形	147	48	45	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ、腹周縁部に朱色を施す。	ほの丸。
2	No-2	須恵器 瓢箪形	(156)	—	44	白色灰、石炭	高熱	灰褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	灰褐色丸1/2丸。
3	No-16	須恵器 瓢箪形 M1711-2	(152)	82	63	石炭、灰石	高熱	灰褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ、腹周縁部に朱色を施す。	1/2丸丸。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
4	No-20	X 扇平瓶	(116)	—	23	白色灰	塑形	褐色	内面に白帯、腹部にタオチ。	丸。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
5	No-13	須恵器 盆子	(28)	—	66	灰	—	—	26.0	口部は破損、

H- 22

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏3	須恵器 瓢箪形	(120)	—	33	白色灰	塑形	灰	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。
2	裏3	須恵器 瓢箪形	(126)	—	35	無灰	塑形	灰	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸1/2丸。
3	裏3	須恵器 瓢箪形 M1711-3	(125)	—	32	白色灰	塑形	灰	内面に漆器模様コロナ。	須恵丸1/2丸。
No-9	須恵器 瓢箪形	(176)	—	57.0	白色灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸1/2丸。	
No-11	須恵器 瓢箪形	(120)	—	36	白色灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸1/2丸。	
No-25	土師器 瓶	(168)	—	220	白色灰	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。
No-28	土師器 瓶	(142)	丸瓶	43	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。
No-4	土師器 瓶	113	—	85	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	丸。
No-9	土師器 瓶	174	—	200	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸。
No-5	土師器 瓶	(171)	—	220	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・土師丸1/2丸。
No-1	土師器 瓶	(214)	—	72	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・土師丸1/2丸。
No-22	土師器 瓶	(166)	—	220	白色灰、石炭	高熱	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。
12	須恵器 盆子	(118)	—	—	40	白・黑色灰	高熱	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸。
13	須恵器 盆子	(118)	—	—	40	白・黑色灰	高熱	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸。
14	須恵器 盆子	(118)	—	—	96	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸。
15	須恵器 盆子	(120)	—	—	96	白色灰、石炭	やや高熱	灰褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。
16	須恵器 盆子	(126)	—	—	42	白色灰	塑形	灰褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。

H- 23

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏3	須恵器 瓢箪形	(140)	—	60	無灰	塑形	オリーブグリーン	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸形。
2	裏3	須恵器 瓢箪形	—	(72)	34	黑色灰	塑形	灰	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸1/2丸。
3	裏3	須恵器 瓢箪形	—	—	96	白色灰	高熱	褐色	内面に漆器模様コロナ。	1/2丸形。
4	裏3	須恵器 瓶	(124)	(56)	44	無灰	—	—	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸。

H- 24

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏3	須恵器 瓶	(96)	(21)	53	無灰	高熱	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	須恵丸1/2丸。
2	裏3	須恵器 瓶	(166)	—	55	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸1/2丸。

H- 25

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏3	須恵器 瓶	—	—	140	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸形。
2	裏3	須恵器 瓶	(166)	—	120	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸1/2丸。

H- 27

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	裏3	須恵器 瓶	—	—	40	無灰	塑形	褐色	内面に漆器模様コロナ。	1/2丸形。

H- 28

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	No-11	土師器 瓶	221	—	106	石炭、灰石、墨岩	120-130度	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸。
2	No-5	土師器 瓶	(166)	—	120	石炭、灰石、墨岩	高熱	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・土師丸1/2丸。
3	No-2	土師器 瓶	(162)	—	120	白色灰、石炭	120-130度	褐色	内面に漆器模様コロナ、口下部にタオチ。	1/2丸・須恵丸。

H - 31

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	土師器 瓶	112.0	4.8	48	白・黑色絞、織目	高岡	灰白	外側ハタケ織口(織目)内側スリガサ。	1/4残存。

A - 1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 1	土師器 瓶	-	16.4	13.0	黑色	織目	オーバーフレ	外側ハタケ織口(織目)内側スリガサ。	既存片。	
No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考	
2	遺土	瓦平瓦	447	2.8	9.00	石白	石白	石白	直筒瓦。上半部一側、下半部二側。	既存片。	
3	76-21	瓦平瓦	534	3.0	11.20	白・黑色絞	織目	石白	直筒瓦の半身。端面ハタケ・本瓦より、端面を配する。	既存片。	
No.	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考	
4	No. 8	瓦	瓦	瓦	9.00	(72)	1.05	石白・黄石	直筒	門内瓦(瓦)。	既存片。
5	遺土	瓦	瓦	瓦	16.17	(63)	1.67	黑色絞	高岡	門内瓦(瓦)。	既存片。
6	遺土	瓦	瓦	瓦	16.22	2.09	黑色絞	高岡	門内瓦(瓦)。	既存片。	

W - 1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考		
1	遺土	かわせ小口	17.0	4.0	2.2	白色絞	高岡	浅黄質	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。		
2	遺土	瓦	瓦	瓦	-	14.0	石白・黄石	高岡	内側は織目(織口)。外側は織目(織口)。	既存片。		
3	遺土	瓦	瓦	瓦	-	白色絞	織目	石白	内側は織目(織口)。外側は織目(織口)。	既存片。		
No.	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考		
4	遺土	瓦	瓦	瓦	8.40	(74)	1.05	石白	直筒	門内瓦(瓦)。	既存片。	
No.	出土位置	種別、器種	瓦筒	瓦筒	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考		
5	遺土	瓦	瓦	瓦	1.02	(24)	石白・黄石	直筒	輪郭が立ち、端面は支脚付。表面にヘタリ。	既存片。		
No.	出土位置	種別、器種	筒形	筒形	初縫年代	付属	焼成	高さ	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考		
6	遺土	瓦筒瓦	瓦筒	瓦筒	明治元年(1868)	新	22.0	mm	6.0 mm	15 mm	23kg	足形。

D - 3

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	石造物 石室	15.0	3.6	2.2	緑色砂岩	-	-	40L	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。
2	No. 2	石造物 石室	16.0	4.8	2.9	緑色砂岩	-	-	22M	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。

D - 14

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	12.0	-	14.0	石白・黄石	高岡	石白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	口縁一部手すり付。

D - 17

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	-	6.7	(22)	新	高岡	高白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	表面2/3残存。

D - 18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	12.0	-	14.0	石白・黄石	高岡	石白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	口縁一部手すり付。

D - 17

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	-	6.7	(22)	新	高岡	高白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	表面2/3残存。

D - 18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	12.0	10.0	3.5	新	高岡	高白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	1/4残存。

D - 26

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	遺土	筒形	-	15.2	7.7	3.9	石白	石白・黄石	織目	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。

D - 38

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考	
1	No. 1	瓦	瓦	瓦	9.3	4.9	2.3	黒・白色絞	高岡	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。
2	No. 2	瓦	瓦	瓦	10.3	8.1	2.2	黑色絞	高岡	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	既存片。

D - 43

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	遺土	筒形	-	-	10.0	口・黒・白色絞、織目	高岡	高白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	1/4残存。

D - 44

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	筒形	筒形	-	(22)	口・黒・白色絞、織目	高岡	高白	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	1/4・筒形手すり付。

D - 49

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 6	筒形	筒形	11.9	5.5	1.6	石白・黄石	高岡	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	1/4残存。

D - 50

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	筒形	筒形	-	-	(10)	口・黒・白色絞、織目	高岡	外側は織目(織口)。内側は織目(織口)。	1/4・筒形手すり付。

No	出土位置	種別	番号	口径	底面	高さ	土色	地質	地盤	地層	形態	形・式	変遷	文様等の特徴	現状状況・備考
2	裏土	陶土器 深鉢	-	-	(26)	口・腹・基部解剖 内輪	灰褐色 灰褐色	中砂地 中砂地	中砂地 中砂地	中砂地	平底鉢	口縁に内輪外縁に外輪の三重輪	内輪は青釉、外輪は白釉で、内輪と外縁部が施釉なしで施釉され、内縁部と内輪部は施釉あり	中砂地に削り出された器形で、内縁部と外縁部が施釉あり	
4	裏土	陶土器 深鉢	大正2 24	34	27	口・腹・側面の割れ 内輪	灰褐色 灰褐色	中砂地 中砂地	中砂地 中砂地	中砂地	平底鉢	口縁に内輪外縁に外輪の三重輪	内輪は青釉、外輪は白釉で、内輪と外縁部が施釉なしで施釉され、内縁部と内輪部が施釉あり	中砂地に削り出された器形で、内縁部と外縁部が施釉あり	
6	出土位置	種別	番号	直径	底面	厚さ	土色	地質	地盤	地層	形態	形・式	変遷	文様等の特徴	現状状況・備考
7	裏土	陶土器 深鉢	昭和2 307	53	33	緑色解剖面	緑色 緑色	中砂地 中砂地	中砂地 中砂地	中砂地	平底鉢	口縁に内輪外縁に外輪の三重輪	内輪は青釉、外輪は白釉で、内輪と外縁部が施釉なしで施釉され、内縁部と内輪部が施釉あり	中砂地に削り出された器形で、内縁部と外縁部が施釉あり	
8	裏土	陶土器 深鉢	昭和2 313	38	18	緑色解剖面	緑色 緑色	中砂地 中砂地	中砂地 中砂地	中砂地	平底鉢	口縁に内輪外縁に外輪の三重輪	内輪は青釉、外輪は白釉で、内輪と外縁部が施釉なしで施釉され、内縁部と内輪部が施釉あり	中砂地に削り出された器形で、内縁部と外縁部が施釉あり	

D - 5

No	出土位置	埋形	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成形、文様等の特徴		現存状況・備考
										内径	外径	
1	3号墓 - 19	直筒式 鉢形	陶器	22.0	12.0	8.0	白灰土 胎土	焼成	褐色	小口の直筒式から圓筒形に凸出する円錐部をもつ。肩部が斜めで、底部が丸い。	前頭部・後頭部 左側面部	現存
2	出土位置未記	埋形	器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	直筒・成形、文様等の特徴	現存状況・備考	
2	3622	直筒式 鉢形	陶器	30.7	20.9	8.0/5.5	青銅山碧砂	焼成	黒褐色	直筒式の口部は約 30 cm の直径で、底部は約 20 cm の直径で、最深 部は約 8 cm の深さである。表面には黒褐色の斑点がある。	4/5保存。	

P - 3

No	出土位置	器物名	国名	初鑄年代	材质	外径	厚度	厚古	重量	備考
1	董士	星云高足	上宋	宋元二年（1138）	铜	246mm	62mm	13mm	32g	足部

遺稿外

No. 14

3

No	出土位置	種類	大きさ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	形態・底・風紋・文様等の特徴		現状状況・備考
										底面	側面	
21 No. 2	右側横長	23	22	09	75	—	—	78	用鉢の底に、右側横長の部分に斜めに刷毛目があり、側面には左の部品と右の部品、内側に、	右側横長の部分に、	右側横長の部分に、	
22	底面	右角石器	23	13	04	黑色石	—	—	67	右側の斜め刷毛目、左側は丸い斜め刷毛目をしており、右側は丸い斜め刷毛目より左側は丸い斜め刷毛目で凹凸。	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目
23	底面	右角石器	4.7	3.3	1.3	黑色頁岩	—	—	82	素材が右側の斜め刷毛目で、左側は丸い斜め刷毛目をしており、表面斜面には右側に凹められた舟形である。軸部は太く、右側に垂直的な舟形の凹痕がある。	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目、舟形	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目、舟形
24	底面	右角石器	128	4.8	20	黑色頁岩	—	—	153.5	表面斜面に右側斜め刷毛目と左側丸い斜め刷毛目をしており、右側斜め刷毛目より左側丸い斜め刷毛目で凹凸。	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目
25	W-1 右角石器	133	5.3	17	黑色頁岩	—	—	121.0	表面斜面に右側斜め刷毛目と左側丸い斜め刷毛目をしており、右側斜め刷毛目より左側丸い斜め刷毛目で凹凸。側面には左側斜め刷毛目と右側丸い斜め刷毛目がある。	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目	右側斜め刷毛目、左側丸い斜め刷毛目	

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	加工	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴			残存状況・備考	
										直	斜	縦		
26	W-1 墓土	石器	打撲石斧	108	32	14	磨光削刮	-	-	2546	直筒の側面内面は手彫りに施用し、細かな装飾網溝を表面に施し、側面は手彫りで斜めの斜面を有する。表面には焼付による火斑が認められる。	はげたれ、 火斑。		
27	W-1 墓土	打撲石	打撲石 分割形	95	79	22	磨光削刮	-	-	1539	直筒の側面を有する分割形の石器が複数で認めてある。表面加工を施し、上半部が小窓の分刻目を有する。器の裏の作例は丁寧で仕上げが整っている。背面の凹凸は側面によく火斑が認められる。	はげたれ、 火斑が激しい。		
No	出土位置	種別	基盤	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	直	斜	縦	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
28	縄追跡	執物品	漆器品 緑色漆	95.0	43.1	13.1	漆	-	-	281	V字溝を有して長い棒が欠損しているのみである。盛大的形状。	漆青。		
No	出土位置	種別	基盤	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	直	斜	縦	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
29	縄追跡	漆器品	漆器品 緑色漆	14.0	6.9	0.2	漆	-	-	33	漆器と漆器の横口。	漆青と黒青。	底付。	
No	出土位置	種別	基盤	縦	横	厚さ	材質	焼成	色調	直	斜	縦	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
30	縄追跡	漆器品	漆器品 純白	33.1	13	3.0	漆	-	-	37	-	-	漆青と純白。	手縫。

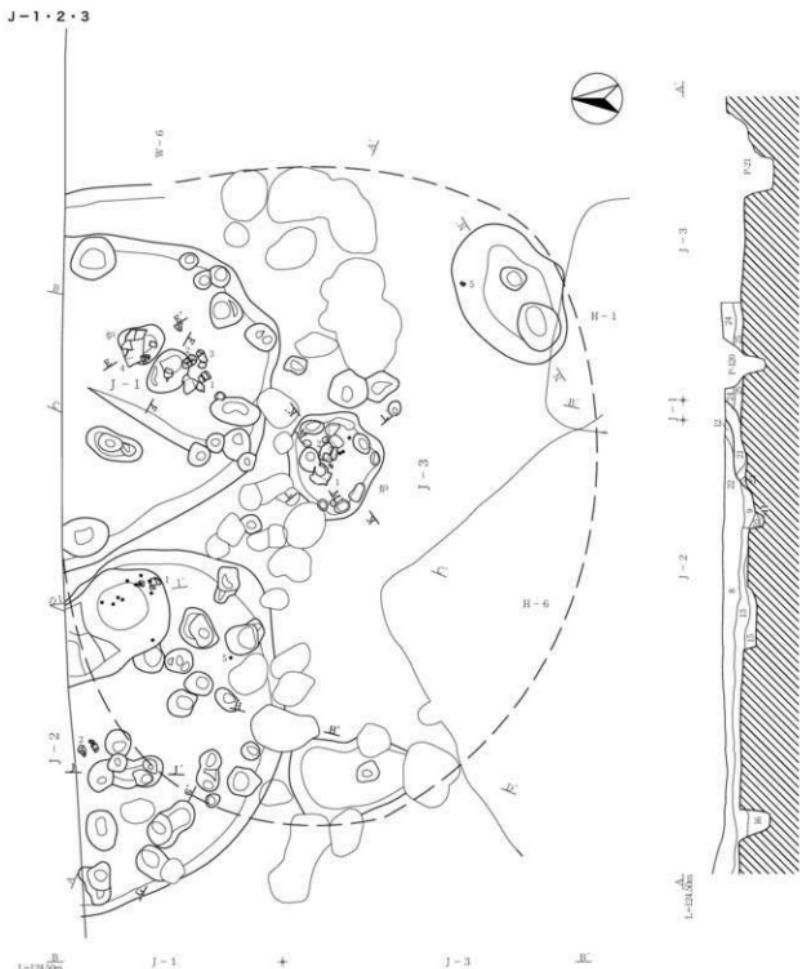
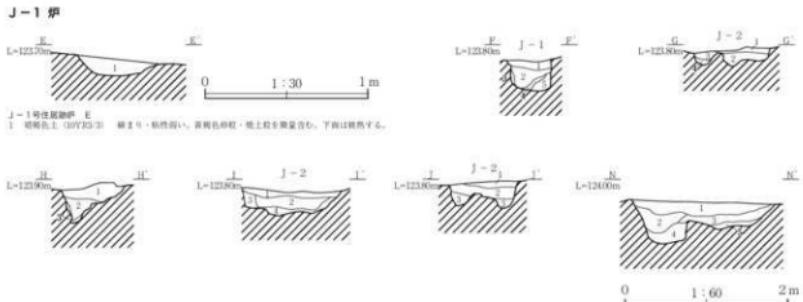
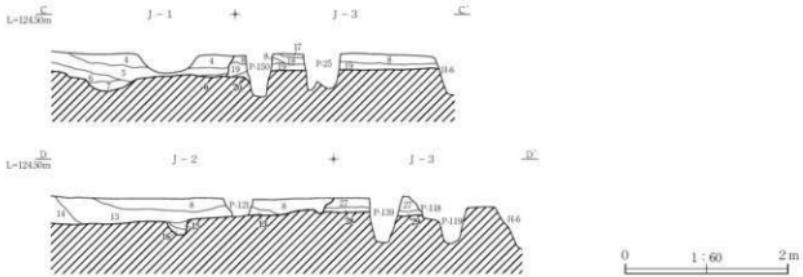
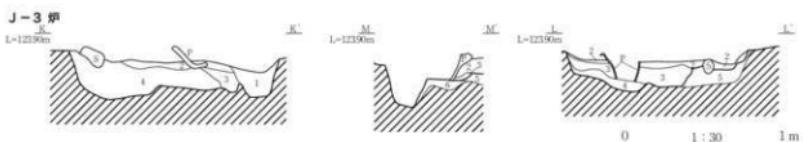


Fig.90 (123) J-1·2·3号住居跡(1)

- 159 -



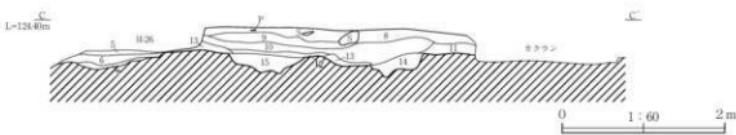
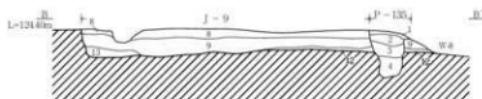
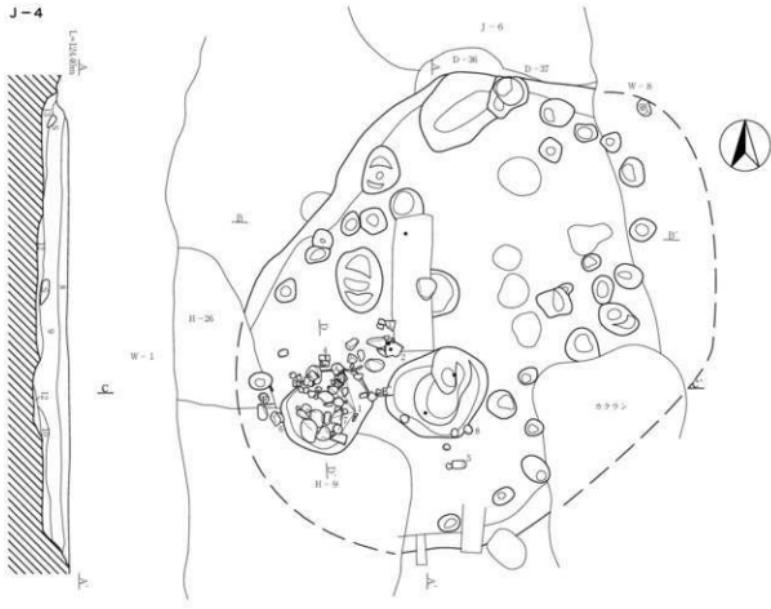
J-1 住世野原 F	1 鮎原色毛 (HOTRY-3) 2 鮎原色毛 (HOTRY-3) 3 鮎原色毛 (HOTRY-3) 4 鮎原色毛 (HOTRY-3) 5 鮎原色毛 (HOTRY-3)	鮎原毛：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。
J-2 住世野原 G	1 鮎毛上 (HOTRY-4) 2 鮎毛上 (HOTRY-4) 3 鮎毛上 (HOTRY-4) 4 鮎毛上 (HOTRY-4) 5 鮎毛上 (HOTRY-4)	鮎毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。
J-3 住世野原 N	1 鮎原毛上 (HOTRY-3) 2 鮎原毛上 (HOTRY-3) 3 鮎原毛上 (HOTRY-3)	鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。
J-4 住世野原 P	1 鮎原毛上 (HOTRY-3) 2 鮎原毛上 (HOTRY-3) 3 鮎原毛上 (HOTRY-3)	鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。
J-5 住世野原 T	1 鮎原毛上 (HOTRY-4) 2 鮎原毛上 (HOTRY-4) 3 鮎原毛上 (HOTRY-4)	鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。
J-6 住世野原 V	1 鮎原毛上 (HOTRY-3) 2 鮎原毛上 (HOTRY-3) 3 鮎原毛上 (HOTRY-3)	鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。 鮎原毛上：鈍頭の凹、黃褐色地模を複合含む。



J-3 可湿基质带 K-L-M

- 1 基质乳土 (30YR 10/3) 硬さ ①・粘性 中や強。
- 2 基质高岭土 (30YR 12/4) 硬さ ②やや強く、粘性弱い。黄褐色色鉛筆を撒き含む。
- 3 基质高岭土 (30YR 12/3) 硬さ ③・粘性弱い。黄褐色色鉛筆を撒き含む。
- 4 高岭土 (30YR 14/1) 硬さ ④・粘性弱い。黒褐色色鉛筆を撒き含む。
- 5 基质高岭土 (30YR 12/3) 硬さ ⑤・粘性やや弱い。(硬さ ④)

Fig91 (123) I = 1 : 2 : 3 号住居跡 (2)



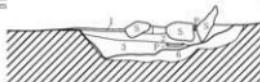
J-4号住居跡 A・B・C

- 1 布施色土 (10Y3/3-3) 繼まり・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。(P-135)
- 2 布施色土 (10Y3/3-4) 繼まり・粘性弱い。表面砂粒を多量含む。(P-135)
- 3 黄褐色土 (10Y3/5-6) 繼まり弱く・粘性弱い。山崎灰土を含む。(P-135)
- 4 黄褐色土 (10Y3/4-2) 繼まり・粘性弱い。黄褐色砂を少量含む。(P-135)
- 5 布施色土 (10Y3/2-3) 繼まりや強く・粘性弱い。表面砂粒を中量含む。(H-26)
- 6 布施色土 (10Y3/2-4) 繼まりや強く・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。(H-26)
- 7 布施色土 (10Y3/4-4) 繼まり・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。(H-26)

B 黄褐色土 (10Y3/4-2) 繼まりやや強く・粘性やや弱い。黒褐色ブロックを中量含む。

- 8 黄褐色土 (10Y3/3-3) 繼まり・粘性やや弱い。黄褐色砂を少量含む。
- 9 布施色土 (10Y3/3-2) 繼まりやや強く・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。
- 10 黄褐色土 (10Y3/4-3) 繼まりやや強く・粘性弱い。表面砂粒を中量含む。
- 11 黄褐色土 (10Y3/4-2) 繼まりやや強く・粘性弱い。黒褐色ブロックを中量含む。
- 12 布施色土 (10Y3/3-3) 繼まりやや強く・粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- 13 布施色土 (10Y3/2-3) 繼まりやや強く・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。
- 14 布施色土 (10Y3/2-4) 繼まりやや強く・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。
- 15 布施色土 (10Y3/4-4) 繼まり・粘性弱い。表面砂粒を微量含む。

L=124.10m



L=124.10m



J-4号住居跡 D-E

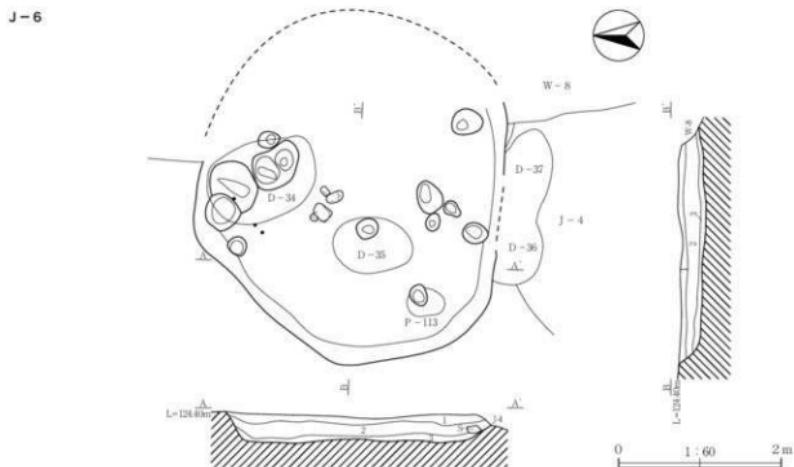
- 1 布施色土 (10Y3/3-3) 繼まり・粘性やや弱い。白色砂粒を微量含む。
- 2 布施色土 (10Y3/3-4) 繼まり・粘性弱い。黑色砂粒を微量含む。
- 3 にあい黄褐色土 (10Y3/5-4) 繼まり・粘性弱い。地土粒を微量含む。

4 黄褐色土 (10Y3/3-2) 繼まり・粘性やや弱い。黄褐色砂質土・底土粒を少量含む。

- 5 にあい黄褐色土 (10Y3/5-4) 繼まりやや強く・粘性弱い。地土粒を微量含む。
- 6 にあい黄褐色土 (10Y3/5-4) 繼まりやや強く・粘性弱い。か拂り方。

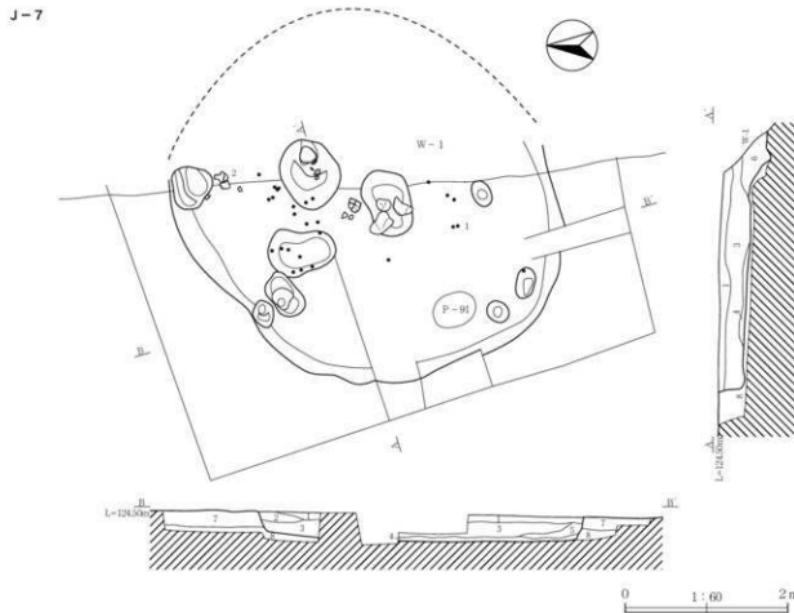
Fig.92 (123) J-4号住居跡・P-135号ピット

J-6



J-6号住居跡 A・B
 1 黄褐色土 (10YR4/2) 線まり・粘性弱い。黄褐色砂を少量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりや中強く、粘性弱い。黄褐色砂を少量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり・粘性弱い。黄褐色砂を微量含む。

J-7



J-7号住居跡 A・B
 1 黄褐色土 (10YR4/4) 線まり・粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。
 2 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりやや強く、粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 線まり・粘性やや弱い。黄褐色砂を少量含む。
 4 黄褐色土 (10YR3/4) 線まりやや強く。粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 5 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりやや強く。粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。
 6 黄褐色土 (10YR3/2) 線まりやや強く。粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。(B)
 7 黄褐色土 (10YR3/4) 線まりやや強く。粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。塊出。
 8 黄褐色土 (10YR3/3) 線まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

Fig93 (123) J - 6・7号住居跡

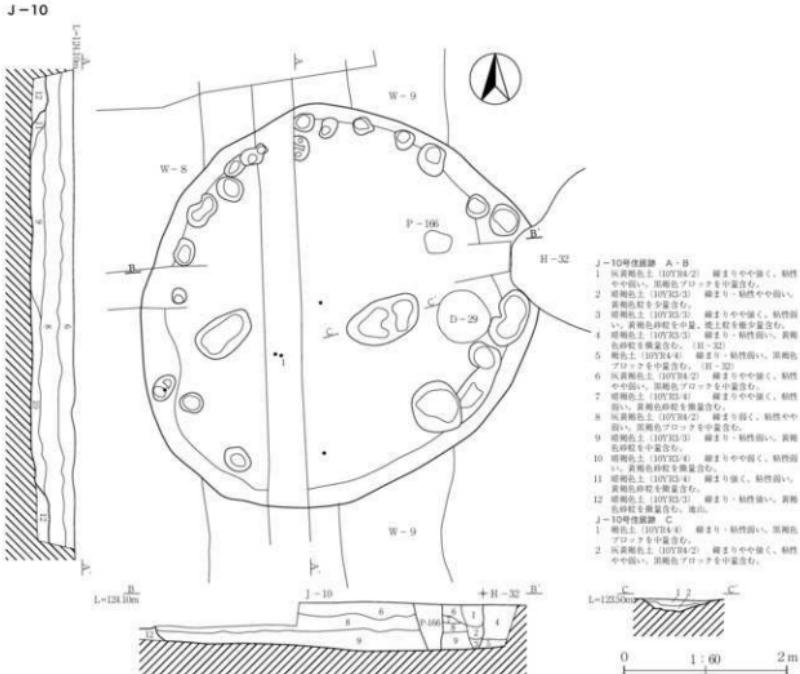
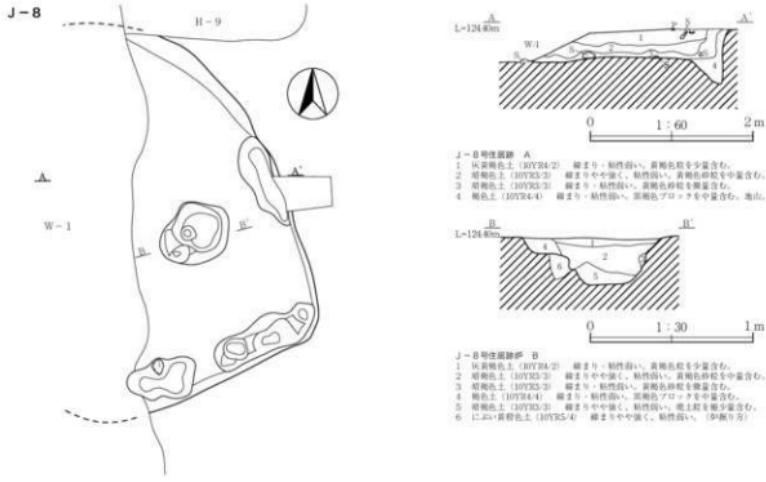


Fig.94 (123) J-8·10号住居跡

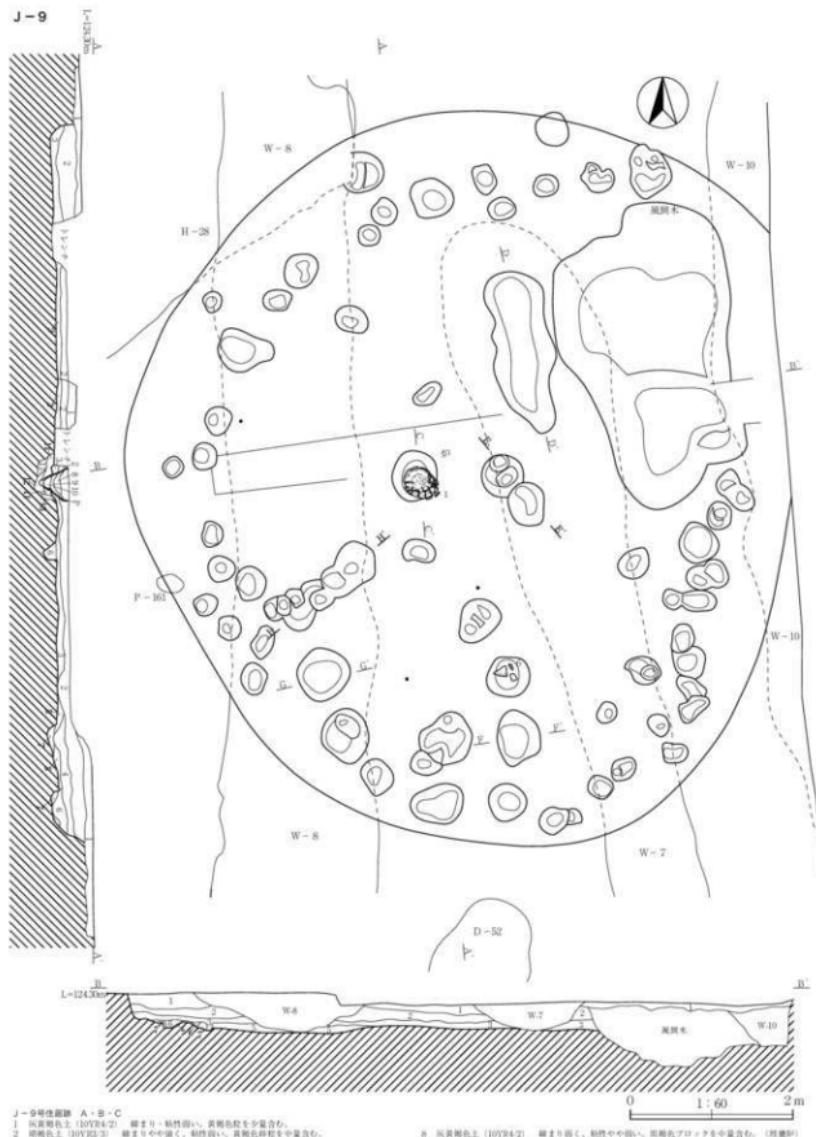
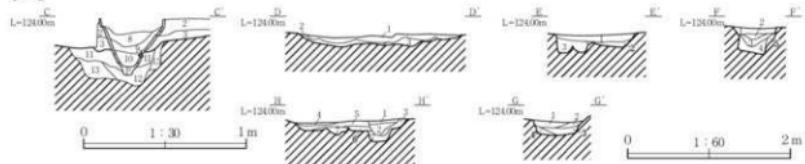


Fig.95 (123) J - 9号住居跡

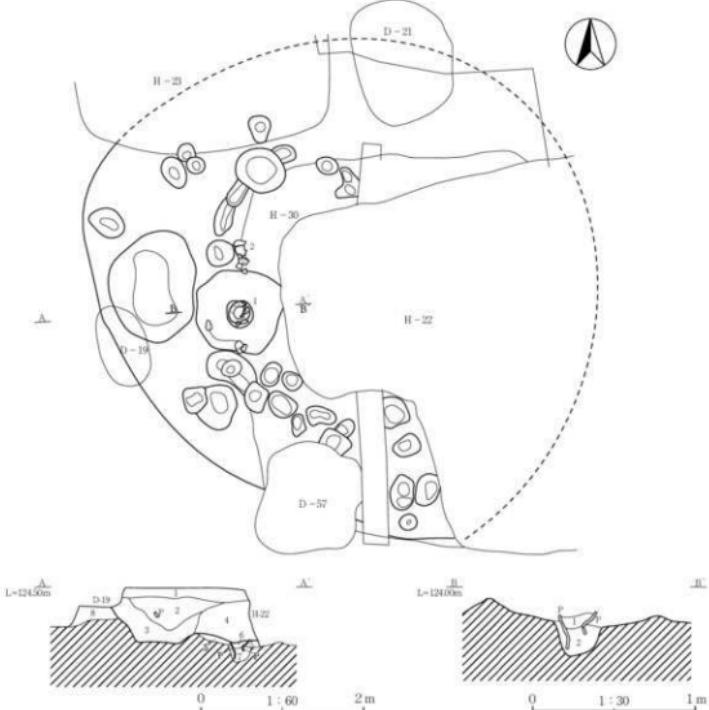
J - 9



- J - 9 住居跡 D
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 J - 9 住居跡 E
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 J - 9 住居跡 F
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 J - 9 住居跡 G
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 4 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 5 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 6 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 7 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 8 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 9 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 10 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 11 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 12 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

- J - 9 住居跡 H
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 4 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 5 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 6 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 7 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。

J - 11



- J - 11 住居跡 A
 1 黄褐色土 (10YR4-4) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
 4 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 5 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。
 6 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。(脚注)

- J - 11 住居跡 B
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。鉢底。
 J - 11 住居跡 C
 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり、粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。鉢底。
 2 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。鉢底。

Fig.96 (123) J - 9 - 11 住居跡

H-1

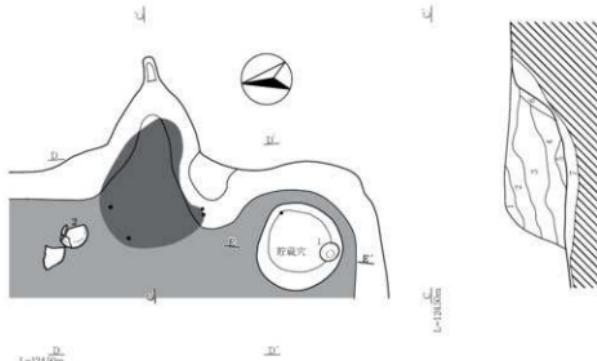
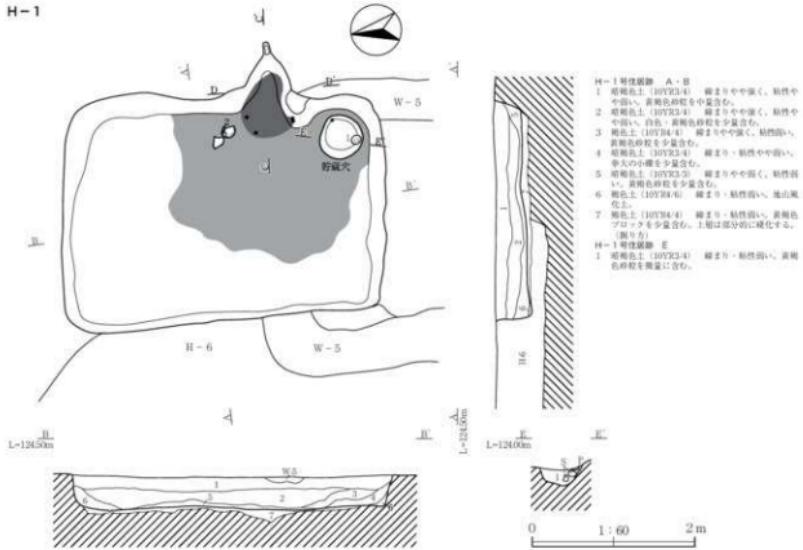


Fig.97 (123) H-1号住居跡

H-2 • 3 • 4 • 5 • D-39

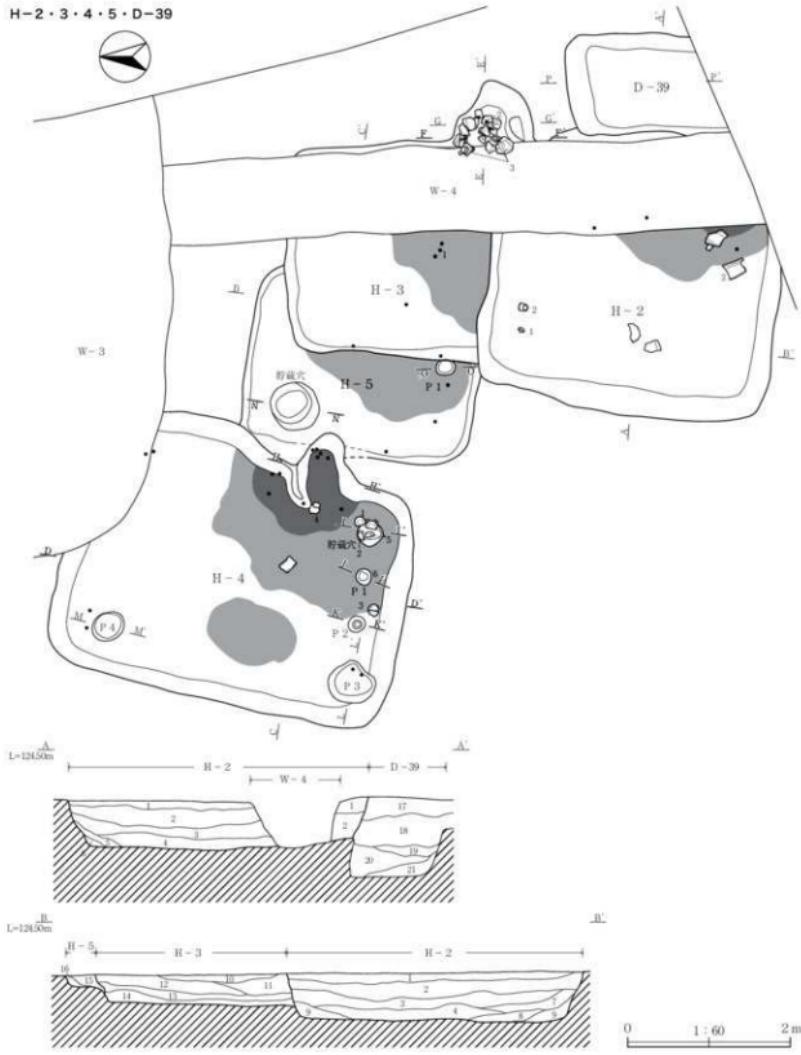
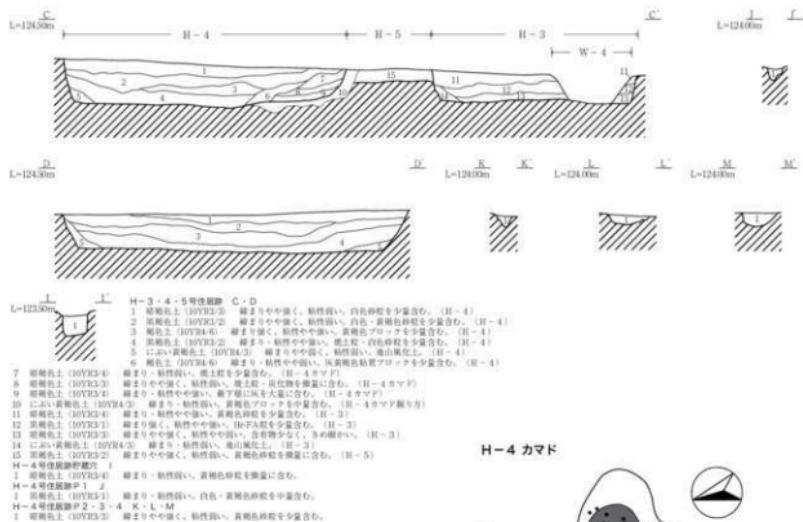
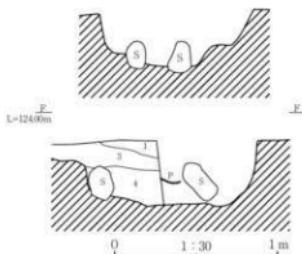
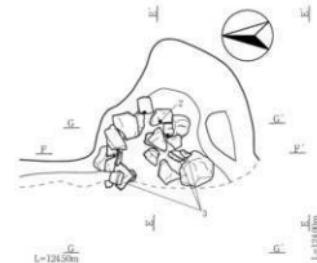


Fig. 98 (123) H = 2~5 号住居跡, D = 39 号土坑 (1)



H-3 カマド



H-3号茎葉カマド	左、F
1 被毛土 (HYB2-1)	細まりや少ないと。根毛は少し含む。
2 被毛土 (HYB2-2)	細まりや少くなく、根毛西面。根毛と白色細胞を中蓋含む。
3 黑炭土 (HYB3-2)	細まりや少ないと。被毛土と灰褐色物を中蓋に含む。
4 黑炭土 (HYB3-3)	細まりや少くなく、黒炭土。被毛土と灰褐色物を中蓋に含む。
5 黑炭土 (HYB2-3)	細まりや少ないと。被毛土と灰褐色物を中蓋に含む。
6 木立・灌木用土 (HYB4-2)	細まり、根毛西面。被毛細胞を中蓋に含む。「カマド丸」有り

住病肺部陽穴：N

粘土 (MONT/1) 硬まり、粘性弱い。壤土粒・黄褐色砂粒を少量含む。

主成分 P 1.0
色上 (SOYIC/1) 緑色 - 黏性高い。白色 - 黄褐色砂糖を少量含む。

土坑尸人(1990年3月)：胸椎左侧横突上有一刀刺伤致死。

色上 (30YR1/3) 脊まり。粒性弱い。AaB觀石松を中量含有。
色上 (30YR1/3) 脊まりやや細く、粒性弱い。AaB觀石松、黄楓的跡

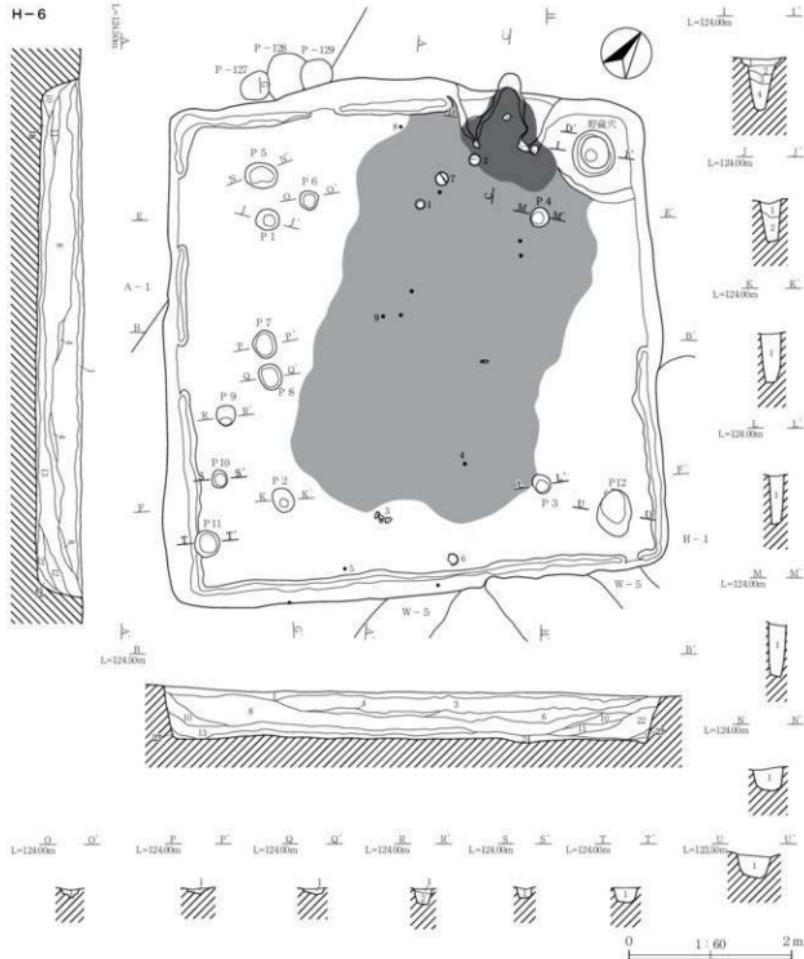
緑より、粘性弱い。黄褐色砂質アリュクを含む。

上 (30YRC/3) 純毛り・軽やか。薄用色の選択プローフを小盛りもしくは放散毛主 (100YR4/3) 純毛を少々混じて・軽やかで、にほん細繊毛プローフ。

高分子量 (100万以上) の多量で強く、粘性高い。濃い黒色。

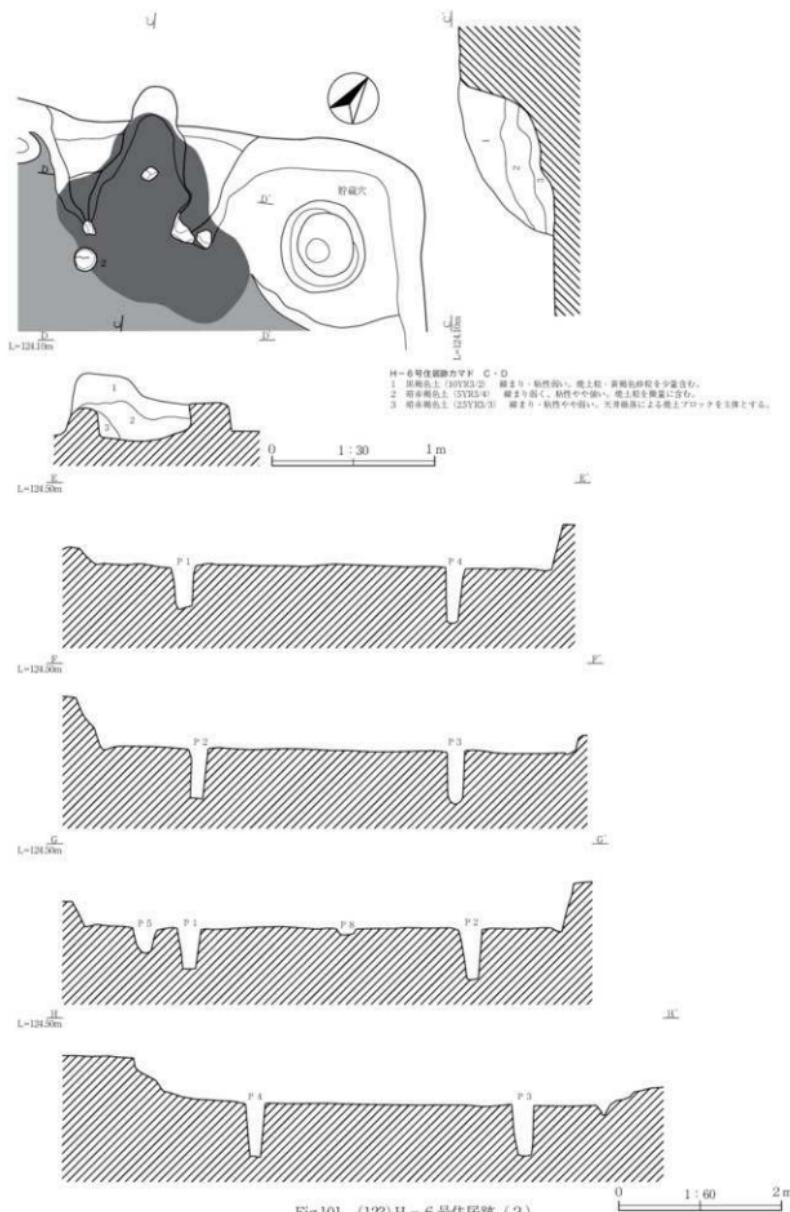
亦、D-39号土坑（2）

Fig.99 (123) H-2~5号住居跡、D-39号土坑(2)

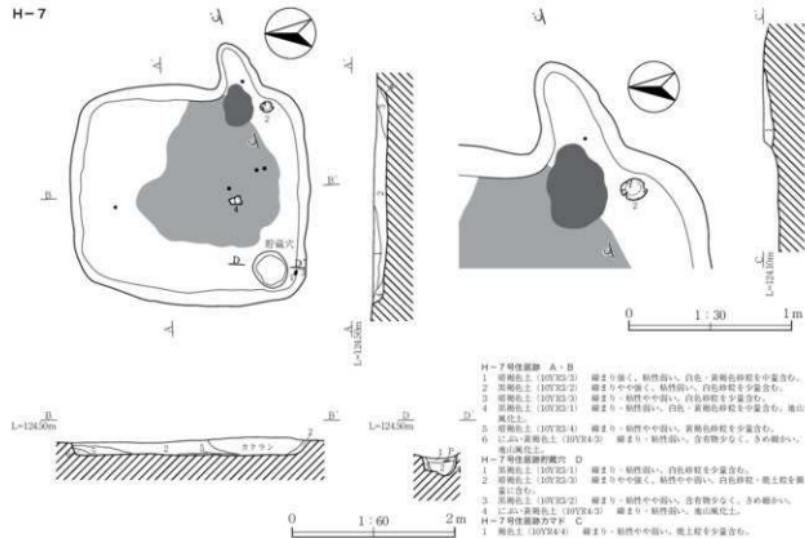


- H-6号住跡 A-B
- 1 布面地土 (10732-1) 硬さり・粘性弱く、An-2断面右側を構成に含む。
 - 2 黒褐色土 (10732-2) 硬さり・粘性弱く、An-2断面右側を構成に含む。
 - 3 黑褐色土 (10732-1) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色带 (P-7) を複数含む。
 - 4 黑褐色土 (10732-2) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色带 (P-7) を複数含む。
 - 5 黑褐色土 (10732-1) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色带 (P-7) を複数含む。
 - 6 黑褐色土 (10732-4) 硬さり・粘性弱い。黄褐色ブロッケを複数含む。
 - 7 黄褐色土 (10734-6) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 8 黄褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 9 黄褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色ブロッケを複数含む。
 - 10 に近い黄褐色土 (10734-3) 硬さり・粘性弱い。浅山風化土。
 - 11 浅褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性弱い。浅褐色砂粒を複数含む。
 - 12 黄褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性弱い。浅褐色砂粒を複数含む。
 - 13 浅褐色土 (10734-3) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。含物多少多く、きめ細かい。
 - 14 黑褐色土 (10734-1) 硬さり・粘性やや弱い。粘性砂粒を少量含む。
 - 15 黑褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性やや弱い。粘性砂粒を少量含む。
 - 16 黄褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 17 黄褐色土 (10734-3) 硬さりやや強く、粘性弱い。M-1断面左側を構成に含む。
 - 18 黄褐色土 (10734-3) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色ブロッケを複数含む。
 - 19 に近い黄褐色土 (10734-3) 硬さり・粘性弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 20 黄褐色土 (10734-4) 硬さり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- H-6号住跡 C-D
- 21 黄褐色土 (10734-1) 硬さり強く、粘性やや弱い。M-2断面を少量含む。
 - 22 黄褐色土 (10734-1) 硬さり・粘性弱い。含物少く、きめ細かい。
 - 23 黄褐色土 (10734-1) 硬さり・粘性弱い。薄い黄褐色層を複数含む。
 - 24 黄褐色土 (10734-1) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。M-2断面を少量含む。
 - 25 黄褐色土 (10734-1) 硬さり強く、粘性やや弱い。E-2断面を少量含む。
 - 26 黄褐色土 (10734-1) 硬さりやや強く、粘性やや弱い。含物物少く、きめ細かい。
- H-6号住跡 E-F
- 1 黄褐色土 (10733-1) 硬さり・粘性弱い。E-2断面・黄褐色砂粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 (10733-1) 硬さり・粘性弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 3 黄褐色土 (10733-1) 硬さり・粘性弱い。黄褐色砂粒を複数含む。
 - 4 黄褐色土 (10733-2) 硬さり・粘性弱い。含物物少く、きめ細かい。
- H-6号住跡 G-H
- 1 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。G-1断面・黄褐色砂粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。G-1断面・黄褐色砂粒を複数含む。
 - 3 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。G-1断面・黄褐色砂粒を複数含む。
 - 4 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。G-1断面・黄褐色砂粒を複数含む。
- H-6号住跡 I-J
- 1 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。I-1断面・黄褐色砂粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 (10732-1) 硬さり・粘性弱い。I-1断面・黄褐色砂粒を複数含む。

Fig.100 (123) H-6号住跡 (1)



H-7



H-10

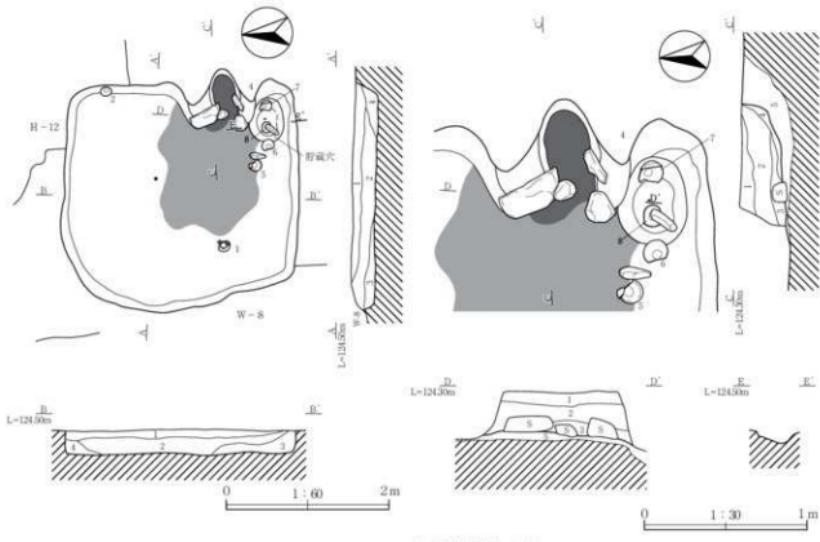


Fig.102 (123) H-7・10号住居跡地

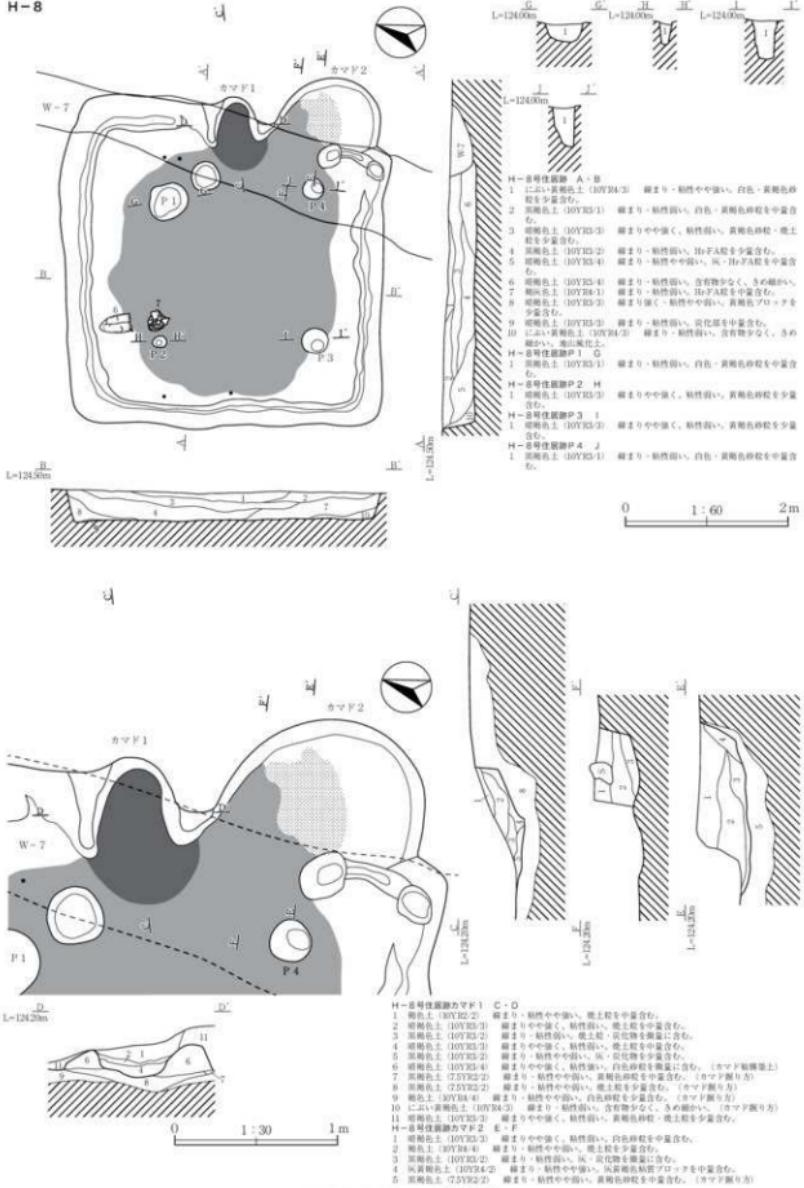


Fig.103 (123) H-8号住居跡

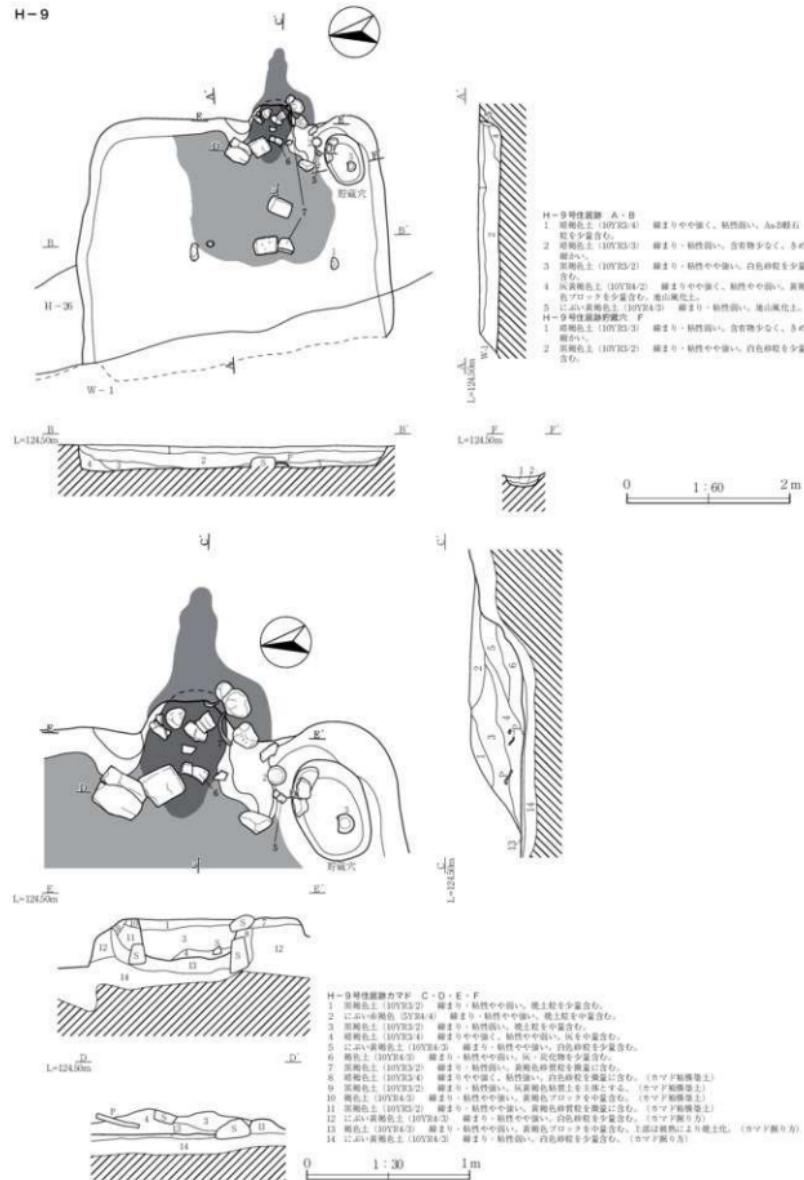


Fig104 (123) H-9号住居跡

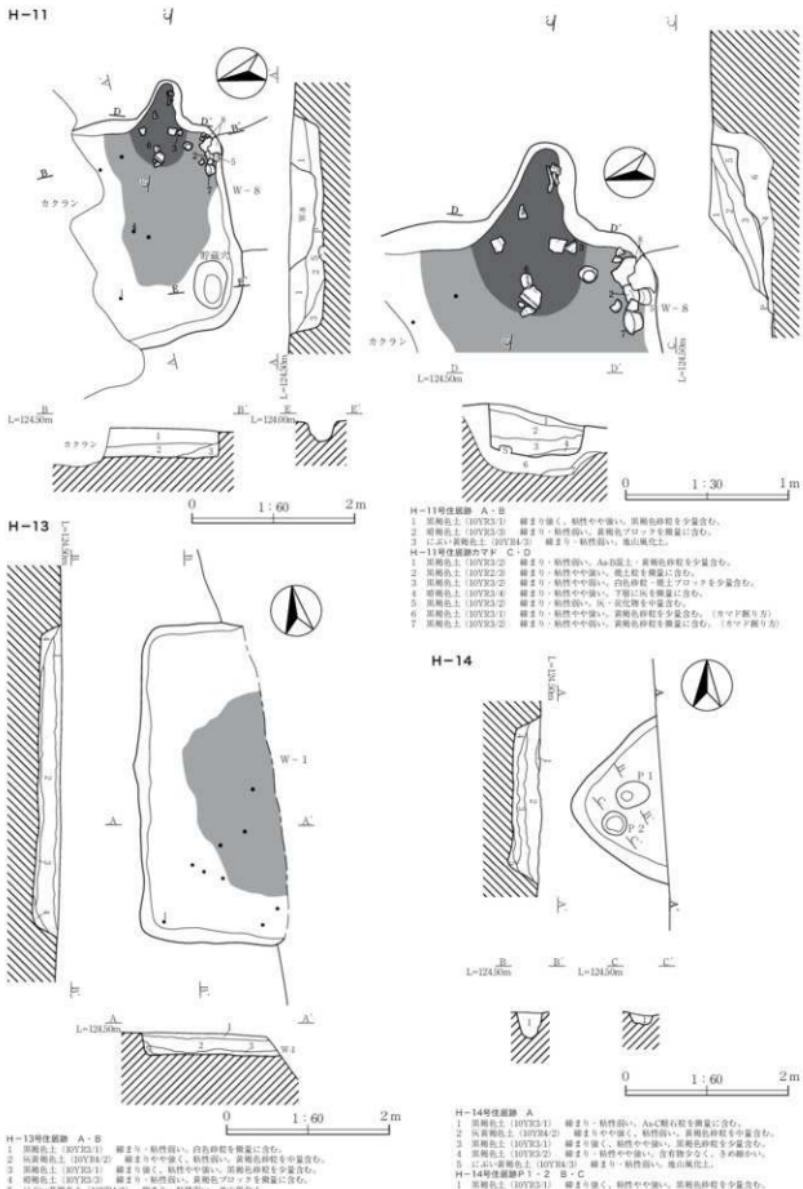
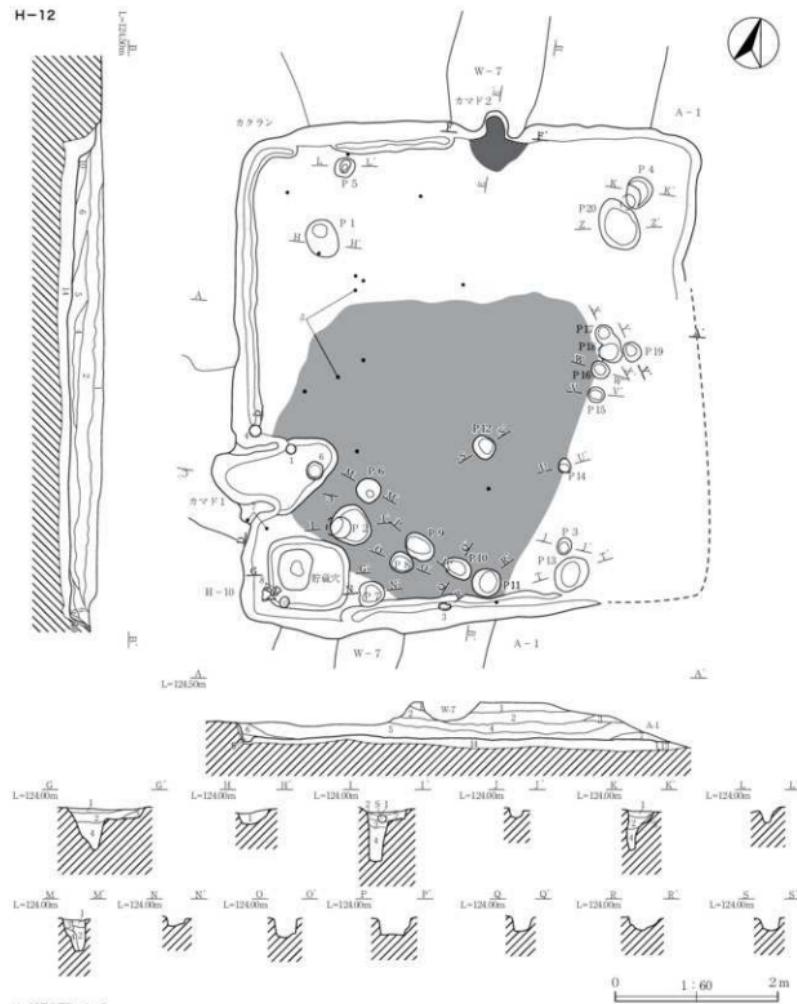


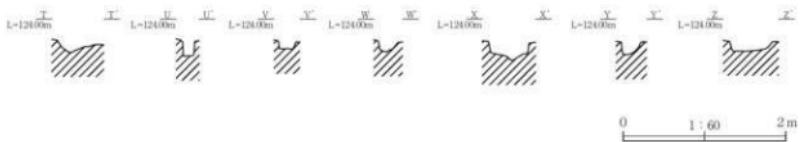
Fig105 (123) H-11・13・14号住居跡



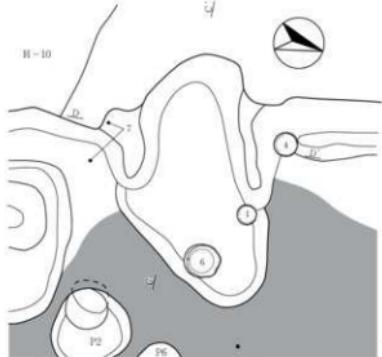
H-12号地質断面 A-B

- 1 黒褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性やや高い。白色、黒褐色砂を少量含む。
 2 黒褐色土 (10Y3/3-2) 繊維より・粘性やや高い。白色、黒褐色砂を少量含む。
 3 黑褐色土 (10Y3/3-3) 繊維よりやや多く、粘性低い。黒褐色砂・鈍玉砂を少量含む。
 4 にない・黒褐色土 (10Y4/3-2) 繊維より・粘性低い。H-F-A控えを少量含む。
 5 黑褐色土 (10Y3/3-4) 繊維より・粘性やや高い。白色砂を少量含む。
 6 黑褐色土 (10Y3/4) 繊維より・粘性低い。含有量少く、白色砂含む。
 7 にない・黒褐色土 (10Y4/3-3) 繊維より・粘性高い。黒褐色ブロックを主とす。
 8 黑褐色土 (10Y3/2-2) 繊維より・粘性やや高い。黒褐色砂・鈍玉砂ブロックを少量含む。
 9 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。黒褐色砂を少量含む。
 10 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。塊状風化土。
 11 黑褐色土 (10Y3/2-2) 繊維より・粘性やや高い。黑色砂を多量含む。塊状風化土。
 12 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。黑色砂・鈍玉砂を多量に含む。塊状風化土。
 13 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。黑色砂を多量に含む。塊状風化土。
 14 にない・黒褐色土 (10Y4/3-3) 繊維より・粘性高い。上部風化度なし。柱状風化土。
 H-12 可住地質層観察 0
 1 黑褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性高い。白色砂を少量含む。
 2 黑褐色土 (10Y3/3-2) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 3 黑褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性高い。黑色砂を少量含む。
 4 黑褐色土 (10Y3/4) 繊維より・粘性やや高い。白色砂を少量含む。
 H-12号地質層 P 2 - H
 1 黑褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性高い。白色砂を微量に含む。
 2 黑褐色土 (10Y3/2-2) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 3 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。白色砂を微量含む。
 4 黑褐色土 (10Y3/3-4) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 5 黑褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 6 黑褐色土 (10Y3/2-2) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 7 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 H-12号地質層 P 6 - M
 1 黑褐色土 (10Y3/3-1) 繊維より・粘性やや高い。A-C群石炭を少量含む。
 2 黑褐色土 (10Y3/2-2) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 3 黑褐色土 (10Y3/2-3) 繊維より・粘性やや高い。含有量少く、少額剥離か。
 4 黑褐色土 (10Y3/3-4) 繊維より・粘性高い。含有量少く、少額剥離か。

Fig.106 (123) H-12号住居跡 (1)



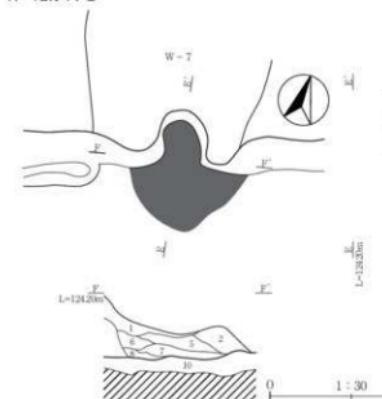
H-12カマド1



- H-12号住居跡カマド1**
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性やや弱い。白色砂粒を少量含む。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性やや弱い。白色砂粒・炭土ブロックを少量含む。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/4) 繊毛り・粘性やや強い。灰・灰化物を少量含む。
 - 5 灰褐色土 (25YR3/4) 繊毛り弱く、粘性やや弱い。灰・灰化物を主とす。
 - 6 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。灰・灰化物を少量含む。
 - 7 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。塊状ブロックを中量含む。
 - 8 黄褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性やや弱い。灰・灰化物を少量含む。
 - 9 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱く、さわやかか。下部砂層を多量に含む。
 - 10 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱く、さわやかか。下部砂層を多量に含む。(底層土)
 - 11 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛りやや強く、粘性弱い。白色砂粒を微量に含む。(カマド耐候性土)
 - 12 黑褐色土 (10YR3/4) 繊毛り・粘性強い。灰褐色砂質土を多く含む。(カマド耐候性土)
 - 13 黑褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性弱く、灰褐色砂質土を多く含む。(カマド耐候性土)
 - 14 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱く、灰褐色砂質土を多く含む。(カマド耐候性土)
 - 15 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を微量に含む。(カマド耐候性土)
 - 16 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。(カマド耐候性土)

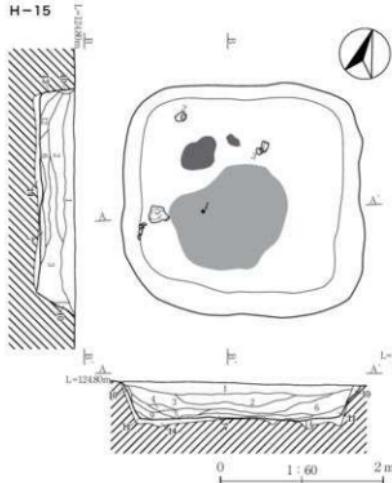
0 1 : 30 1 m

H-12カマド2

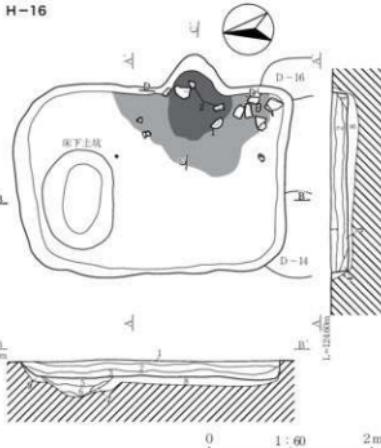


- H-12号住居跡カマド2 E-F**
- 1 黑褐色土 (10YR4/4) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を微量に含む。
 - 2 にじみ黄褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性やや弱い。黑色炭化土か。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性やや弱い。灰褐色砂粒を少量含む。
 - 4 灰褐色土 (25YR4/4) 繊毛り弱く、粘性やや弱い。灰・灰化物による塊土ブロックを中量含む。
 - 5 灰褐色土 (25YR4/4) 繊毛り弱く、粘性やや弱い。灰・灰化物による塊土ブロックを中量含む。
 - 6 灰褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性やや弱い。灰褐色砂質質ブロックを少量含む。
 - 7 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。灰土粒を少量含む。
 - 8 黑褐色土 (10YR4/2) 繊毛り・粘性やや弱い。灰・灰化物を少量含む。
 - 9 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性弱い。灰褐色砂質土を少量含む。(カマド耐候性土)
 - 10 黑褐色土 (10YR3/2) 繊毛り・粘性やや弱い。含有物少なく、灰褐色細かい。(カマド耐候性土)

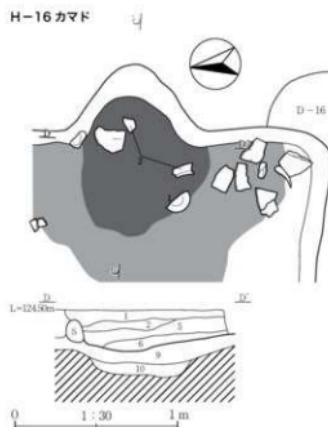
Fig.107 (123) H-12号住居跡 (2)



H-15 佐藤佳子	備考
1 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 私鉄駅。As-C鉄石を頭頂に含む。
2 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 茶褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
3 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
4 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
5 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
6 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
7 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
8 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
9 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
10 いにばる関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
11 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
12 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
13 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。
14 関東大地上。(10Y3月31)	黒土带 - 黑褐色で、粘土質。As-C鉄石を少許含む。上部には褐鐵化する。



16-16種別		A-1	
1	黒原角牛(10393-2)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を少混合。	
2	黒原角牛(10393-3)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を中混合。	
3	黒原角牛(10393-4)	縮毛ヨリ中で多く、筋膜や脂肪、黄褐色の粒を土混含。	
4	にじいろ原角牛(10393-5)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を少混合。	
5	黒原角牛(10393-6)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を中混合。	(市販)純種毛
6	黒原角牛(10393-7)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	(市販)純種毛
7	にじいろ原角牛(10393-8)	縮毛ヨリ、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を主とする。	(市販)純種毛
8	黒原角牛(10393-9)	縮毛ヨリ多く、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	
9	黒原角牛(10393-10)	縮毛ヨリ多く、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	上級
10	黒原角牛(10393-11)	縮毛ヨリ多く、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	上級
11	黒原角牛(10393-12)	縮毛ヨリ多く、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	上級
12	黒原角牛(10393-13)	縮毛ヨリ多く、筋膜や脂肪、白肉、黄褐色の粒を多混合。	上級



H-18号往復耐力マダ A-B
1. 常滑色土 (10YR3/2)
2. 暗褐色土 (10Y3/3)
3. 暗褐色土 (10Y3/2)
4. 暗褐色土 (10Y3/2)
5. 暗褐色土 (10Y3/2)
6. 暗褐色土 (7.5Y3/2)
7. 暗褐色土 (7.5Y3/2)



H-10

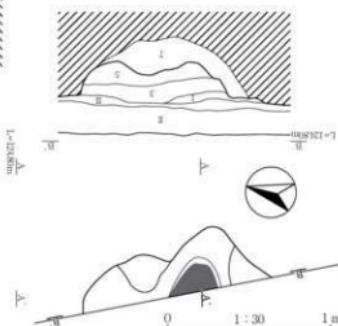
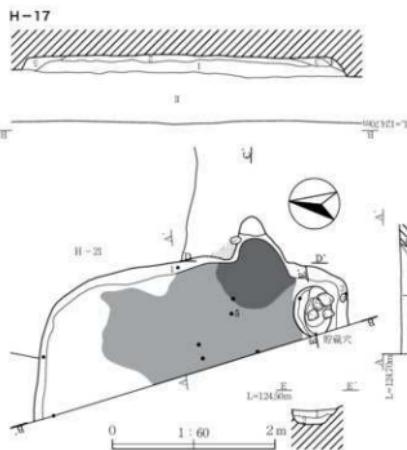
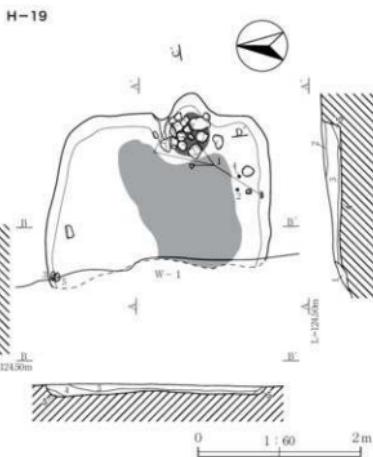


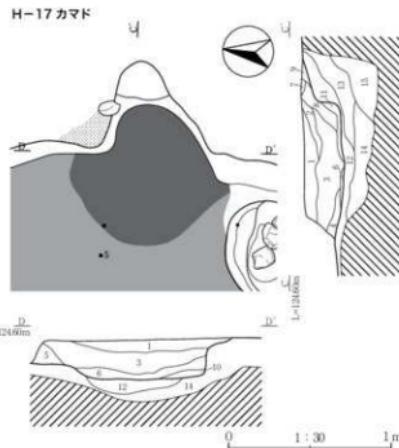
Fig.108 (123) H=15·16·18号住居跡



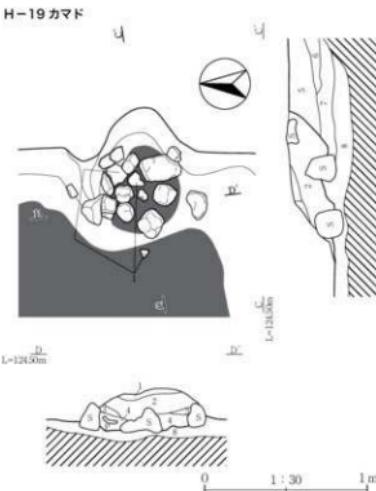
- H-17号住居層 A・B**
 1 黒褐色土 (30YR2/4) 線まりやや深く、粘性弱い。Ab-3断面右縁を少量含む。
 2 黄褐色土 (30YR2/2) 線まりやや深く、粘性やや強め。Ab-3断面左縁を少量含む。
 3 黑褐色土 (30YR2/1) 線まり、粘性やや強め。含有物多く、きめ細かい。
 4 灰黒褐色土 (30YR4/2) 線まりやや強め。白色、黄褐色斑紋を少量含む。
 5 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。塊状化。
 6 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色、黄褐色ブロックを少量含む。
 7 黑褐色土 (30YR4/4) 線まり - 特殊弱い。黄褐色ブロックを少量含む。
 8 黑褐色土 (30YR2/2) 線まりやや強め。粘性やや強め。含有物少く、きめ細かい。



- H-19号住居層 A・B**
 1 喀斯特土 (30YR2/4) 線まりやや深く、粘性弱い。Ab-4断面右縫合部を少量含む。
 2 黑褐色土 (30YR2/2) 線まりやや深く、粘性やや強め。Ab-4断面左縫合部を少量含む。
 3 黑褐色土 (30YR2/1) 線まり、粘性やや強め。白色、灰黒褐色斑紋を少量含む。
 4 灰黒褐色土 (30YR4/2) 線まりやや強め。白色やや弱い。白色、灰黒褐色斑紋を少量含む。
 5 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。黄褐色ブロックを少量含む。塊状化。



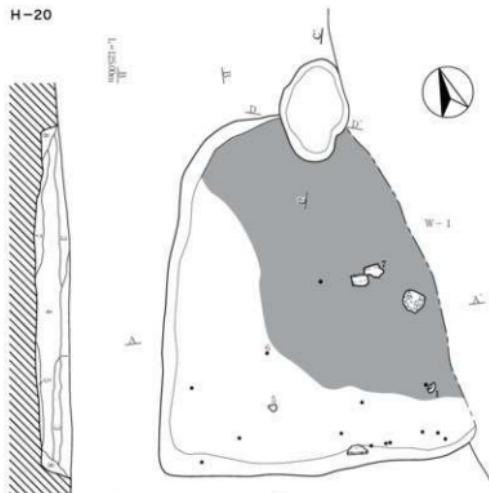
- H-17号住居層カマド C・D**
 1 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
 2 黄褐色土 (30YR2/4) 線まり深く、粘性やや強め。白色砂粒を少量含む。
 3 黑褐色土 (30YR2/1) 線まり、粘性やや強め。白色砂粒を少量含む。
 4 灰黒褐色土 (30YR4/2) 線まりやや強め。白色やや強め。白色砂粒を少量含む。
 5 にふく黃褐色土 (30YR4/3) 線まり - 特殊弱い。塊状化の黄褐色ブロックを主とする。
 6 黑褐色土 (30YR2/1) 線まり、粘性やや強め。白色、灰黒褐色斑紋を少量含む。
 7 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
 8 灰黒褐色土 (30YR4/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒ブロックを少量含む。
 9 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。含有物少く。きめ細かい。
 10 黄褐色土 (30YR2/4) 線まり、粘性やや強め。白色砂粒を少量含む。
 11 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
 12 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。塊状化の黄褐色ブロックを少量含む。(カマド掘り方)
 13 黑褐色土 (30YR4/1) 線まり、粘性弱い。塊状化の黄褐色ブロックを少量含む。(カマド掘り方)
 14 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。含有物少く。きめ細かい。(カマド掘り方)



- H-19号住居層カマド C・D**
 1 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり - 特殊弱い。白色砂粒を少量含む。
 2 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり - 特殊弱い。白色砂粒を少量含む。
 3 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
 4 黑褐色土 (30YR2/4) 線まりやや深く、粘性やや弱い。
 5 にふく黃褐色土 (30YR4/3) 線まり、粘性やや強め。白色砂粒を少量含む。(カマド掘り方)
 6 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。(カマド掘り方)
 7 黑褐色土 (30YR2/2) 線まり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。(カマド掘り方)
 8 にふく黃褐色土 (30YR4/3) 線まり、粘性弱い。含有物少く。きめ細かい。(カマド掘り方)

Fig.109 (123) H-17・19号住居跡

H-20



L=125.00m

0 1 : 60 2 m

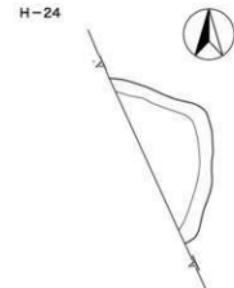
H-20号住居跡 A - B

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性弱い。白色・黄褐色砂粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 (10YR3/1) 硬まり・粘性弱い。軟塑性。
- 3 黄褐色土 (10YR3/3) 硬まりやや硬く。軟塑性。含水物多く、きの細砂を少量含む。
- 4 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや硬く。粘性やや弱い。白色砂粒・鐵・土塊を少量含む。
- 5 黄褐色土 (10YR3/4) 硬まり・粘性やや弱い。黄褐色ブロックを少量含む。白色砂粒・鐵・土塊を少量含む。
- 6 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。地山風化土。

H-20号住居跡 C - D

- 1 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まりやや硬く。粘性弱い。鐵・土塊を少量含む。
- 2 黄褐色土 (10YR3/3) 硬まり・粘性弱い。鐵・土塊・灰白色木中葉含む。
- 3 黄褐色・黄褐色砂土 (10YR3/4) 硬まり・粘性弱い。黄褐色ブロックを主導とする。
- 4 黄褐色土 (10YR3/4) 硬まりやや硬く。粘性やや弱い。鐵・土塊・灰白色木中葉含む。
- 5 黄褐色土 (10YR3/3) 硬まり・粘性弱い。鐵・土塊を少量含む。サツマイモ根。
- 6 黄褐色土 (10YR3/4) 硬まり・粘性弱い。鐵・土塊を少量含む。カサド掘り。
- 7 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性弱い。白色・黄褐色砂粒を少量含む。カサド掘り。

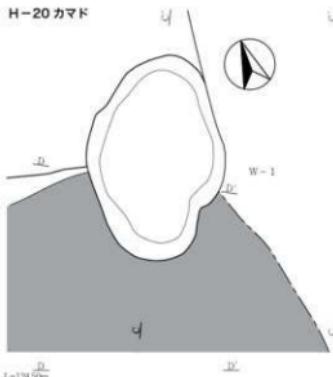
H-24



H-24号住居跡 A

- 1 黄褐色土 (10YR3/4) 硬まりやや強く。粘性弱い。AaC射石粒・少量含む。
- 2 黄褐色土 (10YR3/3) 硬まりやや強く。粘性やや弱い。黃褐色砂粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 (10YR3/2) 硬まり・粘性やや強い。黃褐色砂粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 (10YR3/1) 硬まりやや強く。粘性やや弱い。含有物少なくて、きの細砂。
- 5 黄褐色土 (10YR2/1) 硬まり強く。粘性やや弱い。黃褐色砂粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 (10YR3/1) 硬まり・粘性やや弱い。白化粧土を少量含む。
- 7 黄褐色土 (10YR3/1) 硬まり・粘性やや弱い。地山風化土。

H-20 カマド



0 1 : 30 1 m

Fig.110 (123) H-20・24号住居跡

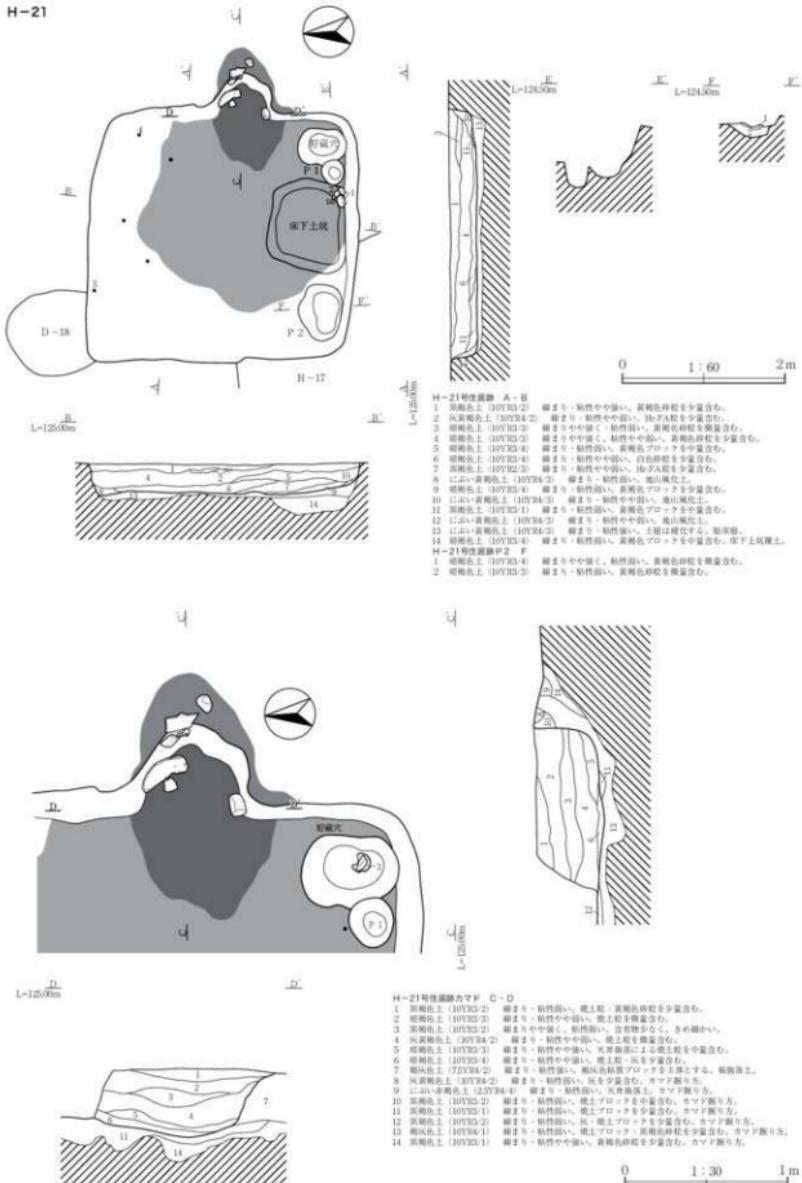
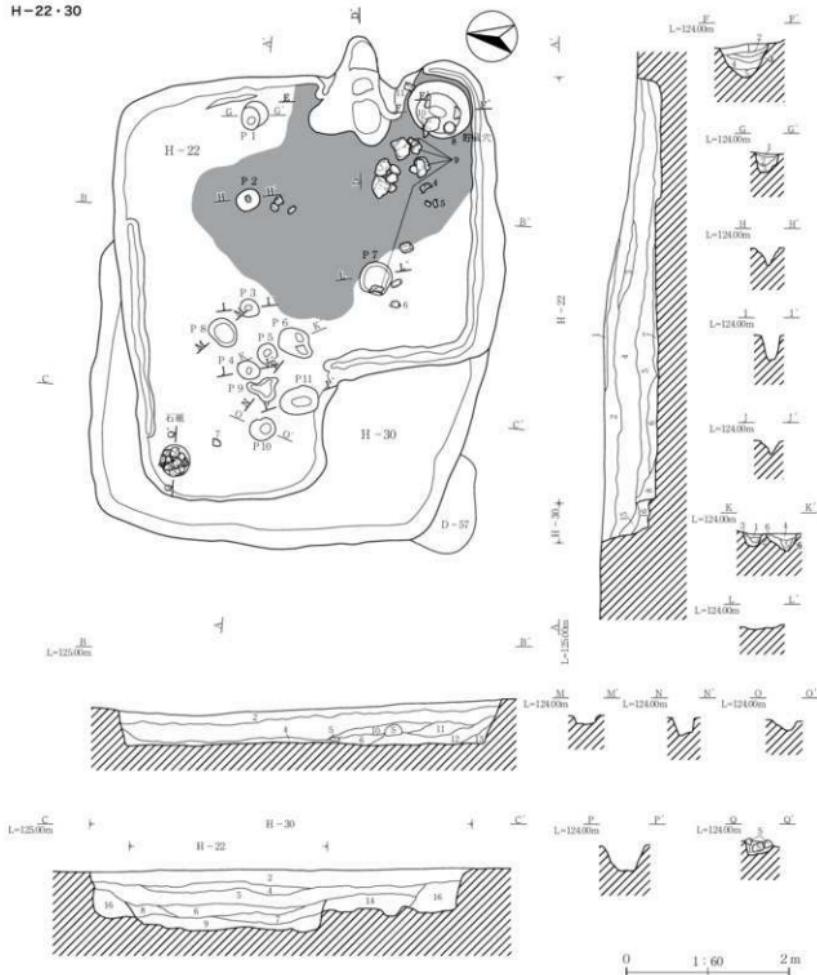


Fig.111 (123) H-21号住居跡



H-22号住居跡 A・B・C

- 1 黒褐色土上 (10YR 4/2) 繊毛りやや強く、粘性弱い。白色砂粒を少混合む。
- 2 黒褐色土上 (10YR 4/2) 繊毛りやや強く、粘性弱い。白色砂粒を少混合む。
- 3 黒褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性やや強く。Asc灰石顆粒を少混合む。
- 4 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 5 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 6 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性弱い。黄褐色鉄鉱を少混合む。
- 7 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性やや弱い。黄褐色鉄鉱を少混合む。
- 8 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 9 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性やや弱い。黄褐色鉄鉱を少混合む。
- 10 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性弱い。黄褐色鉄鉱を少混合む。
- 11 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性やや弱い。地上に散在する。
- 12 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 13 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 14 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性やや弱い。黄褐色鉄鉱を少混合む。(H-30)
- 15 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を少混合む。(H-30)
- 16 黑褐色土 (10YR 2/1) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を少混合む。(H-30)

H-22号住居跡窓内 E

- 1 黑褐色土 (10YR 3/1) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。

H-22号住居跡 P1 - G

- 1 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性弱い。黑色鉄鉱ブロカクを微量含む。
- 2 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 3 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 4 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 5 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性やや弱い。黑色鉄鉱ブロカクを少混合む。

H-22号住居跡 P1 - G

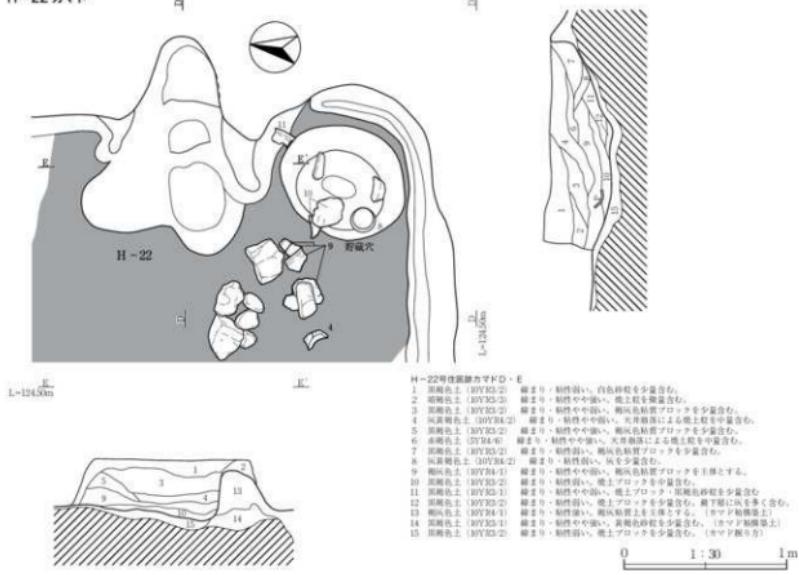
- 1 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 2 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性やや弱い。黑色鉄鉱ブロカクを少量含む。
- 3 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性やや弱い。黑色鉄鉱ブロカクを少量含む。
- 4 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。
- 5 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛りやや強く、粘性やや弱い。含有物多くなく、さめの織かい。

H-22号住居跡 P5 - D

- 1 黑褐色土 (10YR 4/4) 繊毛り・粘性弱い。白色砂粒を微量含む。

Fig.112 (123) H-22・30号住居跡

H-22 カマド



H-23

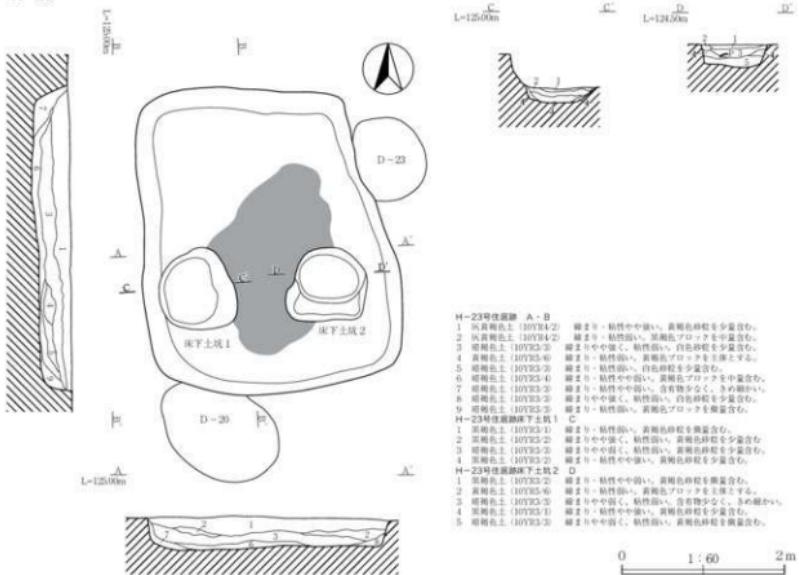
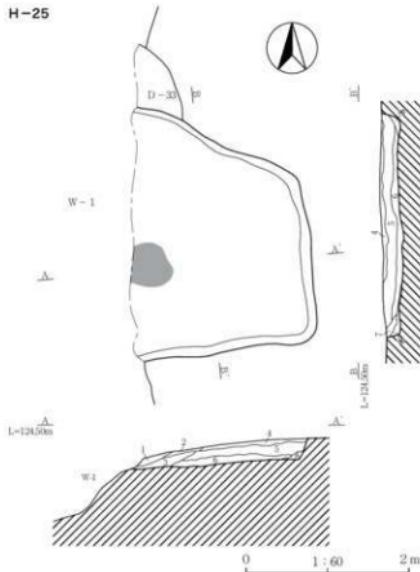
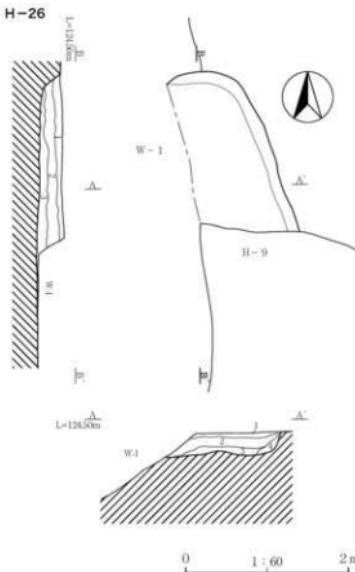


Fig.113 (123) H-22・23号住居跡カマド

H-25



H-26



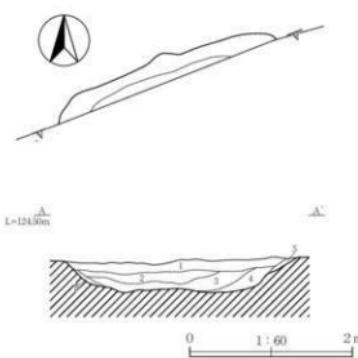
H-25号住跡部 A・B

- 1 黄褐色土 (HYT34/2) 硬さあり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 (HYT34/3) 硬さあり、粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 (HYT33/1) 硬さあり強く、粘性やや弱い。AsC粗粒砂粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。
- 5 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 6 黄褐色土 (HYT33/2) 硬さあり中強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 7 黄褐色土 (HYT33/2) 硬さあり、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。

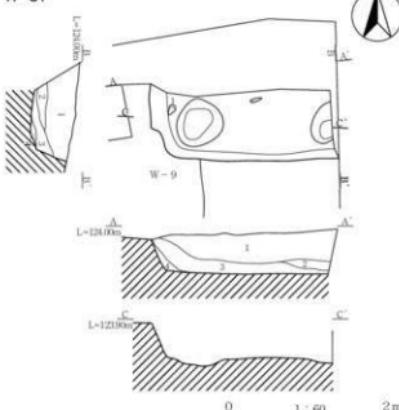
H-26号住跡部 A・B

- 1 黄褐色土 (HYT33/2) 硬さあり弱く、粘性やや弱い。白色砂粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。
- 3 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 (HYT33/4) 硬さあり、粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。海浜化土。

H-29



H-31



H-29号住跡部 A

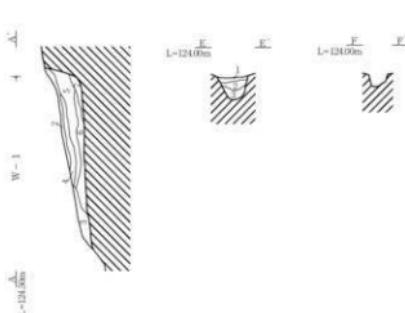
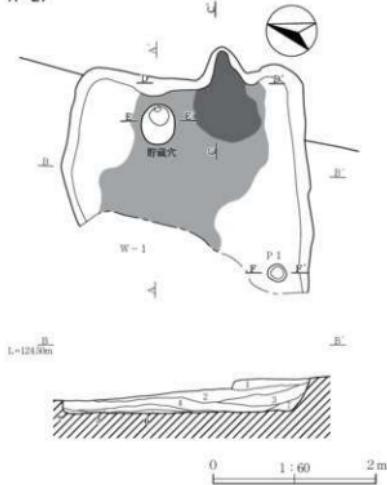
- 1 黄褐色土 (HYT33/4) 硬さあり中強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 2 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 3 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。白色砂粒を微量含む。
- 4 黄褐色土 (HYT33/2) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 5 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり、粘性やや弱い。

H-31号住跡部 A・B

- 1 黄褐色土 (HYT33/1) 硬さあり強く、粘性やや弱い。AsC粗粒砂粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。
- 3 黄褐色土 (HYT33/3) 硬さあり中強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
- 4 黄褐色土 (HYT33/2) 硬さあり、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を少量含む。

Fig.114 (123) H-25・26・29・31号住跡

H-27



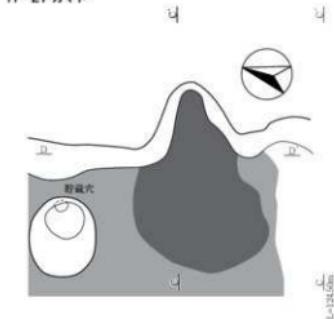
H-27住居跡 A・B

- 1 白色砂土 (10YR8/1) 細まり・粘性やや強い。白色砂粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 3 透明粘土 (10YR2/2) 細まり・中堅石。粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 (10YR4/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 5 黑褐色粘土 (10YR4/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 6 にじ黄褐色土 (10YR4/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 7 黑褐色土 (10YR4/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 8 黑褐色土 (10YR3/2) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。

H-27住居跡の断面 E

- 1 白色砂土 (10YR8/1) 細まり・粘性弱い。白色砂粒を少量含む。
- 2 黑褐色土 (10YR4/4) 細まり・粘性弱い。黑色粘土アローハを少量含む。
- 3 黑褐色土 (10YR3/2) 細まりやや強く。粘性弱い。

H-27 カマド



L=124.5m

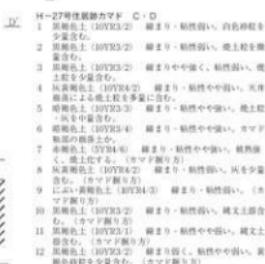
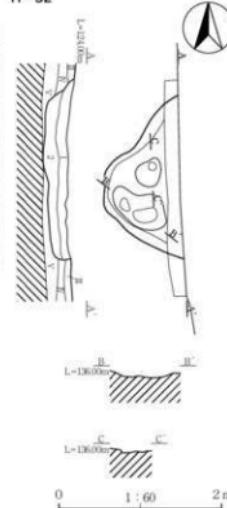


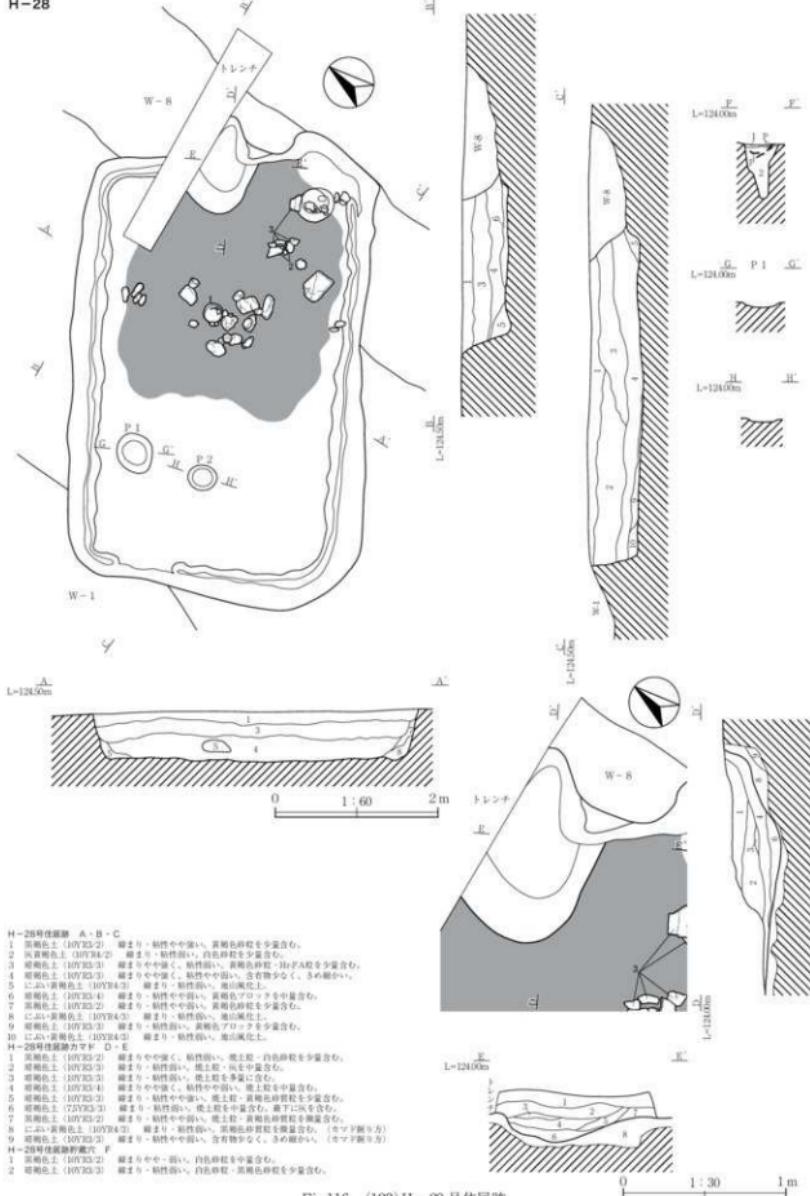
Fig.115 (123) H-27・32号住居跡

H-32



H-32号住居跡 A

- 1 AaC石粉土 (10YR3/2) 細まり・粘性やや強い。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 細まり・粘性やや強く。白色砂粒を少量含む。



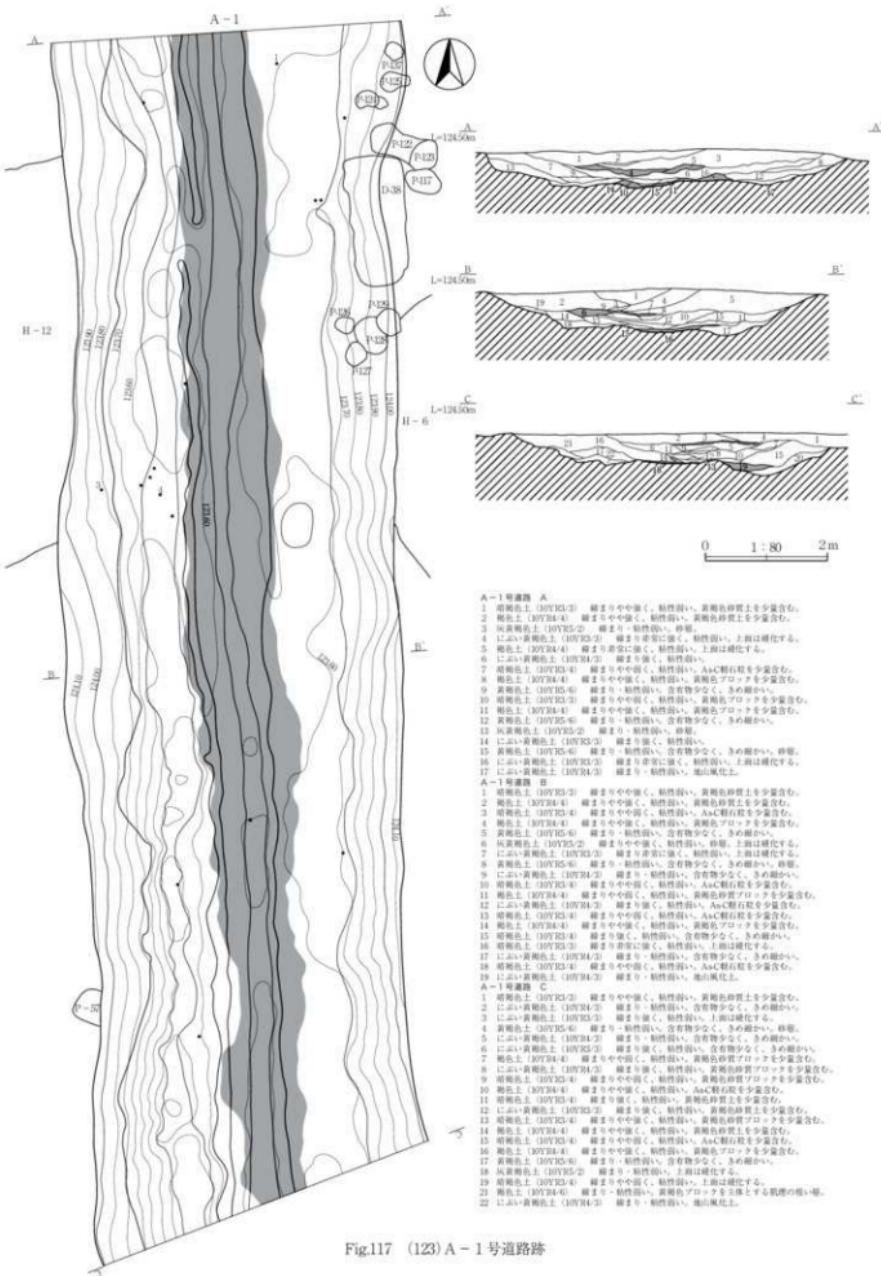


Fig.117 (123) A-1号道路跡

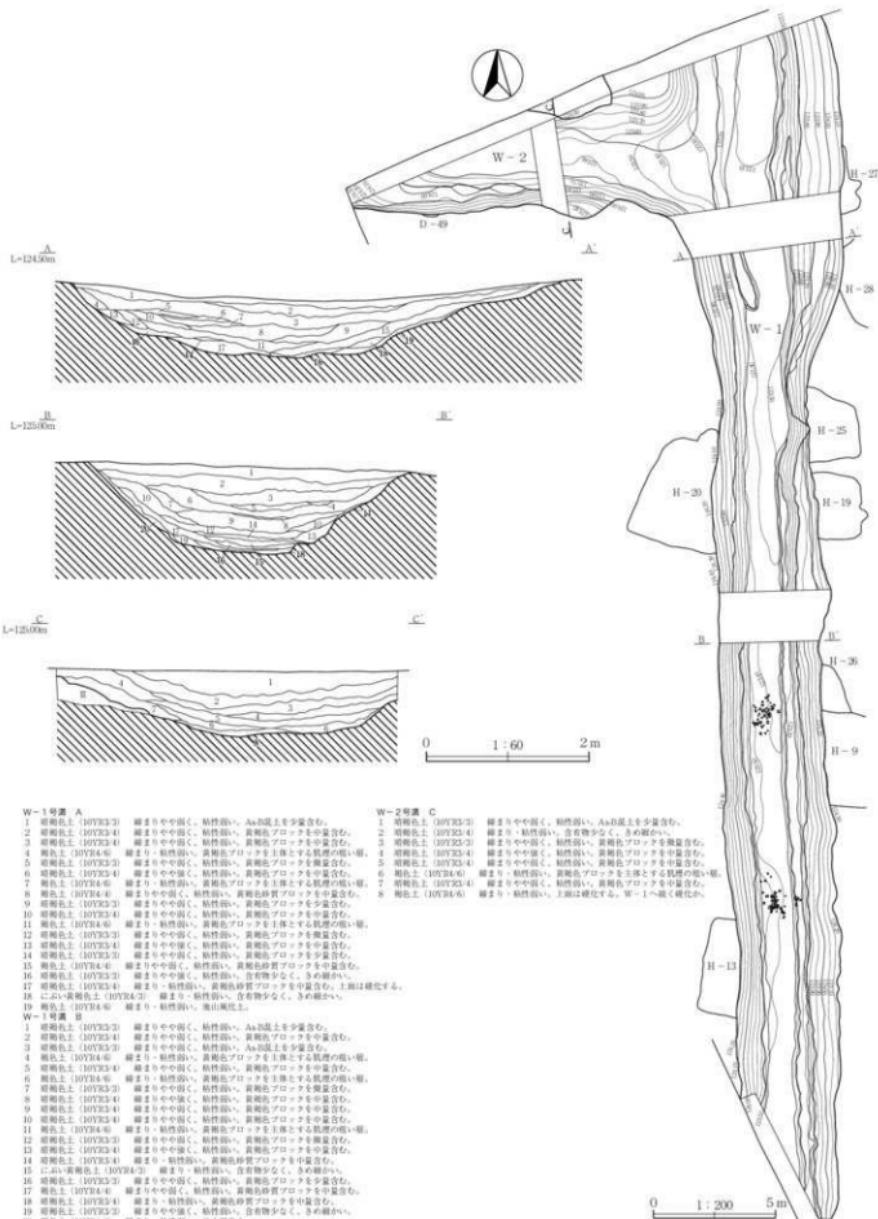


Fig.118 (123)W-1·2号講

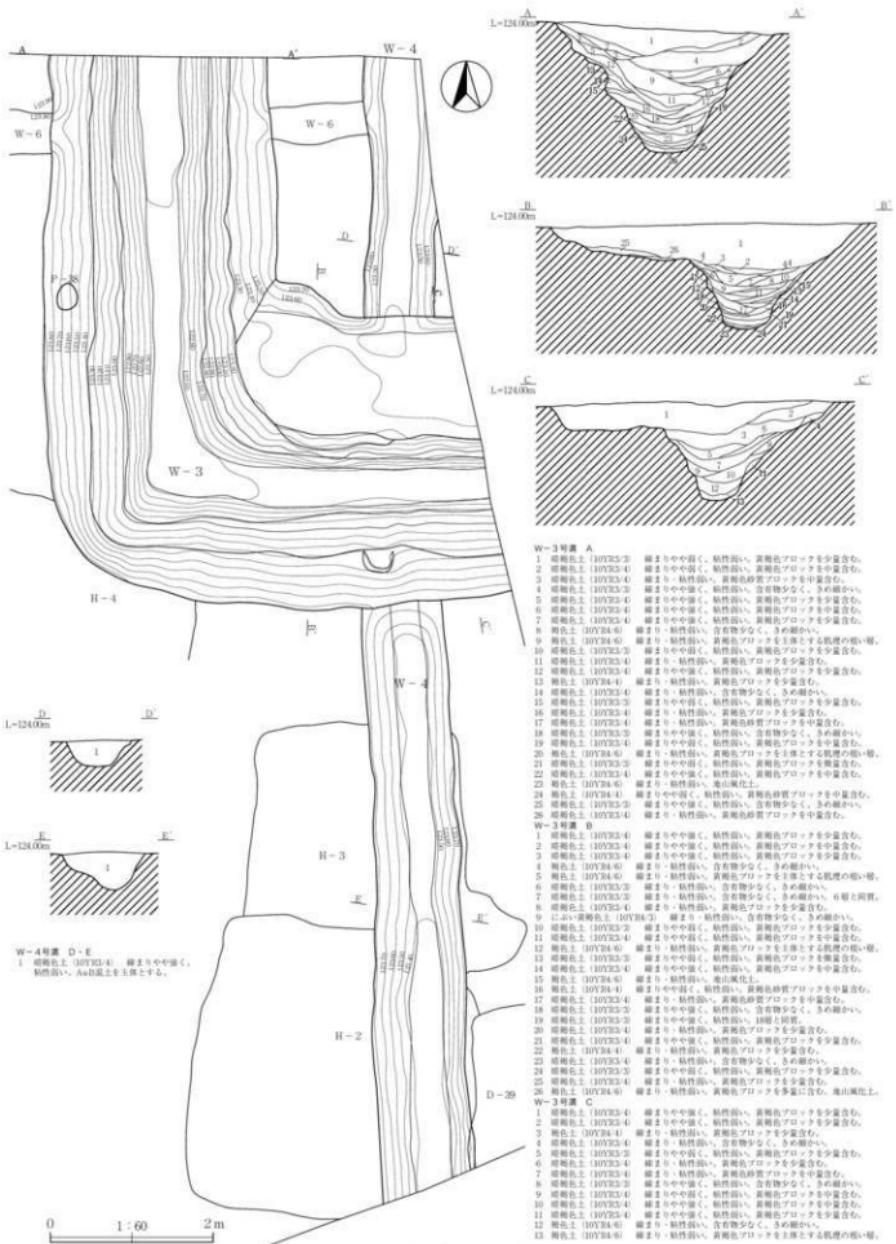


Fig.119 (123)W-3·4号溝



W-5号窓 A
1 明褐色土 (10Y3/3-3) 糙まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質土を少量含む。
L=124.50m

L=124.50m D-2 + Δ L=124.50m

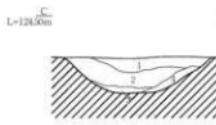
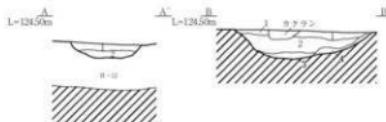


W-6号窓 A
1 明褐色土 (10Y3/3-4) 糙まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質土を少量含む。 (D-2)

2 明褐色土 (10Y3/3-3) 糙まり。粘性弱い。An凹泥土を少量含む。 (D-2)

3 深褐色土 (10Y4-4) 糙まり。粘性弱い。黄褐色プロックを少量含む。 (D-2)

W-6号窓 B
1 明褐色土 (10Y3/3-3) 糙まりやや強く、粘性弱い。An凹泥土を主体とする。



L=124.50m

W-7号窓 A
1 明褐色土 (10Y3/3-4) 糙まり・粘性弱い。An凹泥土を少量含む。

2 明褐色土 (10Y3/3-2) 糙まりやや弱く。粘性弱い。An凹泥土を少量含む。

W-8号窓 B
1 明褐色土 (10Y3/3-4) 糙まり・粘性弱い。An凹泥土を少量含む。

2 明褐色土 (10Y3/3-4) 糙まりやや弱く。粘性弱い。An凹泥土を少量含む。

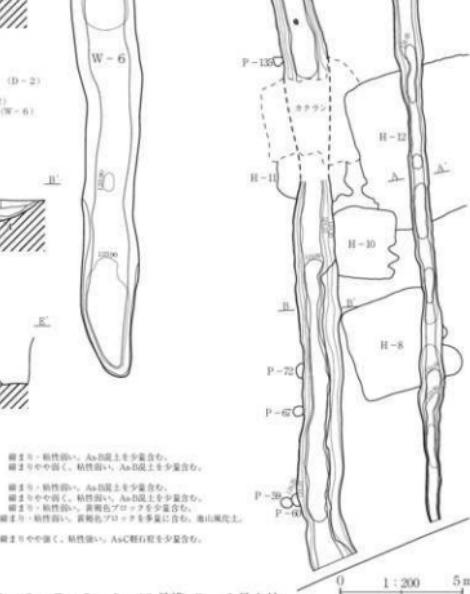
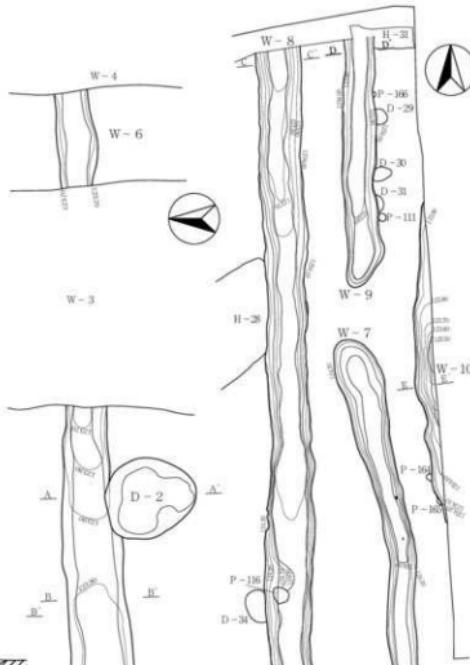
3 明褐色土 (10Y3/3-4) 糙まり・粘性弱い。黄褐色プロックを少量含む。

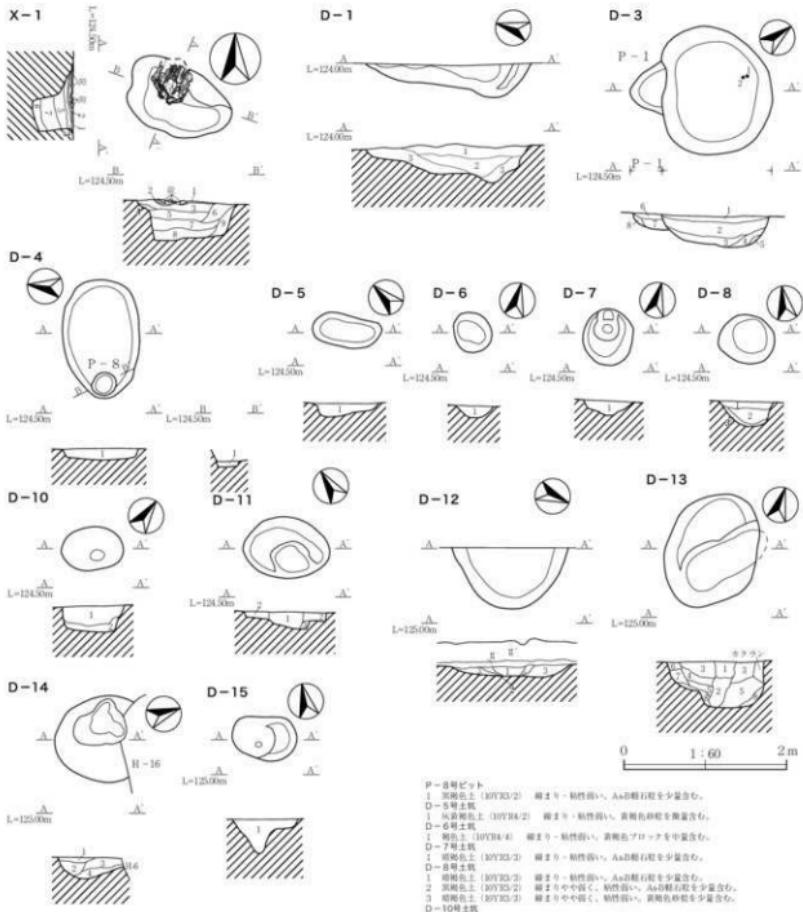
4 深褐色土 (10Y4-4) 糙まり。粘性弱い。黄褐色プロックを少量含む。

W-9号窓 C
1 黄色土 (10Y4-4) 糙まりやや強く。粘性強い。An-C粘石程を少量含む。

0 1:60 2m

Fig.120 (123) W-5・6・7・8・9・10号溝, D-2号土坑





X-1 A・B

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。炭化物を少量含む。

2 从灰岩土 (20YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。炭化物を少量含む。

3 剥離土 (10YR4/3) 硬さり・粘性弱い。白色粘土を少量含む。

4 黑褐色土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。白色粘土を少量含む。

5 黑褐色土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。白色粘土を少量含む。

6 黑褐色土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。白色粘土を少量含む。

7 剥離土 (10YR4/4) 硬さり・粘性弱い。含有量少く、さわやか。

8 剥離土 (10YR4/4) 硬さり・粘性弱い。含有量少く、さわやか。

9 黑褐色土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。含有量少く、さわやか。

D-1 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

2 从灰岩土 (20YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

3 剥離土 (10YR4/4) 硬さり・粘性弱い。白色粘土を少量含む。

P-1 ピット・D-3 土壌

1 剥離土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

2 剥離土 (20YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

3 剥離土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

4 剥離土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。D-3 層上。

5 剥離土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。D-3 層上。

6 剥離土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。D-3 層上。

7 剥離土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。P-1 層上。

8 剥離土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。山地風化土。

D-4 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

P-8 ピット

1 从灰岩土 (10YR3/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-5 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。黃褐色粘土を少量含む。

D-6 土壌

1 剥離土 (10YR4/4) 硬さり・粘性弱い。黃褐色粘土を中量含む。

D-7 土壌

1 从灰岩土 (10YR3/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-8 土壌

1 从灰岩土 (10YR3/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-10 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-11 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-12 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-13 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さりやや弱く、粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-14 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-15 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

D-16 土壌

1 从灰岩土 (10YR4/2) 硬さり・粘性弱い。Aa2層石粉を少量含む。

H-16

L-125.00m

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

KK

LL

MM

NN

OO

PP

QQ

RR

SS

TT

UU

VV

WW

XX

YY

ZZ

AA

BB

CC

DD

EE

FF

GG

HH

II

JJ

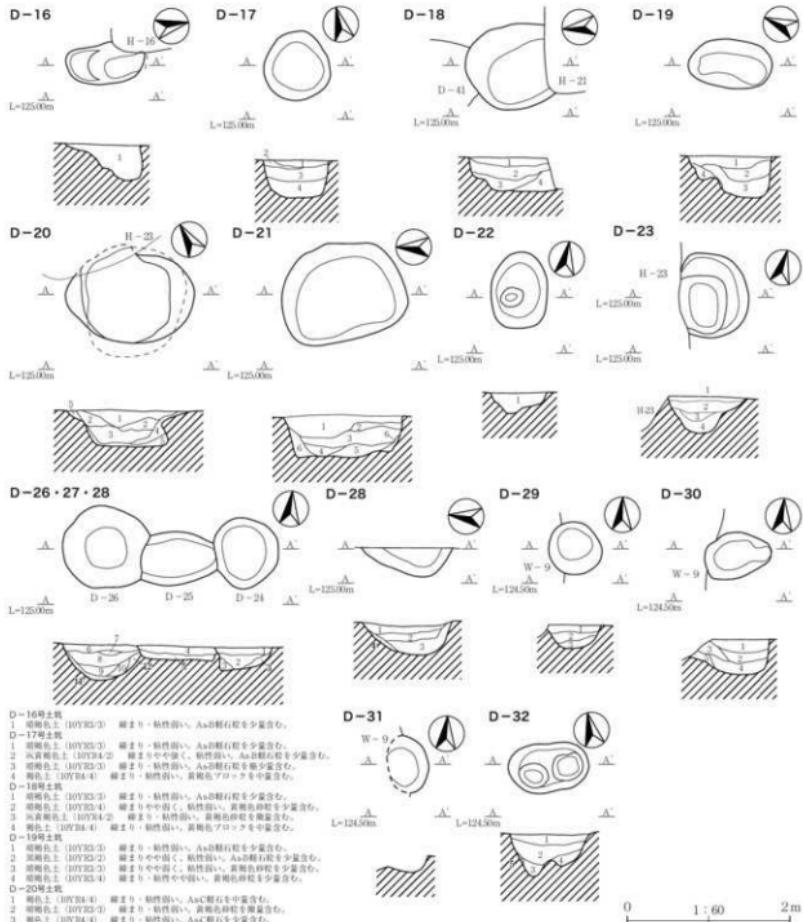
KK

LL

MM

NN

OO



- D-16号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-17号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 1 水潤褐色土 (BOY32-2) 繁まりや中強く、粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 2 水潤褐色土 (BOY32-2) 繁まりや中強く、粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 3 明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 4 明褐色土 (BOY32-4) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-18号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-19号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 1 水潤褐色土 (BOY32-2) 繁まりや中弱く、粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 2 水潤褐色土 (BOY32-2) 繁まりや中弱く、粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 3 水潤褐色土 (BOY32-2) 繁まりや中弱く、粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- 4 明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-20号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-21号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-22号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-23号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-24号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-25号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-26号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-27号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-28号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-29号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-30号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-31号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。
- D-32号土
明褐色土 (BOY32-3) 繁まり・粘性弱い。Aa-C層有りを少量含む。

Fig.122 (123) 土坑 (2)

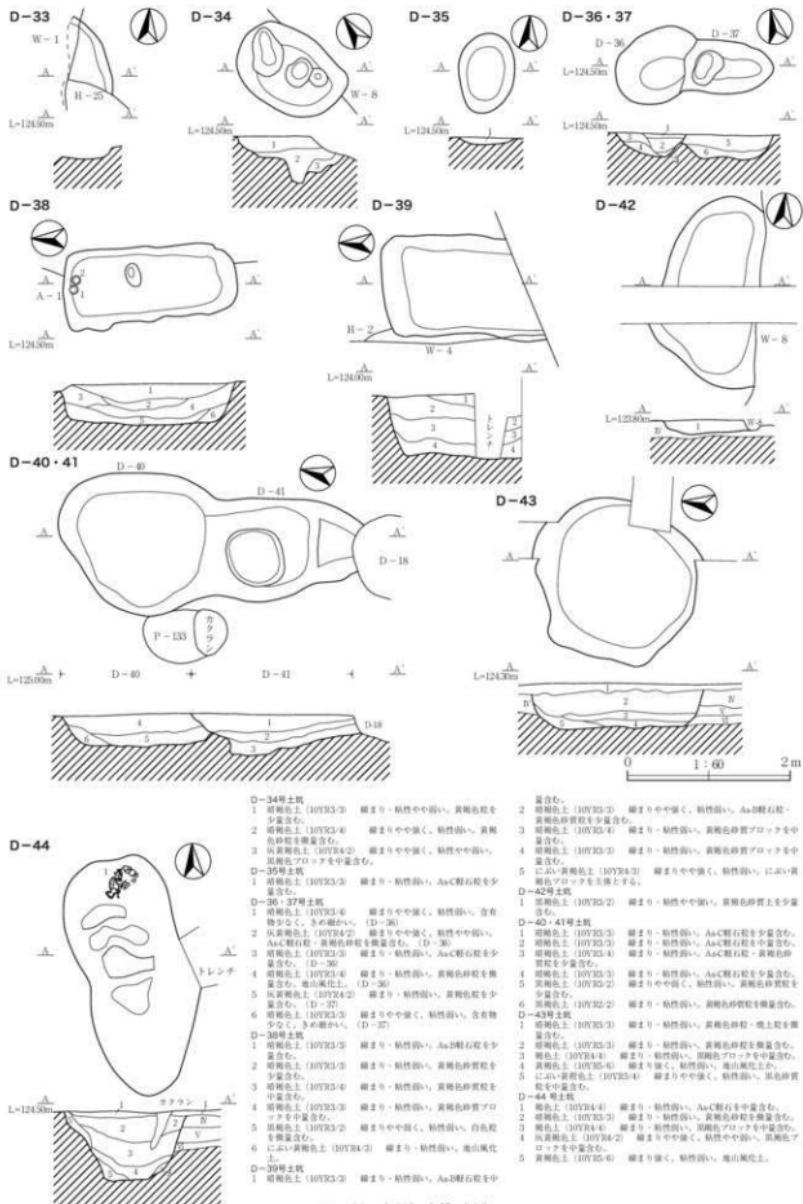


Fig.123 (123) 土坑 (3)

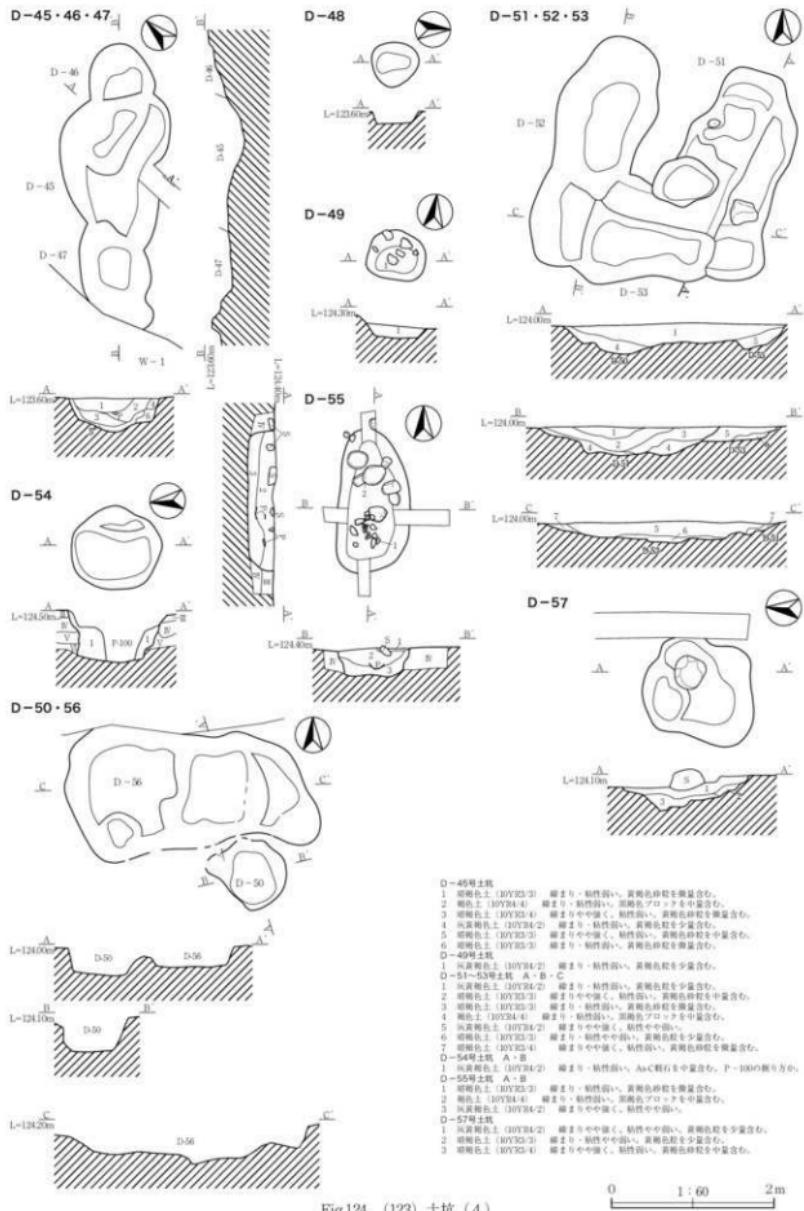
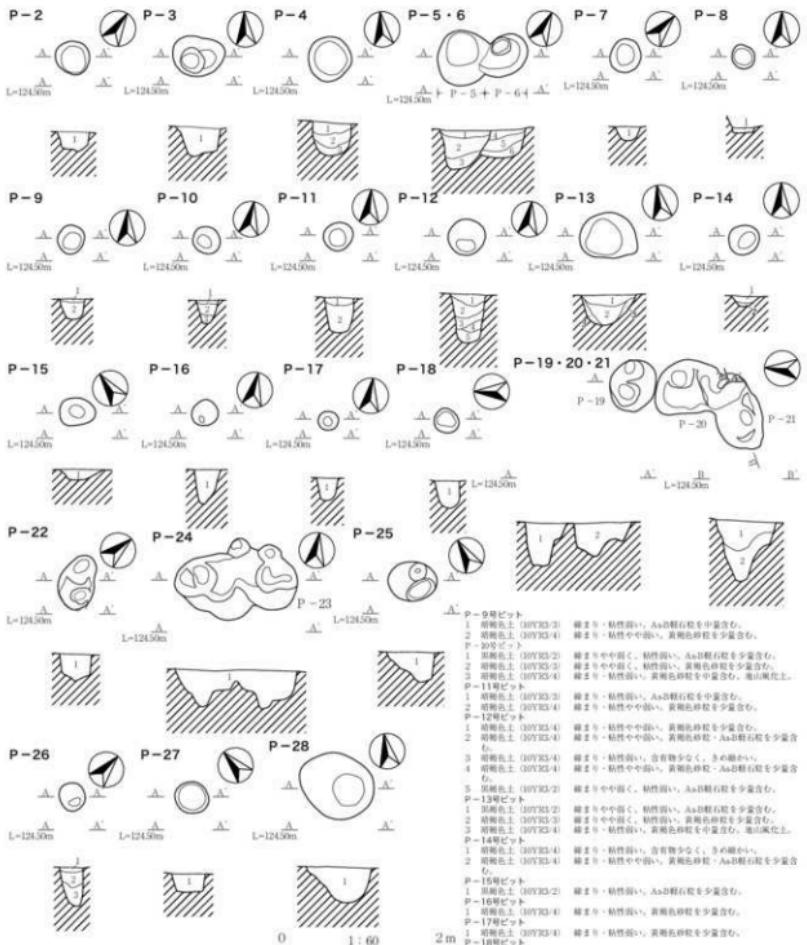


Fig.124 (123) 土坑 (4)



- P-2号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-3号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-4号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
3 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。進山風化土。
- P-5号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
3 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。進山風化土。
- P-6号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
3 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。進山風化土。
- P-7号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-8号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-9号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-10号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-11号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-12号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-13号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-14号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-15号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-16号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-17号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-18号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-19号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-20号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-21号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-22号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-24号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-25号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
2 黑鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-26号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-27号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。
- P-28号ビット
1 黒鶴丸土 (30Y32/2) 碕まり・粘性弱い。Aa-D軟石粒を少量含む。

Fig.125 (123) ビット (1)



Fig. 126 (123) ν_2 vs b (2)

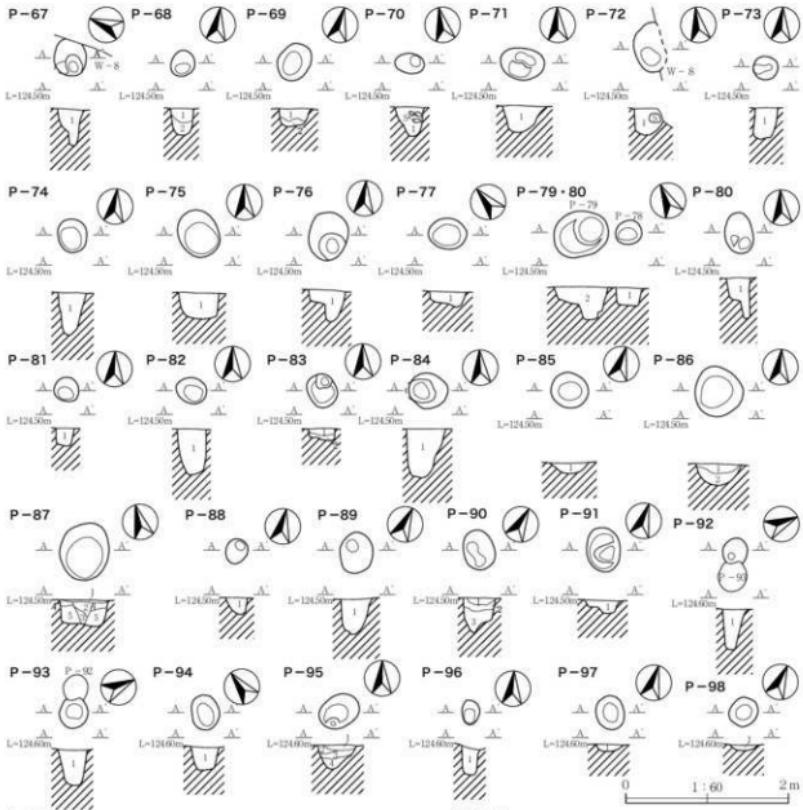
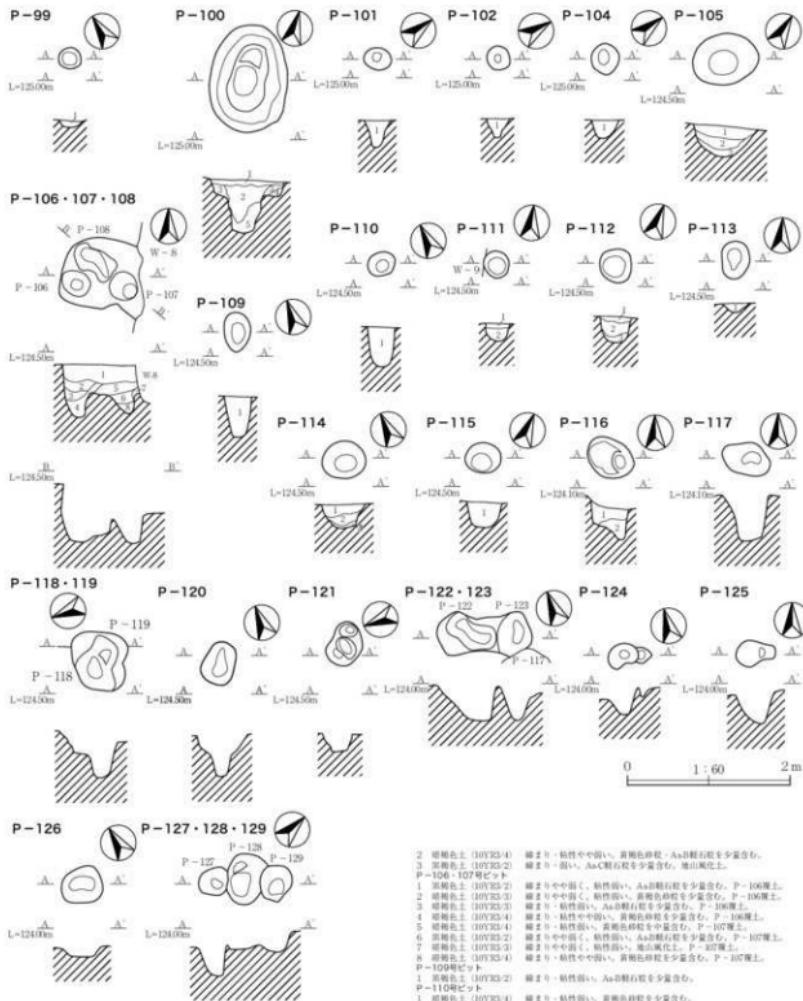


Fig.127 (123) ピット (3)



- P-99号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。
- P-100号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。
2 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりや弱く、粘性弱い、黄褐色砂程を少量含む。
3 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性やや弱い、黄褐色砂程を少量含む。
4 黑褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、弱い、Aa細粒石程を少量含む。進山風化。
- P-101号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。
- P-102号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。
- P-104号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。
- P-105号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、黄褐色砂程を少量含む。

2 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性やや弱い、黄褐色砂程を少量含む。

3 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。進山風化。

P-106 · 107 · 108号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-106層。

2 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、黄褐色砂程を少量含む。P-106層。

3 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-106層。

4 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-106層。

5 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、黄褐色砂程を少量含む。P-107層。

6 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-107層。

7 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、進山風化。P-107層。

8 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性やや弱い、黄褐色砂程を少量含む。P-107層。

P-109号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-110号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、黄褐色砂程を少量含む。

P-111号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-112号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-113号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-114号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-115号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-116号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-117号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-118 · 119号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-120号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-121号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-122 · 123号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-122層。

2 黄褐色土 (10YR3(4)) 硬さりやや弱く、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-123層。

P-124号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。P-107層。

P-125号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-126号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

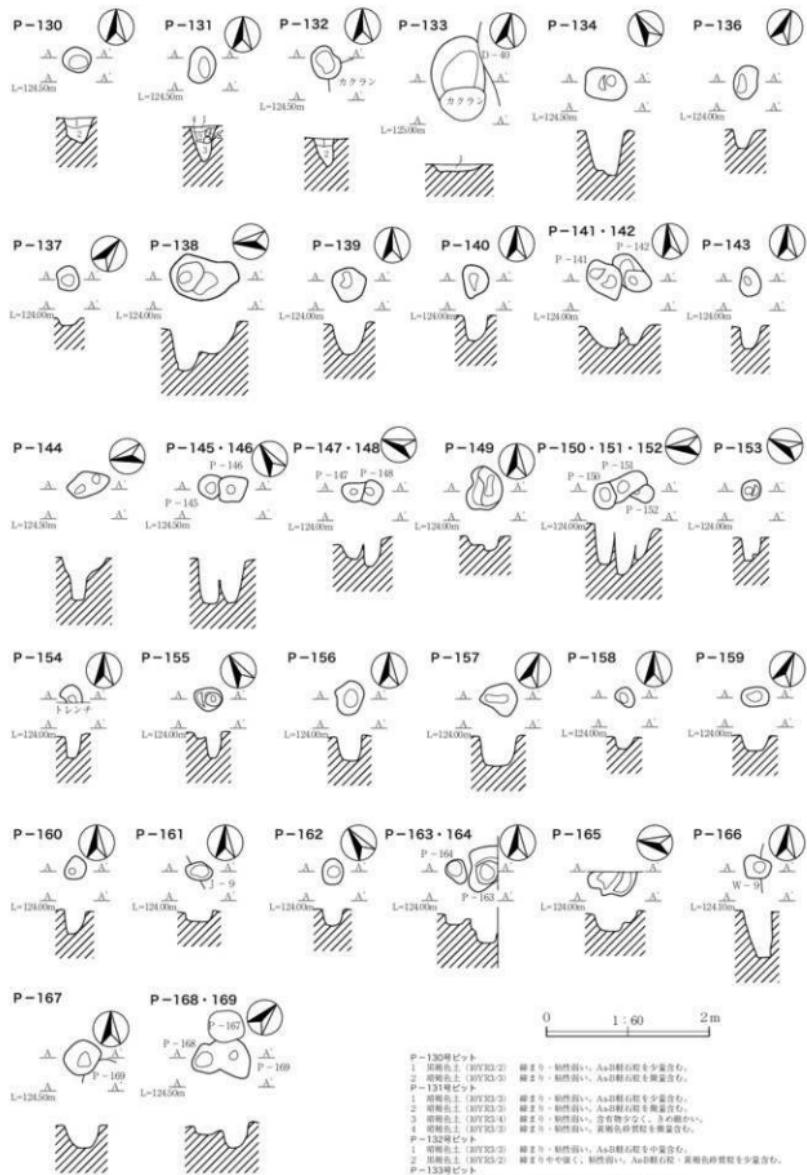
P-127 · 128 · 129号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-127号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-128号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

P-129号ピット
1 黄褐色土 (10YR3(2)) 硬さり、粘性弱い、Aa細粒石程を少量含む。

Fig.128 (123) ピット (4)



$$E^2 = 120 \quad (122) \quad M^2 = 1 \quad (5)$$

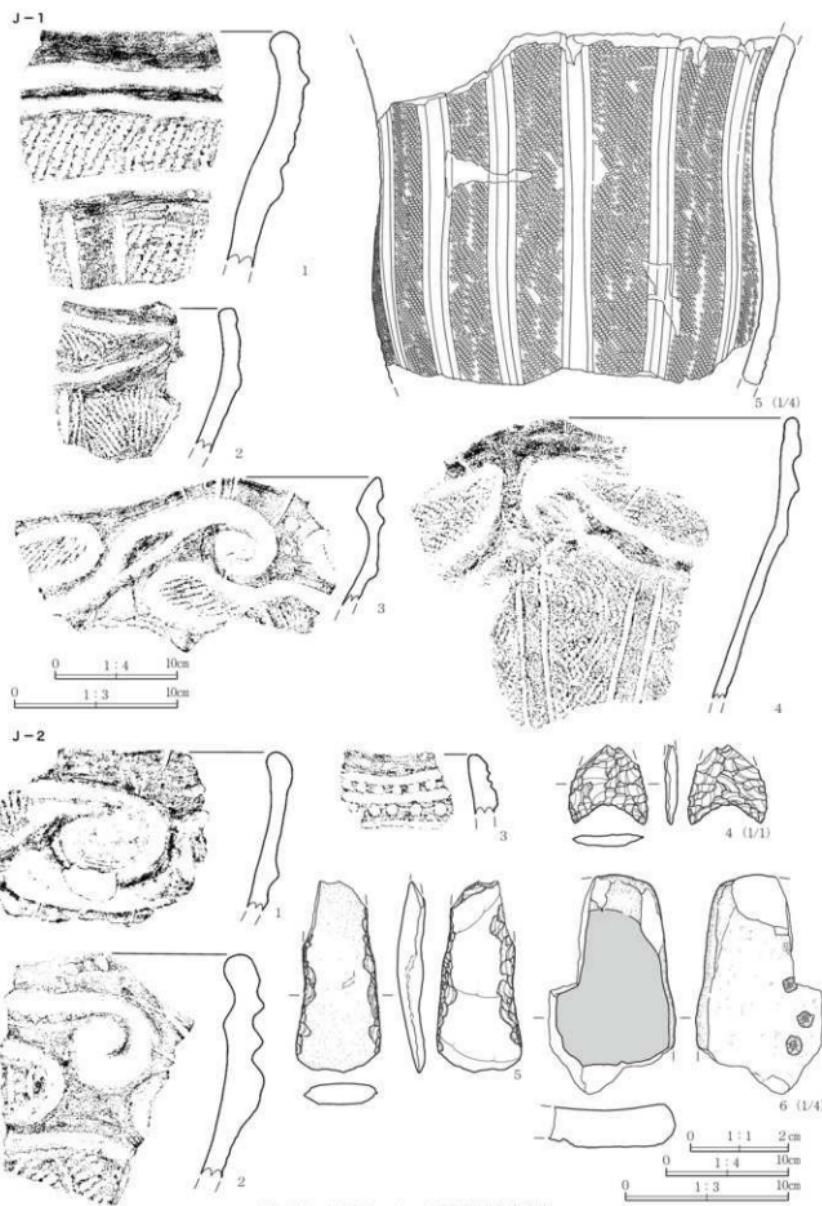
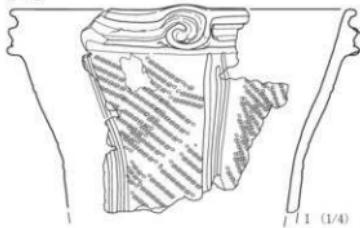
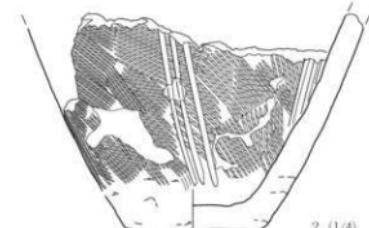


Fig.130 (123) J - 1 · 2号住居跡出土遺物

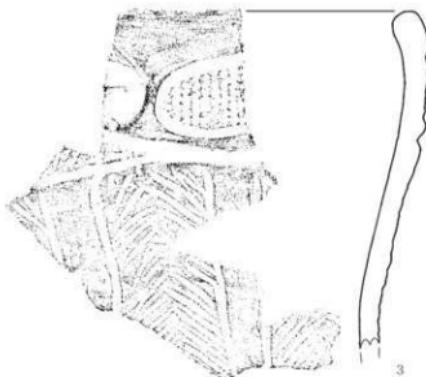
J - 3



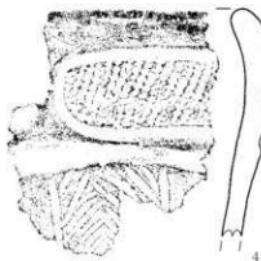
1 (1/4)



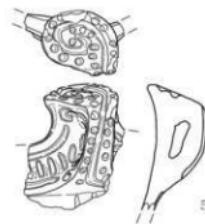
2 (1/4)



3

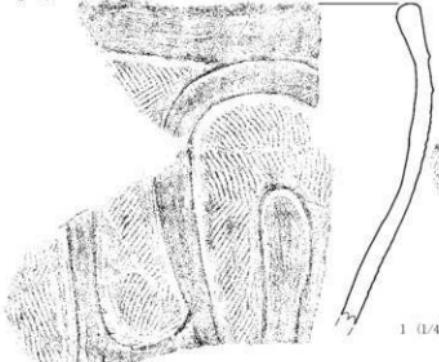


4

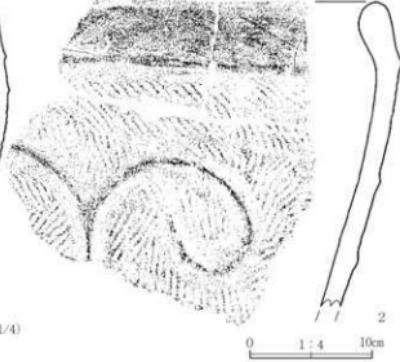


5 (1/4)

J - 4



1 (1/4)



2

Fig.131 (123) J - 3 · 4 号住居跡出土遺物

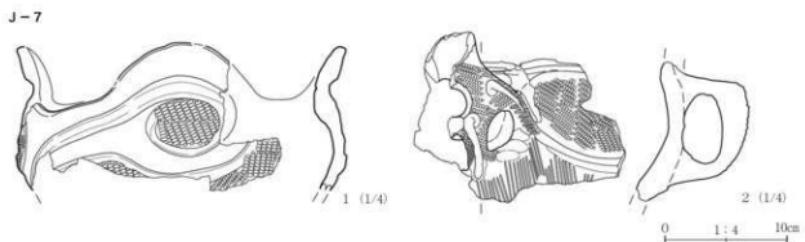
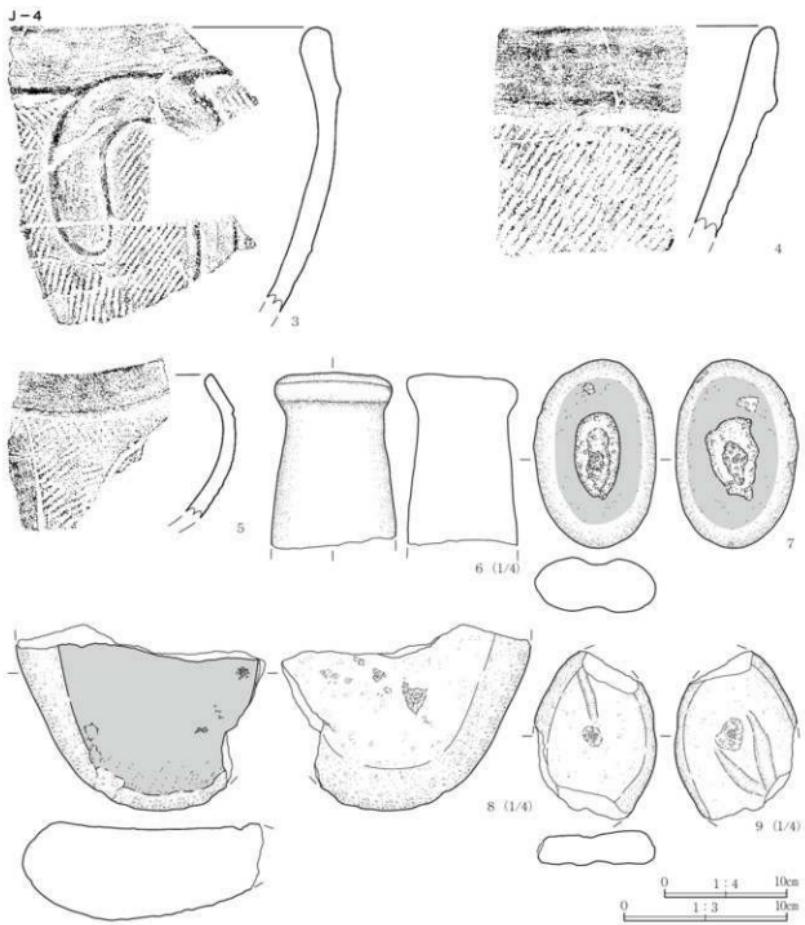
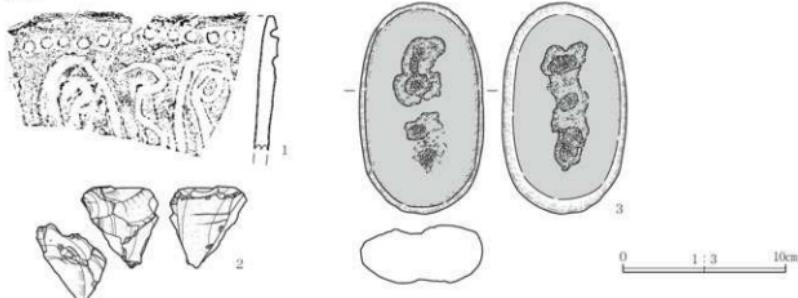


Fig.132 (123) J - 4 · 7号住居跡出土遺物

J-8

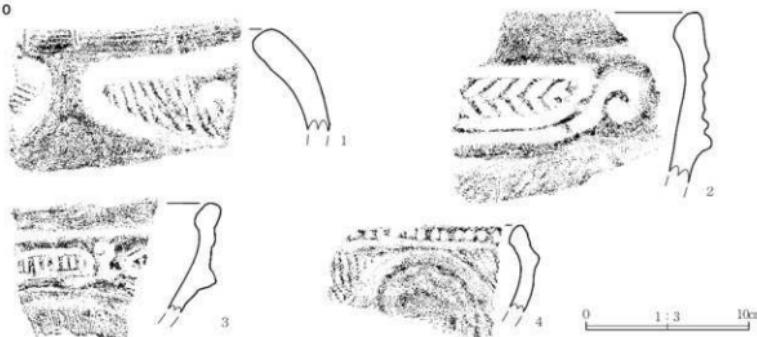


J-9



Fig.133 (123) J-8・9号住居跡出土遺物

J-10



J-11

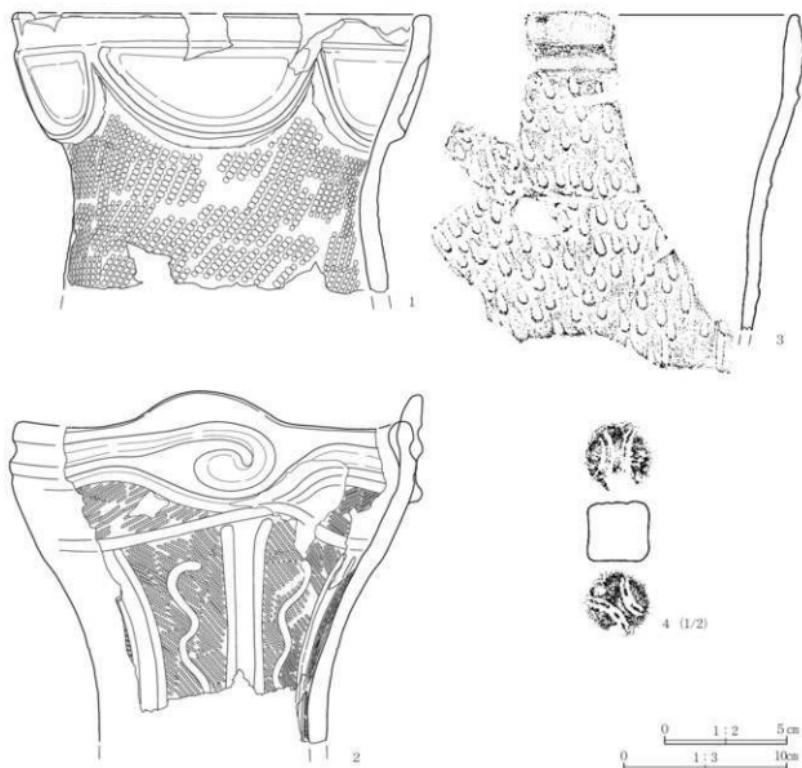


Fig.134 (123) J - 10 · 11 号住居跡出土遺物

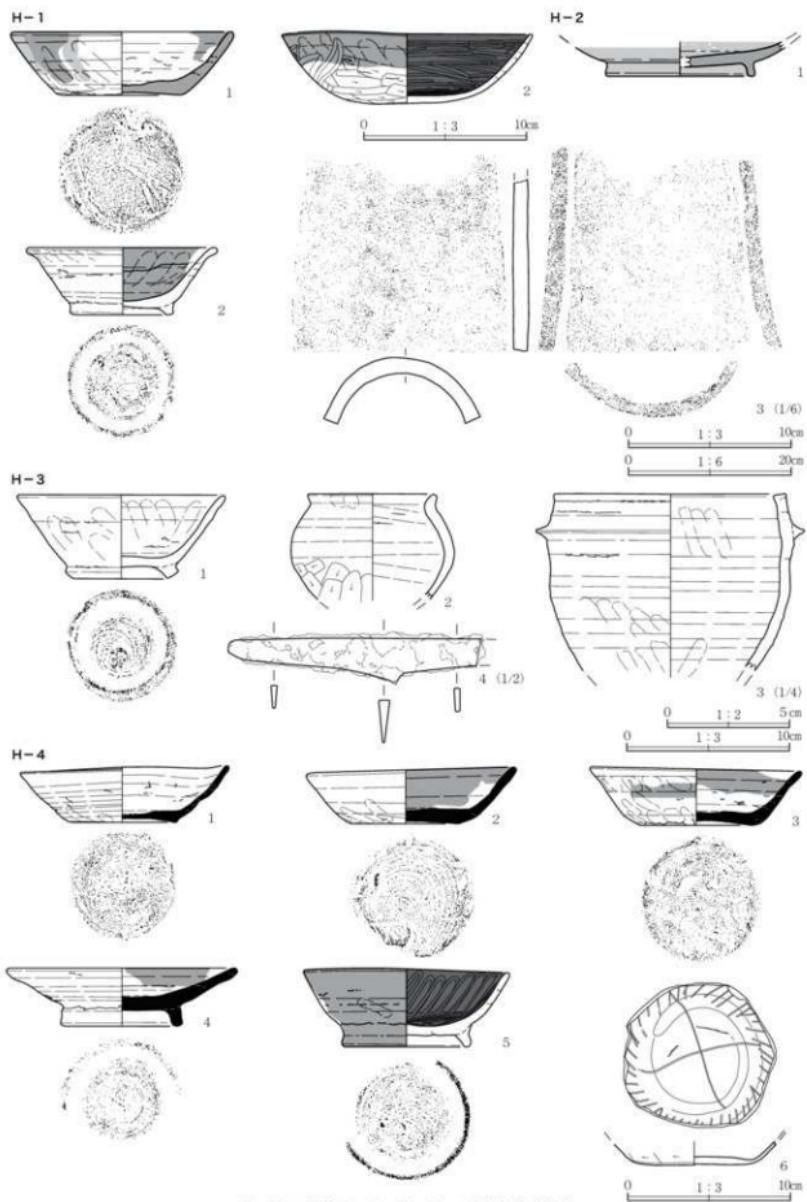
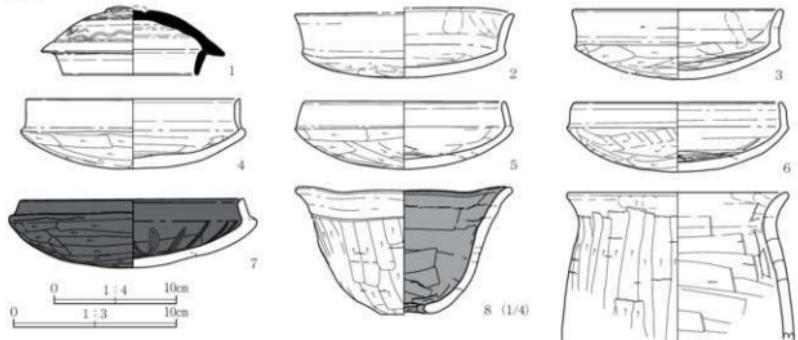
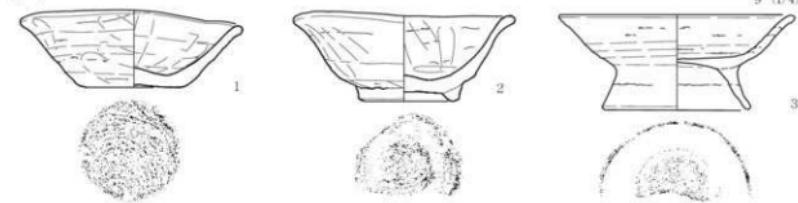


Fig.135 (123) H - 1 · 2 · 3 · 4号住居跡土遺物

H-6



H-7



H-8

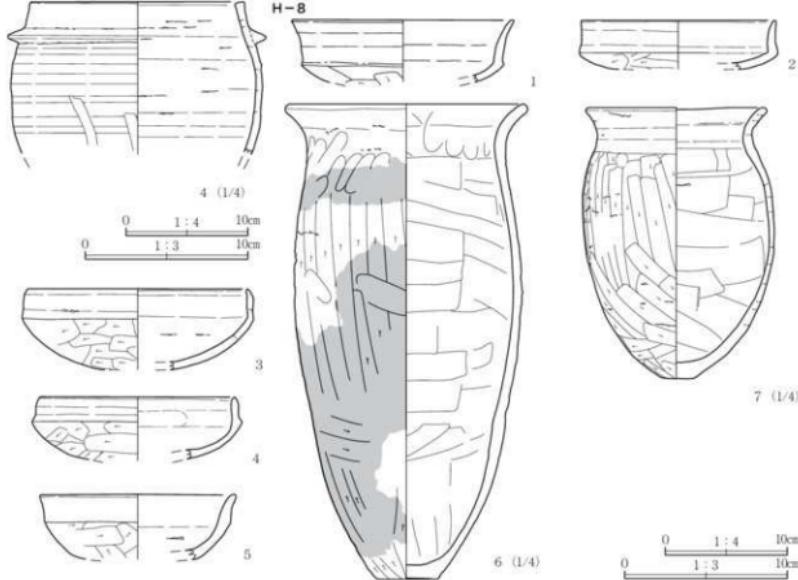


Fig.136 (123) H-6 · 7 · 8号住居跡出土遺物

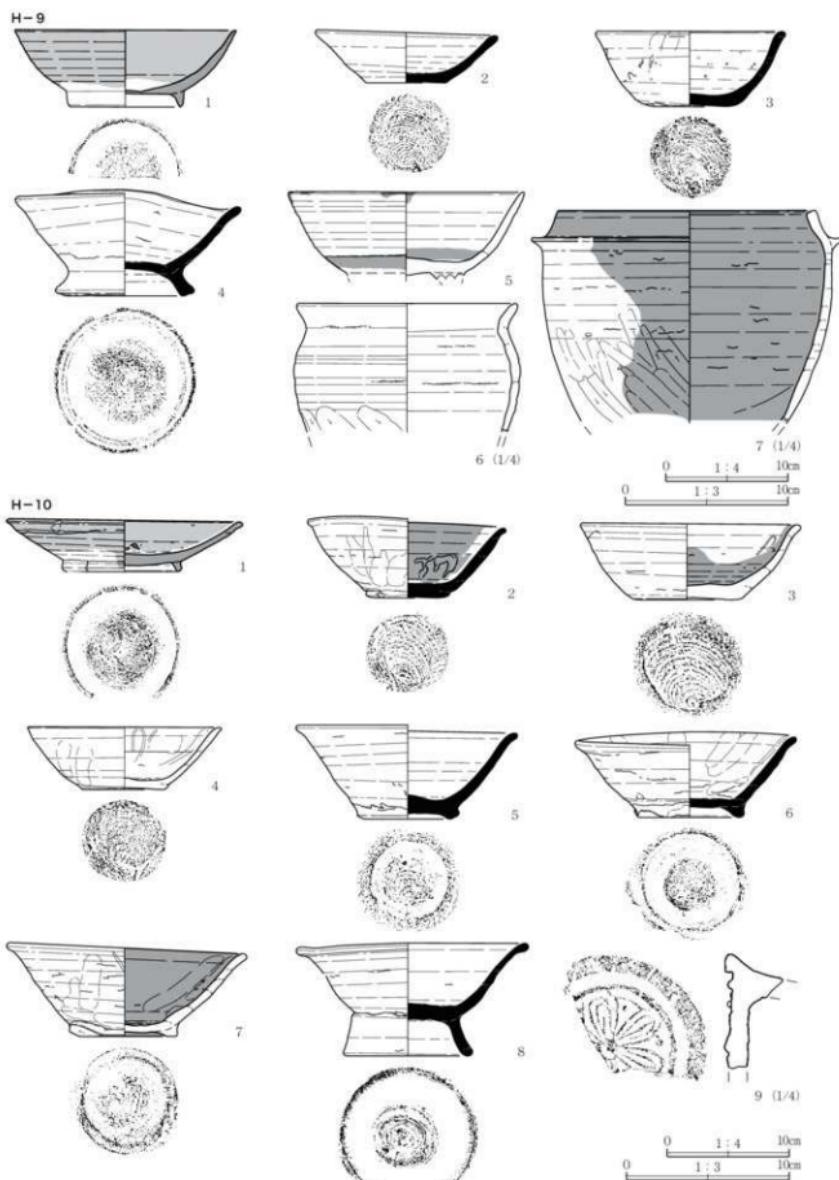
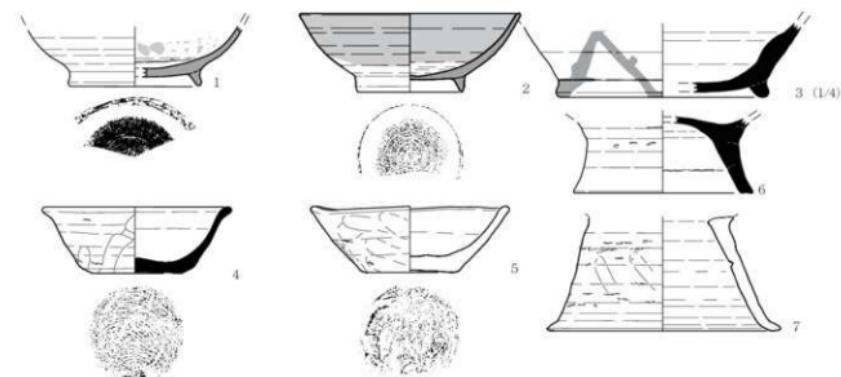


Fig.137 (123) H-9・10号住居跡出土遺物

H-11



H-12

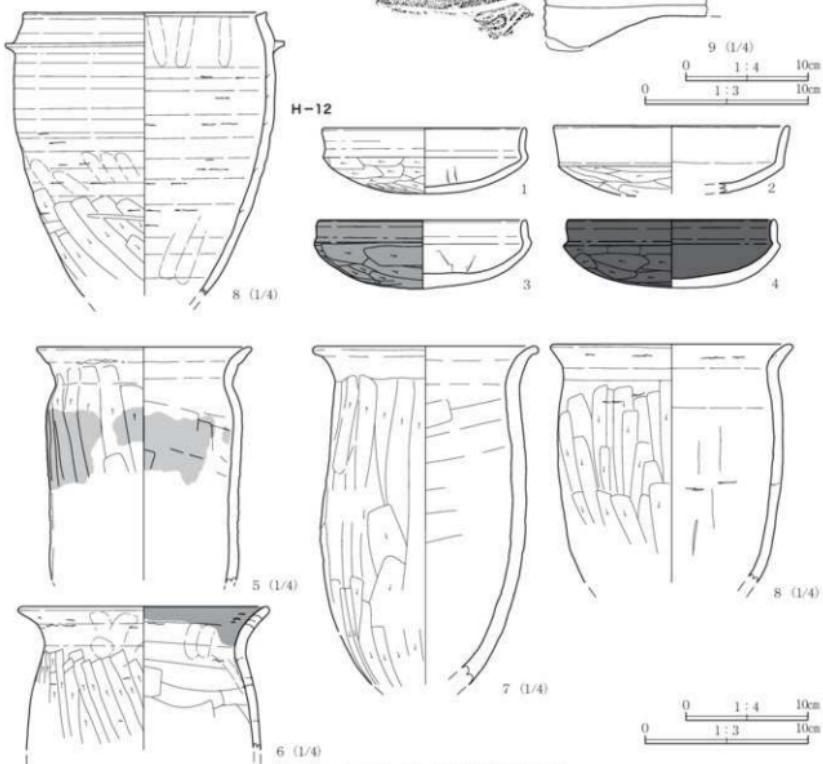


Fig.138 (123) H - 11 · 12 号住居跡出土遺物

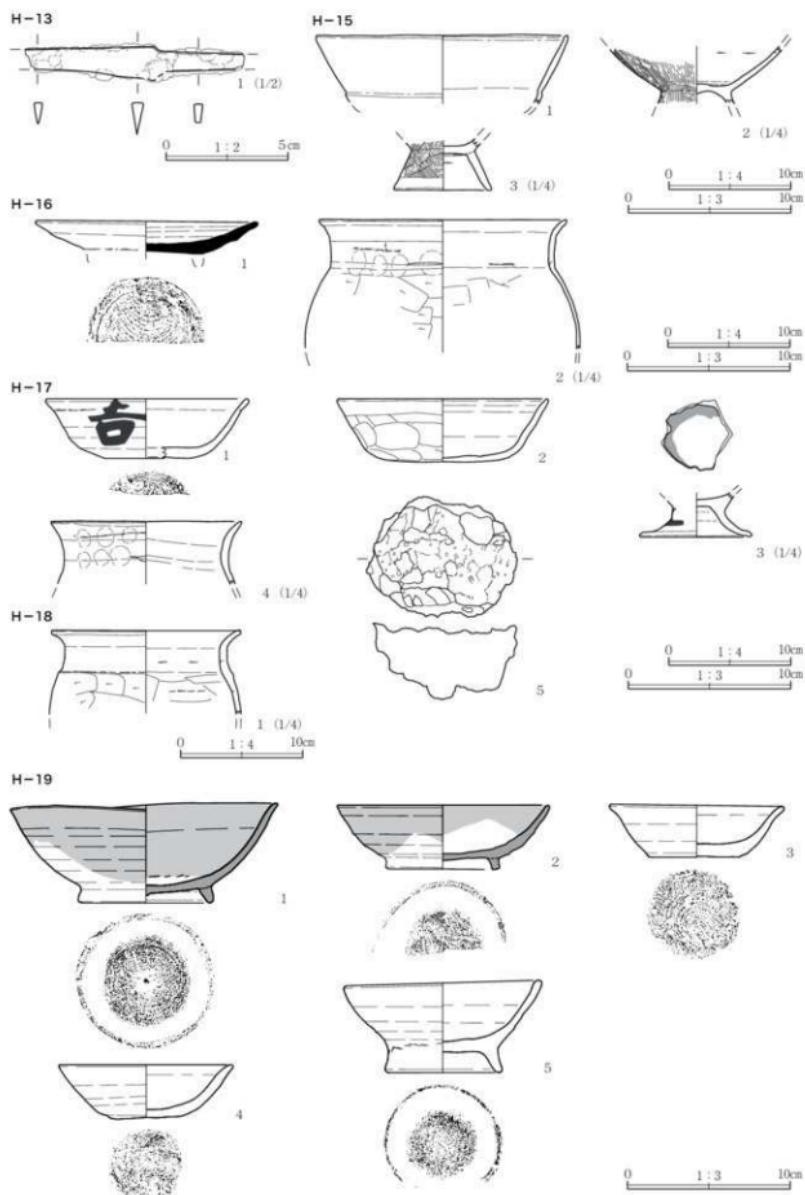
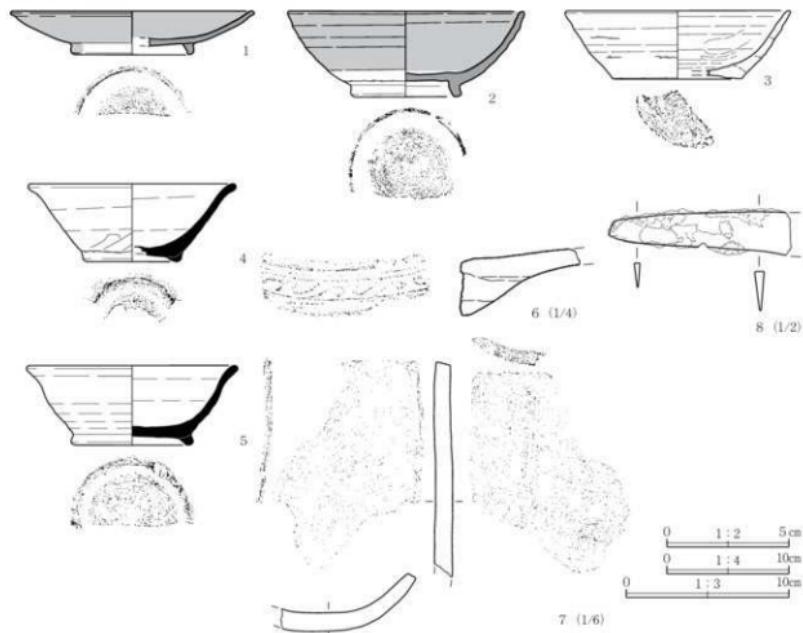


Fig.139 (123) H-13·15·16·17·18·19号住居跡出土遺物

H-20



H-21

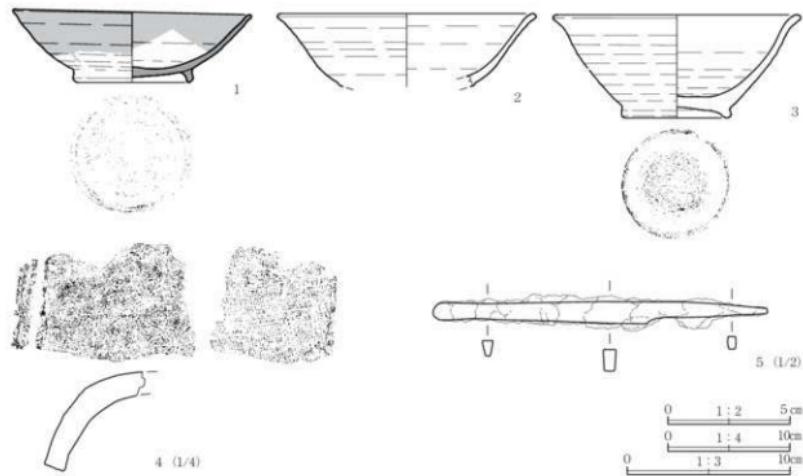


Fig.140 (123) H - 20 · 21 号住居跡出土遺物

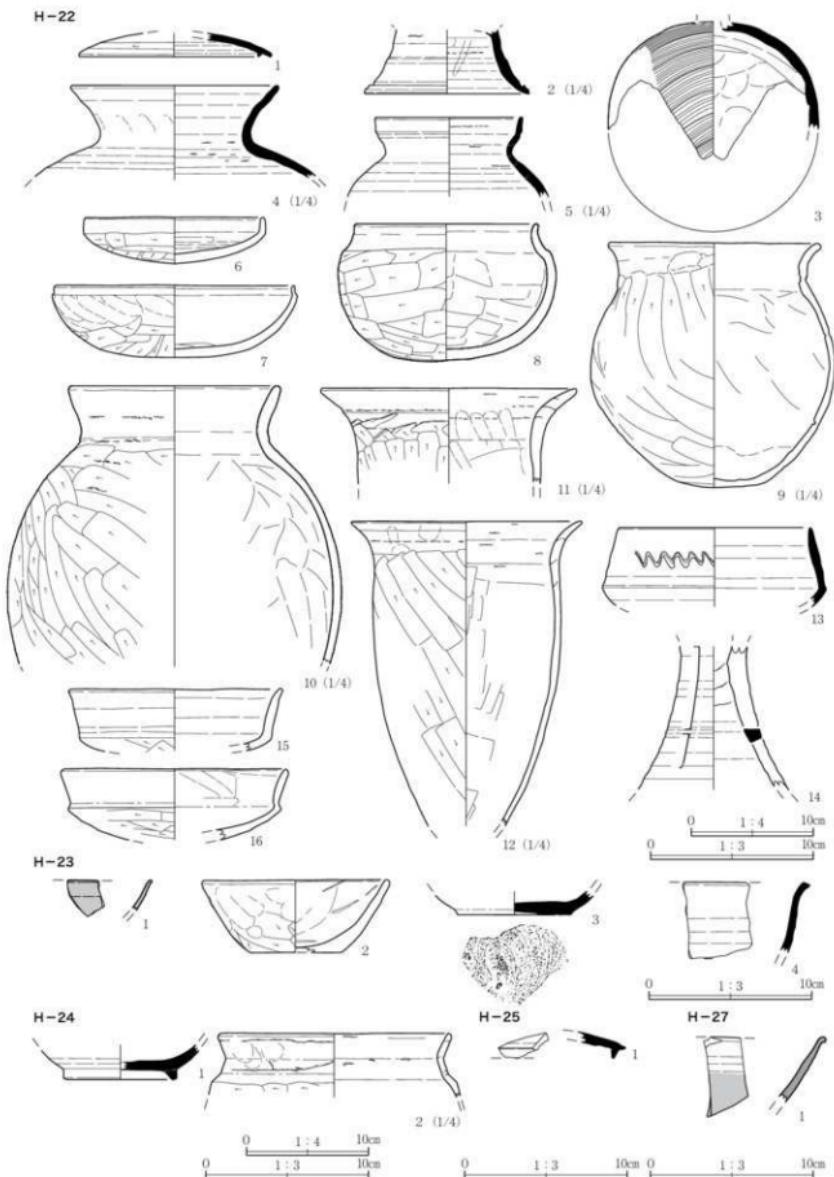


Fig.141 (123) H-22·23·24·25·27号住居跡出土遺物

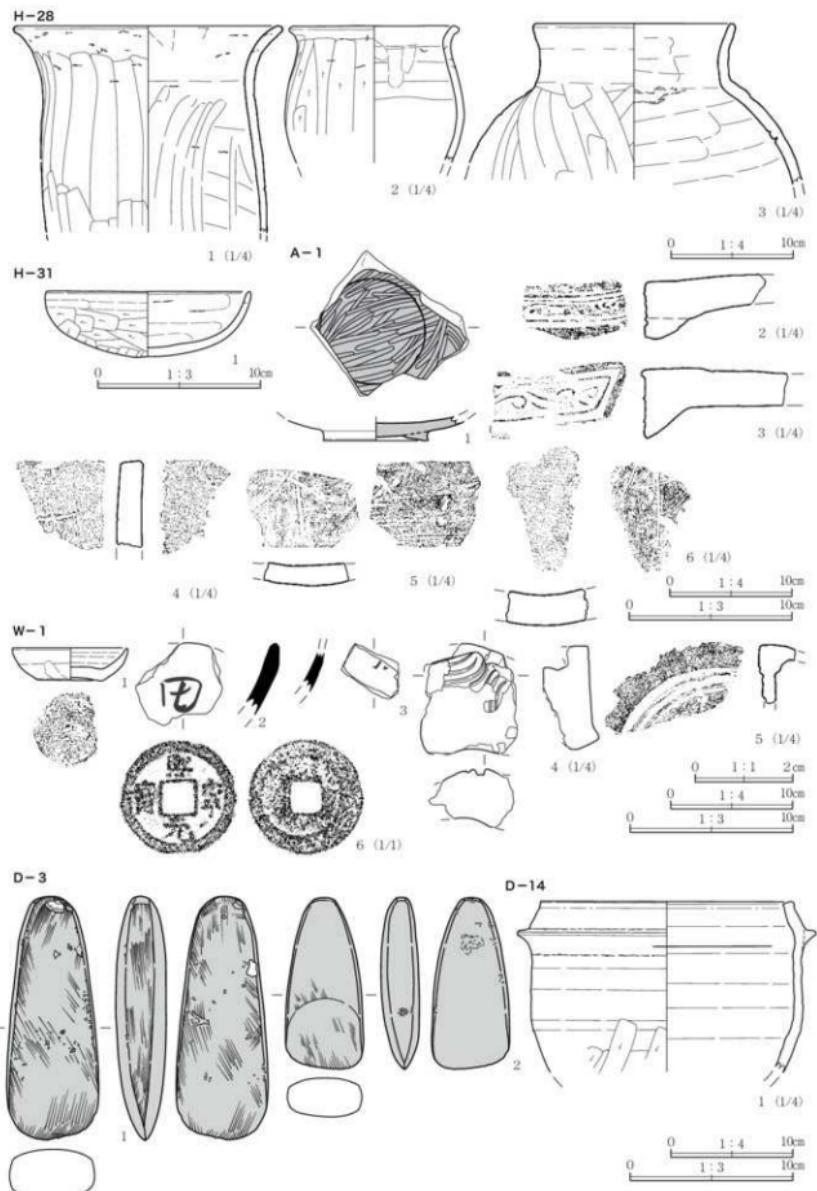


Fig.142 (123) H-28·31号住居跡、A-1号道路跡、W-1号溝跡、土坑出土遺物

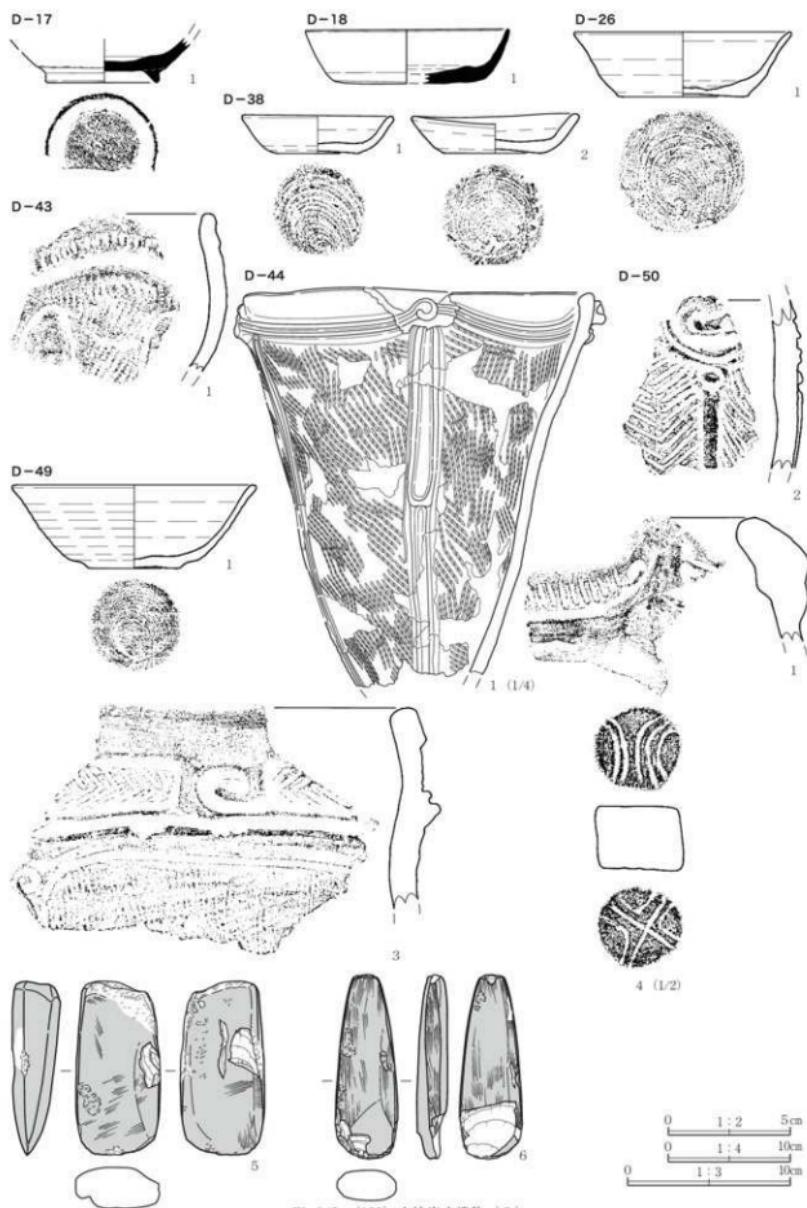


Fig.143 (123) 土坑出土遺物 (2)

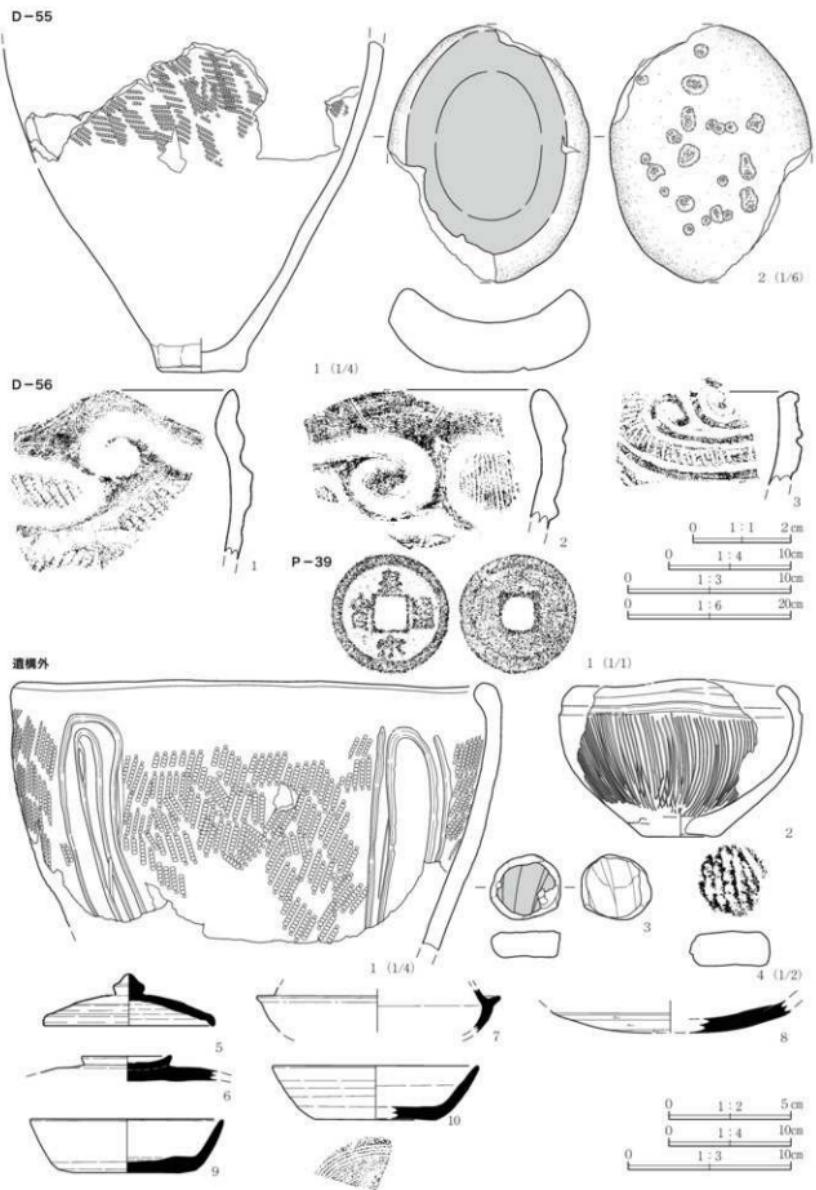


Fig.144 (123) 土坑、ピット、遺構出土遺物

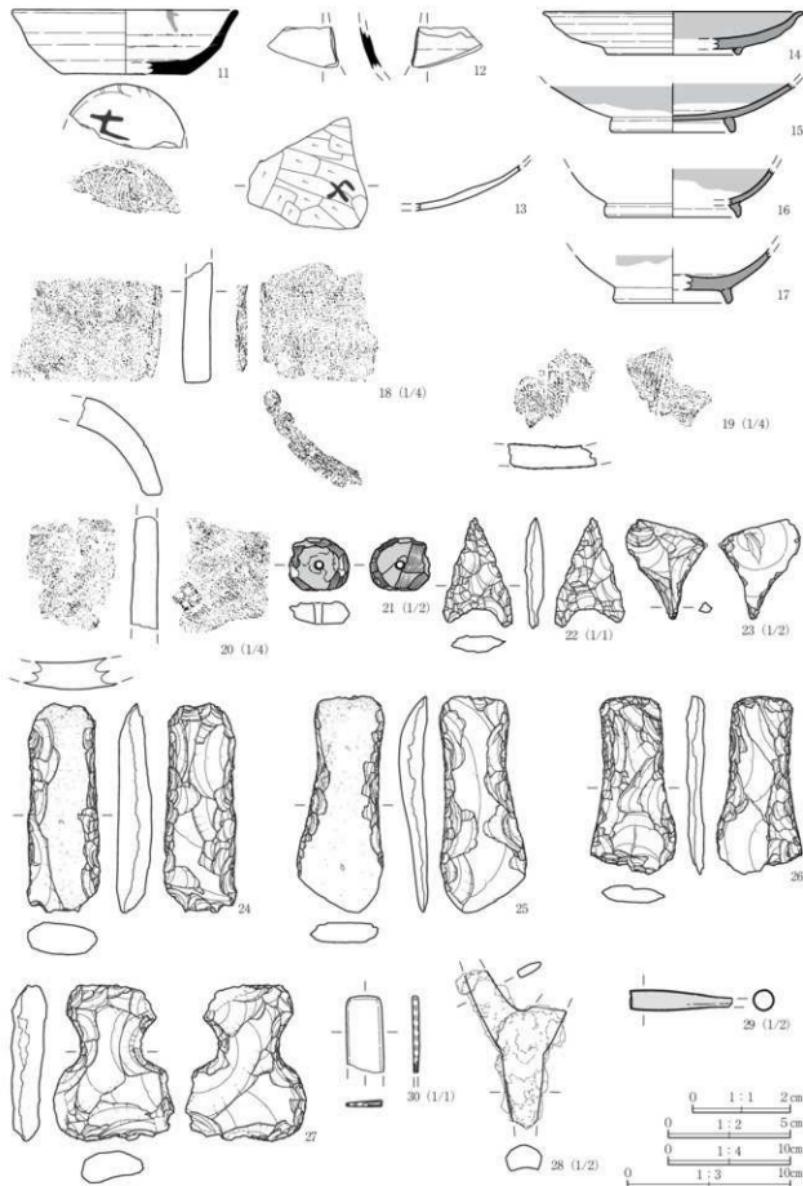


Fig.145 (123) 遺構外出土遺物 (2)

VI 発掘調査の成果と課題

1 集落の変遷

元社蒼海遺跡群（116）では縄文時代の住居跡 17 軒、古墳時代以降の住居跡 57 軒、（123）では縄文時代の住居跡 10 軒、古墳時代以降の住居跡 32 軒を検出した。個別遺構の詳細については前章に記したが、ここでは集落の動向を從来の編年観に基づいて若干の考察を加え、周辺調査事例を含めて検討したい。⁽¹⁾

縄文時代前期後半の諸磯 c 期（20 軒）に集落として進出するようになり、検出した住居跡の立地は本遺跡南側の自然堤防上から南東方向にかけて集中する。前段階の諸磯 b 期（2 軒）は、南方に検出事例があるものの、散発的な状況となっている。いずれにしても継続的な集落を構成したとは言い難く、本格的な住居展開が確認できるのは中期後半、加曾利 E 期となる。E I 期は（116）J - 16 号住居跡 1 軒であるが、炉に埋設された鉢は北陸地方に見受けられる台付状のものであり、古相を示している。E II 期は 4 軒が該当するが、出土遺物から判断すると住居の存続時に若干の時間差が認められる。E III 期（18 軒）になると漸く集落の体裁をなす検出状況となってくる。国分僧寺・尼寺中間地域を含めると、40 軒を超える住居跡が環状に分布していることがわかる（Fig.146）。なお、（116）J - 1 号住居跡（6）、J - 14 号住居跡（4）、（123）J - 11 号住居跡（3）は外面に兩重状の突刺文が施された鉢であるが、接合関係にあることから同時期に住居が存在していたことが判明している。国分僧寺・尼寺中間地域では、埋葬施設として捉えられることが多い屋外埋甕が検出していることも、集落の存続性を示唆しているといえよう。

4 世紀代の住居跡（30 軒）は、染谷川左岸の自然堤防上に限定的に検出し、本遺跡東の後背湿地への集落の広がりは見受けられない。東方の牛池川付近においても右岸微高地上から住居跡が多く検出されていることから、当該期における住居立地の特徴といえよう。（40）H - 1 号住居跡出土の S 字状口縁台付甕は、外面肩部に横位ハケメ調整を持ち、田口分類では II 類 2 期にあたる。また、（40）H - 10 出土の東海系小型器台も形態的特長から古相を示す。新相は S 字状口縁台付甕の肩部横位ハケメが消失する田口分類 IV 類で、本遺跡周辺ではこの古墳時代前期新段階において、自然堤防上への集落展開が本格的となる。5 世紀（2 軒）の住居跡は本遺跡南側の自然堤防上から検出されているが、絶対数が少ないとから動向は判然としない。6 世紀前半（5 軒）は前代と同様な分布域を示すが、後半（36 軒）になると住居件数は飛躍的に増加し、東側後背湿地への進出が明確に認められる。7 世紀前半（13 軒）から後半（7 軒）にかけては、緩やかに住居件数が減少に転じる。その一方で 7 世紀末から 8 世紀初頭段階（4 軒）には、本遺跡の南方に位置する（60）B 区 1 号住居跡のような出土遺物の構成が通常の住居跡とは異なり、盤や円面鏡を含む多量の須恵器が大半を占め、規模も 1 辻が 10 m 近い大型で、ややシンボリックな住居跡が単独で検出するようになる。次段階においても同種の（43）H - 1 号住居跡が確認されている。

8 世紀代（89 軒）は、各種政治的要請によるものか住居跡が再び急激に増加する。国分二寺造営に関わる占地規制のようなものは、少なくとも本遺跡周辺においては認められないようである。むしろ、正方位を指向する条里型地割が施工され、（123）A - 1 道路状遺構のような坪塙の構造物を避けながらも、満遍なく集落が広がっていく感さえある。（116）H - 34 号住居跡は 8 世紀中葉に帰属する遺構であるが、前章でも記載したとおり、同時期の軒平・丸瓦と平・丸瓦がセットで使用され、須恵器高盤や法具である銅製錫杖頭片も出土していることなどから、国分寺造営に関わった人物の居宅である可能性が高い。

9 世紀代（167 軒）は当地域において、前半（62 軒）から後半（65 軒）まで、8 世紀から継続した集落展開がさらに発展する最盛期であり、当該期内で重複する住居が多いことからも複数世代に亘って連続と集落が営まれた様子が窺える。

10 世紀代（127 軒）は、前半（67 軒）は 9 世紀後半と同水準で推移するものの、後半（22 軒）になると住居

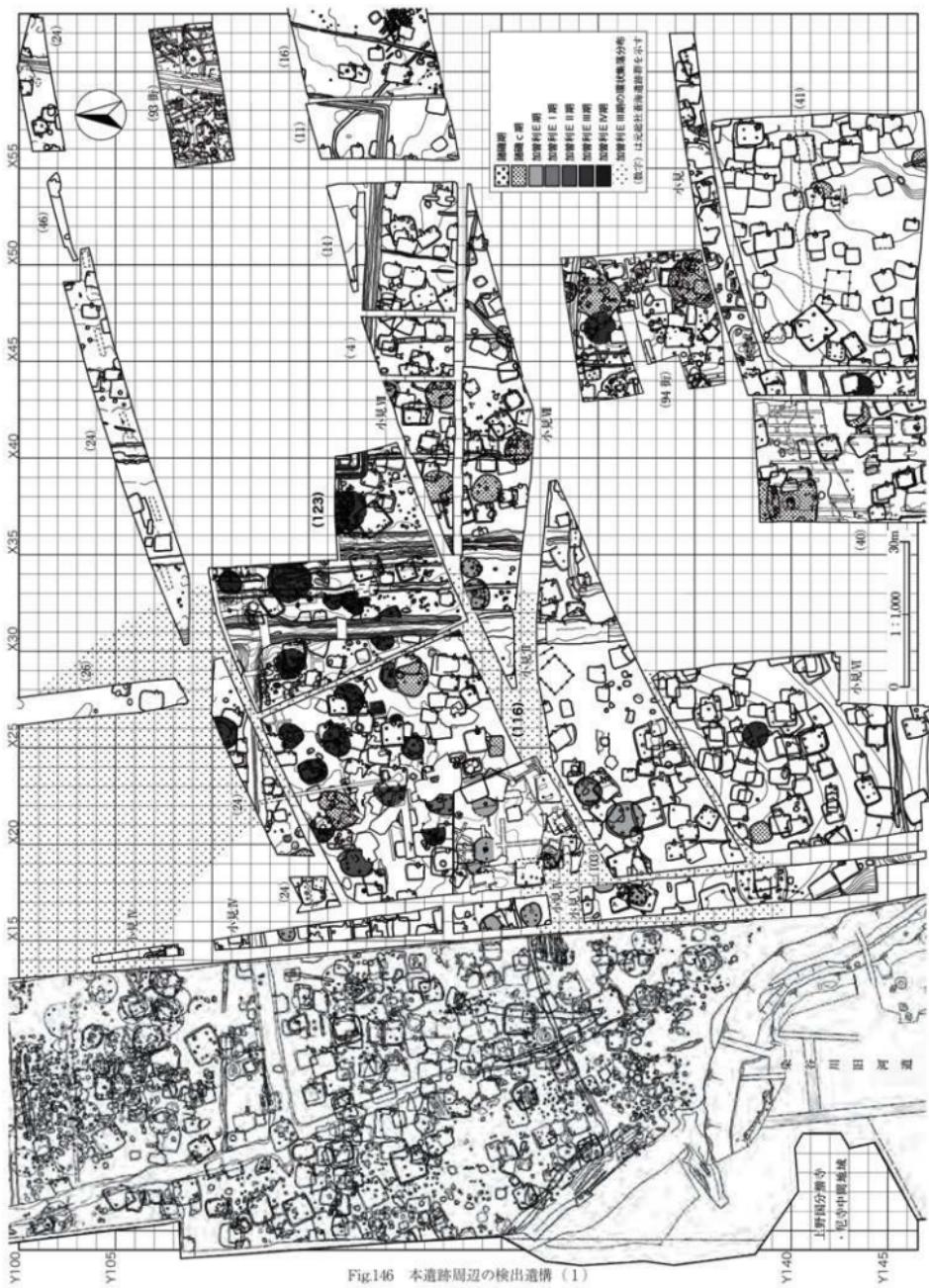


Fig.146 本遺跡周辺の検出遺構（1）

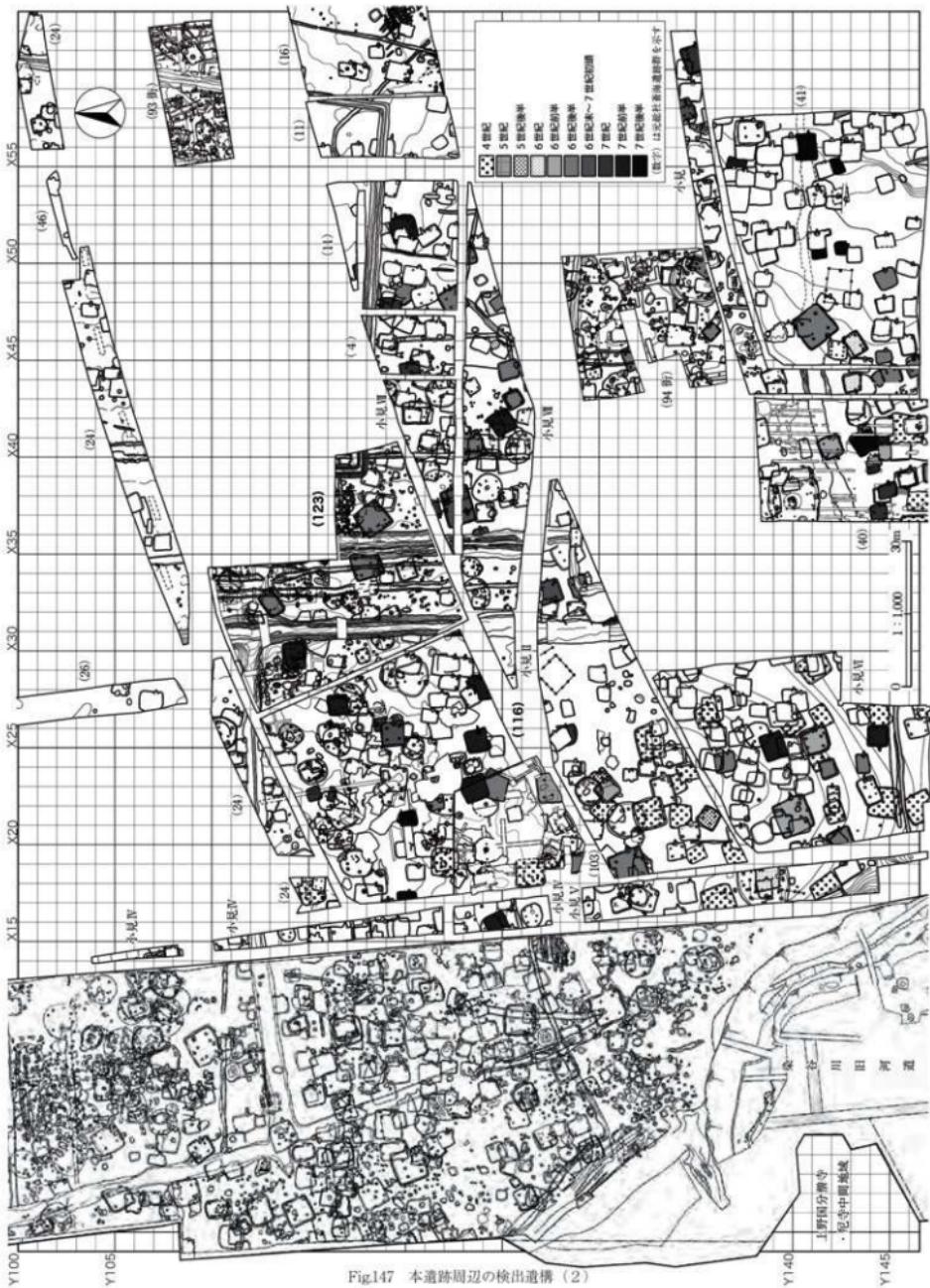


Fig.147 本遺跡周辺の検出遺構（2）

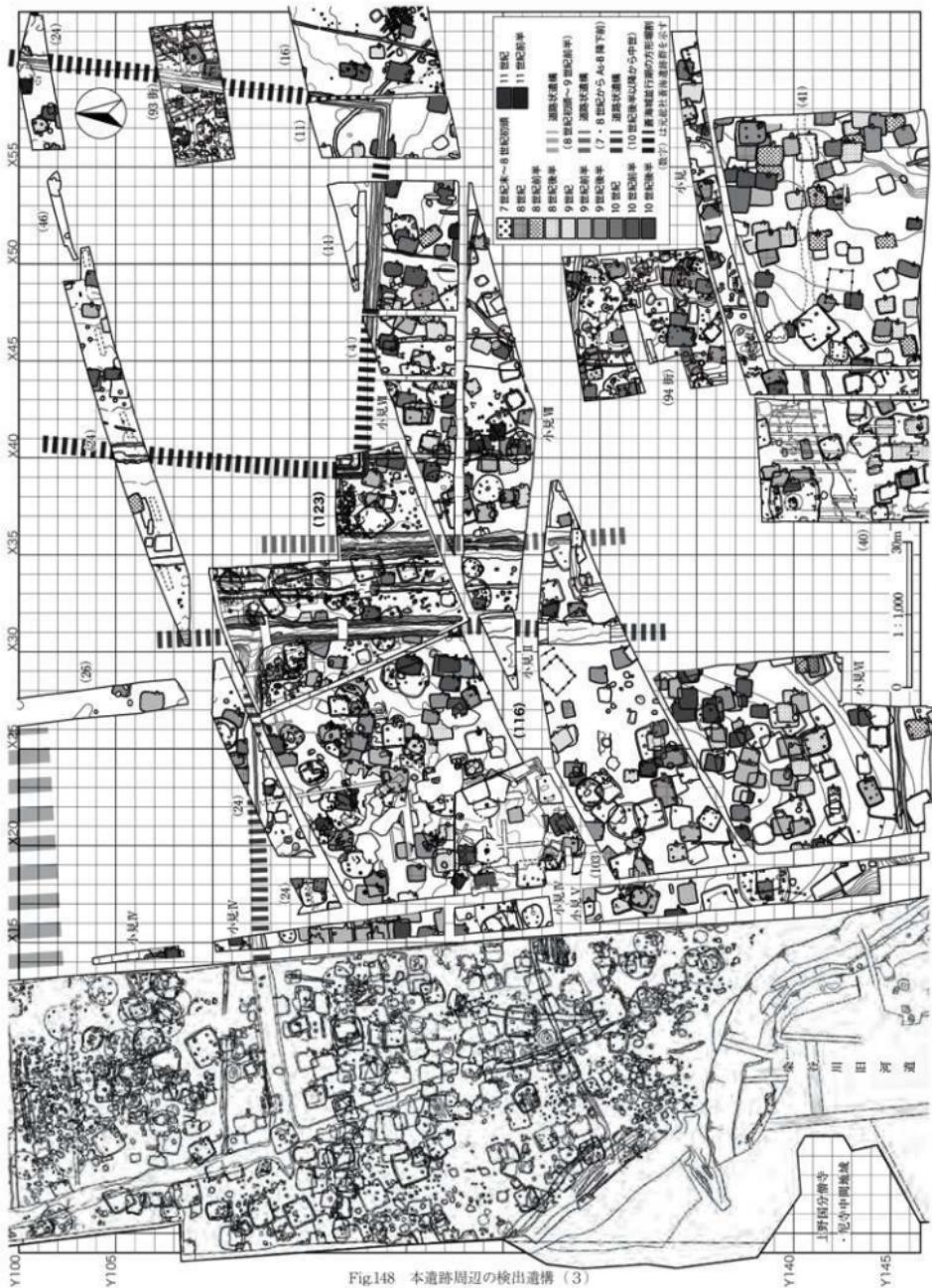


Fig.148 本遺跡周辺の検出遺構（3）

件数が俄かに減少する。地方軍事貴族層の台頭（武士への萌芽）により起きた、関東全域を巻き込んだ天慶の乱が歴史的要因のひとつとして挙げられる。

9世紀後半から10世紀代にかけての特異な出土遺物として、有銅台付鉢がある。今回の調査ではH-21・23・43号住居跡から出土しており、同様に隣接調査地の元総社蒼海遺跡群（103）においても出土例がみられ、報文中で県内資料の集成が図られている。器種名については未だ一定しないものの、用途としては火舎香炉の土製模倣と考えられる。（103）H-6号住居跡や田端遺跡B区3号住居跡下土坑出土遺物には、2次的な被熱痕が認められることから、鉢内部での火熱の使用が想定されている。県内資料の形態的な違いとしては、鉢底の孔、外面の銅突起の有無が挙げられる。鉢底孔の有無については、（116）H-21号住居跡出土（2・4）があるが、有孔は小破片のため用途の違いについては判然としない。銅は鉢と台部の境に1段、さらに鉢部中位に加えて2段のものがある。銅製火舎にみられる銅の模倣の表現であろう。また、周辺遺跡の追加資料としては高崎市（旧群馬町）棟高水窪II・棟高辻の内IV遺跡H-111号住居跡（10世紀前半）覆土遺物（番号1）、高崎市（旧吉井町）吉井町黒熊中西遺跡1号テラスグリッド遺物がある。

11世紀（6軒）は住居軒数がさらに減少する。長元3年（1030）「上野国交替実録帳」では国分寺内の多くの施設が無実であることが記され、国府に保管されている重要文書も滅失するなど、当地域の政治的訴求力のさらなる低下が考えられる。（123）D-38号土坑は墓坑と考えられる遺構で、長軸2.13m、短軸0.92m、検出深0.50mを測り、覆土最上層にはAs-B軽石混土層が確認されている。北壁付近からは酸化焰焼成の皿が2点出土しており、いずれも所謂「かわらけ状の坏」と呼称されるものである。本遺跡の南方、染谷川右岸に位置する鳥羽遺跡SK-332土坑出土遺物（12世紀第1四半期）は、口径8cm、器高1.5cm以下の齊一性が認められ、底面から15～20cmの間隔を挟んでAs-B軽石1次堆積層が確認されている。これに遡る鳥羽25段階（K50号住居跡出土遺物）の皿は、口径8～10cm、器高は2cm程度に収まる形状となっている。古代末期の皿形土器の変遷は、器高と口径の比率が新しくなるにつれて小型化する傾向があることから、本遺跡における古代最終段階の遺構である（123）D-38号土坑は、11世紀末の遺構と考えられる。

以上のように本遺跡周辺の住居跡の動向は、加曾利EⅢ期に環状に集落が展開することが確認されるものの、一時的なものであり、縄文時代から古墳時代初頭にかけては部分的な展開は見受けられるが、継続的に面としての広がりが認められるようになるのは古墳時代後期の6世紀後半段階となる。8世紀から10世紀前半までは、国分二寺や国府に連続して集落展開は最盛期を迎えるが、10世紀後半には政治的体制の統一から住居件数は大幅に減少する。この統一こそが、武士の台頭や次代の蒼海城築城に繋がると考えられる。元総社蒼海遺跡群は律令期における上野国の中核部ともあって、集落の趨勢は当時の社会情勢を如実に反映しているといえよう。

2 道と溝、方形堀割について

7世紀中葉から始まる官衙的施設の造営や国府造営に伴う区画、8世紀代に国分二寺を取り込む形で成立した条里型地割、中世から江戸時代初頭まで城主を代えながら継続する蒼海城の堀割など、広範囲に亘る大規模な土地改変を伴う土地利用が複数回あり、さらに縄文時代から連続と営まれる集落跡が重層的に絡み合う状況が、この地域の全体像を象徴させている。ここでは（123）で検出した道・溝・堀割を中心として、周辺域での検出事例を含めて若干の検討を行いたい。

（123）A-1号道路跡は北側のW-10と同一遺構であり、南北方向を指向する。隣接地では、北側は（24）W-8号溝、南側は近い順に小見VII遺跡W-1、小見II遺跡W-4、（2）9トレンチW-3、（20）5区A-1、小見1区W-4、（13）5区W-3が同一遺構となる。南にいくにつれてやや西偏するのは、蛇行しながら接近する染谷川の影響と思われる。この南北方向の道路跡は、牛池川に近い元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳで検出した南北方向の区画溝から西へ12町、寺田遺跡第2調査区の大溝から11町の地点に位置し、途中蒼海城の堀割によっ

て不鮮明になるものの、西側の本遺跡付近まで同一の条里型地割による施工と考えられる。この地割は染谷川右岸にまで及んでおり(Fig. 6)、各遺跡の重複関係・出土遺物から判断すると、8世紀には開削されていることから、国分寺の造営にも影響を与えていたと想定される。7世紀中葉から8世紀代の土地利用については、上記で示した正方位を指向する地割の前に、西偏する古段階の地割がある。東西方向の区画は西から(60)C区W-1、国府47Tr W-2・3、(95)W-2・3、が該当する。⁽²⁾遺構の重複と出土遺物から判断すると、7世紀後半以降の開削で8世紀前半には部分的に住居が造られることにより埋没していたことが窺え、10世紀代には全面的に廃絶している。⁽³⁾また、約一町北側の東西区画として、(58)W-1が挙げられる。直交する南北ラインは南から(93)W-1、国府40Tr W-1、(21)27地点W-1、(23)24地点W-4、国府29Tr W-2、国府6Tr W-2、(14)5トレーナーW-32、(30)A-1、(17街区)R-1が該当する。重複関係と出土遺物から、7世紀後半以降の開削で、As-B軽石下段階には廃絶している。また、8世紀前半の土師器壺が開削時の造成面から出土している。なお、この道路状遺構の南方向延長上は、東山道駅路国府ルートとの交差が推定され、所謂「日高道」へと接続する。牛池川を渡河した北側は、地割から山王庵寺西縁へと繋がると想定される。⁽⁴⁾さらにこの10°前後西偏する区画以前に、30°近く西偏する地割が想定される。(9・10)B-1掘立柱建物跡は桁行10間、梁行3間で28°西偏し、柱穴から7世紀中頃の土師器壺が出土しており、南側に隣接する(7)W-3も同角度で東西方向に走向する。やや離れるが、北側の山王庵寺下層建物群(群馬郡國家)においても、33°西傾する建物群が検出されており、瓦の時期(Ia期)から7世紀中葉とされている。しかしながら、建物方位は同一でも、総柱建物SB3とSB5、SB2とSB4で重複による新旧関係が認められることから、強西偏地割の内でも複数段階に分かれる可能性が指摘されている。⁽⁵⁾

(123)W-1号溝は調査区西側を南北に走向し、北側が(24)31区W-2、南側は近い順に(116)W-1、小見IIW-2、(2)9トレーナーW-1、小見IVW-7、(13)3区W-1が同一遺構となる。調査区北側でW-1の西方向に直交するW-2は、東から(24)31区W-1、小見IVW-1、国分僧寺・尼寺中間地域A区1号溝が同一遺構となり、この両遺構は断面・平面において新旧の区分ができないことから、同時期と考えられている。いずれも中位から上層にかけてAs-B軽石2次堆積層を含む硬化面が複数確認できるのが特徴で、長期に亘って道として機能していたと考えられる。中間地域A区1号溝の北側は、中間地域B・C区から検出された14世紀後半から15世紀前半の長尾氏との関連が指摘されている小見庵寺(方形区画の堀・土塁、内部には版築状の基壇を伴う瓦葺建物跡)の西縁を巡る。重複関係からは10世紀後半以降の開削が想定され、中間地域A区1号溝からは17世紀以降の近世陶器・陶磁器の出土が確認されており、さらに南北方向の溝と直交する(123)W-2までは米軍写真にその痕跡を留めていることから、地点によっては昭和35年の耕地基盤整備以前までは道として継承されていたといえる。

(123)W-3号溝は中世の区画溝で、同一遺構としては、(4)W-1号溝、(11)W-1号溝、(16)W-3号溝、(24)W-3・7号溝、(93)街区W-1号溝がある。いずれもW字に近い薬研状の断面を呈し、平面区画としては方形となる。蒼海城の築城年代は明らかではないが、長元元年(1028)には館としての存在が窺え(総社記)、応安元年(1368)には長尾忠房が御靈社を勧請していることから、これ以前に長尾氏が入府していたと判断できる(修史館本惣社長尾系図)。享徳の乱以降、蒼海城は防御性を高めるために、堀に囲まれた複数の館(居宅)を連接構造として城に取り込んで城郭化を図ったと考えられるが、今回検出した方形区画の堀は、染谷川と牛池川に挟まれた範囲のなかで、城域が最大限に膨張した段階での外周域に近い遺構と想定される。

3 錫杖頭片について

(116)H-34号住居跡の床面直上より、錫杖頭と考えられる銅片が出土した。この住居跡は、共伴遺物から

判断すると8世紀中葉に帰属することから、上野国分寺創建期並行期と考えられる遺構といえる。県内では、榛名神社跡から鉄製錫杖頭、金井庵寺から銅製錫杖頭が確認されているが、いずれも表探資料であることから時期は判然としない。関連遺物では前橋市（旧柏川町）友成遺跡から、10世紀代の住居より錫杖頭鋳型が出土している。鋳型は溶湯が回って還元している部分があり、共伴遺物として須恵器転用取瓶があることから、住居内で鋳造が行われたことが判明している。近県では栃木県の男体山山頂遺跡から、錫杖頭を含む多数の仏具、法具が出土している。この男体山を開いたとされる勝道上人は、唯一の同時代資料とされる空海撰文の「遍照發揮精靈集」によると、延暦年中（782～805）に上野国講師として、上野国分寺に止住していたとされる。同時期の創建期II軒丸・軒平瓦がセットで出土しているH-34号住居跡の床面直上から、銅製錫杖頭と考えられる銅製品片が出土することは、この住居跡と上野国分寺の結びつきを否応なしに想起させる。

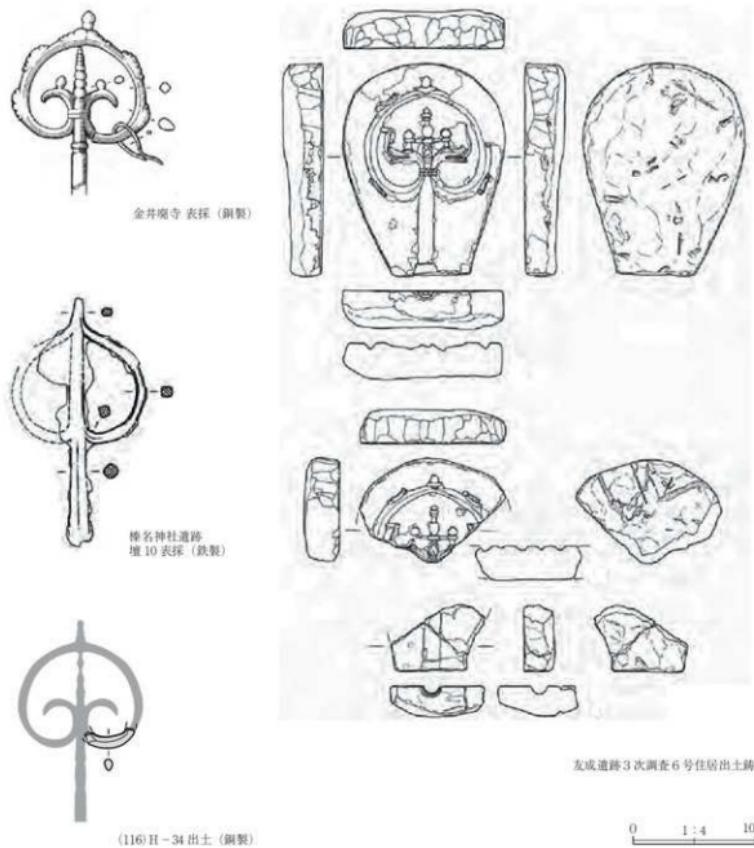


Fig.149 県内出土の錫杖頭関係資料

4 郷名瓦について

(116) I - 1 号井戸跡から出土した「(郡) 波郡朝倉」郷名平瓦は、出土状況から井戸口の瓦積みに用いたのが崩落したと推察されるもので、凹面の布目および凸面の叩き具痕は縱方向のナデにより丁寧に消されている。寺院から持ち出した瓦と考える場合、共伴遺物の同時期性は疑われるが、上野国分寺修造期の軒丸瓦 A 103、二重開い「方」陰刻の押印がある平瓦、佐位郡雀部郷を示し上植木庵寺でも出土事例がある、山際窯で作成された凸面の叩き下端部に左字「雀」の平瓦が出土している。この井戸の瓦積みに用いられた瓦は、上記3例と同種の出土事例がある上野国分寺のものとみて問題無いと思われる。

I - 1 号井戸跡の時期は、住居跡との重複関係から 10世紀前半以降と考えられる。やや新しい時期ではあるが、「長元三年（1030）上野国不与解由状案（所謂、上野国交替実録帳）」によれば、当時の上野国分寺は金堂と講堂は存在し、長保3年（1001）には当時の國司であった平重義によって、丈六十一面觀音像が新たに金堂に安置されているものの、僧坊と寺域を画する築垣、各大門が全壊（無実）するなど荒廃した様子が記載されている。このような状況のなかで瓦が井戸に転用されたのであろう。I - 1 号井戸からほど東へ約 250 m には、同じく瓦積み井戸の（18）I - 4 号井戸がある。構造との重複関係が無いために明確な時期は不明ながら、出土瓦から判断すると、少なくとも修造期（軒丸瓦 M 002）以降となる。さらに東へ約 209 m の地点には、（12）I - 6 号井戸跡がある。重複する9世紀中葉の住居跡より新しく、同じく瓦の出土が多く認められる。井戸の掘削には地形や地下水脈の関係が優先されるのは勿論であるが、このように瓦積井戸が一定に近い間隔を以って、直線的に並ぶのは非常に興味深い。

上野国分寺の発掘調査によって出土した墨書瓦は、南大門から平瓦の凸面に「凡国足」、「里麻呂」、「□（馬カ）野」と記したもののが各1点、講堂（旧金堂）から判読不明のものが1点、計4点出土しているが、いずれも姓名を記したものである。住谷コレクション内の資料では、凸面に「山田」押印とともに「勢多」と墨書きされた平瓦が1点確認されている。^[17] 瓦に記された郡や郷名の文字や印については、瓦製作の現場において閑与した証や、知識物を献納した地域・人物を明示するためであるなど諸説あるが、那波郡に関連する押印やヘラ書きの文字瓦はこれまで確認されていない。墨書きにおいては、焼成後も葺くまでの間記すことが可能であることから、献納を含めて慎重に判断する必要がある。

5 おわりに

今回の元総社蒼海遺跡群（116）（123）の調査では、染谷川左岸自然堤防上の集落分布の一端を明らかにすることができたと思う。また、平安・中世・中世から近世と各時期の区画となる道や堀を検出したことで、元総社地区の土地利用の在り方にについて少なからず検討することができた。特に7世紀中葉から8世紀にかけては、当地域を舞台として、上野国全体に関わる契機となる政治的事象が多い期間といえる。元総社蒼海地区の発掘調査事例も蓄積されていることから、考古学的な調査成果をどのように結び付けていくかが今後の課題となるであろう。

註

- (1) 今回、集落の変遷を検討した範囲は、検出事例の少ない縄文時代中期から古墳時代初期にかけての住居跡も対象としたため、本道跡を含めた染谷川左岸の自然堤防を西限として、図上に納まる範囲内とした。よって東側の牛池川左岸を含む元総社蒼海道路群全域の動向を反映している訳ではないことを予め断つておきたい。
- (2) 同一ライン上の元総社蒼海道路群（87）において検出されなかったのは、中世の蒼海域の崖削開削によるものと考えられる。
- (3) 規格性の強い直線道路と捉えた場合、部分的にでも重複する住居跡が新たに造られた時点で、道路または地割に対する規制は弛緩しているといえる。8世紀前半の住居跡が重複していることが、正方位地割転換への萌芽を示しているのかもしれない。
- (4) 近藤 1981

- (5) 須田 2013
- (6) 報告書掲載遺物のうち1点（遺物番号131）は、上野国分寺では未見の軒丸瓦であるが、上野国分寺・尼寺中間地域において時期不明ながら出土している（瓦768）。
- (7) 墓石瓦の資料調査については、主に川原秀夫2005・2007・2008・2009、群馬県教育委員会1988・2018、かみつけの里博物館2013を参照した。ヘテ書きおよび碑文によるものは多数あるが、墨書きは記載した「勢多」を探して確認できなかった。ただし、周辺には元経社貢海道跡群をはじめとする100地点以上の調査事例があることから、遺漏も考えられる。御教示願いたい。

参考文献

論文等

- 大和久賀平 1991 「古式綱杖の形状」『紀要』1号 帝京短期大学
- 川原義久治 1991 「延喜式内社上野国椎名神社道路をめぐって・歿殿寺の故地を求めて・」『研究紀要』8 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 川原秀夫 2005 「上野国文字瓦集成（上）」『明和学園短期大学紀要』16
- 川原秀夫 2007 「上野国文字瓦集成（中）」『明和学園短期大学紀要』17
- 川原秀夫 2008 「上野国文字瓦集成（下・1）」『明和学園短期大学紀要』18
- 川原秀夫 2009 「上野国文字瓦集成（下・2）」『明和学園短期大学紀要』19
- 本渡博明 1999 「国府に地割はあったか・上野国」「幻の国府を掘る・東国の歩みから・」堀山閣
- 近藤義雄 1983 「上野国府をめぐる古代交通路」『信濃』第33巻2号 信濃史学会
- 須田一勉 2013 「国分寺造営の攝役職・考古学から・」『国分寺の創建・組織技術論』吉川弘文館
- 須田一勉 2013 「上野国群馬郡家（庄王庵寺の下屋建築群）」「古代東国の考古学－東国の古代官衙」高志書院
- 高井佳弘 1999 「上野国分寺跡出土の都部郡印瓦について」『古文』107 早稲田大学考古学会
- 高井佳弘 2013 「瓦からみた上野国分寺」『上野国分寺 瓦にこめられた折り・住谷コレクションを中心とした古代瓦・』かみつけの里博物館
- 高島英之 2013 「上野国分寺 出土瓦の文字」『上野国分寺 瓦にこめられた折り・住谷コレクションを中心とした古代瓦・』かみつけの里博物館
- 田口一郎 2000 「北関東部におけるS字口縫接の波及と定着」『S字彫を考える』東海考古学フォーラム
- 中村彦氏 2018 「「都定上野国府」周辺の古代景観・元経社貢海道跡群の構と道・」『群馬文化』332号 群馬県地域文化研究協議会
- 能登健・梅澤克典 2004 「友成重跡の綱杖頭型について」『群馬県立歴史博物館紀要』第25号
- 考古学から古代を考える会 2000 「古代仏教系造物集成・関東」

実地調査報告書

- 群馬県吾妻郡吾妻町教育委員会 1979 「金井発掘調査・町道4~83号線に伴う発掘調査・」
- 群馬県教育委員会 1988 「史跡上野国分寺跡発掘調査報告書」
- 群馬県教育委員会 2018 「史跡上野国分寺跡2期発掘調査報告書・総括編・」
- 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 ~ 1993 「上野国分寺・尼寺中間地域（1）~（8）」
- 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 「鳥羽道路・I・J・K区」
- 財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 「黒熊中西道路（1）」
- 高崎市教育委員会 2008 「練真高跡群・練高水庭Ⅱ・練高込の内道跡」
- 日光二荒山神社 1963 「日光男神山・山道跡発掘調査報告書」角川書店
- 前橋市教育委員会 2012 「山王庵寺へ平成22年度調査報告書」
- 前橋市教育委員会 2013 「元経社貢海道跡群（40）」
- 前橋市教育委員会 2013 「元経社貢海道跡群（41）」
- 前橋市教育委員会 2013 「元経社貢海道跡群（46）」
- 前橋市教育委員会 2013 「都定上野国府・平成23年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2013 「都定上野国府・平成24年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2014 「元経社貢海道跡群（60）」
- 前橋市教育委員会 2015 「都定上野国府・平成25年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2016 「都定上野国府・平成26年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2016 「元経社貢海道跡群（103）」
- 前橋市教育委員会 2016 「元経社貢海道跡群（93街区）」
- 前橋市教育委員会 2017 「都定上野国府・平成27年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2018 「都定上野国府・平成28年度調査報告・」
- 前橋市教育委員会 2018 「元経社貢海道跡群（94街区）」

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 「元能社明神道路Ⅲ、IV」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 「寺田道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 「元能社小見道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 「元能社小見Ⅱ道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 「元能社小見IV道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 「元能社小見V道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 「元能社小見VI道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 「元能社小見VII道路」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006 「元能社蒼海道路群（4）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007 「元能社蒼海道路群（11）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007 「元能社蒼海道路群（12）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 「元能社蒼海道路群（16）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 「元能社蒼海道路群（18）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 「元能社蒼海道路群（24）」
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010 「元能社蒼海道路群（26）」

写真図版





遺跡の位置 (2011年撮影 上が北)



(116) 調査区遠景 (東から)

PL.2

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) 縄文面調査状況（南から パノラマ合成）



(116) 縄文面調査状況（北から パノラマ合成）



(116) J-1号住居跡全景（東から）



(116) J-1号住居跡炉A全景（南から）



(116) J-1号住居跡遺物出土状況（南から）



(116) J-2号住居跡全景（北東から）



(116) J-2号住居跡炉検出状況（北東から）



(116) J-2号住居跡炉埋甕全景（南東から）



(116) J-3号住居跡全景（西から）



(116) J-4号住居跡全景（南から）



(116) J-4号住居跡炉断面（東から）



(116) J-5号住居跡全景（南から）



(116) J-6 A・6 B号住居跡全景（北東から）



(116) J-6 A・6 B号住居跡全景（南から）

PL.4

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) J - 7号住居跡全景（南西から）



(116) J - 7号住居跡遺物出土状況（北西から）



(116) J - 7号住居跡遺物出土状況（北から）



(116) J - 7号住居跡炉堀壺全景（南西から）



(116) J - 7号住居跡埋甕断面C-C'（南西から）



(116) J - 7号住居跡埋甕断面D-D'（南東から）



(116) J - 8号住居跡全景（南西から）



(116) J - 8号住居跡遺物出土状況（南西から）



(116) J-8号住居跡遺物出土状況（北東から）



(116) J-8号住居跡火全景（南東から）



(116) J-9号住居跡全景（南から）



(116) J-10号住居跡全景（北東から）



(116) J-10号住居跡断面B-B'（北から）



(116) J-10号住居跡火壺断面C-C'（北東から）



(116) J-10号住居跡火壺全景（北東から）



(116) J-11号住居跡全景（東から）

PL.6

元祀社蒼海遺跡群 (116)



(116) J-11号住居跡全景（南から）



(116) J-12号住居跡全景（東から）



(116) J-12号住居跡遺物出土状況（東から）



(116) J-13号住居跡全景（東から）



(116) J-14号住居跡全景（南東から）



(116) J-14号住居跡埋葬全景（南東から）



(116) J-14号住居跡埋葬全景（北から）



(116) J-15号住居跡全景（北から）



(116) J-16号住居跡全景（南西から）



(116) J-16号住居跡全景（北東から）



(116) J-16号住居跡炉埋甕断面D-D'（北東から）



(116) J-16号住居跡炉埋甕全景（西から）



(116) 古代面調査区全景（上が北西）

PL.8

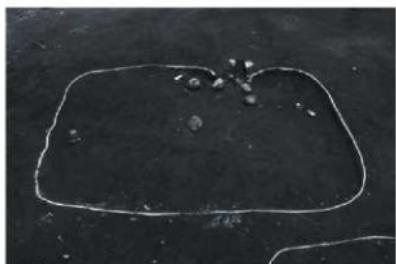
元社社叢海遺跡群 (116)



(116) H-1号住居跡全景（西から）



(116) H-1号住居跡カマド全景（西から）



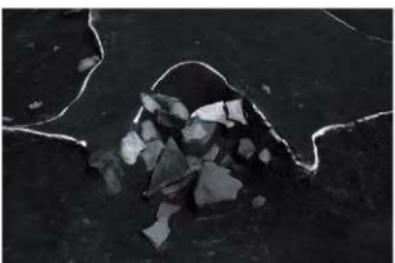
(116) H-2号住居跡全景（西から）



(116) H-2号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-3号住居跡全景（北西から）



(116) H-3号住居跡カマド全景（北西から）



(116) H-4号住居跡全景（西から）



(116) H-4号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-5号住居跡全景（北から）



(116) H-5号住居跡断面A-A'（南から）



(116) H-6号住居跡全景（北から）



(116) H-6号住居跡カマド全景（北から）



(116) H-6号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-6号住居跡貯藏穴全景（南から）



(116) H-7号住居跡全景（西から）



(116) H-7号住居跡カマド全景（西から）

PL.10

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-8号住居跡全景（西から）



(116) H-8号住居跡カマド全景（西から）



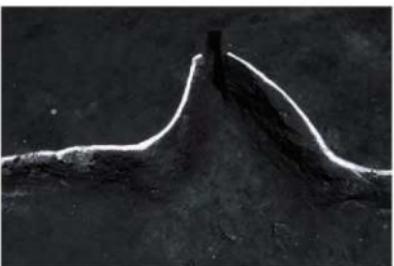
(116) H-9号住居跡全景（西から）



(116) H-9号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-10号住居跡全景（西から）



(116) H-10号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-11号住居跡全景（西から）



(116) H-11号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-12号居住跡全景 (西から)



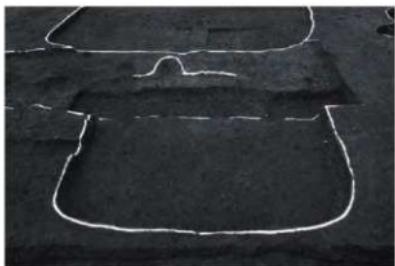
(116) H-12号居住跡カマド全景 (西から)



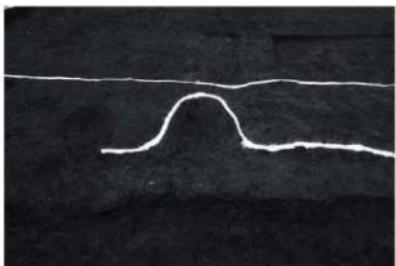
(116) H-13号居住跡全景 (西から)



(116) H-13号居住跡カマド全景 (西から)



(116) H-14号居住跡全景 (北から)



(116) H-14号居住跡カマド全景 (北から)



(116) H-15号居住跡全景 (西から)



(116) H-15号居住跡カマド全景 (西から)

PL.12

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-16号住居跡全景（西から）



(116) H-16号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-17号住居跡全景（南から）



(116) H-17号住居跡カマド全景（南から）



(116) H-18・19号住居跡全景（西から）



(116) H-18号住居跡全景（西から）



(116) H-18号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-19号住居跡全景（西から）



(116) H-19号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-20号住居跡全景 (北西から)



(116) H-20号住居跡カマド全景 (北西から)



(116) H-21号住居跡全景 (西から)



(116) H-21号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-21号住居跡遺物出土状況 (南東から)



(116) H-22号住居跡全景 (西から)



(116) H-22号住居跡カマド全景 (西から)

PL.14

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-23号住居跡全景（西から）



(116) H-23号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-24号住居跡全景（西から）



(116) H-24号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-25号住居跡全景（西から）



(116) H-25号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-26号住居跡全景（西から）



(116) H-26号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-26・27号住居跡全景（西から）



(116) H-28・29号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-28号住居跡全景（西から）



(116) H-28号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-29号住居跡全景（西から）



(116) H-29号住居跡カマド全景（西から）



(116) H-30・31・32号住居跡全景（北から）



(116) H-30・31・32号住居跡全景（西から）

PL.16

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-33号住居跡全景（北から）



(116) H-34号住居跡全景（南西から）



(116) H-34号住居跡カマド全景（南西から）



(116) H-34号住居跡貯蔵穴全景（南から）



(116) H-34号住居跡遺物出土状況（北東から）



(116) H-34号住居跡銅製品出土状況（南東から）



(116) H-34号住居跡断面C-C'（南西から）



(116) H-34号住居跡断面B-B'（南から）



(116) H-34号住居跡断面 A-A' (南東から)



(116) H-35号住居跡全景 (西から)



(116) H-35号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-36号住居跡全景 (西から)



(116) H-36号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-37号住居跡全景 (北から)



(116) H-38号住居跡全景 (西から)



(116) H-38号住居跡カマド全景 (西から)

PL.18

元秘社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-39号住居跡全景 (西から)



(116) H-40号住居跡全景 (南西から)



(116) H-40号住居跡カマド全景 (南西から)



(116) H-41号住居跡全景 (西から)



(116) H-41号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-42・43・44・45号住居跡全景 (西から)



(116) H-42・43・44・45号住居跡全景 (北から)



(116) H-42号住居跡全景 (西から)



(116) H-42号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-43号住居跡全景 (西から)



(116) H-43号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-45号住居跡全景 (西から)



(116) H-45号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-47号住居跡全景 (南西から)



(116) H-47号住居跡カマド全景 (南西から)



(116) H-48号住居跡全景 (南西から)



(116) H-48号住居跡カマド全景 (南西から)



(116) H-49号住居跡全景 (南東から)



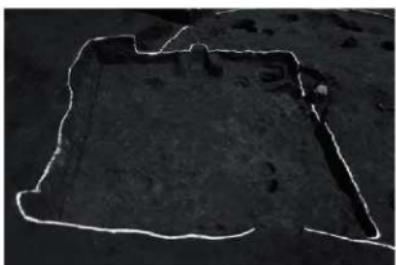
(116) H-50号住居跡全景 (南西から)



(116) H-52号住居跡全景 (北西から)



(116) H-53号住居跡全景 (西から)



(116) H-54号住居跡全景 (西から)



(116) H-54号住居跡カマド全景 (西から)



(116) H-55号住居跡全景 (南西から)



(116) H-56号住居跡全景（北西から）



(116) H-56号住居跡カマド全景（北西から）



(116) H-56・J-15号住居跡検出状況（北から）



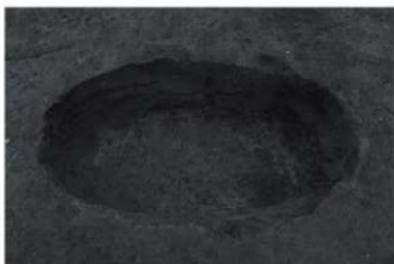
(116) H-57号住居跡全景（西から）



(116) W-1号溝全景（北から）



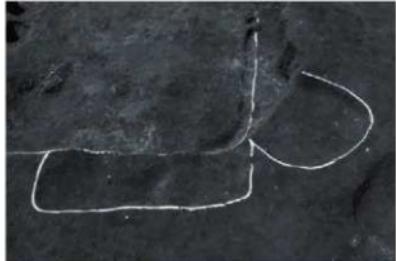
(116) D-1・13号土坑全景（東から）



(116) D-3号土坑全景（南東から）



(116) D-3号土坑A-B軽石堆積状況（南東から）



(116) D-5号土坑全景（北から）



(116) D-8号土坑全景（北東から）



(116) D-10号土坑全景（北から）



(116) D-14号土坑全景（南東から）



(116) D-15号土坑全景（東から）



(116) D-18号土坑全景（東から）



(116) D-20号土坑全景（北西から）



(116) D-21号土坑全景（西から）



(116) D-22号土坑全景 (北から)



(116) D-30号土坑全景 (東から)



(116) X-1号土坑全景 (北東から)



(116) 基本土層A (東から)



(116) 基本土層B (南東から)



(116) 基本土層C (南東から)



(116) 基本土層D (北西から)



(116) 基本土層E (北西から)



(123) 調査区遠景（南東から榛名山を望む）



(123) J-1号住居跡全景（東から）



(123) J-1号住居跡全景（南から）



(123) J-1号住居跡遺物出土状況（東から）



(123) J-2号住居跡全景（南から）



(123) J-2号住居跡遺物出土状況（南から）



(123) J-3号住居跡全景（南から）



(123) J-3号住居跡炉全景（東から）



(123) J-4号住居跡全景（南から）



(123) J-4号住居跡全景（南から）



(123) J-4号住居跡遺物出土状況（南から）



(123) J-4号住居跡遺物出土状況（南から）



(123) J-6号住居跡全景（南から）



(123) J-7号住居跡全景（南から）



(123) J-8号住居跡全景（南から）



(123) J-9号住居跡全景（西から）



(123) J-9号住居跡炉全景（南から）



(123) J-9号住居跡埋甕出土状況（西から）



(123) J-9号住居跡埋甕半裁状況（西から）



(123) J-10号住居跡全景（南から）



(123) J-11号住居跡全景（南から）



(123) J - 11号住居跡炉全景 (南から)



(123) J - 11号住居跡炉掘り方全景 (南から)



(123) 古代面調査区全景 (上が北西)



(123) H - 1号住居跡全景 (西から)



(123) H - 1号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-1号住居跡貯藏穴全景（西から）



(123) H-2号住居跡全景（西から）



(123) H-3号住居跡全景（西から）



(123) H-3号住居跡全景（西から）



(123) H-4号住居跡全景（西から）



(123) H-4号住居跡全景（西から）



(123) H-4号住居跡遺物出土状況（西から）



(123) H-4号住居跡貯藏穴全景（西から）



(123) H-5号住居跡全景（西から）



(123) H-6号住居跡全景（南から）



(123) H-6号住居跡カマド全景（南から）



(123) H-7号住居跡全景（西から）



(123) H-7号住居跡カマド全景（西から）



(123) H-8号住居跡全景（西から）



(123) H-8号住居跡遺物出土状況（西から）



(123) H-9号住居跡全景（西から）



(123) H-9号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-9号住居跡遺物出土状況 (西から)



(123) H-10号住居跡全景 (西から)



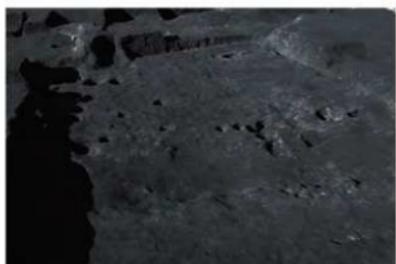
(123) H-10号住居跡カマド全景 (西から)



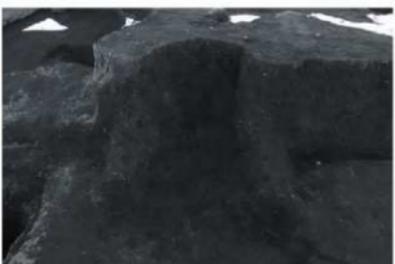
(123) H-11号住居跡全景 (西から)



(123) H-11号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-12号住居跡全景 (東から)



(123) H-12号住居跡カマド1 全景 (東から)



(123) H-13号住居跡全景（北から）



(123) H-14号住居跡全景（西から）



(123) H-15号住居跡全景（南から）



(123) H-16号住居跡全景（西から）



(123) H-16号住居跡カマド全景（西から）



(123) H-17号住居跡全景（北から）



(123) H-17号住居跡カマド全景（西から）



(123) H-18号住居跡全景（西から）

PL.32

元松社蒼海遺跡群 (123)



(123) H-19号住居跡全景 (西から)



(123) H-19号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-19号住居跡カマド遺物出土状況 (西から)



(123) H-20号住居跡全景 (南から)



(123) H-20号住居跡カマド全景 (南から)



(123) H-21号住居跡全景 (西から)



(123) H-22・30号住居跡全景 (西から)



(123) H-22号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-22号住居跡石組検出状況（南から）



(123) H-23号住居跡全景（西から）



(123) H-24号住居跡全景（東から）



(123) H-25号住居跡全景（西から）



(123) H-26号住居跡全景（西から）



(123) H-27号住居跡全景（西から）



(123) H-27号住居跡カマド全景（西から）



(123) H-28号住居跡全景（西から）



(123) H-28号住居跡カマド全景（西から）



(123) H-29号住居跡全景（北から）



(123) H-31号住居跡全景（西から）



(123) H-32号住居跡全景（北から）



(123) A-1号道全景（北から）



(123) W-1号溝全景（北から）



(123) W-1号溝全景（南から）



(123) W-2号溝全景（東から）



(123) W-3号溝全景 (西から)



(123) W-3号溝断面A-A' (南から)



(123) W-4号溝全景 (南から)



(123) W-5号溝全景 (南から)



(123) W-6号溝全景 (東から)



(123) W-7号溝全景 (南から)



(123) W-8号溝全景 (南から)



(123) W-9号溝全景 (南から)



(123) W-10号溝全景 (南から)



(123) D-3号土坑全景 (南から)



(123) D-49号土坑全景 (東から)



(123) D-55号土坑全景 (西から)



(123) X-1号土坑炭化材出土状況 (西から)



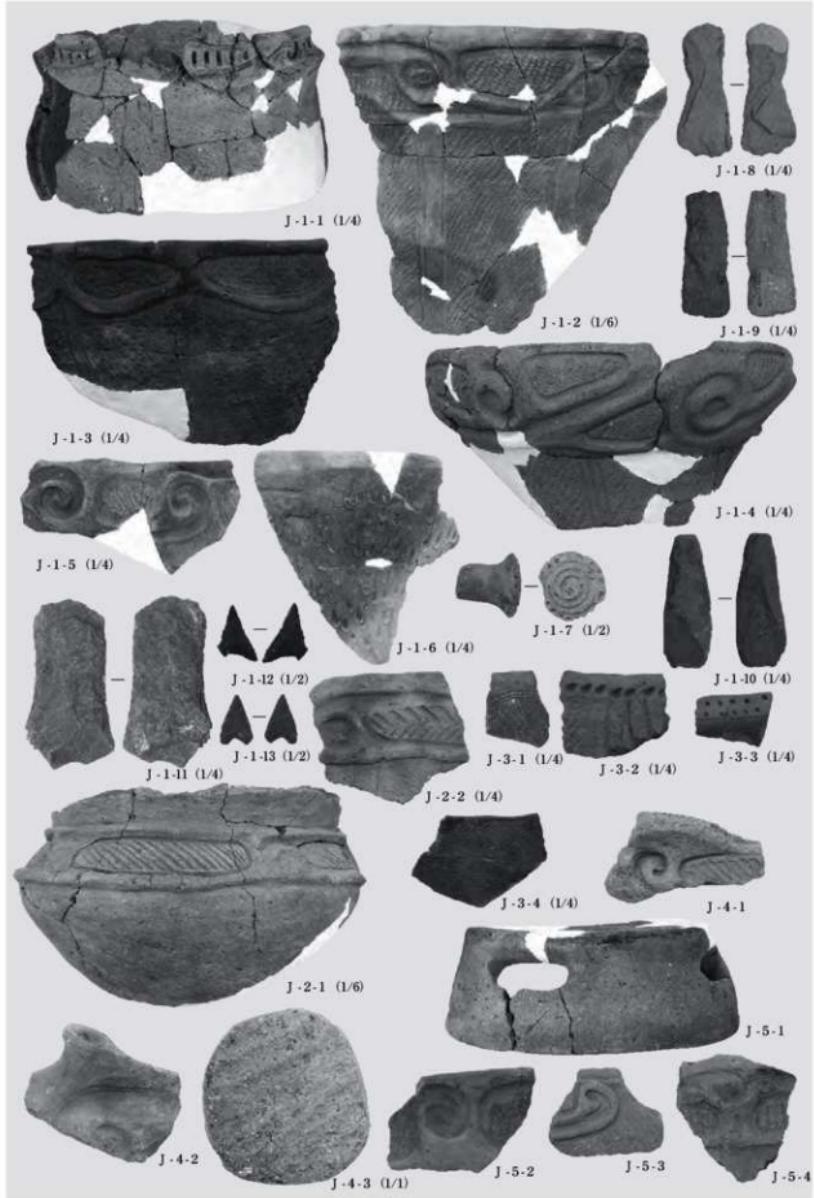
(123) 基本土層 F (南から)

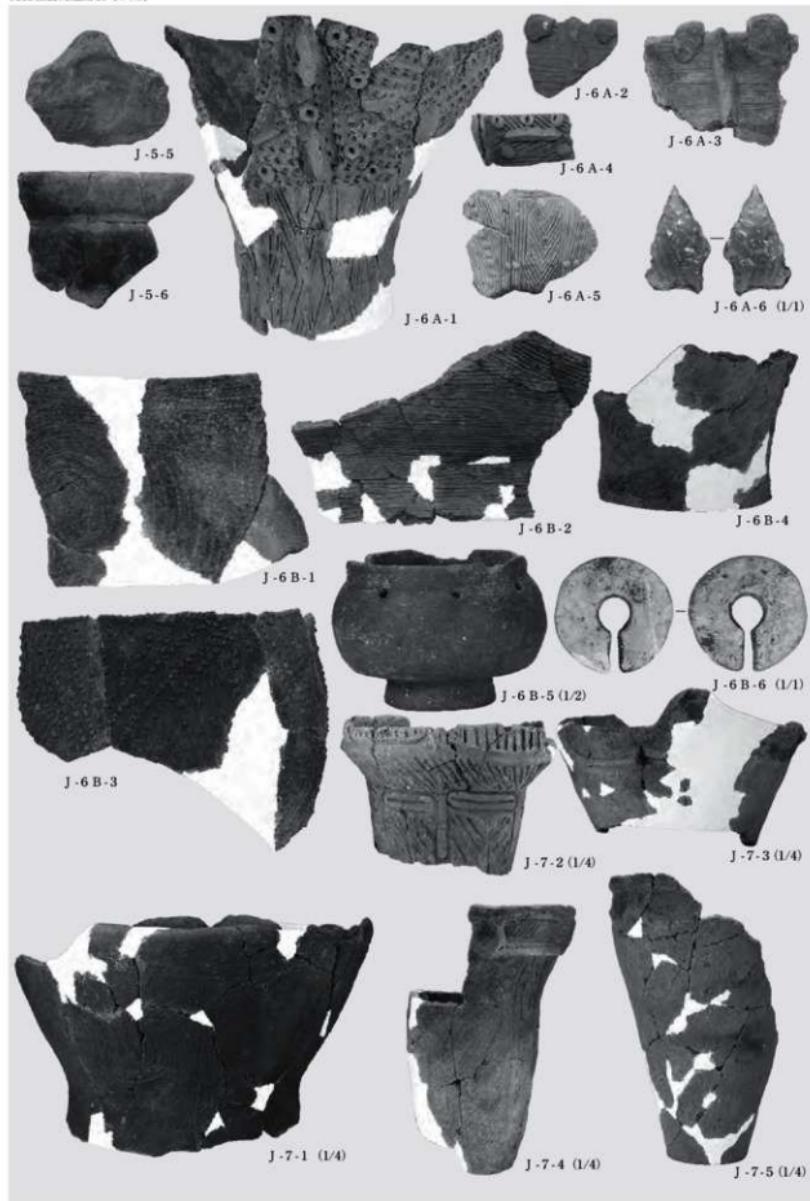


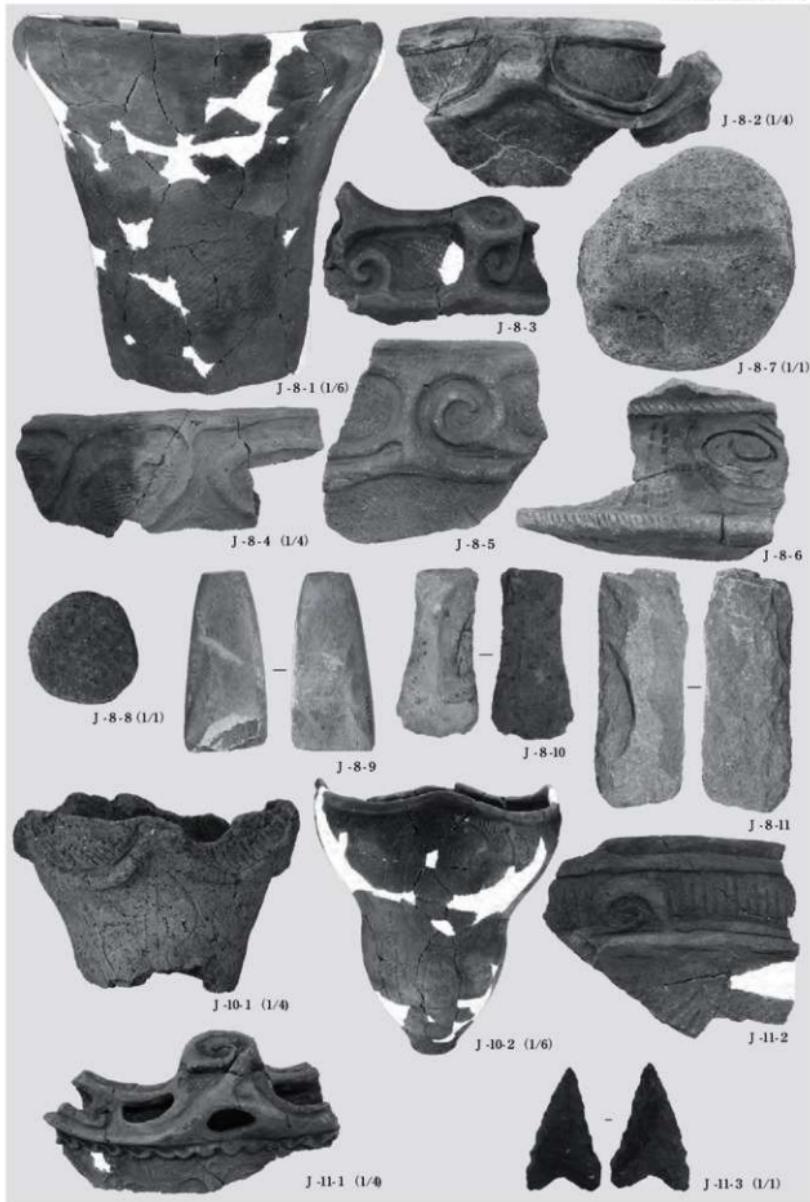
(123) 基本土層 G (東から)



(123) 基本土層 H (北から)

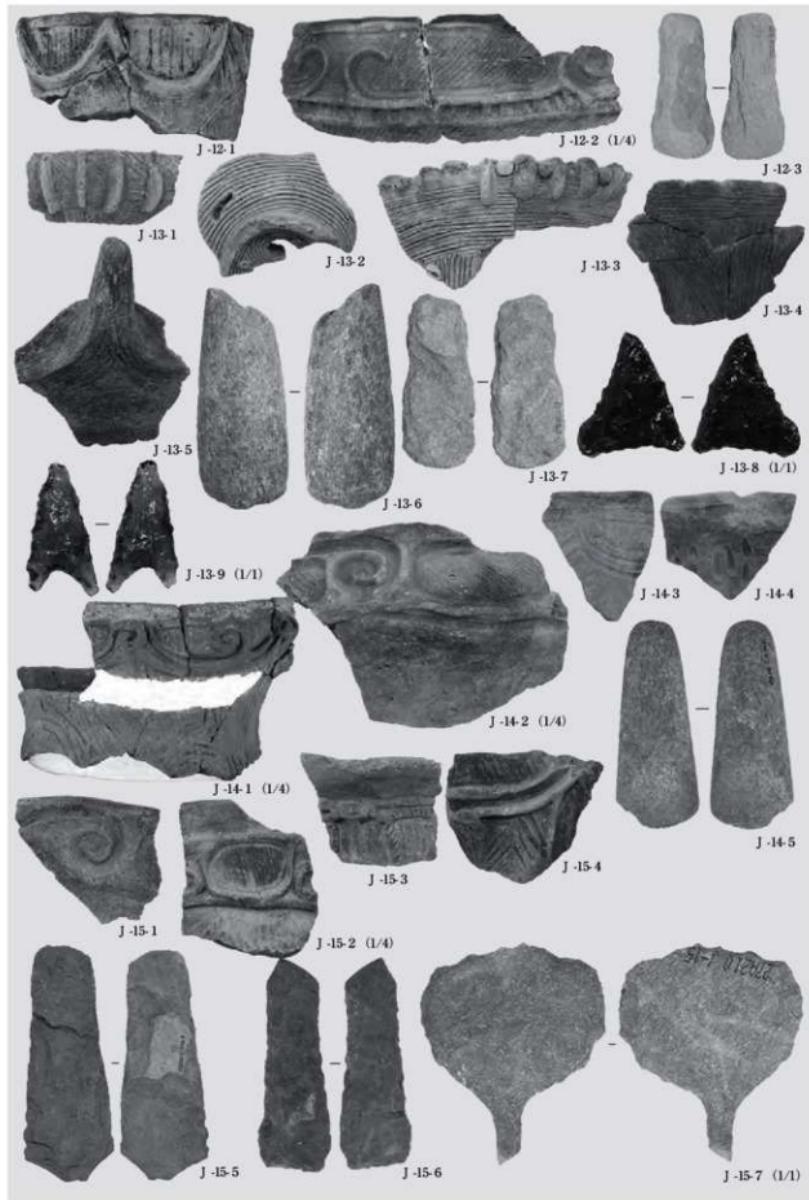






PL.40

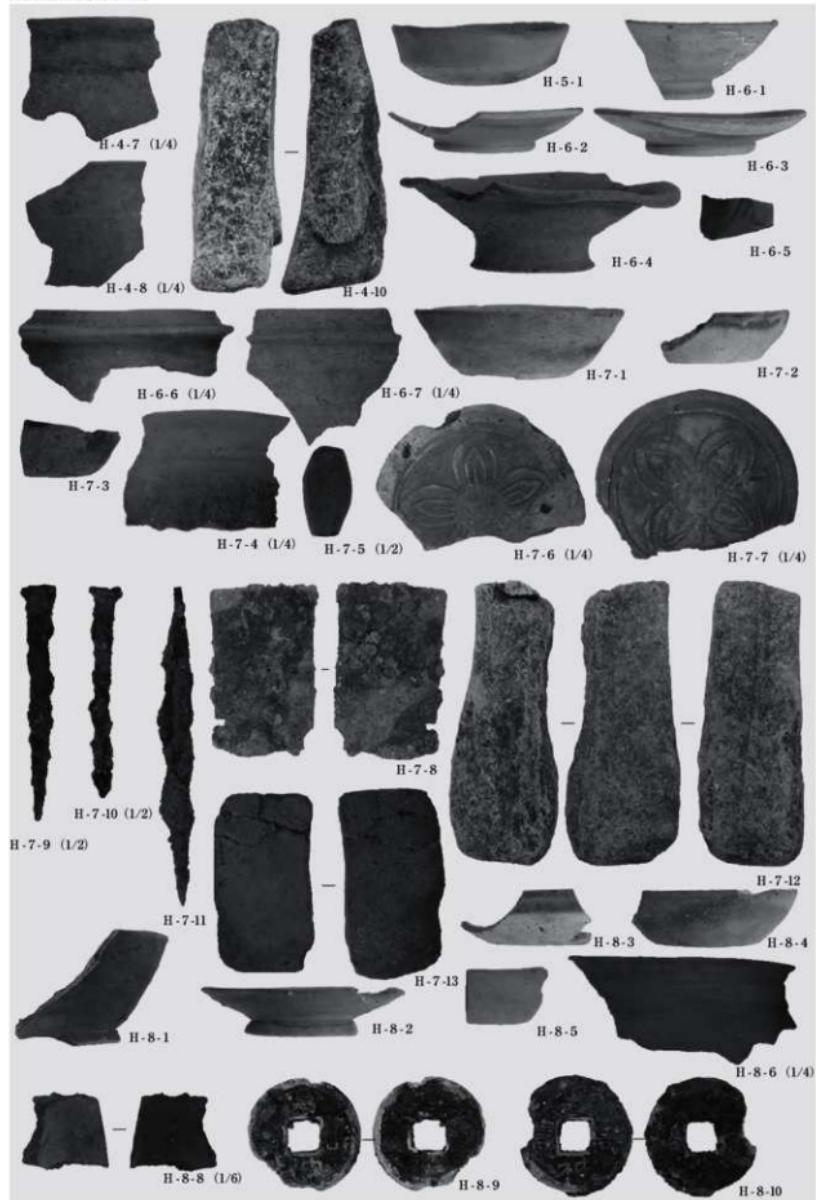
元祐社蓋海遺跡群 (116)

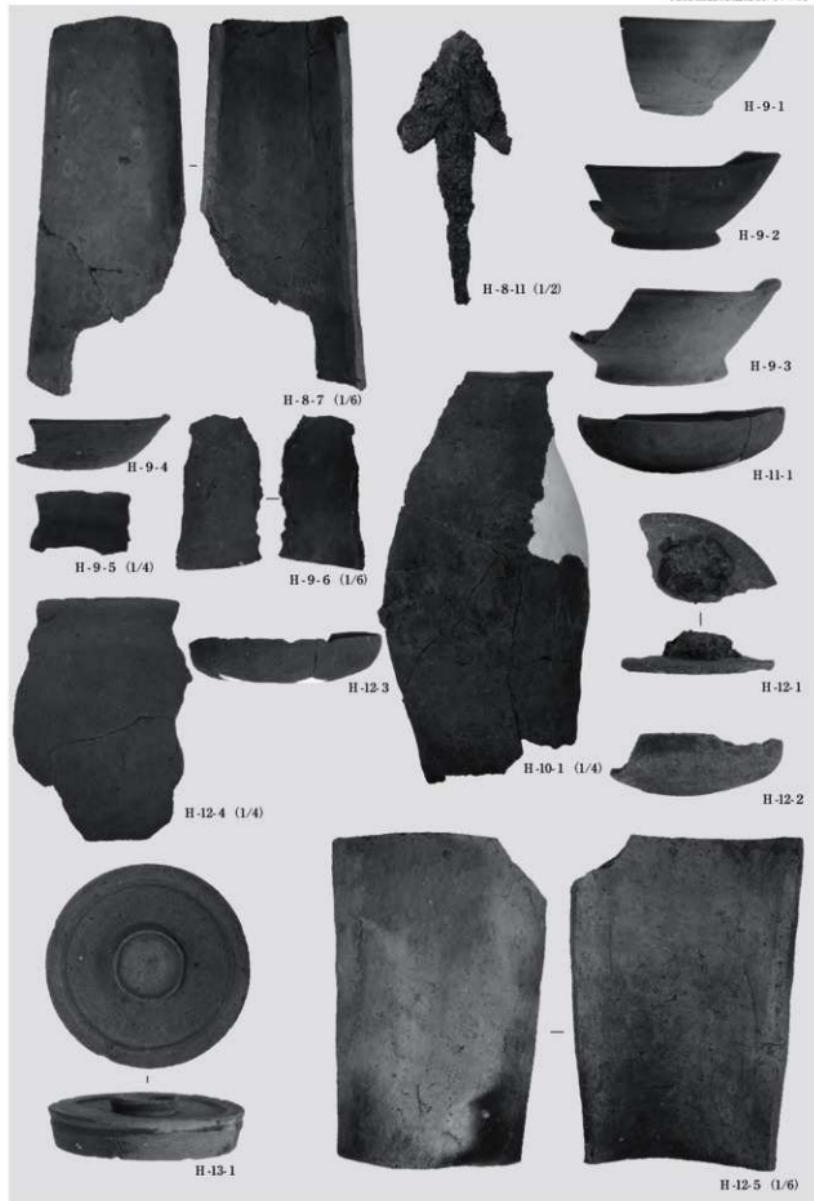




PL.42

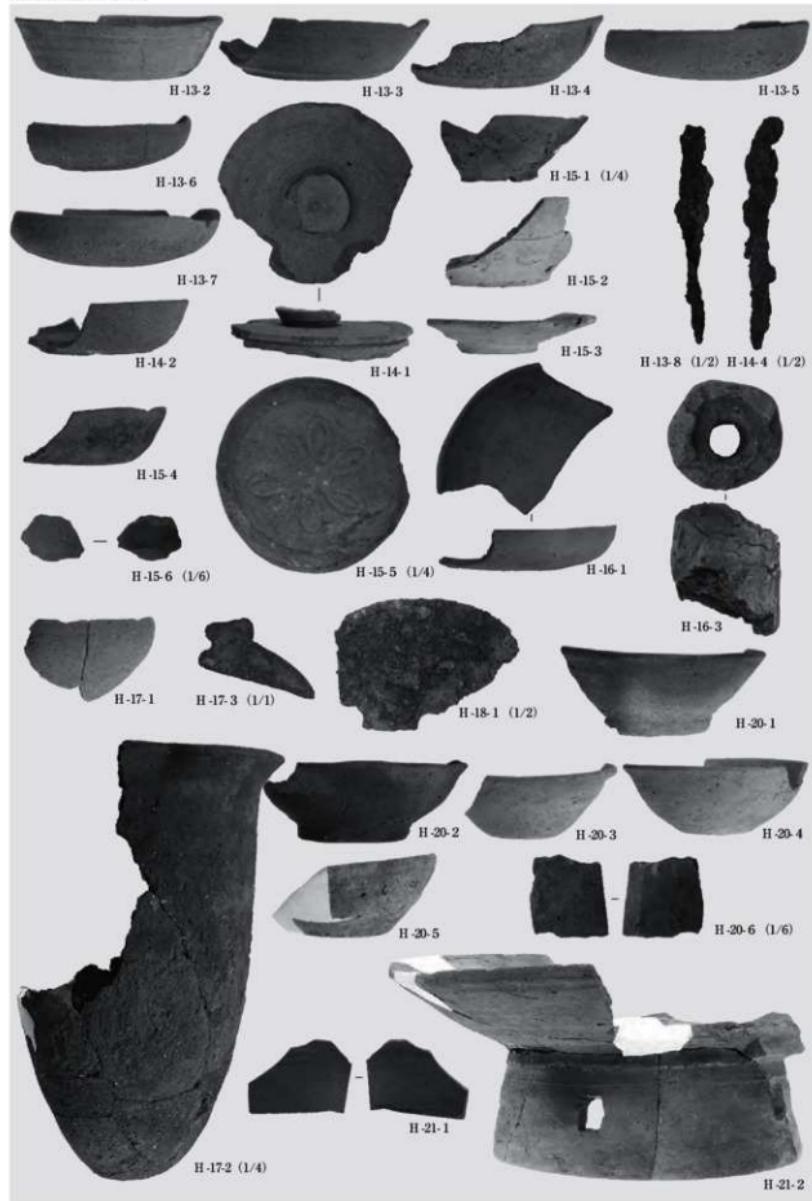
元祐社蒼海遺跡群 (116)

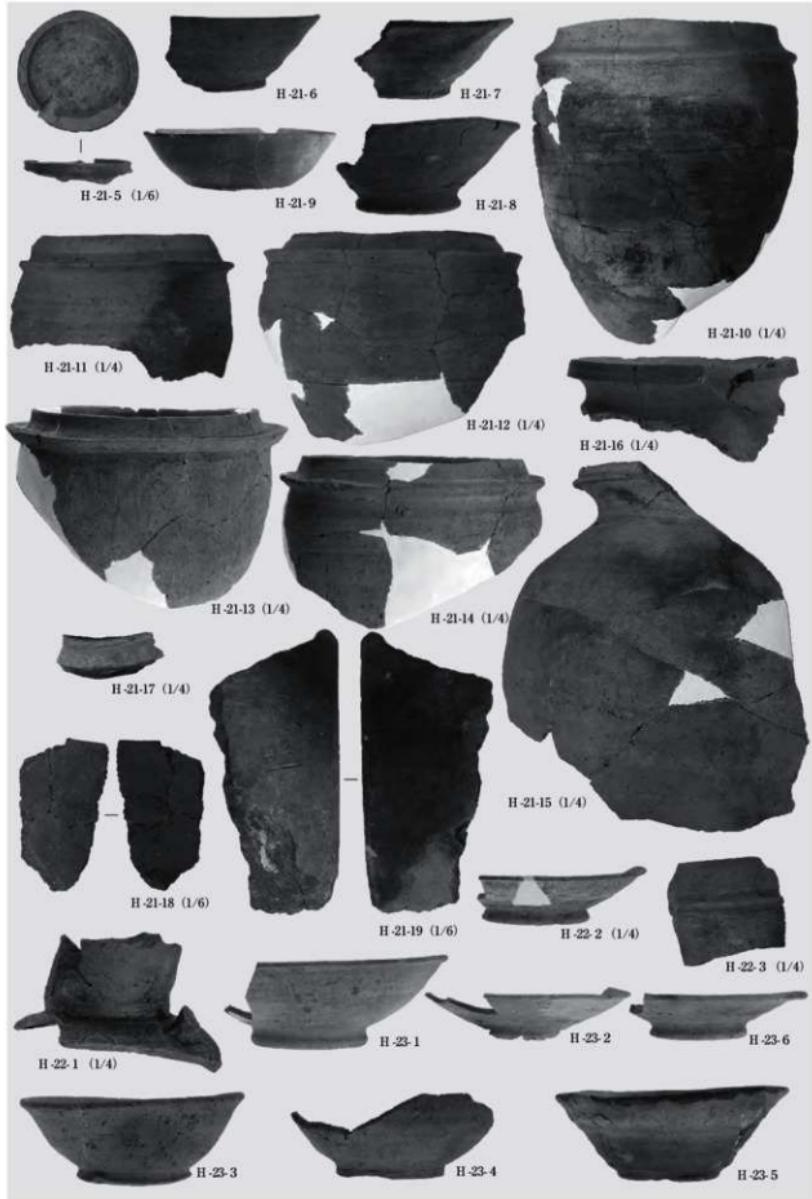


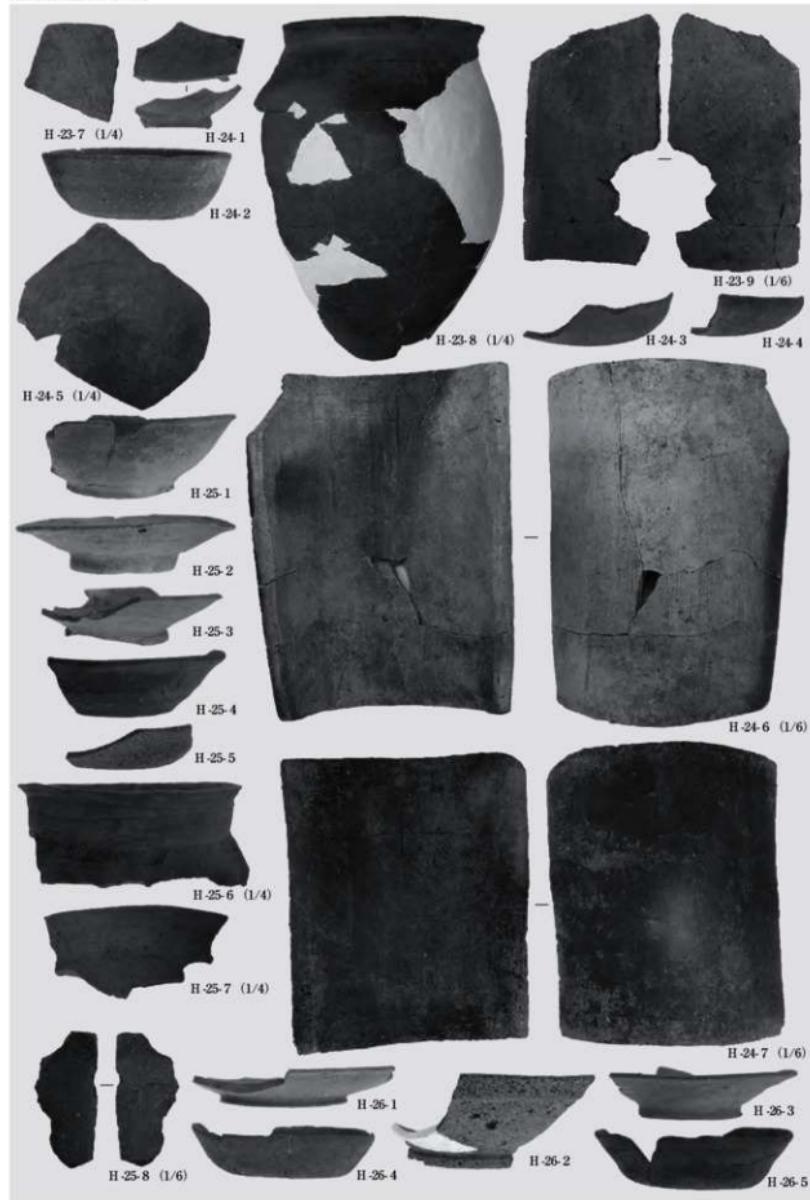


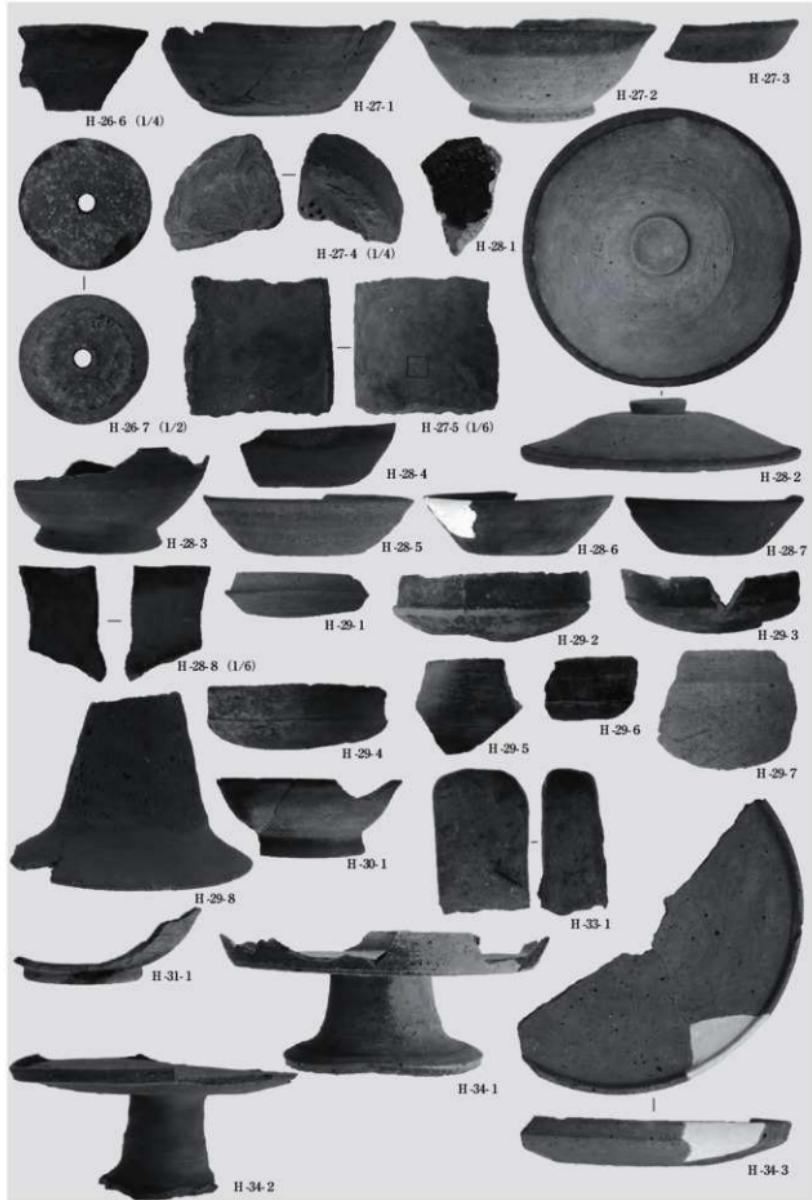
PL.44

元祐社蓋海遺跡群 (116)



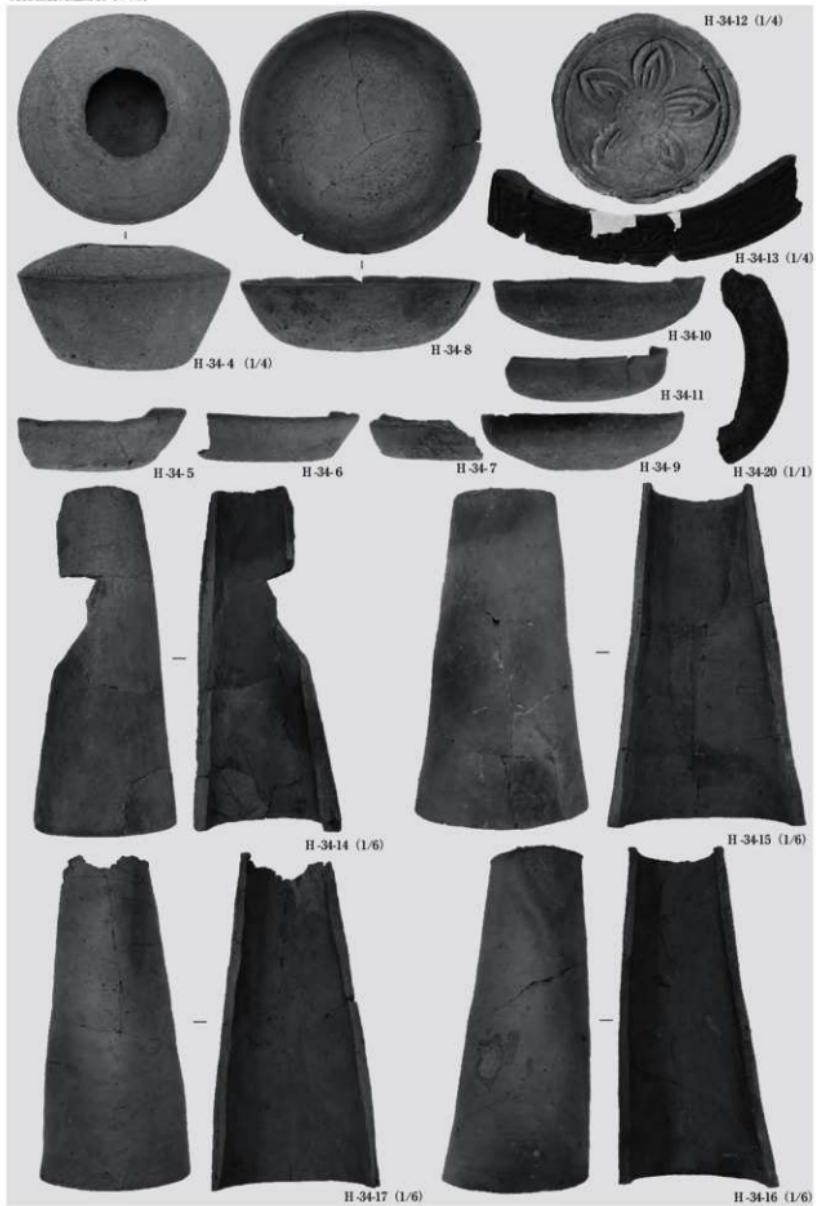


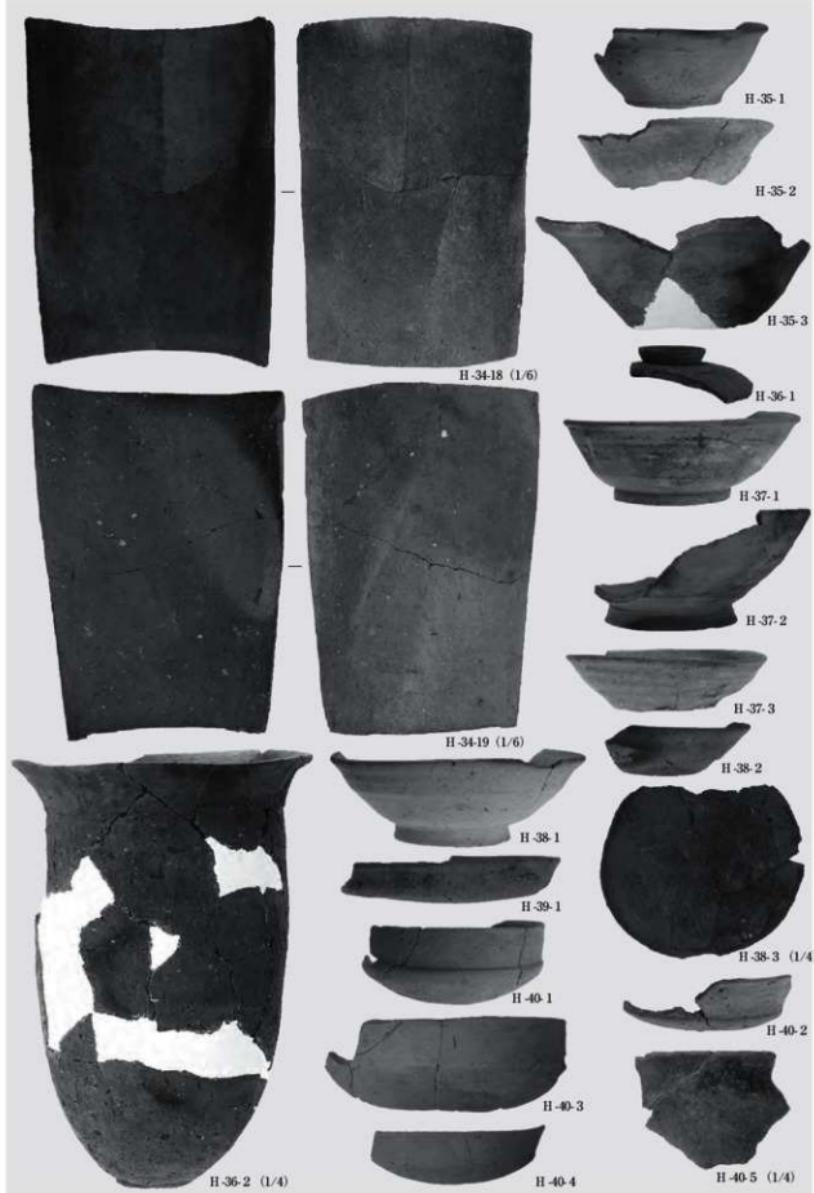




PL.48

元祐社蓋海遺跡群 (116)

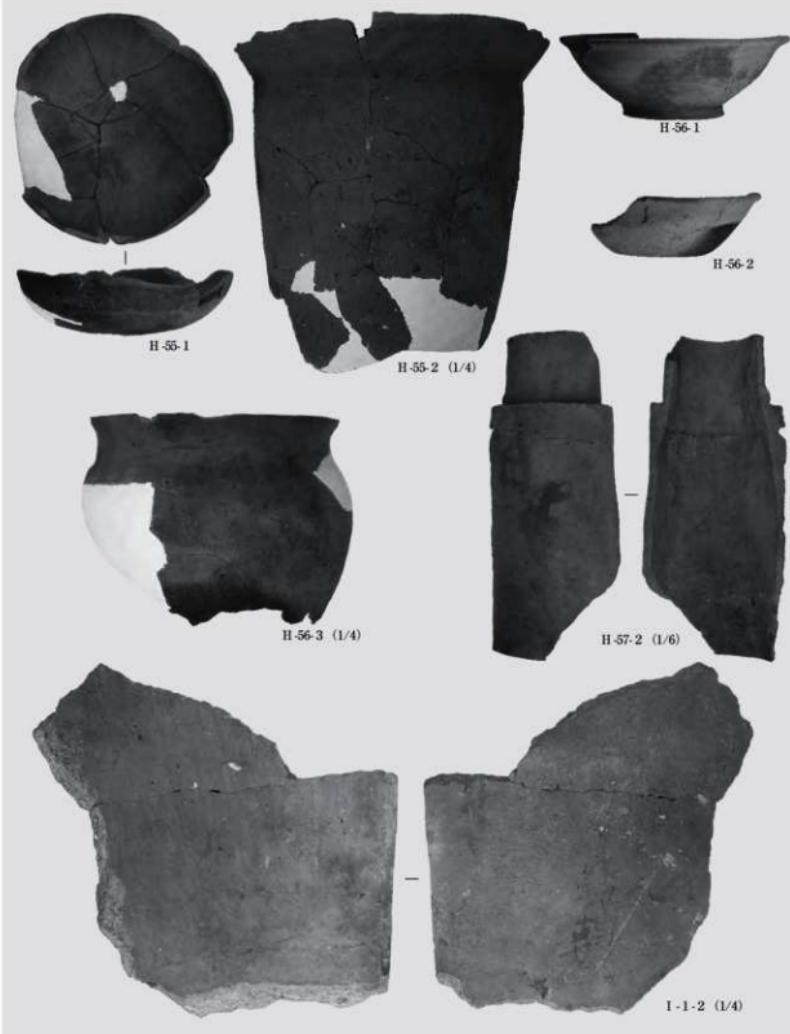




PL.50

元祐社蒼海遺跡群 (116)

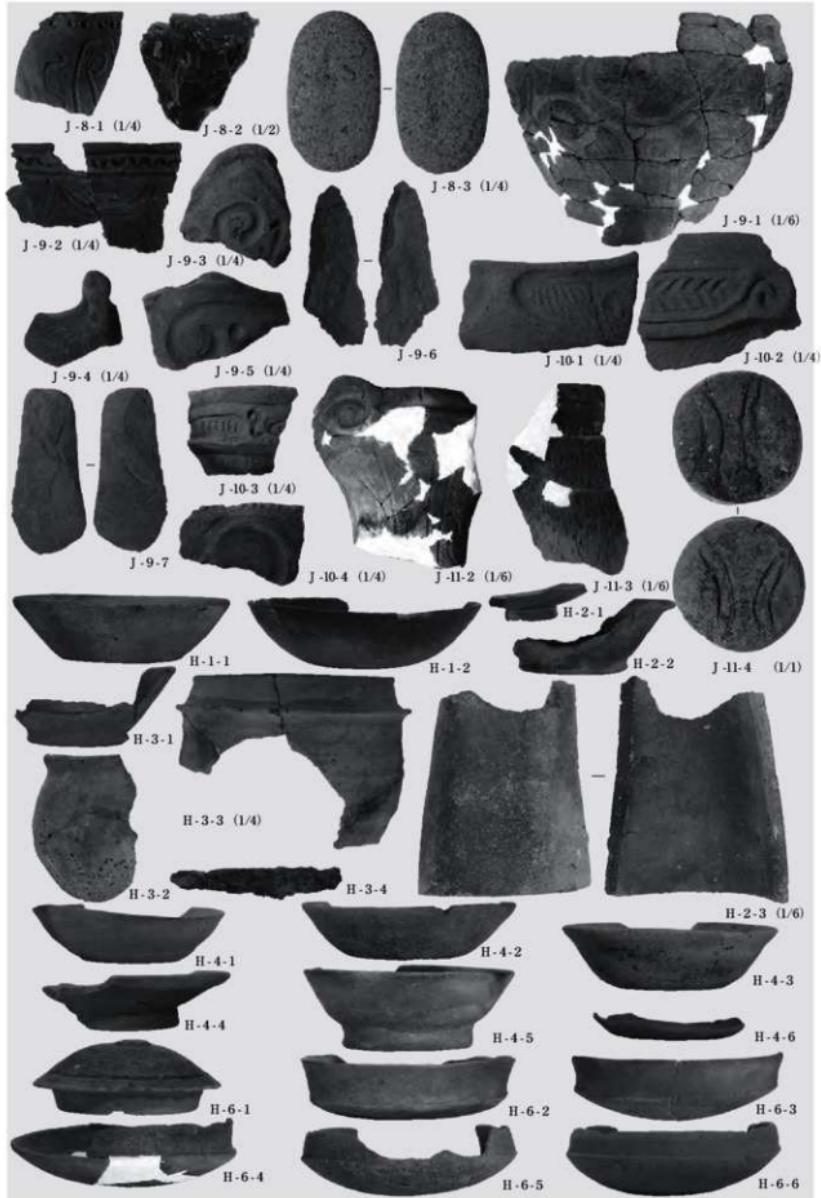




PL.52

元祐社蓋海遺跡群 (123)

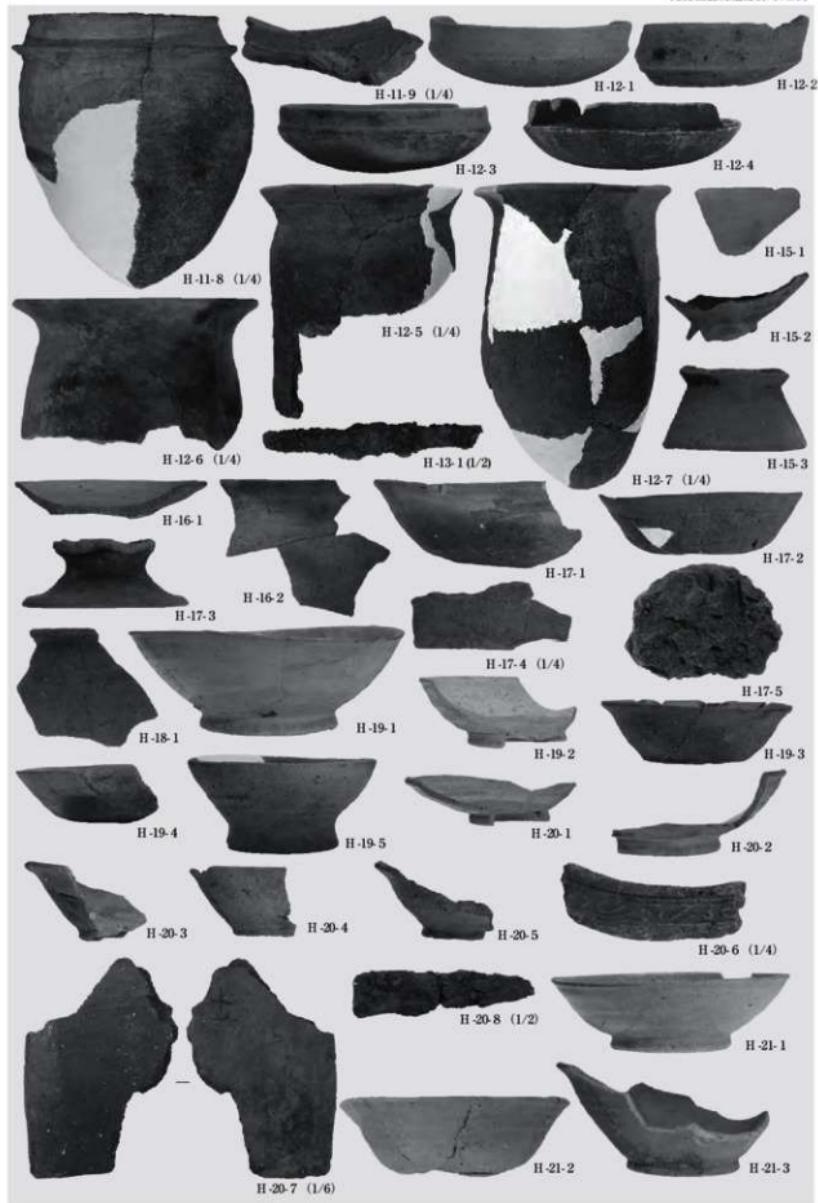




PL.54

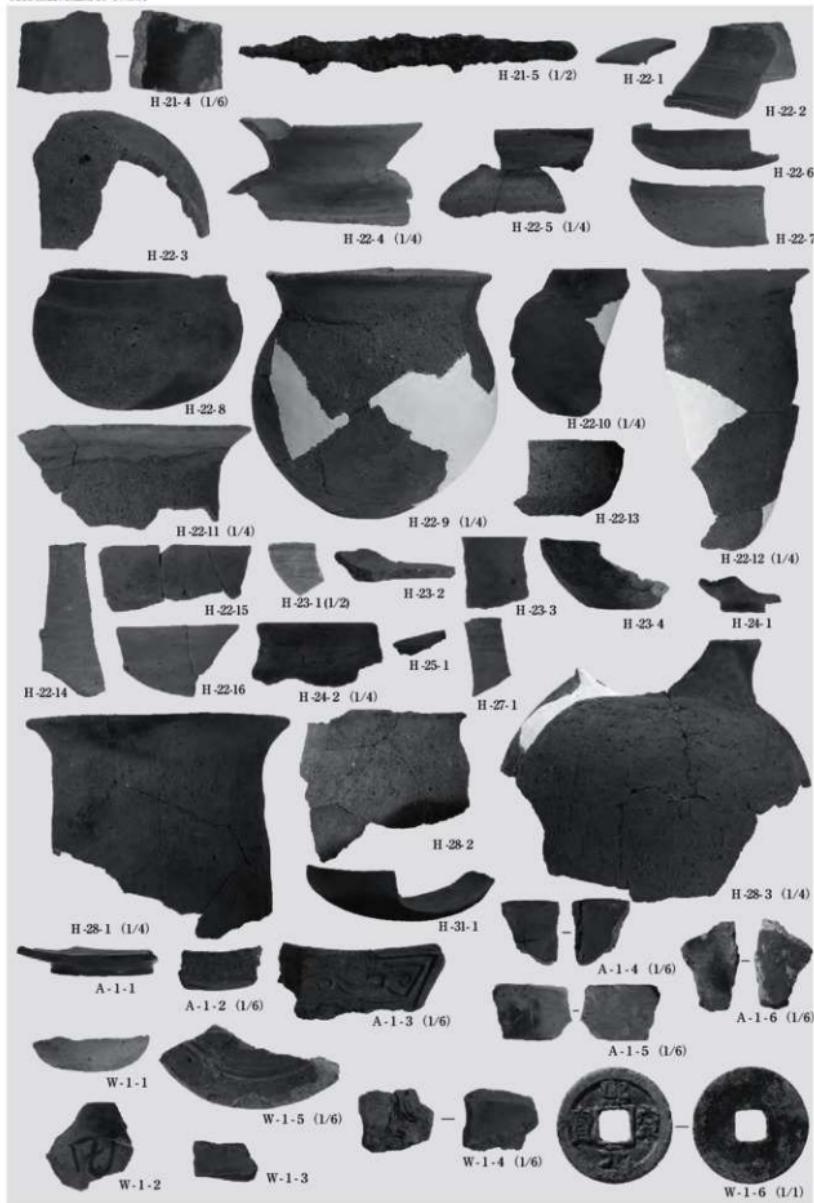
元祐社蓋海遺跡群 (123)

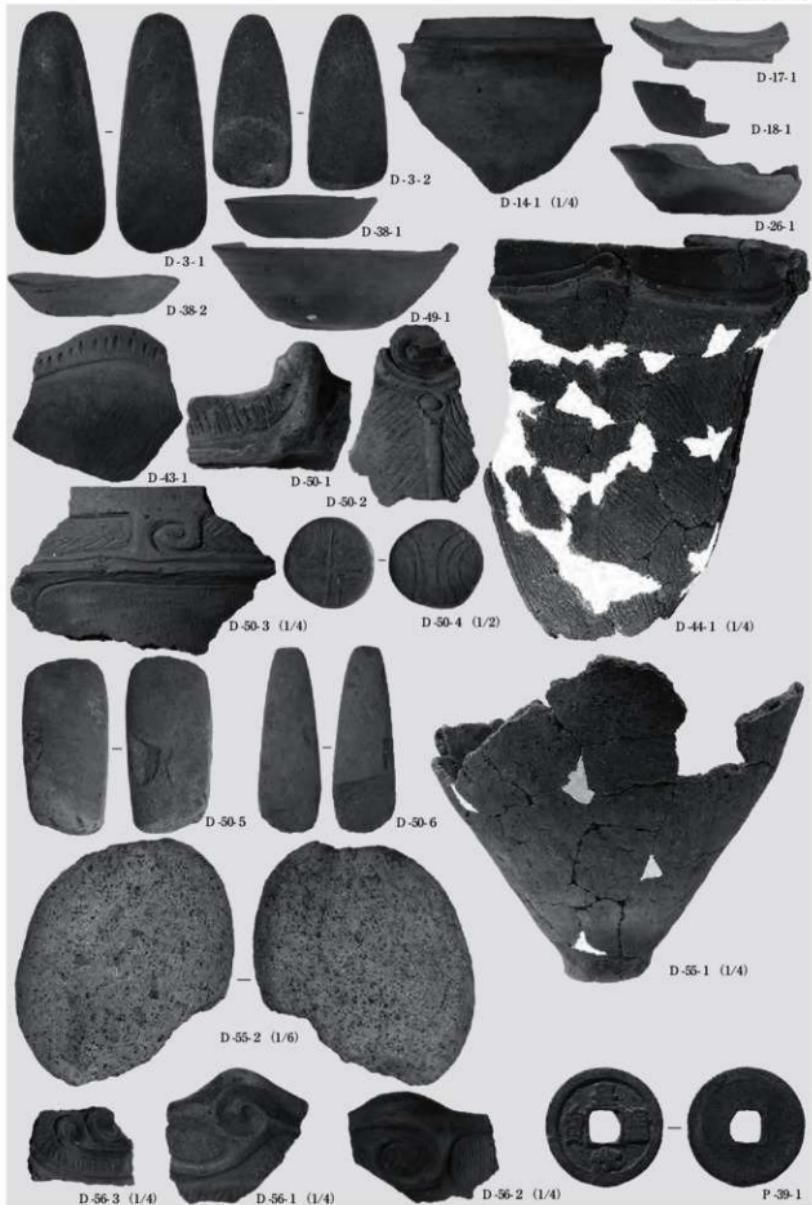




PL.56

元祐社蒼海遺跡群 (123)





PL.58

文字・記号資料



(116) H - 3 - 4



(116) H - 3 - 5



(116) H - 4 - 6



(116) H - 6 - 5



(116) H - 8 - 8



(116) H - 9 - 6



(116) H - 15 - 6



(116) H - 20 - 6



(116) H - 21 - 18



(116) H - 21 - 19



(116) H - 23 - 9



(116) H - 24 - 7



(116) H - 25 - 8



(116) H - 27 - 5



(116) H - 28 - 8



(116) H - 34 - 7



(116) H-37-1



(116) H-42-2



(116) I-1-1 (出土直後)



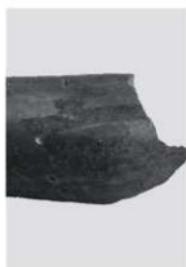
(116) I-1-3



(123) H-2-3



(123) A-1-4



(123) H-17-1



(116) I-1-1 (赤外線 PENTAX 645Z IR)

PL.60

文字・記号資料



(123) H - 20 - 7



(123) H - 21 - 4



(123) H - 22 - 7



(123) A - 1 - 5



(123) A - 1 - 6



(123) W - 1 - 2



(123) 造構外 - 13



(123) 造構外 - 18



(123) 造構外 - 19

報告書抄録

カタカナ	モトソウジヤオウミイセキグン (116) (123)
書名	元総社蒼海遺跡群 (116) (123)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	前田和昭・山田誠司
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2019年2月28日

フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
元総社蒼海遺跡群 (116)	前橋市元総社町 1690-1, 1706, 1707, 1708, 1712, 1713	10201	27A210	36°39'26"	139°2'63"	20160411 ~ 20161006	1,830m ² 前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業
フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
元総社蒼海遺跡群 (123)	前橋市元総社町 1706, 1707, 1708, 1712, 1713	10201	28A228	36°39'27"	139°2'67"	20161011 ~ 20170303	1,606m ² 前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (116)	集落 その他	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	住居跡 溝 井戸 土坑	74軒 1条 32基	縄文土器（深鉢、浅鉢、有孔土器、器台）、石器（石斧、石鎌、石錐）、石製品（台石、石皿、石棒）、S字形口縁台付甕、須恵器、土師器、縄輪陶器、灰釉陶器、鉄製品（刀子、紡錘車）、銅製品（錫杖頭）石製紡錘車 染谷川左岸の自然堤防上に位置する、縄文時代前期後半諸磯B、C期、中期後半加曾利E期、4世紀から11世紀まで国府・国分寺造営の影響を受けながら、断続的に継続する集落遺跡。「那波都朝倉」署名墨書き瓦が出土した、瓦積み井戸。
元総社蒼海遺跡群 (123)	集落 城館跡 その他	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	住居跡 道路跡 溝 堀跡 土坑 ピット	42軒 1条 10条 1条 55基 170基	縄文土器（深鉢、浅鉢）、石器（石斧、石鎌、石錐）、石製品（台石、石皿、石棒）、土器（土製円盤）、S字形口縁台付甕、須恵器、土師器、縄輪陶器、灰釉陶器、鉄製品（刀子、紡錘車） 縄文時代中期後半加曾利E期、4世紀から10世紀中頃まで断続的に継続する集落遺跡。 南北に走行する古代の道路遺構。 蒼海城に関連すると思われる中世の堀跡。

元総社蒼海遺跡群 (116)
元総社蒼海遺跡群 (123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う昭和文化財発掘調査報告書

2019年2月22日 印刷
2019年2月28日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0853 群馬県前橋市能社町3丁目11番地4
TEL 027-280-6511

編集 技研コンサル株式会社
印刷 朝日印刷工業株式会社
